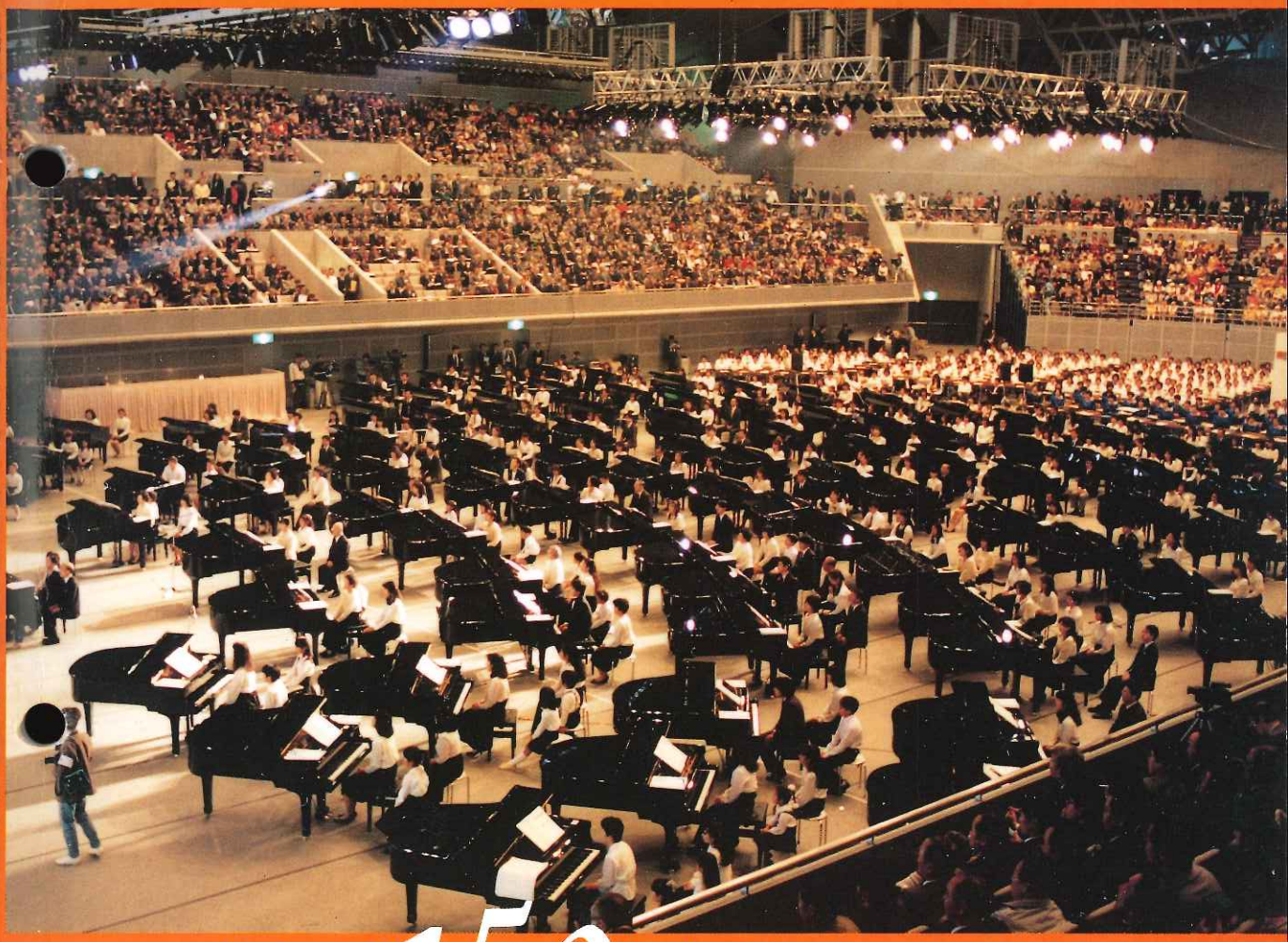
通巻150号　平成2年4月1日発行　　元昭和43年12月5日第3種郵便物認可　現在申請中

Our Music

わたくしたちの音楽



創刊150号記念特別号

巻頭随筆（佐藤峰雄）……3
特集・「Our Music」150号……4
4人の大学学長……9
海外からの手紙……14
歩み……24
研修会，演奏会の記録……28
全国のピティナ……38
北から南から150号を祝して…50
111台グランドピアノ大合奏……62
音楽通論研究3……70
マガジンガイド……74
海外だより……78
北から南から……80
旅のアルバム5……82
レッスンアイディア14……84
催し物案内……86
ピティナNEWS（学校だより）…92
ピティナNEWS（支部だより）…93
ピティナNEWS……97
和音調子のひとりごと……99
150号記念作品楽譜……101
賛助会員御芳名……122

（略称ピティナ）
社団法人全日本ピアノ指導者協会
PTNA The Piano Teachers' National Association of Japan a Corporation

ASAHI GLASS COMPANY

ピアノ室 音響空間

このピアノ室は、旭硝子サウンドケアによって設計・施工した例です。

生涯を通じて楽しめるピアノを、くらしの中に。そこで、ピアノ室は、防音室・音響室に。音を科学するサウンドケア・システムが、個々の空間について構造や材料を分析し、いまあるどんなお部屋でも音響効果にすぐれた空間、安心してピアノを楽しめる空間につくりあげます。

わずか半日で、お部屋の中に防音空間をつくる組立式の「防音ルーム」も全5タイプそろいました。

■設計から施工までの一貫システム

音環境の調査・測定
↓
必要な防音対策と費用の提案
↓
お客さまによるご検討・ご発注
↓
防音工事の実施
↓
性能・効果確認のうえお引き渡し

住まいの防音〈設計/施工〉システム

サウンドケア

お問合わせは、旭硝子サウンドケアデスクへ

03-832-3371

旭硝子株式会社

防音事業担当部　〒110 東京都台東区上野1-13-3(MYビル5F)

サウンドケアシステムおよび防音ルームは、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に限定してご相談・ご注文をお受けしています。

お部屋の中に防音空間

防音ルーム

本体価格55万円～78万円（全5タイプ）
〈運賃・組立費は含まれていません。〉

本体価格は昭和63年1月現在のものです

巻頭随筆

展　望

佐藤峰雄
（当協会理事・会報編集委員長，新潟大教授）

誰でもそうだと思うが，住所だけを頼りに特定の場所を探し回るとき，それが目の前にあってもなかなかたどりつけなくて，往生することがよくある。特に車で出掛けたときなど，さてここで曲がってと思うと，そこが一方通行で入れず，また同じ所をぐるぐる回ってなかなか近寄れないことが，知らない街では往々にしてある。

或る目的がたとえ理想的なものであったとしても，そこに到達する道筋が不明であったり混乱していれば，何時も目前のことにばかり気を取られてしまい，理想が単なる空想で終わってしまう事になる。事ほど左様に，展望が効かないことは何とも恐ろしいことと言えよう。

「古きを温ねて新しきを知る」と言う言葉も，展望を求める方法の一つとして古来から言われているが，特にピアノの演奏にとっては何より大切な言葉とも言える。それは「演奏」が，昔だれかが作った曲をこれからピアノを使って音に変えるという仕事だからであり，それも特に日本では他国の人の作ったものを音に変えねばならないことがほとんどである。例えばモーツァルトのソナタをこんな音で弾きたいと思った時，それがモーツァルト自身の感じていた音に近ければ近いほどよい演奏になるが，肝心のモーツァルトの思っていた音がまったく判らなければ，どうして良いか判らなくなるはずである。バドゥラ＝スコダは自国のモーツァルトのピアノ曲の演奏のためにあれだけ詳細な調査と研究を行っているのである（「モーツァルト演奏法と解釈」音楽之友社）。ましてや他国のの我々が単に他人の模倣だけで演奏できるはずがない。つまりこのようにして，演奏しようとする作品に対する展望を持つことが，何にも増して大切なことと言える。

一方，ピアノを指導すると一言で言っても，この教育すると言うこともそれほど簡単ではない。自分が習って来たものをそのまま子供に教え込もうとするのなら，多少の抵抗を覚悟しさえすれば其ほど難しくは無いかもしれない。しかしこれは教育でも何でもなく，単なる押しつけ以外の何物でもなかろう。子供の音楽的環境や性格それに両親の考え方や知的力量等など，総ての状況を把握した上で将来への展望を効かせることによって，現在の教育が成り立つのであり，教育は何時も10年20年先を読んで行われる必要がある。ドイツの学校音楽教育で商業音楽を教えるとき、実際に流行曲が作られている現場に子供達を連れて行きそれを観察させ，さらに学校で流行曲を作らせる事により，それらの音楽の持っている意味を実感させるというものがある。多分こうして学習した子供たちは，もはや将来ともその時々の流行曲に惑わされることは無くなるに違いないし，音楽の価値についても学習したに違いない。子供の音楽的な才能を見つけ出しそれをより好ましい方向に導くには，充分な展望を持たないと出来るものではない。

全日本ピアノ指導者協会の萌芽は「日本人が何故日本の音楽を弾かないのだろう」という真に素朴な疑問から始まったことは，7年前の100号記念特別号で明らかである。この疑問はこれまで続いたコンペティションにより徐々にではあるが解かれつつある。これはこの協会の他には決して見られない極めて大きな業績であり，大いに誇ってよい実績と言えるし，今後ともこの初心は忘れてはならない重要な目標となりうるものである。一般に「顔のない日本人」と言われないためにも，これは常に心しなければならない目標であろう。

機関紙も150号を発刊するところまでになった。この編集は大変な手間の掛かる仕事であり，しかも時間との戦いでもある。ここまで来れたのも，様々な軋轢の中極めて少ない本部事務局の方々の地道で大変な努力の賜物と言えるし，常にそれを支えて来られた福田靖子専務理事あってのことと，有名無実の編集長として，ここに改めて深く感謝の意を表したい。そして充分な展望によって，この協会が今後益々充実発展して行くことを心から祈念するものである。

表紙の写真：1989年11月23日　第1回生涯学習フェスティヴァル　まなびピア'89
開会式の『グランドピアノ111台による演奏会』より
（千葉市・幕張メッセにて）

特集 Our Music

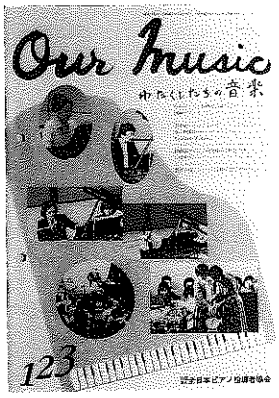
わたくしたちの音楽 150号

●101号　昭和58年6月

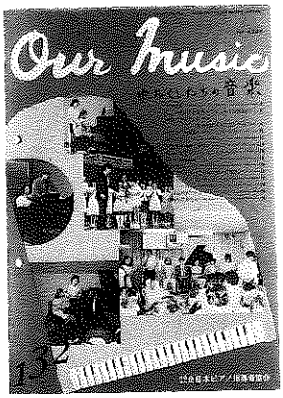
●特別寄稿●

150号を迎えて

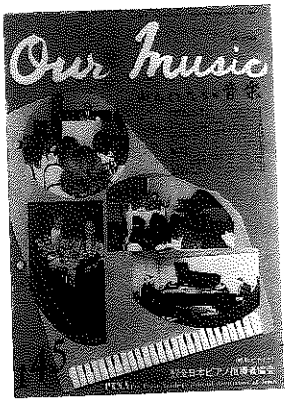
●117号　昭和60年6月



●123号　昭和61年4月



●132号　昭和62年8月



●145号　平成元年6月

当150号中には既刊の
100号から149号の表紙すべてが掲載されています。

会報「わたくしたちの音楽」150号発刊にあたって

社団法人　全日本ピアノ指導者協会会長

羽　田　　孜

社団法人　全日本ピアノ指導者協会の会報が，本年3月で150号を迎えます。ついこの間100号を記念してご挨拶申し上げたような気がいたしますが，会報は年7回発行しておりますので，あれから7年の歳月が過ぎたことになります。

この間当協会は，ピアノ教育界では，わが国ただ一つの社団法人として文部省からご認可をいただき，支部・連絡所は全国各地に計91ヶ所と増設されました。また昨年のピティナヤングピアニスト・コンペティションは第13回を重ね参加者はのべに致しますと11929名にも及びました。

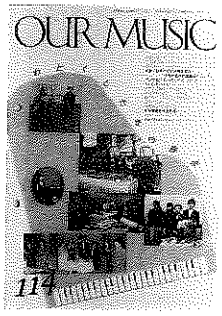
この13年間には，国際コンクール入賞者を数多く輩出するなど，国際的にも認知されるピアノコンクールとして成長し，ソロ部門のみならず，デュオ部門のコンクールもわが国ではユニークな存在として定着してまいりました。本年からは，一生涯ピアノ学習を続けたいと考えていらっしゃるピアノ学習者・指導者を対象としたシニア部門（16才以上90才代迄）のコンペティションが開設されることになりました。

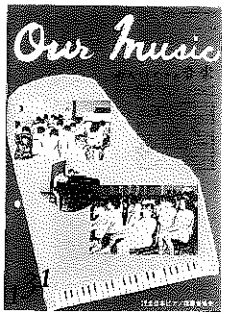
また昨年11月23日，文部省・千葉県などの主催による第1回生涯学習フェスティヴァルの開会式に，当協会会員とその関係者5才から78才まで，約400人の方々によって，ヤマハグランドピアノ111台の大合奏を行いました。新聞，雑誌，テレビなどの話題となりましたことは，皆様の記憶に新しいことと存じます。

このように，当協会が弛むことなく活動し発展の道を歩むことができますのは，全国各地の会員の皆様の努力とそれをお支えくださいます各方面の方々のお力添えのお陰様と，ここに関係各位皆々様に厚く御礼を申し上げます。

社団法人　全日本ピアノ指導者協会では，これからも，音楽大学を卒業しただけというのではなく生涯に亘って音楽の学習に努力する指導者の育成をはかるため，その生涯学習の環境整備にも努力致したいと考えます。

当協会にお寄せ下さいました各方面のご厚情に，重ねて心から感謝を申し上げ，今後ともご鞭撻とご協力をお願い申し上げ「わたくしたちの音楽」150号発刊のご挨拶とさせていただきます。**（昭和50年10月より当協会会長，現衆議院議員，元農林水産大臣）**





左から順に
- **114号**　昭和60年2月
- **131号**　昭和62年6月
- **105号**　昭和58年8月
- **144号**　平成元年4月

「わたくしたちの音楽」150号に寄せて

忘れられぬ出会い

文部省
寺脇　研

海浜幕張の駅で電車を降りると，朝の冷気が身を包んだ。平成元年11月23日，第一回生涯学習フェスティヴァルの開会式当日である。前日の最終準備を終えて千葉市内のホテルに泊まり，夜の明けるのを待ち構える気持で一夜を過ごした。早朝に部屋の窓から見渡す空は，端に雲がかかっているものの，晴れ。勇躍，会場である幕張メッセと向かうところだった。

駅からメッセまでの道はまだ人影もまばらだが，ぽつぽつと行くのは大きな楽譜袋を抱えた人たち，そう，開会式のメインイベント「グランドピアノ111台による演奏会」に参加する方々だとすぐにわかった。11時の演奏開始の3時間以上前からこうやって集まって下さるのだと思い，フェスティヴァル全体の責任者として感謝の念を新たにする。前日総リハーサルの際にうかがったら関東だけでなく全国から泊まり込みでみえた方もいらして，われわれの企画にそこまで熱心に取り組んでいただけたのかと，勇気づけられた。

子供さんは皆お母さんに付き添われている中，ひとりの小柄な男の子が目についた。背中に楽譜袋を背負い，ひとりだけで脇目もふらずに歩いていく。身体が前にかしがんばかりの勢いだ。その姿は，ひたむきな決意に満ちている。わたしは，こういうのに弱い。胸が熱くなってしまう。どんな子かな，と追いつこうとするのだが，彼はいっさんに進んでいくから，なかなか差が縮まらない。やっと追いついて，声をかけた。

「きみも今日弾いてくれるの？」

「はい」

想像していた通り利発そうな顔をした男の子は，突然話しかけた見知らぬおじさんに，きちんと答えてくれた。

一緒に歩きながら聞いたところでは，名古屋の方から来たとのことで，ひとりで新幹線に乗り，昨夜はひとりでホテルに泊まったという。ひとつ聞くたびに感心するばかりだった。こんな子には，大人と同じように敬意をもって接しなければならない。大人だって，これほど敬意を払う気になれない輩はいくらもいる。

「おじさんはね，今日の責任者なんだよ」

「あ，昨日リハーサルのときにお話した人ですね。文部省の…テラワキさん」

総リハーサルの後にちょっと壇上で感謝の言葉を言っただけなのに，よくまあ覚えているもんだ。とうとう名刺を差し出して挨拶してしまった。

「帰ったら御両親にこういう人がありがとうと言ってたと，伝えて下さい」

イベントホールまで来て演奏者の集合場所がわかると，男の子は小走りに駆けて行った。

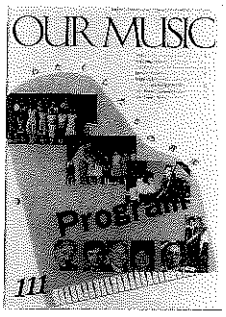
「がんばって弾いてね」

と別れしなに言いはしたが，きっといい演奏をしてくれるに違いない，いや彼だけでなく全体がみごとな演奏となるに違いない，と確信していた。

結果は，御存知の通りである。開会式は大きな感動の渦を巻き起こしたし，フェスティヴァル期間中を通し予定の倍を超す25万人近い人々が集まってくれ，さしたる事故もなく閉幕することができた。

初日の朝からこんな気分のいい出会いがあった生涯学習フェスティヴァルである。失敗に終わるわけがない。人間は出会いを繰り返すために生きているようなものだもの。いい出会いは，生きる歓びの最たるものだろう。つまり生涯学習とは，人とのいい出会い，事柄とのいい出会いを作るための努力であるのかもしれない。その意味で，111台のピアノの鍵盤を叩いた4百余名の皆さん

PTNA
ピアノフェスティヴァル
プログラムとなった会報
- **103号** 昭和58年8月
- **111号** 昭和59年8月
- **139号** 昭和63年8月
- **146号** 平成元年8月



と，当日会場を埋めた6千人以上の観客は，すばらしい出会いを体験したと言えるのではないか。

この出会いの場の中核となったピティナの皆様，心から御礼申し上げます。当方の不手際で事前の連絡との食い違いがあったり，ホール客席への入場の際御迷惑をかけたりしましたが，あの生涯忘れられない4百の心が溶け合った演奏に免じてお許し下さい。

また，あんな出会いの場が作れるといいですね。**（文部省生涯学習局生涯学習振興課課長補佐，第1回生涯学習フェスティヴァル事務局長）**

歴史を創っていくピティナ

日本テレビ
大久保　豊

ピティナは歴史を創っています。音楽教育の未来にむかって，一歩一歩時代の階段を登っています。

私は，ピティナ「わたくしたちの音楽」150号発刊記念にお祝いを述べながら，創造の世界で，何が最も高く評価されるべきかを改めて考えさせられました。

私たちが心血をそそいでいるテレビジョンでも，書籍でも，永く生き続けてこそ，真の価値が認められるということです。それは，当事者たちだけのひとりよがりではなく，広く深い人々の支持がなければ，あり得ない真実だからです。

その真実に裏づけられたピティナから成長された方々と共に，テレビ番組を制作したり，音楽イベントを開催したり，音楽に関する本を出版するのが，私の夢にほかなりません。

そこでは，きっと，人間への愛情に満ちあふれた才能が，花開くはずだからです。**（日本テレビ放送網株式会社事業局次長兼出版部長）**

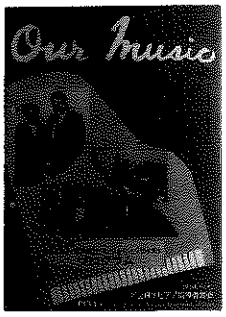
「エリーゼのために」から「ドラクエ」に
—変り行く環境への挑戦—

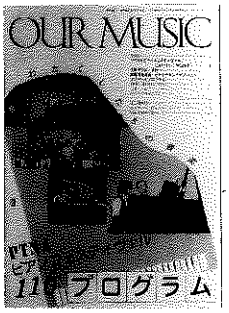
エッソ石油
多田　正遠

私とＰＴＮＡとのお付き合いが始まったのは1981年からであるが，もちろん福田靖子先生との出会いがご縁の始まりといってよい。当時私が勤めていたエッソが後援していたジュニア・フィルハーモニック・オーケストラの小林専務のご紹介によるものだ。この時先生は淡々として，如何にしてＰＴＮＡが発足するようになったかのいきさつを述べられたのが，強く印象づけられた。「おみくじを引いたら凶と出たので，恐れおののきながらもがんばるより他なかった。」という先生の逆境にもめげないチャレンジ精神にも心を打たれたし，又子供のコンクールの審査が外国人も含めて公明正大に行なわれ，審査の内容も本人に通知されるなど感心させられる点が多々あった。そのようなわけでエッソが目指していた国際的理解と親善を深めるとか，音楽を通じて青少年の人格形成に寄与しているなどの，社会活動の幾つかの基準に合致することから，エッソ賞という形での後援が始まったのである。この賞の設置により何人かの才能ある子供達が海外で力だめしをして，更に次のハードルに挑戦し自己の能力を開発していくことができたならば幸いである。

左
- **118号** 昭和60年8月
- **125号** 昭和61年8月

右
- **141号** 昭和63年12月
- **116号** 昭和60年4月





ＰＴＮＡはまた私に多くの方との出会いを与えてくれた。将来の総理候補として内外に呼び声の高い会長の羽田孜氏も成城の後輩ということでお近付きが出来た他，若い頃さんざんお世話になった田宮東大名誉教授夫人のお子さんであるピアニストで芸大助教授になられた堀江孝子さんとの再会，通産省の石油関係でご厄介になった斎藤課長補佐が福田政子さんのご主人であったりするなど，世の中は全く狭いものである。

さて以前に Our Music に書いたようにクラシック音楽もよい意味でポピュラーになりつつある。「ラスト・エンペラー」という映画の音楽で芸大出の作曲家がアカデミー賞を受賞したのも一昔前なら考えられないことだ。つい先日若いピアノの先生から聞いた話であるが，昔は「エリーゼ」が弾きたいのでピアノを習いたいという感覚であったが，最近の子供は今評判の「ドラクエ」の音楽がすてきなので入門したいと言ってくるそうだ。曲も難しいのから易しく編曲されるものまで何種類も楽譜が出版されていると聞いてびっくりした。

子供の数も段々と減って行く1990年代を迎えてＰＴＮＡも安閑とはしていられないはずであるが，そこはさすが福田先生は先見の明がある。いち早くＰＴＮＡを社団法人に改組され，生涯教育へ挑戦されようとしている。先日幕張メッセで生涯教育計画の一環として行なわれた５才から80才までの演奏者によるグランドピアノ 111 台の大合奏では不肖私も駆り出され，技能の未熟さを遺憾なく発揮して恥かしい思いをした。一旦は固辞したのだが，「上手，下手にかかわらず出ることに意義があるのです。」と先生に一喝されて，結果は不満足ではあったが役員としてのお勤めを果たして来た。

今後共更にＰＴＮＡが新しい環境に挑戦され大きく発展されることを望んで，お祝いのことばと致します。

（元エッソ石油株式会社広報部長，平成元年11月定年退職後東海大学講師，当協会理事）

いつの間にか会報150号

作曲家

中田　喜直

ピティナ　ヤングピアニスト・コンペティションの全国決勝大会第１回から，昨年の第13回まで一回も休むことなく，審査に携わって来た。今では立派に成長した顕ちゃんこと若林顕くんが，くりくり頭の可愛い少年時代に，ピティナでグランプリを受賞し，それから私の事務所で二人で連弾したことなど，昨日のことのように思い出される。

ピティナでは，その課題曲に必ず日本人作品をとり入れているし，最近では，Ｇ級や特級の新曲課題曲を公募し採用しているが，私はその応募作品の審査にも当っている。日本での音楽教育界に確実なる歩みを続けるピティナに心から応援したいと思うからである。Our Music 100号の記念号には，指を無理しないように，子供のための幅せまピアノの話を書いたように思うが，教育に無理があってはならないと思う。

今回150号への原稿を依頼され光栄に思っているが，この時期，非常に忙しく，充分意を尽くせないのが残念だ。

これからもピティナが，日本の，否世界の音楽教育界に新風を送り込まれるよう，心から祈っている。いつの間にか150号，本当におめでとうと申し上げペンを置きたい。**（フェリス女学院教授，PTNA ヤングピアニスト・コンペティション第１回から毎年審査員，当協会顧問）**

春のフェスティヴァルのプログラムとなった会報
左から順に
- **121号** 昭和62年２月
- **135号** 昭和63年３月
- **128号** 昭和62年２月
- **142号** 平成元年２月

●特別寄稿　～4人の大学学長～

芸術は未熟のなかに芽生えている

桐朋学園大学長

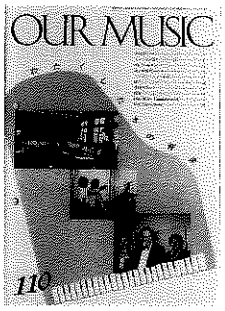
三善　晃

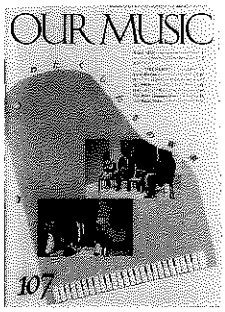
世の中には様々な尺度があって，確かに，それがないと暮らせません。文字通りの尺度，たとえば長さや重さ，温度，時間，といった類いの目盛りは日常生活に不可欠です。尺貫や坪という測り方がなくなっても，その代わりにメートルやグラムや平方メートルが用いられて，ものの計測だけはできる仕掛けになっています。

競走競技などでは，一定の距離をどれだけの時間で通過するかが競われて，ここでは距離と時間の測定が決め手となります。測り売りの，たとえばガソリンとかお米とかになると，少し話が面倒になって，量は測れるが，それだけですむというものでもない。量のほかに，質という別な目安が必要になります。ガソリンならば，一定量のガソリンの出す熱量の高低が，一応の指数になるでしょう。お米ならば，質を科学的に分析することも可能なのかもしれませんが，それよりも“おいしさ”という，多分に主観的な要因がかかわってきます。あるいは，それを作り出すための労働量，さらには需要と供給の関係もかかわってくるでしょう。さて，そうすると，芸術の尺度というものはどうなるか。

これは，測れない。100㍍競走のように測れないばかりでなく，お米の値段のように決めるわけにもゆかないでしょう。にもかかわらず，芸術について，高低が言われ，時には真贋が指摘もされますね。一体，それはなにを尺度としているのでしょう。誰も，それについて，物差しのように客観的な基準を示すことはできないでしょう。心を打つ，とか，感動させる，とか言っても，それはやはり主観でしかない。そこで，多くの人々の主観が「素晴らしい」「美しい」などに一致したとき，それは芸術として認められた，ということになるらしい。しかし，「素晴らしい」「美しい」にも，色々あって，それらを一々つまびらかにすることはできません。その無限のありようをひっくるめて，「素晴らしい」「美しい」と言えるもの，それはやはり芸術としていいものなのだ，と，今まで人間は決めてきました。いや，そう考えることが，人間の所以なのだとしてきた，と言った方が正しいかもしれません。

それに対して，芸術家の側からも疑問や反対も出て，その立場からの創造が提起されもしました。少なくとも，ある時点までの美観の尺度では測れない作品や演奏を世に問い，初めは理解されなかったが，やがて，人々の方がそれを「素晴らしい」「美しい」と認めることで，その新しい創造も“芸術”の側に取り込まれる，といった過程も続いています。すると，人々の主観というものは，メートルやグラムのように不変なものではなくて，よく言えば柔軟な，悪く言えば頼りないもののように思われてきます。逆に，ある時もてはやされたものが，いつしか見捨てられることもあります。そういった変動が，社会のレヴェルで起こることもあれば，個人のレヴェルで起こることもあります。まことに，“はかない”と言えば言えますね。





左から順に
- ●110号　昭和59年7月
- ●138号　昭和63年6月
- ●107号　昭和59年3月
- ●124号　昭和61年7月

にもかかわらず，芸術を志すものは芸術としての高み，真実，深みに到達しようとして努力する。それは何故か。おそらくそれは，私たち人間が，日常の言葉ではつかまえることができず，しかも絶えず日常から溢れだし続けているものに触れたいと思うからではないでしょうか。そして，人々がそのような営みに共感するとすれば，それは人々もまた，自分自身の日常から溢れだし続けているものになんとか触れたいと，無意識にせよ願っているからではないでしょうか。宗教はそれに似ていますが，しかし宗教は言葉を通して言葉を超えようとしたうえで，その境地への道程を，また言葉によって示そうとします。文学もまた確かに言葉を用います。しかし，ある人がある文学作品によって触発された世界は，言葉を貫いた向こう側に実存し，何物かによって支えられることを要しません。そして，そこに私たちの日常から溢れ出したものが，たしかに息づいています。その実存は，個々に帰せられています。

「日常の言葉を超えて，日常から溢れだすもの」について，例を挙げてみます。青い空を見れば，誰でもそれを「青い空」と呼ぶことができます。書くこともできます。空が青かったことは，その「青い空」という日常の言葉によって，みんなに解ってもらえます。

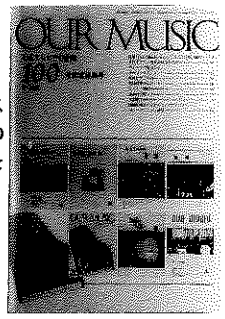
しかし，その青い空を見たその時の自分が，“それによって与えられたなにものか”は，その「青い空」という言葉では表せません。同じように青い空でも，その“なにものか”によって，ちがいます。一人の人にとっても，時と場合によって，青い空は全くちがうものになり，また，同じ青い空が，それを見た別な人には，全くちがったものをもたらします。その「ちがい」を表そうとして，詩人は詩を書こうとします。単に「青い空」という日常の言葉では，その「ちがい」を表せないからです。つまり，青い空は，「青い空」と言えばすむものではない「日常から溢れだすもの」を，一人一人の人間に与えているということです。“与えられた”と申しましたが，しかし，それは私たちが生きていることの証だと思います。生きているからこそ，青い空は，単なる「青い空」ではなく，その言葉の向こう側に，私たちの生を映し取っているのです。そこへの心の志向の現れが芸術であり，その一つが，音楽だと思うのです。

仮にそう考えるとして，私が“まず”大事だと思うことは，日常から溢れだすもののありようではありません。“まず”大事なものは日常そのものです。一人一人の日常はそれぞれ違う。その，それぞれに違う日常を，一人一人が地道に手探りしながら生きることによってしか，そこから溢れだすものはつかめません。生半可に日常を送っていれば，なんでも簡単にそこから溢れてしまうでしょう。そのように簡単に溢れだしたものに共鳴するからといって，それを芸術と呼ぶわけにはゆきますまい。日常を大事に生きて，なお，そこにどうしても湛えきれず，そこから溢れだしてしまうものが，どこかで奇跡のように出会えるもの，それは…芸術という通念的な名称や定義はさておき…その人のとっての“芸術”であるにちがいありません。時代を越えて多くの人々からそのように受け取られるものがあるとすれば，それには芸術としての普遍的な価値がある，と考えて，ひとまずは差し支えないのではないでしょうか。

ＰＴＮＡ誌にこのような面倒くさいことを書くのは，ＰＴＮＡの先生方が教えていらっしゃる数多くの生徒さんたちのことを思うからです。芸術の上達というとき，それは未熟から成熟への一本道を登ることとされ，たくさんの生徒さんがいれば，全体はピラミッドの裾野と頂点の関係に把らえられがちです。そうではない。幼児も未成年者も，一人一人がそれぞれの日常を紡ぎ，それぞれに固有な人生という持続を織りつつある。そのなかで，どうしても言葉では表現できず，言葉を超えてしまうものへと懸命に近付こうとする営みそのものに，幼年も未成年も成年も，また高低もない，ということを申し上げたいからです。まだ上手に弾けない子供からも，芸術の芽は聴き取ることができると思うのです。そう考えたう

ＰＴＮＡヤングピアニスト・コンペティションの要項は，100号以降８冊を数えます。

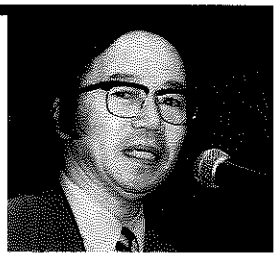
- **●100号** 昭和58年４月
- **●108号** 昭和59年４月
- **●115号** 昭和60年４月
- **●122号** 昭和61年４月



えで，初めて，練習とか技術とかいうものの意味が与えられるのではないでしょうか。下手でも芸術か？と問われるならば，どんなに下手でも，それがいま申したような営みであるならば，芸術はその下手のなかに芽生えている，とお答えしたいと思います。言い換えれば，上手になるための技術の錬磨とは，あくまで，言葉を超えて日常から溢れだしてしまうものを，自分の心身で把え，心身で紡ぐ手だてであるということです。肝腎の紡ぐ「もの」がないならば，“上手”には意味がない，ということです。名人のレコードそっくりに弾けても，自分自身の「もの」がなければ，それは芸術でないばかりか，技術でもあり得ない，そう申し上げたくてこれを書きました。

（作曲家，ピティナヤングピアニスト・コンペティション第10，11回総審査委員長，当協会顧問）

PTNA会報150号を祝して



国立音楽大学長

海老澤　敏

ＰＴＮＡがピアノ教育振興のために，ピアノ教師養成のために，孜々として，その道を歩んでこられたことは衆目の認めるところですが，そのＰＴＮＡの歩みを，そしてそのフィロゾフィーや現状の確認を，くまなく，確固とした主張をもって記述し，記録してきた会報。その会報がはやくも150号という歴史を刻んだことに，心からのお祝いを申し上げたいと思います。

最近情報化の時代における過多なインフォメーションの問題がとみに云々されてきていますが，もともと人間の活動，とりわけ文化活動には，良質の，セレクトされた情報がきわめて重要な意味をもっています。貴誌を拝見していると，そうした情報伝達の適切さ，そして大切さを大いに実感させられます。

会報が，これからも，会員諸氏に対して，そうした役割を果たしつつ，ますますの御発展を遂げ，そのことが，またＰＴＮＡのさらなる活動の展開の目印となるよう，祈念してやみません。**（音楽学者，ピティナヤングピアニストコンペティション第12～14回総審査委員長，日本モーツァルト音楽コンクール実行委員会会長）**

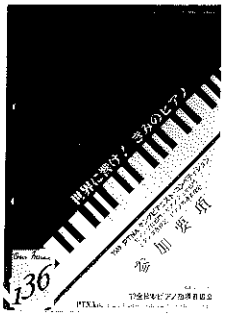
継続は力なり

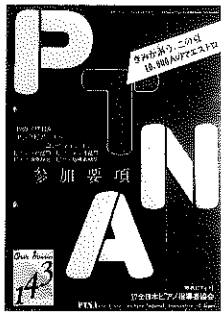
洗足学園大学長

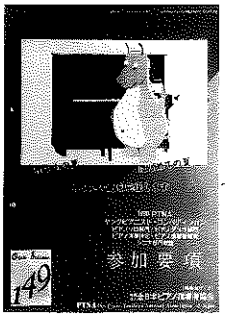
前田　壽一

「Our Music」が創刊以来150号を迎えられることを心よりお慶び申し上げます。

本誌を毎回読ませていただいておりますが，さまざまな企画や特集が組まれ，大変充実した内容となっていることに敬服いたしております。また，ピティナ主催のコンクールの模様を拝見いたしますと，全国から選ばれた音楽家志望の子供たちが，このコンクールを目ざし一生懸命努力している様子がうかがえます。もちろん音楽に1位も2位もないと思いますが，そうした機会を利用して勉強するのはすばらしいことと思います。







- **129号** 昭和62年４月
- **136号** 昭和63年４月
- **143号** 平成元年４月
- **149号** 平成２年４月

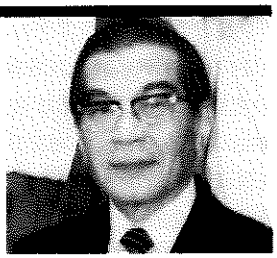
今日の日本の教育を全体的に見ますと，いわゆる偏差値を中心にした受験勉強に偏重し，豊かな心を育て，創造性を生み，物事に感動しまた悲しむ，といった人間の持つ最も重要な才能を生かし開発する教育が欠落しているように思います。日本が外国に追いつきを物質的豊かさを追求しなければならなかった時はそれでもよかったのかもしれませんが，一応そうした目的が達成されたと言われる今日，教育に求められるものは変わってこなければならないと思います。こうした意味で，音楽教育の重要性は今後さらに重要になってくると思いますし，そのための努力を我々も行なって行かなければなりません。

全日本ピアノ指導者協会は文部省から公的に認められた（社団法人）権威ある機関であります。「継続は力なり」という言葉がありますが，今後ともわが国の音楽教育振興のため不断の活動を続けられますことを心よりお願い申し上げます。**（ＰＴＮＡヤングピアニスト・コンペティション第10回より洗足学園前田賞を授与）**

日本は何故聴衆が少ないか

福岡教育大学長

安永 武一郎



日本では演奏家にならうとすれば，大変な時間と費用がかかる。そして演奏家となって生活をするにも，他の企業体に勤めるよりは苦しい生活が続く。何故だろう。一口で言えば演奏会を開いても聴衆が少なく，演奏家自身が入場券を売りさばかねばならないし，その費用の一部も自身で引き受けねばならない事が多いからだ。では何故聴衆が少ないのだろう。私がウィーンに留学していた当時（昭和40年から41年まで）に思った事を簡単に書いてみたい。

1つには，クラシック音楽はヨーロッパで生まれ育っていて，日本の特殊な人達を除いて一般的日本人の体質には土壌が合わない，と言えるだろう。

2つには，ウィーンの生活形態，習慣と日本のそれとが余りにも違いすぎる点である。

日本の生活は，勤めが終ると，一ぱい飲み屋，料亭，小料理屋，ヤキトリ，キャバレー，バー，パチンコ，麻雀など，遊びの場所が余りにも多く，演奏会を聞きに行くよりこの方が楽しいと思う人が圧倒的に多く，又家に帰ると娯楽のテレビ番組が多すぎて選択に困る位である。ウィーンでは，日本の一ぱい飲み屋と同じ「ホイリゲ」という名の飲み屋がたくさんある。然しホイリゲには，オペラや演奏会を聞いた後で行く。ホイリゲには日本と違ってホステスは居ない。然も当時170万の人口を持つウィーンにバーが2軒，キャバレーが1軒という日本では全々信じられない数である。加えてテレビは娯楽番組は殆んど無く，チャンネルは2つ位で放映時間は少なく放映しても教養番組が殆んどの為，日本のように寝そべって娯楽番組を見る事がない。街もそうだし家に居てもそうだからウィーンの人々は夜の時間をオペラや演奏会に使う。然も料金が大変に安く，かなり良い場所でも日本円で1,000円位で毎晩行っても家計を圧迫しない。しかもオペラの内容は彼等の生活そのものだし，クラシックも子供の頃から耳にしているので親しみ続けている。つまり，音楽はヨーロッパの人々にとっては生活の一部である。

又，国家が音楽面に補助する金額は，日本とは段違いに大きくて耳を疑う程だ。例えばウィーン国立歌劇場の年間総予算の額は，オーストリー外務省の年間総予算と同額であったが，横溝亮一氏の話では，現在は国立歌劇場の方が外務省より多いそうである。

以上のような事は，国家的見地で，基本的に見直すべき文化政策であるが，「花より団子」の民族性は，仲々急には直るまい。

そこで，ピティナこと社団法人全日本ピアノ指導者協会では，この聴衆の拡大ということにも力を注いでいかなければならないと考えている。**（当協会理事，平成2年4月より大分県立芸術短期大学々長）**

ＰＴＮＡヤングピアニスト・コンペティション特集号の2冊

●140号 昭和63年10月

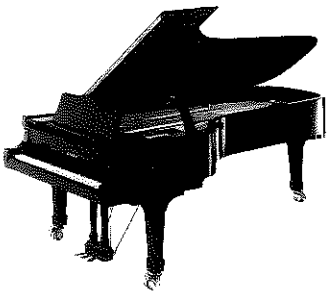
●147号 平成元年10月

㈱株式会社河合楽器製作所 〒430 静岡県浜松市寺島町200 TEL.(0534)57-1317

MARTHA ARGERICH

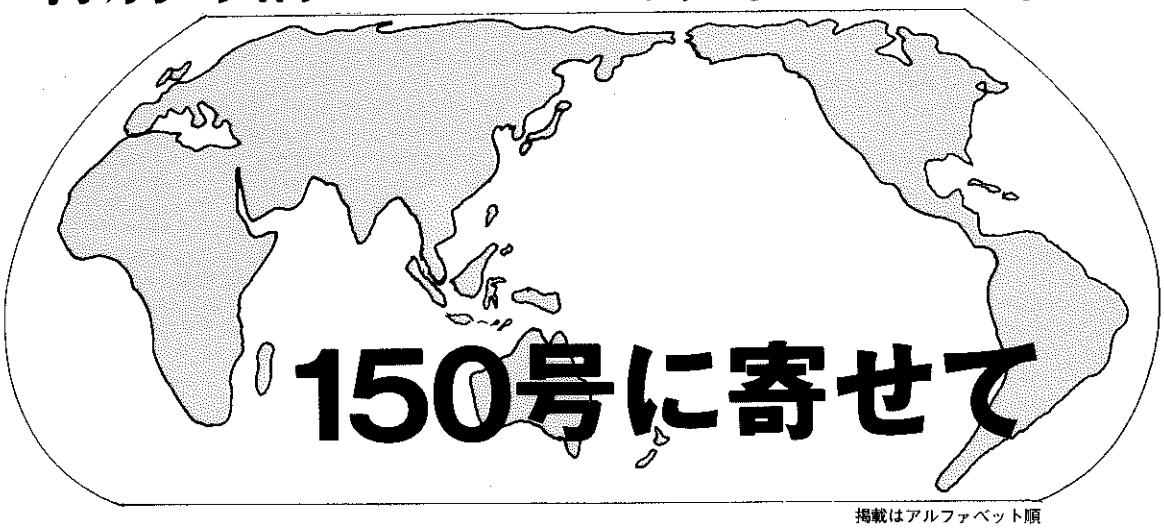
美しい共鳴。

EXとの出会い



KAWAI EX
CONCERT PIANO

特別寄稿　海外からの手紙



掲載はアルファベット順
原文が英語，中国語のものは鈴木啓水氏訳

PTNAの友人たちへ

米国テキサス州立大学教授
ジョセフ・バノウェッツ
Joseph・Banowetz

ＰＴＮＡ創立24周年と「わたくしたちの音楽」150号発刊を記念して，心からのご祝詞を申し上げます。貴協会と貴誌が，日本の音楽のために果たしてきた功績は偉大で，より高い芸術水準を目指すその姿勢は，あらゆるレベルのピアニストにとってのはげみであり，その恩恵は測り知れません。

ＰＴＮＡの働きは今や世界中に知られており，貴会と関連のある人々すべてが，働きの当然の結果として，ＰＴＮＡに冠せられた高い評価を誇りにしています。私個人もＰＴＮＡを知ることができ，とてもうれしく思います。と同時に，福田靖子先生，政子様をはじめ，ご家族の皆様が誠実と献身をもって示されてきたリーダーシップに，深い感謝の気持ちを表します。

ＰＴＮＡに今後も末長くご発展とご成功がありますよう。

ごあいさつとして

（1983年度ＰＴＮＡコンペティションにおいて，Ｇ級の福田直樹君にバノウェッツ賞を授与，本年度，国立音楽大学客員教授として来日予定）

January 21, 1990

The Piano Teachers' National Association of Japan
1-15-1 Sugamo
Toshima-Ku
Tokyo 170, Japan

Dear Friends:

Please allow me to extend to the Piano Teachers' National Association of Japan my warmest congratulations for the 24th anniversary of its founding, and to the "Our Music" for its 100th issue. The marvelous work your organization and its music journal has accomplished for the cause of music in Japan has been enormous, and has greatly benefited pianists at every level by encouraging ever higher artistic standards.

The work of the Piano Teachers' National Association is now known throughout the world, and all who are now associated with your organization should be extremely proud of this well-deserved reputation. I feel fortunate to have had the opportunity to be associated with the Piano Teachers' National Association, and wish to express my deepest appreciation to Mrs. Yasuko Fukuda, Mrs. Masako Fukuda, and to the other members of their family for the integrity and dedication with which they have given leadership.

Please accept all my good wishes for long continued successes and achievements by the Piano Teachers' National Association of Japan!

Cordial greetings to you all,

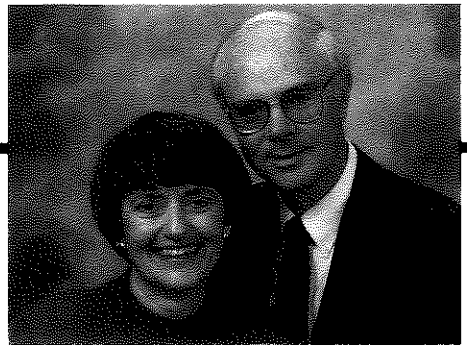
Joseph Banowetz

子供たちへの素晴らしい貢献

バスティンメソードの著者

ジェイムス&ジェーン・バスティン

James & Jane Bastien

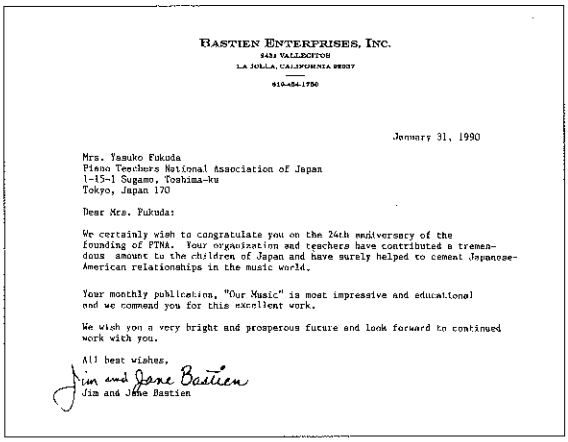


ＰＴＮＡ創立24周年，会報150記念号のお祝いを申し上げます。

貴会とピアノ指導者の方々は，日本の子供たちのために素晴らしい貢献をなさったばかりでなく，音楽界における日米関係を強めるためにも大きな助けとなられました。

貴会の月刊誌「わたくしたちの音楽」は非常に立派な教育的発行物であり，お仕事ぶりには感服しております。

どうか皆様にとって未来が明るく発展的なものでありますように。引き続きお仕事がご一緒できるのを楽しみにしております。



BASTIEN ENTERPRISES, INC.
8431 VALLECITOS
LA JOLLA, CALIFORNIA 92037
619-454-1750

January 31, 1990

Mrs. Yasuko Fukuda
Piano Teachers National Association of Japan
1-15-1 Sugamo, Toshima-ku
Tokyo, Japan 170

Dear Mrs. Fukuda:

We certainly wish to congratulate you on the 24th anniversary of the founding of PTNA. Your organization and teachers have contributed a tremendous amount to the children of Japan and have surely helped to cement Japanese-American relationships in the music world.

Your monthly publication, "Our Music" is most impressive and educational and we commend you for this excellent work.

We wish you a very bright and prosperous future and look forward to continued work with you.

All best wishes,

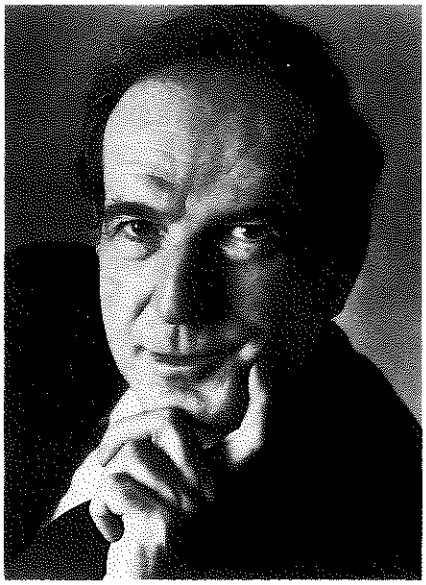
Jim and Jane Bastien

Jim and Jane Bastien

国際的に傑出した功績

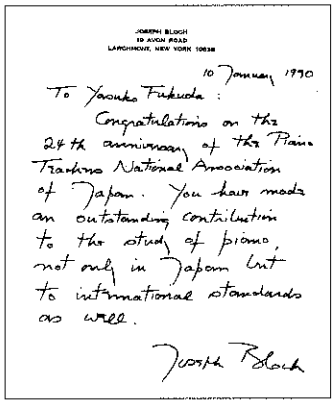
元米国ニューヨーク・ジュリアード音楽院教授　**ヨゼフ・ブロッホ**

Joseph・Bloch



会報150号，及び全日本ピアノ指導者協会が設立されて24年にあたるに際し，心からお喜び申し上げます。

貴協会が残された功績は，日本におけるピアノ教育という見地のみならず，国際的な水準に照らしても，傑出したものです。



JOSEPH BLOCH
10 AVON ROAD
LARCHMONT, NEW YORK 10538

10 January 1990

To Yasuko Fukuda:

Congratulations on the 24th anniversary of the Piano Teachers National Association of Japan. You have made an outstanding contribution to the study of piano, not only in Japan but to international standards as well.

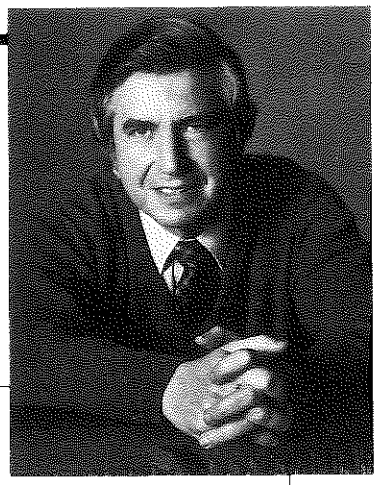
Joseph Bloch

会員をひとつに結ぶ会報

ジュリアード音楽院　ピアノ科教授

マーティン・キャーニン

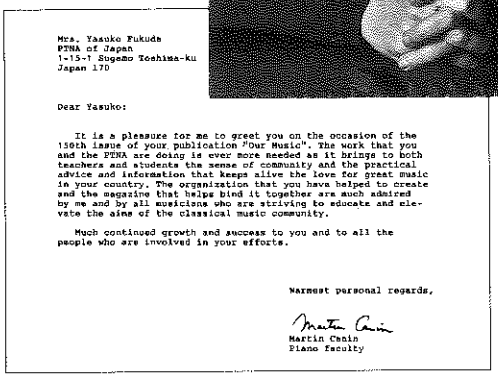
Martin Canin



ＰＴＮＡの発行する「わたくしたちの音楽」が150号を迎えたこの機にごあいさつできることを，大きな歓びと感じます。先生とＰＴＮＡの働きは，ピアノ教師と生徒の双方に連帯の気持ちを生み出すと同時に，実際的なアドバイスや情報を提供して，偉大な音楽への愛を貴国においてますます盛んならしめるうえで，より一層必要とされています。先生のご尽力でできあがったこの協会と，その会員をひとつに結ぶ会報は，私ばかりでなく，クラシック音楽界の目標をより高揚させ，教育していこうと努めている者すべてが称賛するものです。

先生と，また共に働いておられる方々すべてに今後ますますの発展と成功がありますよう，お祈りしています。

個人的な親愛をこめて



Mrs. Yasuko Fukuda
PTNA of Japan
1-15-7 Sugamo Toshima-ku
Japan 170

Dear Yasuko:

It is a pleasure for me to greet you on the occasion of the 150th issue of your publication "Our Music". The work that you and the PTNA are doing is ever more needed as it brings to both teachers and students the sense of community and the practical advice and information that keeps alive the love for great music in your country. The organization that you have helped to create and the magazine that helps bind it together are much admired by me and by all musicians who are striving to educate and elevate the aims of the classical music community.

Much continued growth and success to you and to all the people who are involved in your efforts.

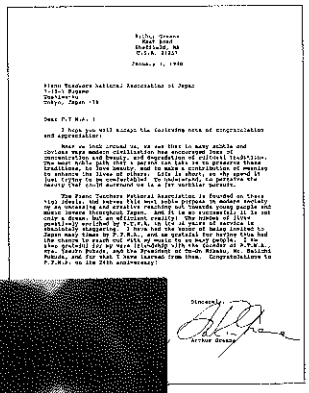
Warmest personal regards,

Martin Canin
Piano Faculty

価値ある追求

ピアニスト，元アイオワ州立大学教授　アーサー・グリーン

Arthur Greene



Arthur Greene
West Road
Sheffield, MA
U.S.A. 01257

January 5, 1990

Piano Teachers National Association of Japan
7-15-1 Sugamo
Toshima-ku
Tokyo, Japan 170

Dear P.T.N.A.!

I hope you will accept the enclosed note of congratulation and appreciation:

Near or long around us, we see that in many subtle and obvious ways modern civilization has encouraged loss of concentration and beauty, and regardless of cultural traditions, it has made it difficult for people to maintain these traditions, to love beauty, and to make a contribution of meaning to enhance the lives of others. Life is short, so why spend it just trying to be comfortable? To unbelieve, to perceive the beauty that should surround us is for musician artists.

The Piano Teachers National Association is founded on these vital ideals, and serves this most noble purpose in modern society by an unmaking and creative reaching out towards young people and their teachers, bringing them the joy of music and the joy of music makers. Such an efficient result of the energy of life is positively enriched by P.T.N.A. in its years of service is absolutely staggering. I have had the honor of being invited to Japan many times by P.T.N.A., and am grateful for notes like had received from Mr. Hiroshi Fukuda, President of Toho Mikatu, Mr. Kaichi Fukuda, and for what I have learned from them. Congratulations to P.T.N.A. on its 24th anniversary!

Sincerely,

Arthur Greene

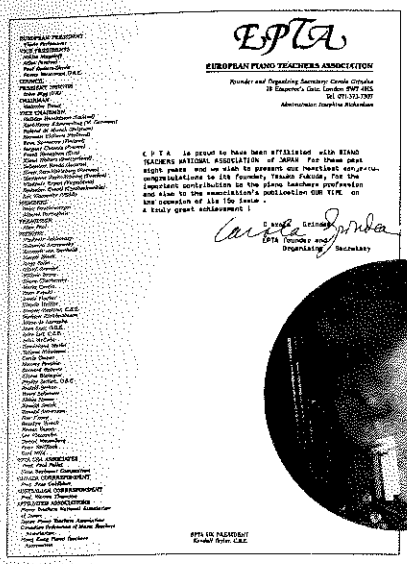
ＰＴＮＡの皆様

我々の周りを見回しますと，あるいは目立たないやり方で，あるいは明らさまな方法で，現代の文明が集中力と美の喪失を促し，文化的伝統の退廃を速めているのに気づかされます。こうした伝統を守り，美を愛し，他の人々の人生の意味を広げる手助けをすることこそ，人がなしうる最も高潔な仕事と言えましょう。人生は短い。この人生をただ楽に過ごすことのみに執心すべきでしょうか？　我々をとりまく美を感じ，理解することの方が，ずっと価値ある追求なのです。

ＰＴＮＡはこうした高い理念のもとに生まれ，現代社会でこの高潔な目標に到達するため，たえず日本中の若者や音楽愛好家に，創造的な手を伸ばし続けてきました。そして，大きな成功をおさめてこられたのです。ただの夢ではなく，現実なのです！　過去24年間にわたるＰＴＮＡの活動のおかげで，どれほど多くの人生が豊かになったことでしょう！　私もＰＴＮＡに招かれて何度も日本を訪れ，私の音楽で多くの人々に触れる機会を得たことを，とてもありがたく思っております。またＰＴＮＡ専務理事の福田靖子先生とその御主人福田成一氏（株式会社東音企画社長）の私に対するご親交，またお二人から学んだことに深く感謝します。

ＰＴＮＡ会報150号，そして創立24周年おめでとうございます。

敬　具


EPTA
EUROPEAN PIANO TEACHERS ASSOCIATION

真に偉大な業績

EPTA創設者・事務局長

カロラ・グランディア

Carola Grindea

ＰＴＮＡと過去８年間において提携関係にあったことは「ヨーロッパピアノ指導者協会」（ＥＰＴＡ）として大きな誇りであります。ＥＰＴＡは，ＰＴＮＡの創設者である福田靖子先生がピアノ指導者の仕事のために果たされた大切な貢献と、協会の出版物「わたくしたちの音楽」が150号発刊を迎えられたことを，心からお祝いするものです。

真に偉大な業績です！

C.P.E.バッハについて

シンシナティ大学音楽学校チェンバロ教授
アーティスト・イン・レジデンス

橋本 英二

この数年間，アメリカやヨーロッパの音楽学者10人程と一緒にカール・フィリップ・エマニュエル・バッハの作品全集出版の仕事にたずさわっている。全80巻近くを20年以上かけて，オックスフォード大学プレス出版社から出すという莫大な計画で，これにはアメリカの The National Endowment for the Humanities も援助金を与えている。「一緒に」といっても，各自それぞれの作品の編纂を分担して，全員が揃うのは１年に１回，全米音楽学者・総会（The American musicological Society meeting）の時だけ，ここで経過報告やら相談，今後の計画を話し合うわけだが，総会は東部，中西部，或いは西部だったりして毎年場所が変る。1988年のボルティモアの総会では，Ｃ．Ｐ．Ｅ．バッハ没後200年記念，そしてＣ．Ｐ．Ｅ．バッハ全集出版委員会本部がメリーランド大学ということもあって，Ｃ．Ｐ．Ｅ．に関する催し物が多く，私も彼のソナタやコンチェルトを演奏させられた。

私は演奏家であって，学者ではない。したがって編纂の仕事は演奏旅行や練習の合間ということになり，勿論大学で教える義務もあるので，時間的にはきついのだが，演奏家で参加している人は極めて少ないので，やはり演奏家の立場からあれやこれや意見や註文を出す必要もあり，ここ暫らくはこの仕事を続けて行くべきかと考えている。

Ｃ．Ｐ．Ｅ．バッハは云うまでもなく，Ｊ．Ｓ．バッハの２番目の息子で，ハイドンやベートーヴェンに与えた影響は大きく，彼の鍵盤楽曲はチェンバロやクラヴィコードからピアノの為に，と移り変っていった。でも，日本では未だ余りなじみのない作曲家の１人ではないかと思う。然し乍ら大変に熱っぽい作曲だっただけに（スカルラッティもそうだったのだが），私は大好きだ。それに凝り屋だったとみえ，作品を書き上げた後（或いは出版した後）でも，又手を加えている事が多い。という事は当時の出版楽譜や自筆，もしくは弟子達によって写されたマニュスクリプツの間でも相違が甚だしい。満足しないで常に向上をめざす態度には尊敬するが，編纂者の立場となると，これは至極厄介である。５年程前に，私は彼の鍵盤楽曲ソナタ３巻を出版したが(全音楽譜とＧ．シャーマー)，編纂途次で迷うこともしばしば，変更したり註文も多かったが，全音はよく協力してくれた。

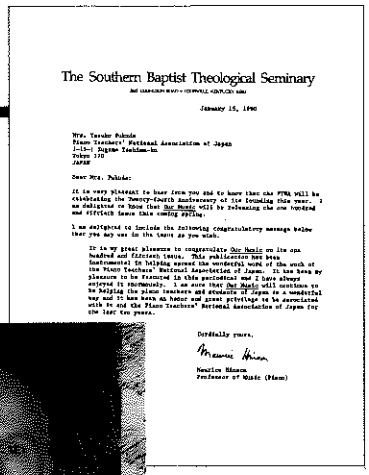
「わたくしたちの音楽」が150号をむかえる由，大いによろこばしいことで益々発展していくよう望んでいるが，200号に達する頃には日本でもＣ．Ｐ．Ｅ．バッハの多くの曲が普及していればいいと考える。

会報の果たしてきた大きな役割

サザン・バプテスト神学院 ピアノ科教授

モーリス・ヒンソン

Maurice Hinson



The Southern Baptist Theological Seminary

January 15, 1990

Mrs. Yasuko Fukuda
Piano Teachers' National Association of Japan
1-15-1 Sugamo Toshima-ku
Tokyo 170
JAPAN

Dear Mrs. Fukuda:

It is very pleasant to hear from you and to know that the PTNA will be celebrating the Twenty-fourth Anniversary of its founding this year. I am delighted to know that Our Music will be releasing the one hundred and fifteenth issue this coming spring.

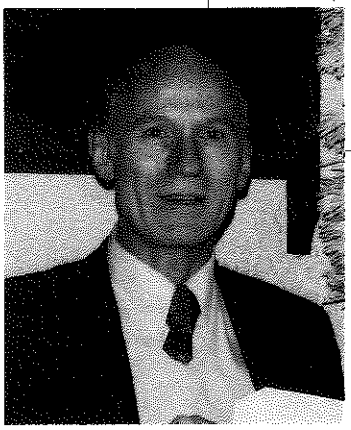
I am delighted to include the following congratulatory message below that you may use in the issue as you wish.

> It is my great pleasure to congratulate Our Music on its one hundred and fifteenth issue. This publication has been instrumental in helping spread the wonderful word of the work of the Piano Teachers' National Association of Japan. It has been my pleasure to be involved in this periodical and I have always enjoyed it thoroughly. I am sure that Our Music will continue to be helping the piano teachers and students of Japan in a wonderful way and it has been an honor and great privilege to be associated with it and the Piano Teachers' National Association of Japan for the last ten years.

Cordially yours,

Maurice Hinson

Maurice Hinson
Professor of Music (Piano)



「わたくしたちの音楽」150号発刊に際し，心からお祝いを申し上げます。

この会報がＰＴＮＡの働きについての素晴らしい知らせを広く伝えるうえで果たしてきた役割は，大変大きなものです。この会報に掲載されるのは私の喜びであり，いつも楽しみにしてまいりました。

「わたくしたちの音楽」はこれからも日本のピアノ指導者とその生徒の皆様を，大きな力で助けていくことでしょう。この会報やＰＴＮＡと過去10年に亘って親しくさせていただいたことは，私の喜びであり，誇りです。

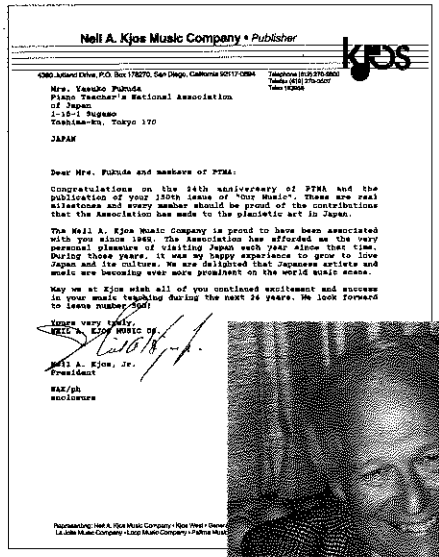
つつしんで　1990年１月15日

歴史的に大きな功績

ニール・Ａ・チョス社 社長

ニール・Ａ・チョス

Neil A. Kjos



Neil A. Kjos Music Company • *Publisher*

kjos

4380 Jutland Drive, P.O. Box 178270, San Diego, California 92117-0284
Telephone (619) 270-8800
Telefax (619) 270-0207
Telex 182968

Mrs. Yasuko Fukuda
Piano Teacher's National Association
of Japan
1-15-1 Sugamo
Toshima-ku, Tokyo 170

JAPAN

Dear Mrs. Fukuda and members of PTNA:

Congratulations on the 24th anniversary of PTNA and the publication of your 150th issue of "Our Music". These are real milestones and every member should be proud of the contributions that the Association has made to the pianistic art in Japan.

The Neil A. Kjos Music Company is proud to have been associated with you since 1969. The Association has afforded me the very personal pleasure of visiting Japan each year since that time. During those years, it was my happy experience to grow to love Japan and its culture. We are delighted that Japanese artists and music are becoming ever more prominent on the world music scene.

May we at Kjos wish all of you continued excitement and success in your music teaching during the next 24 years. We look forward to issue number 300!

Yours very truly,
NEIL A. KJOS MUSIC CO.

Neil A. Kjos, Jr.
President

NAK/ph
enclosure

Representative: Neil A. Kjos Music Company • Kjos West • Owner
La Jolla Music Company • Lucy Music Company • Palma Music

福田靖子先生と全日本ピアノ指導者協会会員の皆様

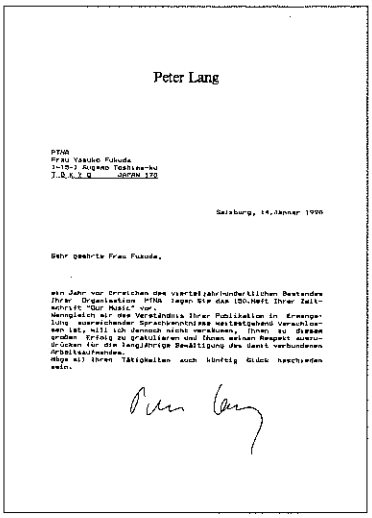
ＰＴＮＡ創立24周年と「わたくしたちの音楽」150号発刊おめでとうございます。これは歴史的に大きな功績であり，会員の皆様は，協会が日本のピアノ芸術に果たした貢献を誇りとすべきです。

1969年以来，貴会と親しく仕事をさせて頂いたことは「ニール・Ａ・チョス社」にとっての大きな誇りです。それ以来，毎年日本を訪れる機会も与えられ，その間に日本と日本文化を愛するようになったのは，私個人にとっても幸せな経験でした。日本の芸術家と音楽が世界の音楽シーンにおいて，益々重要な位置をしめてきたことを，とてもうれしく思っています。

「チョス社」を代表して，これからの24年間も大きな成功と喜びが，貴会の皆様のうえにありますようお祈りします。会報300号を楽しみにしております！

祝 PTNA会報150号

ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽院
ピアノ科主任教授
ザルツブルグ・モーツァルテウム夏期講習会校長



Peter Lang

PTNA
Frau Yasuko Fukuda
1-15-1 Sugamo Toshima-ku
T.O.K.Y.O JAPAN 170

Salzburg, 14.Januar 1990

Sehr geehrte Frau Fukuda,

ein Jahr vor Erreichen des vierteljahrhundertlichen Bestandes Ihrer Organisation PTNA lagen Sie das 150.Heft Ihrer Zeitschrift "Our Music" vor.
Wenngleich Ihr das Verständnis Ihrer Publikation in Ermangelung ausreichender Sprachkenntnisse nachtestehend verschlossen ist, will ich dennoch nicht versäumen, Ihnen zu diesem großen Erfolg zu gratulieren und Ihnen meinen Respekt auszudrücken für die langjährige Bewältigung des damit verbundenen Arbeitsaufwandes.
Möge all Ihren Tätigkeiten auch künftig Glück beschieden sein.

ペーター・ラング

Peter Lang

敬愛する福田先生へ

ＰＴＮＡが創立されて四半世紀となる年の前年に，会報『わたくしたちの音楽』が150号を迎えると聞いています。私は日本語が解らなく貴協会の会報が読めなく残念ですが，皆さんの成功をお祝いいたします。

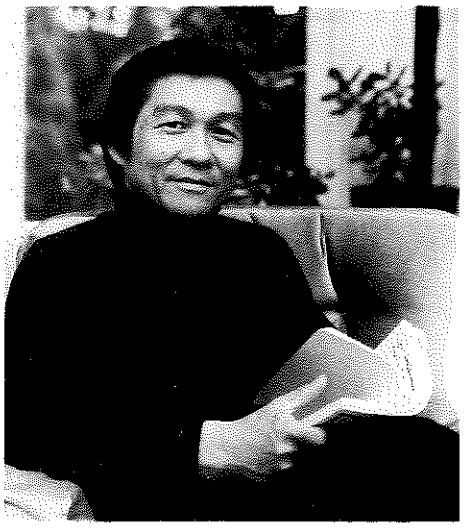
福田先生の永年の努力に対して，私の尊敬の念を表わしたいと思います。

さらに，今後もＰＴＮＡの仕事が成功しますよう，お祈り致します。

一層の成功と発展を

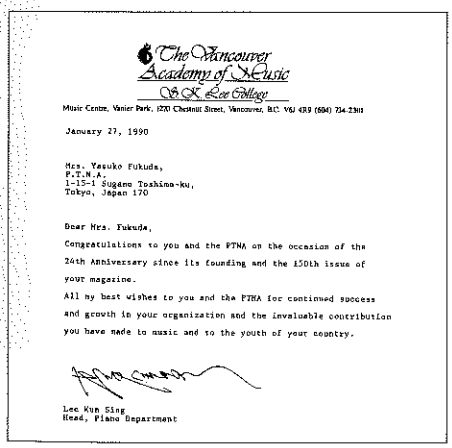
バンクーバー音楽アカデミー ピアノ科主任教授

リー・カム・シン　*Lee Kum Sing*



ＰＴＮＡ会報150号発刊，および創立24周年おめでとうございます。

先生とＰＴＮＡの上に，そして貴協会が日本の若者と音楽のために果たされてきた測り知れない貢献の上に，一層の成功と発展がありますように。



The Vancouver Academy of Music
V.A.M. Lee College
Music Centre, Vanier Park, 1270 Chestnut Street, Vancouver, B.C. V6J 4R9 (604) 734-2811

January 27, 1990

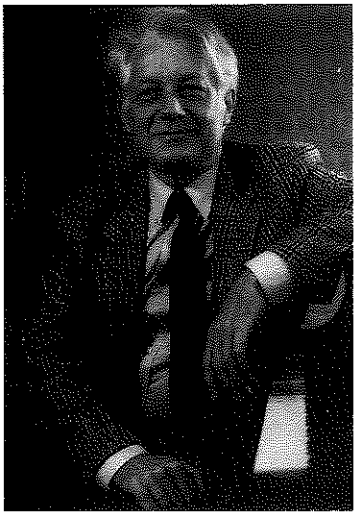
Mrs. Yasuko Fukuda,
P.T.N.A.
1-15-1 Sugamo Toshima-ku,
Tokyo, Japan 170

Dear Mrs. Fukuda,

Congratulations to you and the PTNA on the occasion of the 24th Anniversary since its founding and the 150th issue of your magazine.

All my best wishes to you and the PTNA for continued success and growth in your organization and the invaluable contribution you have made to music and to the youth of your country.

Lee Kun Sing
Head, Piano Department



特筆すべき大きな反響

ケルン国立音楽大学 ピアノ科教授

ギュンター・ルードヴィッヒ

Günter Ludwig

会報『わたくしたちの音楽』150号発刊に際し，心からお祝い申し上げます！

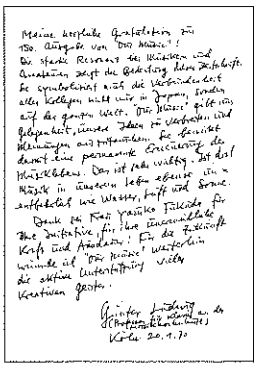
この会報誌が音楽家やアマチュアの皆さんにも大きな反響を呼んでいるのは，正に特筆すべきことです。このことはまた，日本国内のみならず，世界中の音楽に携わる人々の結びつきをも象徴しています。

『わたくしたちの音楽』は，我々に新しい考えを広め，意見を交換する機会を与えてくれています。それが音楽をする上で，いつも新しい刺激となるのです。いつも影響を受けるということは，とても重要なことです。我々の生活の中で，音楽こそは水や空気や太陽のようになくてはならないものなのです。

この会報を創刊なさって今日までたゆまぬ努力を続けておられる福田靖子さんには，敬意を表します。

会報『わたくしたちの音楽』が今後ますます多くの創造的な人々により，積極的に支持されることを願っております。

1月20日　　（内山恵子氏訳）



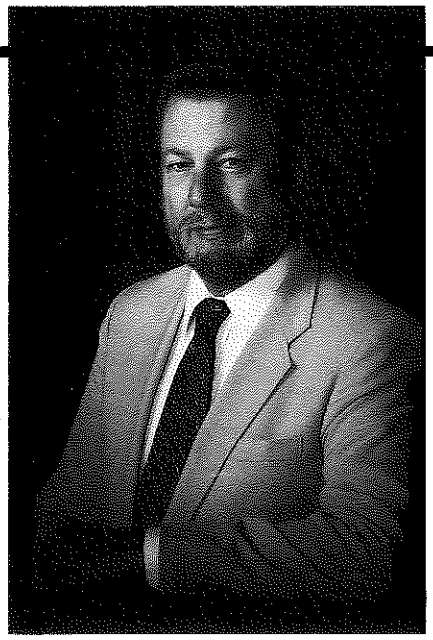
Meine herzlichen Gratulationen zur 150. Ausgabe von "Die Musik"!
Die starke Resonanz der Musikerinnen und Musikfreunde zeigt die Bedeutung dieser Zeitschrift. Sie symbolisiert nicht die Verbundenheit aller Kollegen nicht nur in Japan, sondern auf der ganzen Welt. "Die Musik" gibt uns Gelegenheit, unsere Ideen zu verbreiten und Meinungen auszutauschen. Sie bereichert durch eine permanente Bereicherung die Musikleben. Das ist sehr wichtig, ist doch Musikleben in unserem Leben ebenso wie in entfernteste wie Wasser, Luft und Sonne.
Danke für Frau Yasuko Fukuda für ihre Initiative für ihre Zeitschrift Kraft und Ausdauer! Für die Zukunft wünsche ich "Die Musik" weiterhin die aktive Unterstützung vieler Kreativen geistes.
Günter Ludwig
(Professor an der Musikhochschule Köln)
Köln 20.1.90

四半世紀に及ぶPTNA

サウス・カロライナ音楽指導者協会創設者，
南西部歴史キーボード協会創設者，
サウス・カロライナ州コンバース・カレッジ
ピアノ，ハープシコード教授，
ミシガン州　全国音楽キャンプ
ピアノ，ハープシコード教授

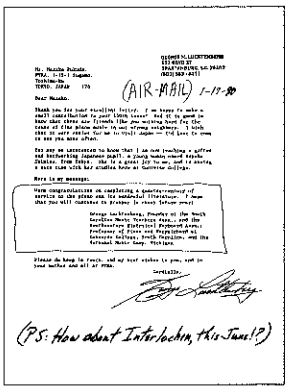
ジョージ・ルクテンバーグ

George H. Lucktenberg



貴会の四半世紀に及ぶ活動とすばらしい会報に，心からお祝いを申し上げます。

これからの毎年毎年も，さらなるご発展がありますよう，お祈りいたします。



GEORGE H. LUCKTENBERG
PIANO
SPARTANBURG, S.C. 29303
(803) 583-4071

Dr. Nozomu Fukuda
PTNA, 1-12-1 Sugano,
Ichikawa-Shi
TOKYO, JAPAN 170

(AIR-MAIL) 1-17-90

Dear Nozomu,

Thank you for your excellent letter. I am happy to make a small contribution to your 150th issue! And it is good to know that there are friends like you working hard for the cause of the piano while in and strong neighbors. I look forward to seeing you in Japan again — I'd love to come to see you some other.

You may be interested to know that I am now teaching a gifted and hardworking Japanese pianist, a young woman named Kayoko Ishida. From Tokyo. She is a great joy to me, and I'm sharing a very close with her studies here at Converse College.

Here is my message:

Warm congratulations on completing a quarter-century of service to the piano and the wonderful literature. I hope that you will continue to develop in years future years!

George Lucktenberg, Pianist at the South Carolina Music Teachers Assn., and the Southwestern Historical Keyboard Assn.; Professor of Piano and Harpsichord at Converse College, South Carolina, and the National Music Camp, Michigan.

Please do keep in touch, and my best wishes to you, your in your office and all at PTNA.

Sincerely,

(P.S. How about Interlochen, this June!?)

模範的で献身的な仕事

ピアニスト，パリ・コンセルヴァトワール教授

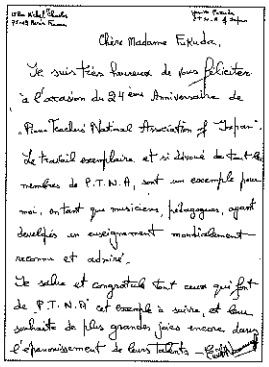
エミール・ナウモフ

Emile Naoumoff

ＰＴＮＡ会報150号，創立24周年，おめでとうございます。

ＰＴＮＡ全ての関係者による模範的で，献身的な仕事は，音楽教育を世界的に発展させ啓蒙し，愛好させる音楽家，教育者としての私にとって，一つの模範と考えています。

私はＰＴＮＡに携わる全ての方々を祝福すると同時に，この模範的な仕事が末長く続き，皆さんの才能が花開き大いなる喜びとなることを，心よりお祈りしております。



Chère Madame Fukuda,

Je suis très heureux de vous féliciter à l'occasion du 24ème Anniversaire de "Piano Teachers' National Association of Japan".

Le travail exemplaire et si dévoué de tous les membres de P.T.N.A, sont un exemple pour moi, en tant que musiciens, pédagogues, ayant développés un enseignement mondialement reconnu et admiré.

Je salue et congratule tout ceux qui font de P.T.N.A cet exemple à suivre, et leur souhaite de plus grandes joies encore dans l'épanouissement de leurs talents.

（佐藤祐子氏訳）

『わたくしたちの音楽』に寄せて

ブリガムヤングユニバーシティ大学院教授
ジーナ・バックアウワー国際ピアノコンクール創始者，芸術監督

ポールC. ポライ博士

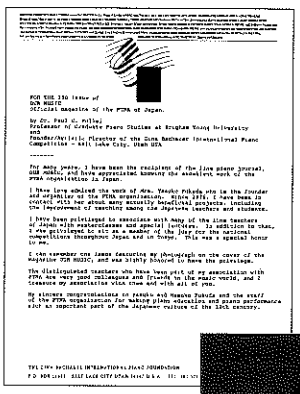
Paul C. Pollei

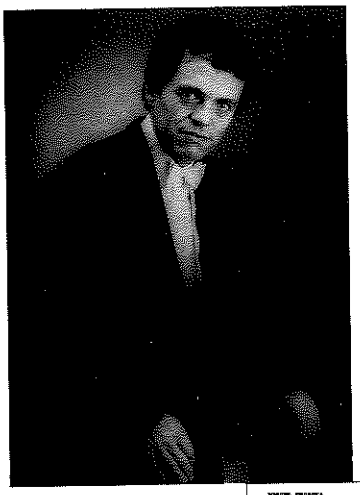
過去何年間にもわたって，立派なピアノ冊子『わたくしたちの音楽』を拝見させていただくと同時に，ＰＴＮＡのすばらしい仕事に触れ，喜ばしく感じております。

私は永年，ＰＴＮＡの創立者である福田靖子先生の業績に賞賛の念を抱いて参りました。1976年以来，日本における教師と生徒の教育の改善をはじめとする，互いに大変有益な計画のために，おつきあいさせていただきました。

また「公開レッスン」や「公開講座」を通じて，日本の多くのすぐれた指導者の方々ともお知り合いになりました。さらに，東京や日本各地で行なわれたＰＴＮＡヤングピアニスト・コンペティションの審査員のひとりとなる名誉も与えて頂き，非常に光栄に思っております。表紙に私の写真の載った『わたくしたちの音楽』も憶えております。とても誇らしく嬉しく存じました。

ＰＴＮＡを通じてお知り合いになれた立派な指導者の方々は，音楽界における良き同僚であり友人です。皆様とお近づきになれたことを非常に有難く思っております。福田靖子先生，政子さんをはじめ，ＰＴＮＡのスタッフ全員が，ピアノ教育とピアノ演奏を，20世紀の日本文化の中でもこれほど重要なものにされてきた御成果に，心からお祝いを申し上げます。



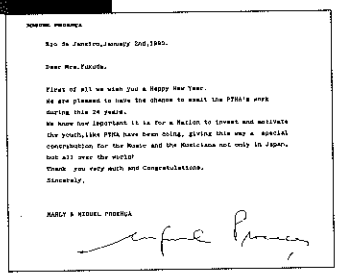


世界に対する特別な貢献

ブラジル ヴィラ=ロボス音楽院院長
ブラジル文部省顧問（ミゲル・プロエンサ）

マーリー&ミゲル・プロエンサ

Marly & Miguel Proença



MARLY E MIGUEL PROENÇA

Rio De Janeiro, January 2nd, 1990.

Dear Mrs. Fukuda,

First of all we wish you a Happy New Year.
We are pleased to have the chance to await the PTNA's work during this 24 years.
We know how important it is for a Nation to invest and motivate the youth, like PTNA have been doing, giving this way a special contribution for the Music and the Musicians not only in Japan, but all over the world!
Thank you very much and Congratulations.
Sincerely,

MARLY E MIGUEL PROENÇA

まず，新しい年のご祝詞を申し上げます。

この24年間におけるＰＴＮＡのご活躍ぶりには，目を見張るものがあります。

ＰＴＮＡがなさってきたように，若者に投資し，彼らを励ますことが国にとってどれほど大切かは，我々すべてが知るところです。ＰＴＮＡのこうした働きは，日本の音楽と音楽家のみならず，世界に対する特別な貢献と言えましょう。

感謝とお祝いを心から捧げます。　　敬　具

末長いご活躍を

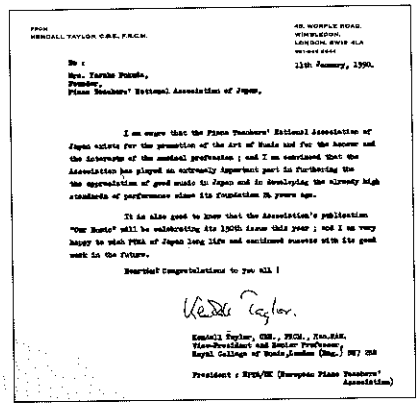
ロンドン英国王立音楽大学副学長、教授
EPTA会長

ケンデル・テイラー

Kendall Taylor

福田靖子先生

全日本ピアノ指導者協会が音楽芸術振興のため，また音楽に携わる職業のために存在することを，存分承知した上で，貴会の働きが素晴らしいことに確信を抱いております。日本において良質の音楽が愛好され，すでに高水準に達していた日本人の演奏を，さらに高めるために過去24年間に貴協会が果たしてきた役割は，偉大なものです。



FROM
KENDALL TAYLOR C.B.E., F.R.C.M.

48, WORPLE ROAD,
WIMBLEDON,
LONDON, SW19 4LA
Tel:-01-946 6664

11th January, 1990.

To :
Mrs. Yasuko Fukuda,
President,
Piano Teachers' National Association of Japan.

I am aware that the Piano Teachers' National Association of Japan exists for the promotion of the Art of Music and for the benefit and the interests of the musical profession ; and I am convinced that the Association has played an extremely important part in furthering the the appreciation of good music in Japan and in developing the already high standards of performance since its foundation 24 years ago.

It is also good to know that the Association's publication "Our Music" will be celebrating its 150th issue this year ; and I am very happy to wish PTNA of Japan long life and continued success with its good work in the future.

Heartiest Congratulations to you all !

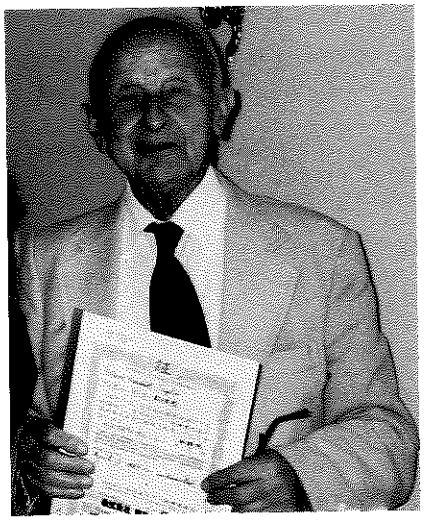
Kendall Taylor.

Kendall Taylor, CBE., FRCM., Hon.RAM.
Vice-President and Senior Professor,
Royal College of Music, London (Eng.) SW7 2BS

President : EPTA/UK (European Piano Teachers' Association)

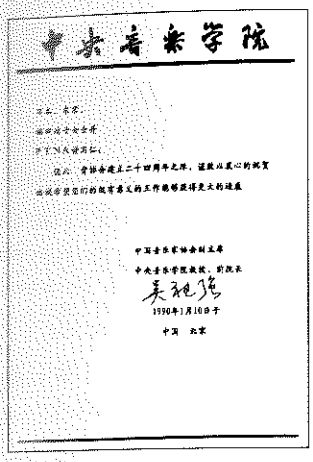
また，協会の発行される『わたくしたちの音楽』が150号目を迎えられたのも，喜ばしいことです。ＰＴＮＡの今後末長いご活躍と，引き続いてのご成功を心よりお祈りします。

皆様，おめでとうございます！



意義深いPTNAの仕事

中国音楽家協会副会長，
中央音楽学院教授，前院長



中国音楽学院

福田靖子先生，PTNAスタッフ
皆様方

貴協会創立二十四周年之際，謹致以衷心的祝賀
祝願貴協会的教育事业的工作能够取得更大的进展

中国音楽家協会副主席
中央音楽学院教授，前院长
吴祖强
1990年1月10日于
中国 北京

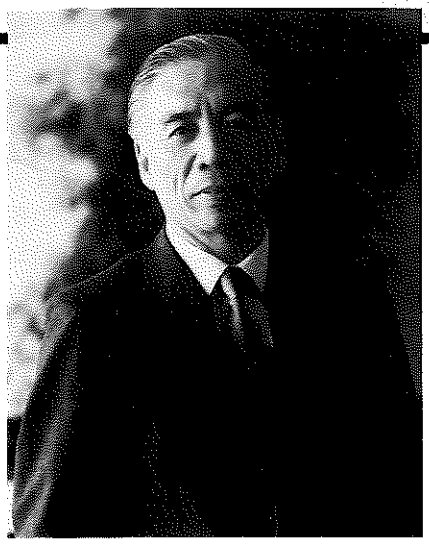
吴 祖 強

Wu Zuqiang

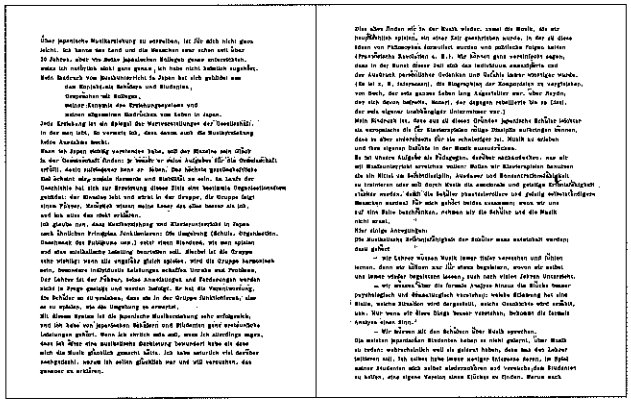
福田靖子先生，ＰＴＮＡスタッフの皆様

このたび貴協会の会報150号，及び設立24周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げ，皆様方の意義深いお仕事がさらに大きく発展していかれますよう，願ってやみません。

1990年１月10日　　中国　北京



※　この他に，〆切日を過ぎてから，西ドイツベルリン音楽大学教授の**クラウス・ヘルヴィッヒ氏**からもお便りをいただきました。大変長い文章でしたので，次号に掲載させていただきます。



わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

ボイコ・ストヤーノフ
〒974 いわき市錦町作鞍85－2
TEL. 0246-63-8100

阿久津佐智
〒320 宇都宮市矢神２－４－30
TEL. 0286-35-4887

大貫忠次
〒328 栃木市日の出町６－16
TEL. 0282-23-2768・24-7786

会報第１号発会２年目の1968年４月18日発行された。指揮をしておられるのは，第２回やまとことばを美しくの折の故 木下 保氏。

歩み その１

1966年東京音楽研究会誕生から今日までの社団法人 全日本ピアノ指導者協会のわだち

1966年東京音楽研究会という名称のもとに，日本人作品の研究団体が産声を挙げてから，満25年の日々が過ぎようとしている。発足当初からの会員は，設立した筆者の記憶では，大野宏子正会員（三鷹市在住，東京学芸大卒）杉谷昭子演奏研究委員（ドイツ在住中一時休会，現在葛飾区在住，東京芸大卒）のお二人いらっしゃる。

否，もっといらっしゃるかもしれない。そこでもし，発足当初からの会員でいらっしゃる方は，ぜひとも本部までお知らせ頂きたいと思う。

東京音楽研究会が，発足して二年ほどたった1968年に，会員相互のコミュニケーションをはかるために，どうしても会報の必要性を感じ，会報第１号を発刊した。(上写真参照）その会報の名を「わたしたちの音楽」と名付け，100号を迎えたのが1983年（昭和58年）４月４日のことで，その時からですら早７年の歳月が流れている。東京音楽研究会から全日本ピアノ指導者協会となり，社団法人の法人格を得た1985年からでも，満５年の月日を重ねているのだ。

発足以来25年といえば，四分の一世紀である。企業30年説によると組織というものは，30年に一つの転機がおとずれ，それからさらに発展する組織と，衰微の道を歩む組織とに分れるという。あと５年でピティナもその30年がくる。願わくば，ピティナこと社団法人全日本ピアノ指導者協会は，前者でありたい。これから一層の発展成長の道を歩んでもらいたいと切望するのだ。

ピティナの前身，東京音楽研究会発足当時の頃を知る方々が少くなっているので，この150号を記念して，この会がどう言う動機で生れ，どんな道を歩んで来たのかそのあらましをお伝えするのも無意味なことではないと思う。

➡何故私は在学中に日本人のピアノ曲を一度も弾いたことがないのだろうか？

今から26年前に筆者の中に起ったこの疑問が，今日のピティナのもと東京音楽研究会の発会となったのだった。

ここ数年就職活動時期になると，いわゆる会社説明会に当る当協会事務局員希望者を対象とする法人説明会を行う。その参加者は，もう数百人にも及ぶと思うが「大学在学中に，日本人作品によるピアノ曲のレッスンを受けたことがありますか？」という質問に，手を挙げた者は，今日までにたった一人であった。それもその学生は，作曲科の友人の作品を公の場で演奏するためのものだった，と云うのである。

20数年たった今日ですら，大学教育での日本人ピアノ曲の学習が，一般化していないのだから，30年以上も昔の筆者の学生時代には，日本人作品は考えられない教材だったのかもしれない。

バロック期から近現代まで学ぶべき名曲のあまりに多く，日本人作品まで手が届かないと言えばそれまでであるが，「日本人の手になる日本人のピアノ曲を，日本人が演奏しなくて，世界の誰が演奏してくれるであろうか？」

こんな思いが，筆者をして日本人作品研究団体の設立の実行に移させたのである。

では何故，日本音楽研究会ではなく，東京音楽研究会という名称で発足したのかと云うと，日本音楽研究会では，邦楽研究会のイメージで，洋楽の日本人作品の研究会の雰囲気に欠けるとして，東京在住のピアニスト，声楽家，マリンバリストなど，日本人作品の振興に力を注いでいる友人たちと共に，東京音楽研究会，略称　東音

会報第10号 当時の会長木下保氏 ピアノの前に杉谷昭子正会員の姿が見える。筆文字は木下保氏の手になる。

て始めたのである。会長には，筆者の師であり日本歌曲演奏に輝やかしい足績を残された 故 木下保先生にお願いしたのであった。当協会の理事で東京芸大名誉教授・渡辺高之助氏や，二期会の理事長で当協会中山靖子副会長の御主人でもある中山悌一氏も，木下保門下で日本の声楽界のリーダーたちを数多くお育てになった方である。

➡洋楽でも日本歌曲は日本人のものだ。ドイツリートの演奏法で日本歌曲をうたえるのだろうか？

ドイツリートにはドイツリートの歌唱法があり，イタリア歌曲にはその歌唱法があるように，日本歌曲には日本語のもつ独得な発声法，演奏法があるということを，学生時代に声楽を木下　保氏に学んだことのある筆者は，うすうす知っていた。

そこで「やまと言葉を美しく」というテーマのもと，木下保氏による公開講座と公開レッスンをお願いしたのだった。この第1回は1967年（昭和42年）1月12日東京文化会館小ホールで開催した。このタイトルでの公開レッスンは，1971年の1月，第5回を重ねるまで毎年開催された。

➡学校で学ぶ音楽は，私たちのくらしの中に生きているのだろうか？

この思いが「くらしの中によい音楽を，くらしの中からよい音楽を」を主旨のもとに，東京児童会館で演奏会開催に走らせた。1967年1月28日のことである。石桁真礼生作曲　オペレッタ「河童譚」や男声カルテット，マリンバ演奏など森敏孝氏吉江忠雄氏山形忠顕氏，安倍圭子氏など同志によって，実に楽しいコンサートとなった。この時，ピアノを弾いてくださったのが，前述した大野宏子現正会員だったのだ。入場料は無料，従って演奏者にはほんの足代位かお渡しできなかったのを覚えている。

音楽事務所に勤めたことも，また，音楽クラブなどのマネージャーを経験したこともない筆者であったから，当時は，ただただ無我夢中で，いつも経済的に不如意であった。

➡ピアノ指導者は，日本人作品をどのくらいレパーリトリーにもっているだろうか？

当時，日本人作品の出版に力を入れていたのは，作曲家の 故 清水修氏が社長をしておられた[illegible]出版だったように思う。合唱曲や，原博作曲の[illegible]ータ」など，日本の作曲家によるピアノ曲が出[illegible]いた。その後株式会社河合楽器製作所に吸収さ[illegible]一部となった現在でも，子どものためのピアノ[illegible]版に力を注いでおられるが。

25年も前には，子供のためのピアノ[illegible]，音楽之友社から出版されていた，中田喜直作[illegible]「こどものピアノ曲」黄色の表紙で今では欧米[illegible]ちにも親しまれているあの曲集と，現在絶版に[illegible]る奥村一作曲の「日本民謡ピアノ曲集」，カワイ楽譜から出版されていた，三宅榛名作曲の「ピアノ曲集」ぐらいだったように思う。

そこで，作曲家でありピアニストである三宅榛名氏を迎え，1967年4月28日第1回〈東音〉ピアノゼミナールを開催したのだった。ところがである。月刊誌・音楽の友に広告を出したり，チラシを方々に配布したり，筆者としてはできるだけの努力を事前にしたつもりなのに，有料入場者はたったの6名であった。あとは皆，筆者の無料の生徒たちである。

この時，カワイ出版の伊藤常務取締役が，お祝にかけつけて下さった。そして氏は，筆者の耳に届くとは知らず，控え室で三宅榛名氏にこうささやいておられるのだ。「第1回〈東音〉ピアノゼミナールと言っていますが，これじゃ，3回続きますかねェ」

この声が筆者に届かなかったら？，今日のピティナは無かったに違いない。第1回やまと言葉を美しく，くらしの中に音楽をと続け開催し大勢の聴衆が集ったあとである。筆者としては，本命のピアノ教育関係のゼミナールに参加者が集らなかったのだから，心の中ではもう止めようと思っていた。この言葉が筆者を奮い立たせ，せめて3回だけは続けてみようと思いとどませたのである。

会報15号第22回〈東音〉ピアノゼミナールの折の金沢桂子氏

そして第3回のあとに，1年過ぎたあとにこのような継続をあやぶむ声が，どう言うわけか聞こえてくるのだ。その度に，もう止めよう，もう止めよう，と思う心に，ブレーキが

かかって，この〈東音〉ピアノゼミナールは，1973年（昭和48年）3月の第55回まで続いたのであった。

もし，当時のカワイ楽譜出版の伊藤常務さまが，ご健在なら一度お会いしてみたいと思う。

➡ピアノ指導者にもっと系統的なピアノ奏法研究が必要ではなかろうか？

前述の〈東音〉ピアノゼミナールを10回ほど重ねた頃一回ごとにテーマを設けてゼミナールを開催するのも有意義なことであるが，一人の講師の先生により，ピアノ奏法について，じっくり取り組んでみたいと思うようになっていた。

また，その頃になると最初の目的は，日本人の作品を振興することにあったにせよ，バッハやベートーベンなど古今の楽聖たちの作品は，国を越えた人類の遺産ではないか，と考えるようになっていた。

そこで，第8回〈東音〉ピアノゼミナールで御指導いただいた中山靖子先生に，〈東音〉ピアノ奏法系統的研究として，ピアノ導入部から，中級の基礎的な部分までのご指導をお願いした。これが第一次となる。

中山靖子先生は，当協会が社団法人になるべく文部省に申請をしていた時に，副会長になっていただき引続きその職にいらっしゃる。東京芸術大学を退官され，名誉教授になられた今日でも，お若く美しくいらっしゃるが，今から20数年も前は，それはそれは美しく，演奏活動も活撥に行っていらした。

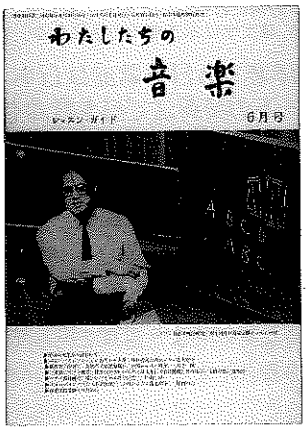
系統的研究の第1回は，1968年（昭和43年）5月13日，バイエル・ハノンの奏法について御指導いただいた。そのあと，ブルグミューラー，ツェルニー30番，ソナチネアルバム，バッハ／インベンション，ツェルニー40番，50番，ソナタアルバム，メンデルスゾーン／無言歌，シューベルトの小品集，ショパン／ワルツ，ノクターン，と一ケ年に亘って，ご指導いただいたのだった。

会報17号　写真は中山靖子氏
1968年から1969年にかけて1年間に亘って公開レッスンが行われた

ブルクミュラー25曲の中から公開レッスンをしていただいた時のことである。東京音楽学校（現・東京芸大）に通ったことがあると云う年輩の指導者に連れられた一人の少女が，20番目の「タランテラ」を弾いた。41小節目から44小節までにある右手の装飾音の入れ方が，まったく違うのだ。筆者の驚きは相当なものであった。

講師の中山靖子先生もさぞ驚かれたに違いないが，軽蔑の顔一つ見せず「タランテラ」を楽しそうに弾いてくださったのだ。その年輩の指導者が，本当に東京音校で学んだかは知るよしもないが，その当時は，ピアノ一台あれば，生徒はどんどん集った時代であるから，今では考えられないほどレベルの低い指導者もいたことは確かである。

そしてその時，筆者は，10年後にはピアノ教師余剰時代が到来し教師の質が問われる時代がくると確信したのである。



会報第14号　井口基成氏

さて〈東音〉ピアノ奏法系統的研究の第2次は，故　井口基成先生に，バッハ／インベンションとシンフォニアの全30曲を，公開レスンしていただくことにした。

現在，東京の有楽町駅前にあるマリオンの所は当時朝日新聞社本社でその中に朝日講堂があった。

企画が当った，という言葉があったとしたら，この井口基成公開レッスンのことを言うのだろう。612席あったそのホール一杯の参加者。立っている姿も見える。この時，始めて，筆者は黒字を体験したのであった。

筆者が，このように研修会を開くようになって，5年の歳月が流れていた。

石の上にも3年とはよく言ったものだ。3年たつと継続を危ぶむ声が，筆者の耳には，はいってこなくなっていた。むしろ，お世辞ともとれる言葉とか，今後を期待する言葉が聞かれるようになっていたのである。

そうなると，筆者自身の中に，赤字つづきの5年内に忍耐の限界がきていた。家族にも迷惑をかけている。もうここいらで，断を下さねばならない。筆者はそう考えて次のような誓いを立てていたのであった。

ここのバッハ・インベンション全曲の企画に失敗したら，この仕事は止めなさい，というご神託に違いないから，人がどんなにお世辞を言おうが，何と言われても，この

仕事は止めよう。しかし，万一黒字がでたら，この仕事をライフワークとして続けていこう。……黒字になってしまったのである。もう止めるわけにはいかないのだ。

〈東音〉ピアノゼミナールは，伊達　純先生の「簡単な楽曲分析と演奏法について」と題する第23回が終ったところであった。〈東音〉ピアノ演奏系統的研究の第3次は，田村　宏先生にお願いすることにした。

会報第33号　児玉幸子・邦夫氏

今度は教則本中心ではなく，タッチの問題とか，ペダルの使い方など，奏法の問題を中心に4回に亘って，ご指導いただいた。

このシリーズは，第9次まで続けて，黒沢愛子先生，青山三郎先生，伊達　純先生，児玉幸子・邦夫先生，他の先生方による公開レッスンを開催したのだった。

➡ピアノ指導者の研修の場がもっと身近にあったなら？

日本人の作品振興ばかりでなく，主にピアノを中心とした研修会を開催するようになったことは前述したところであるが，1970年は〈東音〉が大きな飛躍をした年である。それは国の飛躍と無関係ではないのだ。

大阪で開かれた万国博覧会は，日本人を目覚めさせ，国際社会への仲間入りをした年でもあるのだから。

ハンガリー系アメリカのピアニスト　ヨルダ・ノヴィック女史の来日で，バルトークの「ミクロコスモス」，「子供のために」などによる公開講座を，東京と大阪で開催した。これは，ピアノ指導者の，東京を中心とした研修会ばかりでなく，もっと身近なところでも研修会を開いて欲しいという要望から実行に移されたものだ。

そしてこの年には，横浜・神戸・大阪に支部が生れている。

関西に支部が生れ，ここで何回かの研修会が開かれて東京という名に対する反発から，翌1971年には，全日本ピアノ指導者協会という名称に変わっていくのだが。…

ピアノ指導者の団体としてこれまで活動してきたことが，一般紙が注目し，共同通信社を始めとする各社から取材を受けたり，アメリカの音楽誌の三誌に紹介されたことは海外でもその名を知られるところとなった。

会報第47号　右に見えるのは故三浦　浩氏
（現三浦捷子評議員の夫君）

当時まだ外貨の規制が厳しく認意団体では，海外から音楽家を招くこともままならず，また，事務局員の生活保障問題（健康保険・失業保険）など法人化の必要にせまられ，株式会社を設立したのもこの年であった。

➡全日本の立場からピアノ教師のあり方を考える必要があるのではなかろうか？

先にも述べたが，全日本ピアノ指導者協会と名称を改め会長を羽田　孜先生にお願いすることになるのだが，そのいきさつは，次回に述べよう。（福田靖子記す）

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

吉岡千賀子
〒336 浦和市仲町4－5－16
TEL. 048-862-3548

大澤和子
〒336 浦和市神明1－8－12
TEL. 048-865-0148

大宮西部連絡所
秋山音楽教室
〒331 大宮市大字内野本郷937
TEL. 048-624-2603

100号以降の

研修会の記録 No.1

ピティナ ピアノ・フェスティヴァル(季期研修会)

1983年度 ピティナ ピアノ・フェスティヴァル Vol. 32

'83 8月23日 **岡本 愛子** レクチャーリサイタル
「フランス・若人のためのピアノ」
浅見 英夫 公開講座
「お母さまもピアノをどうぞ」
武田 宏子 公開講座
「レパートリーを拡げるために」
セルマ・エプスタイン レクチャーリサイタル
「女流作曲家のピアノ曲」

8月24日 **赤津・ストヤーノフ・里佳子** レクチャーリサイタル
「ポーランドのやさしいピアノ曲」
早水 和子 レクチャーリサイタル
「アメリカのたのしいピアノ曲」
ヨゼフ・バノウェッツ 公開レッスン
「ペダルテクニック研究のために
～ロマン派後期曲」
村杉 弘 公開講座
「ヨーロッパ音楽だけが音楽か？」
～身近な音楽を通して，音楽の心を知る～

1984年度 ピティナ ピアノ・フェスティヴァル 前期 Vol. 33

'84 8月25日 **アンリエット・ピュイグ＝ロジェ** 公開講座
講座「バロックのピアノ曲に自信を持てれば」
公開レッスン
ボイコ・ストヤーノフ レクチャーリサイタル
「ブルガリア 子供のピアノ曲」

8月26日 **モーリス・ヒンソン** 公開講座
「アメリカからのメッセージ」
太田 圭二 公開講座
「やぶにらみ音楽史」～社会と音楽～

1984年度 ピティナ ピアノ・フェスティヴァル 後期 Vol. 34

'85 3月28日 **中山 靖子** 公開講座
「歌曲伴奏の楽しみ・実習指導」

3月28日 **中山 靖子** 公開レッスン
「D・スカルラッティのソナタ」

3月29日 **コンラート・リヒター** 公開レッスン
「J.S.バッハ クラヴィア曲」
「歌曲伴奏の実習」

1985年度 ピティナ ピアノ・フェスティヴァル 前期 Vol. 35

'85 8月24日 **成田 稔子** 公開講座
「ピアノのよろこび」～著書を中心として～
赤津・ストヤーノフ・里佳子
ボイコ・ストヤーノフ 公開講座
「ソ連・東欧のピアノメッソードについて」
ポール・ポライ 公開講座
「ペダリングの技法について」
白石 隆生 公開講座
「モーツァルト声楽曲伴奏法」

1985年度 ピティナ ピアノ・フェスティヴァル 後期 Vol. 36

'86 3月26日 **御木本澄子** 公開講座
「ピアノテクニック上達の為の
指・手のトレーニング」 Part 1
井上 直幸 公開レッスン
「モーツァルトのピアノ作品」
小山郁之進 公開講座
「中流意識とピアノ」～教育社会学視座から～

3月27日 **御木本澄子** 公開講座
「ピアノテクニック上達の為の
指・手のトレーニング」Part 2, 3
海老沢 敏 公開講座
「音楽家にとってなぜモーツァルトなのか」

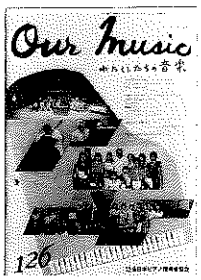
左：102号
昭和58年7月
右：113号
昭和59年12月

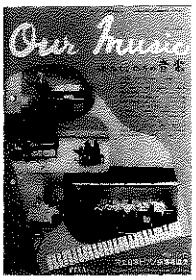
わたくしたちの音楽 **祝 創刊 150 号** OUR MUSIC

浅見英夫
〒349-01 蓮田市椿山3－16－6
TEL. 048-769-3463

保坂千里
〒365 鴻巣市本町3－12－39
TEL. 0485-43-1072

由良佳久
〒260 千葉市真砂3-13-1-208
TEL. 0472-77-4081





左・126号 昭和61年12月
右・137号 昭和63年4月

1986年度　ピティナ
ピアノ・フェスティヴァル　前期　Vol. 37

'86　8月28日　**上総　治子・田村　智子**
公開講座「はじめての生徒をどう育てるか」
カレン・ハチャトリアン
公開講座「ソヴィエトの音楽教育」
田村　宏　公開レッスン
8月29日　**秋山　邦晴**　公開講座　「サティの世界」
三枝　成章　「三枝成章とデュオしよう
――三枝成章連弾作品についてのお話」
カレン・ハチャトリアン　レクチャーリサイタル

1986年度　ピティナ
ピアノ・フェスティヴァル　後期　Vol. 38

'87　3月31日　**浜中　康子**　公開講座　「古典舞曲への誘い」
土肥みゆき　公開講座　「沙羅に泌められたもの」
4月1日　**エドワルド・メルクス**　公開講座
「ヴァイオリン曲における古典舞曲を考える」
ペーター・ラング　公開レッスン
「モーツァルトのロンド・小品」
「モーツァルトの変奏曲」
4月2日　**佐藤　峰雄**　公開講座
「こどもとピアノ
～E・ヴォルフのピアノ教授論」
ペーター・ラング　公開レッスン
「モーツァルトのソナタ」
4月3日　**三善　晃**　公開レッスン　～自作品による

1987年度　ピティナ
ピアノ・フェスティヴァル　Vol. 39

'87　3月24日　**岡田　知之**　公開講座・演奏
「打楽器あれやこれや」
西山　志風　公開講座
「ピアノはやさしく音楽はむずかしい」
3月25日　**マックス・エッガー**　公開講座
「ロマン派の舞曲」
3月26日　**鈴木　洋子**　公開講座
「ピアノと電子ピアノのアンサンブル導入」

1988年度　ピティナ
ピアノ・フェスティヴァル　前期　Vol. 40

'88　8月29日　**クラウス・シルデ**　公開レッスン
「ベートーヴェン
初期・中期・後期のソナタより」
8月30日　**中山　靖子**　公開講座
「初級から中級・上級にすすむ時の
手の使い方のアドバイス」
エミール・ナウモフ　講座＋パフォーマンス
「フランス近代音楽をとりあげて」
8月31日　**クラウス・シルデ**　公開レッスン　シューマン

1988年度　ピティナ
ピアノ・フェスティヴァル　後期　Vol. 41

'89　3月27日　**杉山　哲雄**　公開レッスン
「チェルニー30番・40番の指導上のポイント」
谷　康子　公開レッスン
「モーツァルトの作品をとりあげて」
ハンス・ライグラス　公開講座
講座「シューベルトの作品をとりあげて」
レッスン「ピアノにおけるロマンティシズム」
3月28日　**小澤　純**　公開講座
「ピアノ曲の室内楽的読譜と練習」

1989年度　ピティナ
ピアノ・フェスティヴァル　前期　Vol. 42

'89　8月28日　**ヴォジミェジュ・コトニスキ**　公開講座
「ポーランドにおけるピアノ教育」
～ポーランドの子供曲からショパンへ
マーティン・キャーニン　公開レッスン
「ロマン派の真髄に迫る」
「後期ロマン派からロシア近代へ」

1989年度　ピティナ
ピアノ・フェスティヴァル　後期　Vol. 43

'90　3月27日　**岡田　知之**　公開講座
「打楽器における“音”によるリズム」
御木本澄子　公開講座
「ピアノの為に必要な
脳の発達をうながす運動」
永富　正之　公開講座
「音楽を読むための文法と分析」

わたくしたちの音楽　**祝　創刊150号**　OUR MUSIC

榎本和子
〒272 市川市鬼高3－13－2
ニュー中山マンション212
TEL. 0473-78-9025

保田芳郎
〒273 船橋市東船橋7－21－19
TEL. 0474-22-5686

柳澤正純
〒277 柏市東中新宿3－22－5
TEL. 0471-72-3625

100号以降の

研修会の記録 No.2

1984年

10月18日　**浜中　康子**　音楽教養講座
「古典舞踏とピアノ教育との接点」
12月16日　**ケンデル・テーラー**　公開講座
12月24日　**浜中　康子**　音楽教養講座
「ルネッサンスダンス」～古典メヌエット他～

1985年

1月23日　**青野寿々子**　音楽教養講座　「ノートルダム楽派」
2月20日　**青野寿々子**　音楽教養講座　「ルネッサンス音楽」
4月25日　**浜中　康子**　古典舞踏講習会
5月30日　**浜中　康子**　古典舞曲講習会
6月7・8日　**ジェーン・バスティン**　公開講座
「アメリカの心理学にもとづいたピアノ教育」
6月27日　**浜中　康子**　古典舞曲講習会「バロックダンス講習」
7月25日　**浜中　康子**　古典舞曲講習会「バロックダンス講習」

1986年

6月5日　**リスト没後100年記念講座**
ベラ・シキ　公開レッスン
6月6日　**リスト没後100年記念講座**
ヨゼフ・バノウェッツ　公開レッスン
7月3日　**ペーター・アイヒャー**　公開講座
「子供のためのドイツ音楽教育」

112号
昭和59年10月

7月4日　**ペーター・アイヒャー**　公開講座
「ブラームス6つの小品Op.118をとりあげて」
10月24・25日　**クラウス・シルデ**　公開講座

1987年

4月1日　**ペーター・ラング**　公開レッスン
10月29日　**ミゲル・プロエンサ**　公開講座
「ヴィラ・ロボスへの誘惑」
10月31日　**マックス・エッガー**　公開講座
「ベートーヴェンの内面的，外面的考察」
11月22日　**ペーター・ショイモシュ**　公開レッスン　「リスト」
11月26日　**レオノラ・ミラ**　公開講座
「世界のピアニストと語る」
11月27日　**マックス・エッガー**　公開講座
「ベートーヴェン
～音楽上からではない文学的詩的な
インスピレーションについて～
11月29日　**ヴィレム・ブロンズ**　公開レッスン

1988年

1月29日　**マックス・エッガー**　公開講座
「ラヴェルとドビュッシーの違いについて」
3月25日　**マックス・エッガー**　公開講座　「ロマン派の舞曲」
4月21日　ヨーロッパ舞踏音楽シリーズ　講演と実習
「ウィンナ・ワルツ」
5月26日　ヨーロッパ舞踏音楽シリーズ　講演と実習
「ポロネーズ」
6月9日　ヨーロッパ舞踏音楽シリーズ　講演と実習
「マズルカ」
6月16日　**ベラ・シキ**　公開レッスン
10月28～30日　**クラウス・ヘルヴィッヒ**　公開講座　全5講座
「バッハの精神に近付けるための演奏」
「バッハの作品とその演奏法」他
11月10日　**コンラート・リヒター**　公開講座
「ロマン派歌曲伴奏法について」

1989年

11月12日　**今井　顕**　公開レッスン　「ドビュッシー」
公開講座「ドビュッシーの演奏法と心
～プレリュード第1集」

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

大人のためのピアノ教室
渡辺圭子
〒277 柏市加賀1－4－9
TEL. 0471-72-1872

近藤郁子
〒292 木更津市大和3－2－19
TEL. 0438-25-3266

尾田綾子
〒292 木更津市富士見1－14－14
TEL. 0438-22-2455

100号以降の

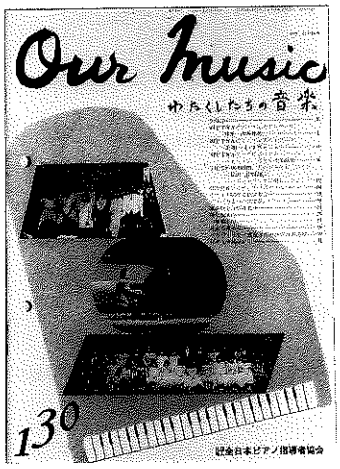
研修会の記録 No.3

バスティン研究会

毎月，第一木曜日に開催
講師：上総　治子・前田　光子・宮本　聖子　その他

音楽教材研究会（東京支部）

毎月第三木曜日に開催。
1990年3月で148回を迎える。



左・106号　昭和58年12月
中・130号　昭和62年4月
右・119号　昭和60年12月

100号以降の

研修会の記録 No.4

コンペティションの為の研修会

1983年　**課題曲発表演奏会**

4月4日　**金子　勝子**（A2・C級）
　　大杉　祥子（A1・B級）
　　村木ひろの（D級）
　　秦　はるひ（E級）
　　播本三恵子（F級）

1983年　**課題曲公開レッスン**

5月29日　**松崎　伶子**（近・現代期）
6月19日　**杉谷　昭子**（クラシック期）
6月26日　**遠藤秀一郎**（バロック期）
7月3日　**室井摩耶子**（ロマン期）

1984年　**課題曲発表演奏会**

4月1日　**赤津・ストヤーノフ・里佳子**（A級）
　　前島千加子（B級）
　　加藤　智子（C級）
　　朝倉　千春（D級）他

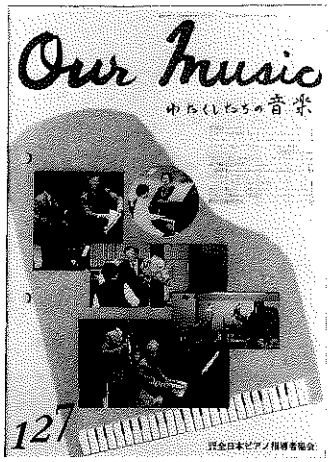
1984年　**課題曲公開レッスン**

6月3日　**秦　はるひ**（近現代期）
6月10日　**今井　顕**（クラシック期）
6月24日　**ガブリエル・チョドス，高橋　従子**（ロマン期）
7月8日　**松崎　伶子**（バロック期）

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　**OUR MUSIC**

音楽教材研究会

笠原　輝子 03-946-9729	宮本　聖子 03-787-4767	福井しが子 03-771-5279	前田　光子 03-928-6832	小川　静子 03-914-2970 0489-75-8357	吉田　文子 0423-75-8578 03-414-9264	植村　紀子 03-427-1461	熊谷寿美子 03-831-5813
山崎　栄子 03-330-8565	上田　郁子 0423-83-4668	吉沢　頼子 0423-43-7391	萬　喜子 0425-55-4884			砂坂　弘子 0425-62-3338	上総　治子 044-900-2149
松田　純子 0427-43-7795	峰岸　康子 0473-43-9405	永島　弘子 0473-43-2700	大島　倶子 0472-53-6828	丸橋　香苗 0471-46-3963	木村理恵子 0471-66-9047	笠井　一枝 0471-82-5039	高木　則子 0479-86-3302
綿貫百合子 0434-87-5992	島村よう子 048-667-8616	鈴木　慶子 048-886-2341	湯本早百合 048-863-9145	伊藤とも子 0429-28-6466	小畑　錦子 0489-82-6585	高橋　悦 0495-24-4070	田村　智子 03-332-6195 0559-86-7930
持田あき江 02792-3-0914	笹谷　裕子 025-229-0374	市嶋沙由子 0250-68-3893	市原　恭子 0883-42-5979	浅子理恵子 0471-24-8262	広田美代子 0542-82-1969	山崎　和与 0545-53-5537	



左から順に　134号　昭和63年1月
120号　昭和60年12月
127号　昭和61年12月

1985年　課題曲発表演奏会

3月30日　赤津・ストヤーノフ・里佳子（A～C級）
牧野　縝（D級）
杉本　安子（E級）
草野　政眞（F級）

1985年　課題曲公開レッスン

6月2日　今井　顕（クラシック期）
9日　ヤーノシュ・ツェグレディ（近・現代期）

1986年　課題曲発表演奏会

3月22日　佐野川延子・奈良場恒美（A～B級）
金子　勝子・西川美知子（C級）
二宮　裕子・武田　真理（D級）
牧野　縝・佐藤　祐子（E級）
草野　政眞・杉本　安子（F級）

1986年　課題曲公開レッスン

6月1日　ヨゼフ・バノウェッツ（バロック期）
6月8日　松崎　伶子（近現代期）
6月15日　ヨゼフ・バノウェッツ（ロマン期）
7月6日　下村　和子（クラシック期）

1987年　課題曲発表演奏会

3月28日　佐藤　祐子（A級）
二宮　裕子（B・C級）
杉本　安子（D～F級）

1987年　課題曲公開レッスン

6月14日　二宮　裕子（C級）
松崎　伶子（D級）
林　秀光（F級）
6月21日　赤津・ストヤーノフ・里佳子（A・B級）
徳丸　聰子（E級）

1988年　課題曲発表演奏会

3月24日　赤津・ストヤーノフ・里佳子（A1・B級）
佐野川延子（A2・C級）
奈良場恒美（D・E・F級バロック・ロマン）
田代慎之介（D・E・F級近現代）

1988年　課題曲公開レッスン

6月5日　武田　真理（A・B級）
奈良場恒美（D級）
6月12日　佐野川延子（C級）
今井　顕（E・F級）

1989年　課題曲発表演奏会

3月28日　奥平　純子（A・B級）
奈良場恒美（C級）
渋谷　淑子（D級）
田代慎之介（E・F級）
大杉　祥子・貞松　雪絵（デュオ部門初・中級）

1989年　課題曲公開レッスン

6月11日　奥平　純子（A・B級）
奈良場恒美（C級）
6月18日　渋谷　淑子（D級）
田代慎之介（E・F級）

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

園田泰子
〒102 千代田区紀尾井町3－32
TEL. 03-262-5499

ヤマハプランズ㈱
事業開発室
〒104 中央区銀座7－9－18
TEL. 03-572-4292

金子勝子
〒108 港区白金台2－9－30
クラウン白金台102
TEL. 03-442-6190

100号以降の

演奏会の記録 No.1

1983年度

'83 8月23日 PTNA
ピアノ指導者検定合格者によるピアノ演奏会
東京・第一生命ホール
木村理恵子，萬 喜子，山下今日子

8月28日 イギリス ヤングピアニストによるピアノ演奏会
東京・中央会館
リチャード・バスキンド，アシフ・フセイン

8月31日 PTNA ピアノ協奏曲の夕べ
東京・虎ノ門ホール
曽川裕子，大久保朋美，若林真由美
中島由紀，竹内智子

1984年度

'84 8月31日 杜 宇武 ピアノリサイタル 東京・中央会館

9月2日 杜 宇武 ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

9月16日 杜 宇武 ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

10月26日 ベラ・シキ ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

10月27日 新進ピアニストによる
ジョイント ピアノリサイタル
長岡真琴・大西さよ子・三鼓美智子・藤明久子
東京・<東音>ホール

11月11日 秦 はるひ ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

11月17日 井上 慶子・広田 洋子
ジョイントピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

11月30日 草野 政眞 ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

12月22日 湯口 美和 ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

'85 1月25日 武田 真理 ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

3月22日 牧野 縝 ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

1985年度

'85 4月19日 松崎 伶子 ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

4月26日 山岡みゆき ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

5月23日 植田 尚子・宇津木直子 ジョイントリサイタル
東京・<東音>ホール

6月22日 門脇加江子 ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

7月18日 蜂谷 幸枝 ソプラノリサイタル
東京・<東音>ホール

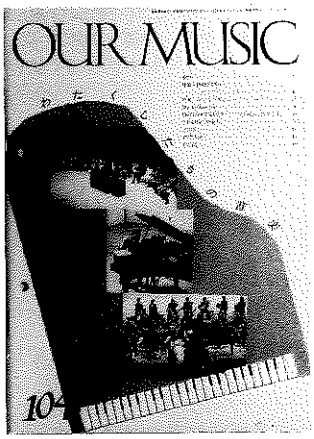
9月24日 奈良場恒美・俣野 修子
ピアノ・ジョイントコンサート
東京・<東音>ホール

10月29日 宇川 真美 ピアノリサイタル
東京・<東音>ホール

11月8日 西川美知子・宮本久美子
ピアノ・ジョイントコンサート
東京・<東音>ホール

12月3日 リー・カム・シン ピアノリサイタル
東京・東京文化会館小ホール

12月11日 アーサー・グリーン ピアノリサイタル
東京・東京文化会館小ホール



104号
昭和58年10月

わたくしたちの音楽 祝 創刊 150 号 OUR MUSIC

松崎伶子
〒162 新宿区築地町16－1－3401
TEL. 03-235-6359

山下とき子
〒113 文京区湯島4－10－5
TEL. 03-812-3432

牧川茂子
〒135 江東区豊洲4－8－17
TEL. 03-533-9750

1986年度

'86　1月31日　**杉本　安子　ピアノリサイタル**
東京・<東音>ホール

2月21日　**松原　緑　ピアノリサイタル**
東京・<東音>ホール

4月25日　**高田　江里　ピアノリサイタル**
東京・<東音>ホール

5月23日　**クロイツァー豊子　ピアノリサイタル**
東京・<東音>ホール

10月20日　**クラウス・シルデ　ピアノリサイタル**
東京・音楽の友ホール

11月28日　**ミゲル・プロエンサ　ピアノリサイタル**
東京・<東音>ホール

12月26日　**若林　顕　ピアノリサイタル**
東京・東京文化会館小ホール

'87　3月31日　**ペーター・ラング　ピアノリサイタル**
東京・東京文化会館小ホール

1987年度

'87　5月8日　**アーサー・グリーン　ピアノリサイタル**
東京・<東音>ホール

5月28日　**佐野川延子・竹平　多江**
ピアノジョイントコンサート
～自作自演と
ＰＴＮＡデュオ部門課題曲コンサート～
東京・<東音>ホール

9月11日　**村上　信晴・木住野睦子**
ピアノとヴィオラの為の室内楽の夕べ
東京・<東音>ホール

10月23日　**山本　洋嗣・岡田　美鈴**
ピアノジョイントリサイタル
東京・<東音>ホール

10月21日　**赤津・ストヤーノフ・里佳子　ピアノリサイタル**
東京・<東音>ホール

12月26日　**杜　宇武　ピアノリサイタル**
東京・東京文化会館小ホール

'88　1月8日　**二宮　裕子　ピアノリサイタル**
サントリー小ホール

1988年度

'88　4月1日　**種田靖子・小佐野圭・足立範子・足立勤一**
ピアノデュオ・リサイタル
東京・<東音>ホール

9月8日　**クラウス・シルデ　ピアノリサイタル**
東京・音楽の友ホール

11月3日　**高橋　孝子・岡崎えりか　デュオリサイタル**
東京・<東音>ホール

1989年度

'89　5月29日　**アーサー・グリーン　ピアノリサイタル**
東京・東京文化会館小ホール

11月23日　**111台グランドピアノ大合奏**
千葉・幕張メッセイベントホール
第1回　生涯学習フェスティヴァル　開会式

12月15日　**川北　祥子・丸山　滋　クリスマスコンサート**
東京・<東音>ホール

'90　3月9日　**庭田　薫・大杉　祥子　ジョイントリサイタル**
東京・<東音>ホール

'88　9月8日　クラウス・シルデ　ピアノリサイタルより

十代の演奏家

第1回　'84　12月16日　**安田　正昭　ピアノリサイタル**
東京・<東音>ホール

第2回　'85　12月21日　**田部　京子　ピアノリサイタル**
東京・<東音>ホール

第3回　'85　12月26日　**杜　宇武　ピアノリサイタル**
東京・東京文化会館小ホール

第4回　'87　1月18日　**成川　昌子　ピアノリサイタル**
東京・<東音>ホール

第5回　'87　12月20日　**野原みどり　ピアノリサイタル**
東京・<東音>ホール

第6回　'88　12月21日　**佐野えり子・青木　俊之**
ジョイントリサイタル
東京・<東音>ホール

第7回　'90　3月31日　**山本　聡子・山洞　智**
ピアノジョイントリサイタル
東京・<東音>ホール

わたくしたちの音楽　**祝　創刊150号**　OUR MUSIC

多田正遠
〒142 品川区旗の台6－13－17

牧　澄子
〒141 品川区東五反田4-6-7-402号
TEL. 03-447-4510

歌田紀子
〒152 目黒区平町1－5－9
TEL. 03-717-7996

100号以降の
演奏会の記録 No.2

YPコンサート

1983年度入賞者による入賞者記念コンサート

1984年1月7日～4月1日
那覇(1/7)　徳山(3/25)　八王子(3/28)　高知(3/29)
1984年4月1日　東京銀座・中央会館（第8回）

第Ⅰ部　保坂　尚志　井街るみ子　加藤　寿子
中野　研也　森田　真実　藤井　由香
松浦　健　弓削田優子　揚原　祥子
永野　英樹　三宅由利子

第Ⅱ部　野口　満帆　陳　すに　谷口　玲理
田畑　昌子　萩原　晴美　那須　裕子
中島　由紀　今田　三穂　西澤　綾
福田　直樹　カイザー・マリ

1984年度入賞者による入賞者記念コンサート

1985年3月22日～3月30日
八王子(3/22)　岡山(3/24)　栃木(3/30)
1985年3月30日　東京銀座・中央会館（第9回）

第Ⅰ部　久住　綾子（幼）　野口　寿子（小1）
奥村　美和（小3）　藤井　隆史（小4）
水谷　優子（小6）　野口　満帆（小5）
田中　由美（高1）　吉田　佳世（小2）
川崎みゆき（小4）　草間　涼子（小3）
保坂　尚志（小3）　田中　里絵（小5）

第Ⅱ部　佐藤　積（幼）　永原　緑（小3）
清水亜紀子（中1）　革島　香（中2）
島　紀子（中1）　三上　舞（小4）
吉村　英二（小6）　三角　由里（中1）
佐藤　美保（中3）　野口　栄子（高2）
喜多村知子（高2）　門脇加江子（大卒）
安田　正昭（客演）

1985年度入賞者による入賞者記念コンサート

1986年2月23日～4月13日
諏訪(2/23)　八王子(4/13)
1986年3月22日　東京銀座・中央会館（第10回）

第Ⅰ部　西沢　文香（幼）　林　雅子（小2）
吉田　尚子（小3）　長谷川亜希子(小3)
松尾　優子（中1）　青柳　亮子（中1）
植原　礼（高1）　福留　真循（大卒）
佐藤　積（小1）　日高　夏希（小1）
大野　智子（小4）　大畑みゆき（中1）
久保田郁子（高1）　近藤　麻里（中2）
武藤　敏樹（大3）　川井　敬子（大卒）

第Ⅱ部　川上早都子（幼）　酒匂　綾（小2）
藤懸　輝美（小5）　山村　綾乃（中1）
藤本真基子（中1）　成川　昌子（中3）
篠原　雅彦（大1）　浅井　真純（小1）
佐藤　友美（小4）　新吉　利香（中1）
木村　智明（中1）　革島　香（中3）
近藤　亮子（高3）　田中　利恵（院1）

'87　3月28日　東京・中央会館でのＹＰコンサート

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

谷　康子
〒145 大田区田園調布2－13－10
TEL. 03-721-7580

内野良子
〒157 世田谷区成城6－27－7
TEL. 03-483-1518

菊池恵美子
〒157 世田谷区上祖師谷5-22-14
TEL. 03-309-5521

1986年度入賞者による入賞者記念コンサート

1987年1月17日～4月5日
大阪(1/17)　諏訪(2/8)　八王子(3/21)　宇都宮(4/5)
1987年3月28日　東京銀座・中央会館（第11回）

第Ⅰ部
臼田　広子（保）　浅井　里香（幼）
中原　有香（幼）　日高　優子（小1）
石塚　佳代（小4）　飯田　恭子（小5）
木村　康子（小6）　渡邊　瑞枝（小6）
柳津　昇子（中2）　近藤　真貴（中1）
稲田　潤子（中3）　岡城　千尋（大3）
野原みどり（大1）　財満　和音（大1）
森田　真実（客演）

第Ⅱ部
浅井　真純（小2）　根津理恵子（幼）
澤木　良子（小2）　長井　真珠（小6）
住友美智子（中1）　松井　香織（小6）
加藤　寿子（中　）　革島　　香（高1）
岡本　孝慈（大2）　大野　由加（研卒）
佐々由佳里（大卒）　古田多真美（院2）
有森　直樹（客演）

1987年度入賞者による入賞者記念コンサート

1988年2月28日～4月10日
諏訪(2/28)　三多摩(3/20)　高知(3/27)　北九州(4/2)
宇都宮(4/3)　八千代(4/10)
1988年3月26日　東京銀座・中央会館（第12回）

第Ⅰ部
永井　美紀（幼）　入江　麻衣（小1）
森　　篤史（小2）　石川真佐江（小2）
高山　恵理（小1）　竹内久美子（小3）
峯　　優子（小6）　藤川　英華（小6）
丸林江里奈（中2）　森吉　亮江（中1）
小早川朗子（中1）　木村　真紀（小6）
木村　友香（小4）　江口　奏子（中1）
木村　康子（中1）　田中　麻紀（大卒）
川島　余理（大卒）

第Ⅱ部
有馬みどり（小6）　大野　智子（小6）
大島　由里（高1）　生田　敦子（中3）
福田　恭子（中2）　南　　依里（高1）
西　　佳子（大4）　伊藤智恵子（大4）
青木　俊之（大1）　佐野えり子（高3）
喜多村知子（大2）　大杉　祥子（大卒）
永野　英樹（大1）

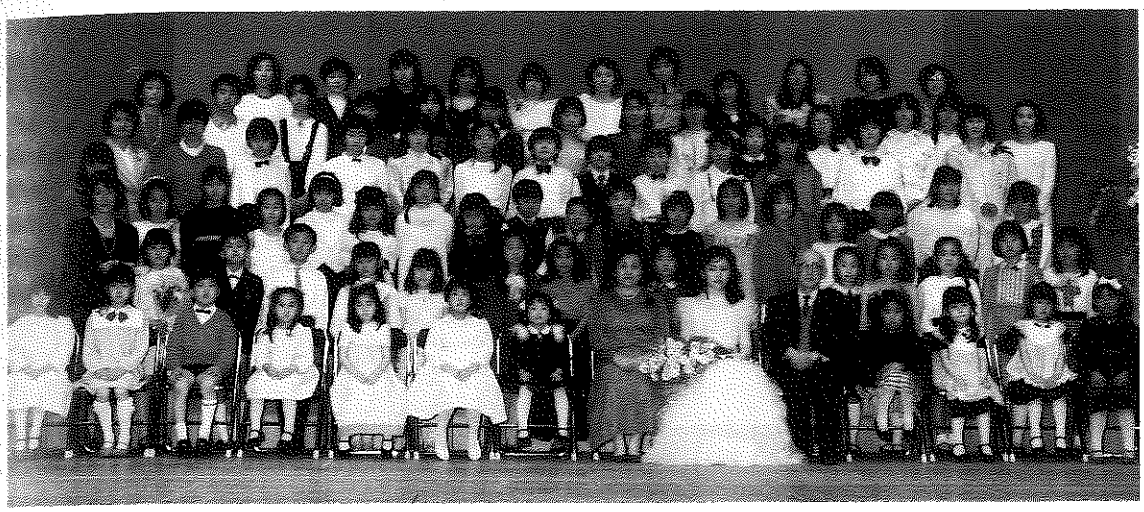
'87　2月8日　諏訪市駅前市民会館での
ＹＰコンサート

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

武石とも子
〒158 世田谷区奥沢6－14－9
TEL. 03-701-6702

高田留奈子
〒156 世田谷区上北沢3－28－12
TEL. 03-303-4408

高田江里
〒156 世田谷区上祖師谷1-32-21-301
TEL. 03-326-3374



'87　3月21日　八王子でのＹＰコンサート

1988年度入賞者による入賞者記念コンサート

1989年１月15日～３月26日
大阪(1/15)　諏訪(2/11)　八王子(3/19)
1989年３月26日　東京文化会館小ホール（第13回）

第Ⅰ部
泉　ゆりの（５歳）　折笠くみ子（５歳）
神戸　朋章（５歳）　佐藤　仁美（５歳）
鈴木　和子（６歳）　関　　華月（６歳）
川崎　祐美（５歳）　志村　　藍（小２）
山辺　恵理（小２）　大崎　絵美（小２）
阿部　祐子（小１）　松本あすか（小１）
高山　恵理（小２）　竹原　清乃（小４）
樋高　　綾（小３）　仁上亜希子（小３）
土橋　礼佳（小５）　久田　幸史（小５）
江口　奏子（中２）　横山　直美（小５）
川崎　江美（小５）　山崎真紀子（中１）
金田　葉子（中１）　久郷　美樹（大卒）
隈部　真未（大卒）

第Ⅱ部
草野　里奈（中２）　笠井　恵子（中１）
清沢　友里（中３）　南方美智子（高１）
山本　聡子（中３）　永木　早知（大１）
山洞　　智（大２）　小川　英子（大３）
植松　宏子（高卒）

特級新曲発表：柳谷清道（演奏：渋谷淑子）

1989年度入賞者による入賞者記念コンサート

1989年12月23日～
高松(12/23)　大阪(1/15)　諏訪(2/11)
1990年３月25日　東京・カザルスホール（第14回）

第Ⅰ部
加藤みづき（６歳）　川端友紀子（６歳）
関　久美子（５歳）　野崎　　妙（６歳）
前田　拓郎（６歳）　宮本　香織（６歳）
有田　麻記（５歳）　小澤　絵里（小２）
泉　ゆりの（小１）　永田　美紀（小１）
志賀　　景（小４）　川原　彩子（小３）
呉山　　薫（小３）　松村　　明（小６）
前田　美里（小６）　仁上亜希子（小４）
澤木　良子（小５）　赤澤真由子（中１）
堤　さお梨（中１）　中島　　彩（小４）
三葛　朋子（小６）　太宰　百合（大卒）
川村　朋子（大卒）

第Ⅱ部
佐藤　郁帆（中２）　白水　芳枝（中２）
加藤　寿子（高１）　生田　敦子（高２）
佐藤友妃子（高卒）　浦畠　晶子（高卒）
福田　智子（研１）　西脇　千花（大１）
周藤みどり（院卒）　土井　泰志（大２）

※東京での入賞者によるコンサートを1982年に２回開催したため，コンペティションのナンバーより１回多い。

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

徳川愛子
〒158 世田谷区瀬田４－15－20
TEL. 03-700-7941

藤澤克江
〒157 世田谷区北沢１－16－６
TEL. 03-467-0872

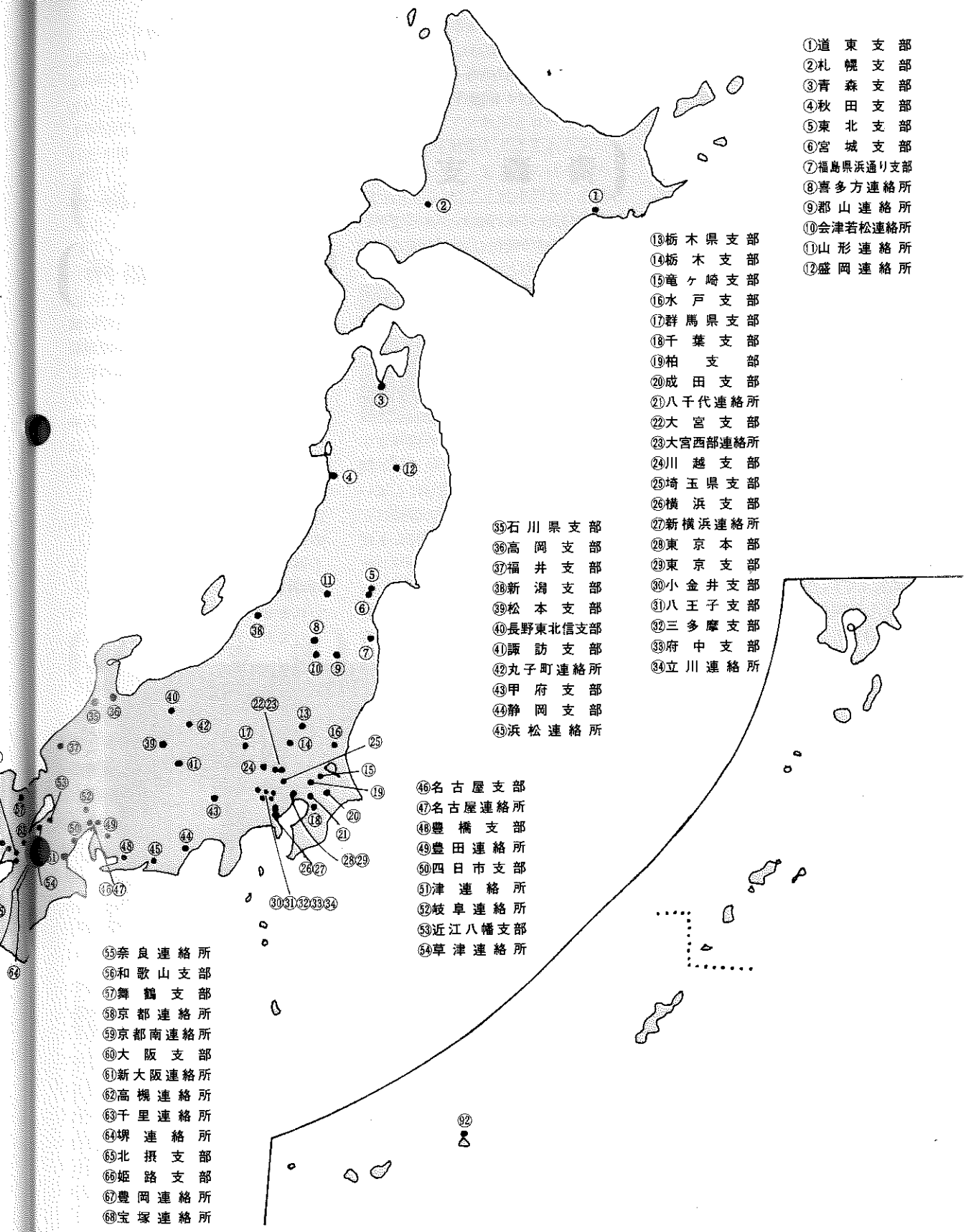
高木紀子
〒167 杉並区南荻窪２－34－８
TEL. 03-331-0335

全国のPTNA

～支部からのメッセージ～

⑱香川支部
⑲徳島支部
⑳松山支部
㉑高知県支部
㉒福岡支部
㉓北九州支部
㉔佐賀支部
㉕長崎支部
㉖佐世保連絡所
㉗大分支部
㉘宮崎支部
㉙熊本支部
㉚鹿児島支部
㉛川内連絡所
㉜宮古支部

㊾岡山支部
㊿広島支部
(51)広島北連絡所
(52)福山支部
(53)東広島連絡所
(54)浜田連絡所
(55)中国支部
(56)熊毛分室
(57)萩分室


①道東支部
②札幌支部
③青森支部
④秋田支部
⑤東北支部
⑥宮城支部
⑦福島県浜通り支部
⑧喜多方連絡所
⑨郡山連絡所
⑩会津若松連絡所
⑪山形連絡所
⑫盛岡連絡所
⑬栃木県支部
⑭栃木支部
⑮竜ヶ崎支部
⑯水戸支部
⑰群馬県支部
⑱千葉支部
⑲柏支部
⑳成田支部
㉑八千代連絡所
㉒大宮支部
㉓大宮西部連絡所
㉔川越支部
㉕埼玉県支部
㉖横浜支部
㉗新横浜連絡所
㉘東京本部
㉙東京支部
㉚小金井支部
㉛八王子支部
㉜三多摩支部
㉝府中支部
㉞立川連絡所
㉟石川県支部
㊱高岡支部
㊲福井支部
㊳新潟支部
㊴松本支部
㊵長野東北信支部
㊶諏訪支部
㊷丸子町連絡所
㊸甲府支部
㊹静岡支部
㊺浜松連絡所
㊻名古屋支部
㊼名古屋連絡所
㊽豊橋支部
㊾豊田連絡所
㊿四日市支部
(51)津連絡所
(52)岐阜連絡所
(53)近江八幡支部
(54)草津連絡所
(55)奈良連絡所
(56)和歌山支部
(57)舞鶴支部
(58)京都連絡所
(59)京都南連絡所
(60)大阪支部
(61)新大阪連絡所
(62)高槻連絡所
(63)千里連絡所
(64)堺連絡所
(65)北摂支部
(66)姫路支部
(67)豊岡連絡所
(68)宝塚連絡所
(92)

札幌支部

一面銀世界の北海道は，間もなく各地で雪まつり，氷まつりが始まろうとしております。

省りみて，昨年はこれまで最高の1200余名の参加をみてコンペティションを実施できましたが，本年度は質量ともに改善を加えるべく検討を進めておりましたが，改善の目途もき本年度の準備に入っているところでございます。

しかし何といってもＰＴＮＡの一番大切なのは、会員が「ピアノを教えるという使命から生ずる「研修」であるはずです。このため当支部では「道支部だより」を発行してこの研修や，有益情報の交換，北国の問題などを堀り起こすなど積極的に会本来の仕事に迫っていきたいと念願しています。

ピアノ指導者が常に直面している精神的，肉体的負担や悩みを共通の問題として共に考えたり，病床に伏した会員へのフォロー，生徒の紹介業務など会員のための活発な活動を困難を排しながら努力したいと，決意を新たに新年のスタートをいたしました。よろしくお願いいたします。

青森支部

150記念号発行おめでとうございます。本部の皆様には，大変なご苦労がおありのことと思います。

さて，青森支部は結成して２年になろうとしていますが，暗中模索の状態で過ごしてきました。渡辺一夫（弘前大学教授）支部長を中心に，会員の団結が強く，大変暖かい雰囲気で活動を続けております。

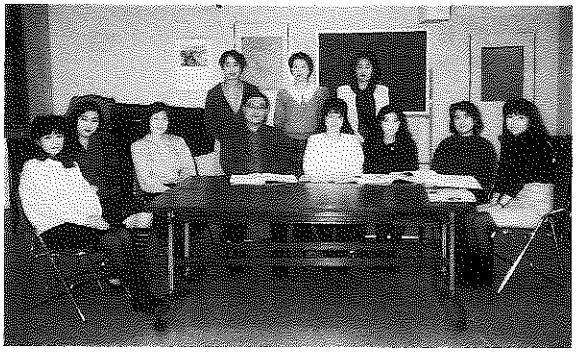
平成元年度の足跡を振り返りますと，９月まではコンペティション関係の行事にすべて，費やしてしまいます。後半は先生方自身の勉強にとお互いに励まし合いながら月に１度集まり，今はバッハ、スカルラッティの作品を勉強しているところです。会員にとっては，何10年とお付き合いしている作曲家たちですが，都度新しい発見があり，感激もするし，また冷汗をかきながらの時を過ごしております。県内には，まだピティナを知らない先生方もたくさんいるようですので，これからは少しでも理解をしてもらえるように働きかけて行きたいと思っています。

青森支部実行委員長　松山たづ子

喜多方連絡所

昭和60年の多々良一沙先生の公開レッスンがきっかけで，翌年課題曲説明会，検定と始まった私達のＰＴＮＡも今年で５年目になろうとしています。運営面でのやり繰り，又事務的な仕事も回を重ねる毎に少しは要領を得てきました。会員は主婦を兼ねた忙しい先生方ばかりですが，課題曲が発表になると忙しい合間をぬって曲を検討したり，コピーを持ち寄って時には主婦談義に，そんな時を持てるのが皆の楽しみなのかもしれません。喜多方は音楽的なレベルもまだまだですがコンペティショ

青森支部・渡辺一夫先生を囲んでの勉強会



喜多方連絡所・平成二年の新年会にて

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

村田寛子
〒171 豊島区雑司が谷２－15－６
TEL. 03-987-6963

バスティン研究会
〒170 豊島区巣鴨１－15－１
㈱東音企画内
TEL. 03-944-1581

川島恒子
〒177 練馬区高野台４－１－７
TEL. 03-996-3110

ンを受ける生徒の数も少ないので是非遠くからコンペティションを受けに来てくれる生徒が増えることを期待したいです。私達は今迄のペースで頑張りたいと思います。

栃木支部

A. 1982年より，毎年7月には夏期ヤングピアニストコンペティション・検定を実施している。参加者は200名を越えるので2日間行う。

B. 支部会員は15名で構成され，次の行事を行ってきた。

a. 毎月一回の研究会。

b. 夏期コンペティションの運営。

c. 毎年春の課題曲紹介演奏会。

d. 1986年より会員による演奏会（コンセール　デザミ）の実施。

C. 支部の財政については，種々の方法で収入を増やし，支出を抑えてきたので，黒字経営である。

大貫忠次

群馬支部

♪志を果して，いつの日にか帰らん
♪山は青きふる里，水は清きふる里

なつかしい小学校唱歌「ふるさと」の3番にうたわれているように，赤城，榛名，浅間等の山々に囲まれ，美しい利根川の流れる群馬県は，まさに山紫水明の地であります。

今から5，6年前のこと前橋市上小出町に，ピアノショールーム，演奏会用ホールを完備する音楽堂の新築が予定されており，そのオープンを待って群馬支部を創立することになりました。支部長に選出された高橋絹子氏は，武蔵野音大ピアノ科出身で，武蔵野支部の支部長であり，早くからピアノ教室とコーラスを作って音楽活動をしてこられた方です。事務局長には，音楽堂の社長であるとともに，ピアノ調律師として群馬県内で幅広く活躍している荻原章氏が就任しました。1990年の現在は会員は約45名です。

1985年4月11日，折から桜満開の好季節，新築された音楽堂ホールに於て，福田先生をお迎えして，30名の会員をもって発会式を開催しました。同年7月26日，前橋市の県民会館小ホールに於て，第1回ピティナヤングピアニストコンペティション及び地区予選を行いました。その後，会員一同及び事務局の熱心な協力により，毎年同じ日同じ会場をとってコンペティションを開催し，昨年で5回となりました。　大島美枝子

八千代連絡所

昭和61年夏の地区予選に初参加致し本年で五年目を迎えます。今迄に地区予選を四回，八千代地区ヤングピアニストコンサートを1回開催致しました。最初は33人の参加者（予選）からスタートし昨年の4回には66名を数え，少しづつ増加しております。今年度は支部昇格を目指し大いに頑張っております。渡部由記子，加藤智子，根津栄子，瀬川　努各正会員を役員に予定致し八千代，市川，船橋，浦安，鎌ヶ谷，習志野市などエリアを拡大する予定です。4月初旬には第2回八千代地区ヤングピアニストコンサートを開催致します。これからはリサイタル，公開講座，公開レッスンなど大いに演奏と研究発表の場を作り優秀な指導者，生徒の育成に励み発展出来る様頑張りたいと思います。

吉田　操

大宮西部連絡所

大宮西部連絡所として新しくスタートし昨年はコンペティションを無事終えることができました。今年は少しづつ勉強会等取り入れていけたらと思っています。そこで子供たちの向上に一緒に考え，活動して下さる先生，ご連絡下さい。小さな輪が将来大きな輪になっていったらと願っています。人とのふれあいを大事にしながら子供たちの成長に少しでもお役にたてればとの思いに平成元年10月に福島に山の家を建てました。今後研修の場として，子供たちの合宿にと考えております。近くにはスキー場もあります。いつでも開放しておりますので，他支部の方もお気軽におでかけ下さい。平成2年，新たな気持で，スタートしたいと思います。どうぞ今年もよろしくご指導下さい。

栃木支部・栃木支部会員一同

大宮西部連絡所・平成元年10月に完成した山荘です

小金井支部

全日本ピアノ指導者協会という，たいへんすばらしい組織の一員として，小金井支部が発足いたしましたのは，ちょうど前回の Our Music 100号記念号が発刊された年でした。以前より巣鴨の本部にお世話になっておりました㈱宮地楽器のピアノ技術課が，支部の運営をしてまいりましたが，発足以来，コンペティションを6回，ピアノ演奏検定を夏季冬季あわせて10回，実施しております。

当支部のあります東京の多摩地区は，音楽大学がいくつもあり，もともとピアノ教育に対する関心が非常に高い地域であります。今後も，ピアノを教え，また学ぶ多くの方々にピティナを利用していただき，より良い音楽創造の手助けができればと願っております。

八王子支部

八王子支部では，3月17日㈯“よりよい音を求めて”ということで，西ドイツ・フライブルグ国立音楽大学で講師をされ，ドイツを中心に演奏活動をしておられる韓伽倻（ハンカヤ）さんを迎えてのリサイタルを催します。ピティナの理事をしておられる下村和子先生より全日本学生音楽コンクール入賞，桐朋学園大学在学中に三浦みどり先生より第49回日本音楽コンクール第2位入賞，第25回海外派遣コンクールに松下賞受賞，そして西ドイツに渡りピヒト・アクセンフェルト先生に師事，1988年第44回ジュネーブ国際コンクール第3位入賞（1，2位該当なし）と云う経歴の持主です。今の日本ではうたってうたえない音，まるで戦っているかの様なピアノが多いのですが，韓伽倻さんは人間の心の底に流れる声を表現できます。人の心を打つ音，心に響く音を持っています。心が洗われるような美しい見事な韓伽耶（ハンカヤ）さんの演奏をピアノを学ぶすべての人々にわかって頂き度い，そんな思いで開くリサイタルです。

3月17日は八王子支部が新たな出発をし，成長をする日，と決めて一同盛会を祈りつつ頑張っています。

海老原ゑみ子

石川県支部

昭和61年6月に専務理事の福田靖子先生をお迎えして発会式をもちましてから，支部の活動も早，4年になろうとしています。その間，金沢で開かれた4回のコンペティション（地区予選）の参加人数も初年度の78名から，104名，153名，そして平成元年の153名と着実に増え，合わせて全体のレベルも年々向上して当地区は優秀な生徒が多いと，審査の先生方からも高い評価を得ております。62年度からは支部長賞も設けられ，ＰＴＮＡヤングピアニストコンペティションが当地に浸透するのに伴い，熱心なピアノ学習者も確実に増えているようです。

又，毎春入賞者によるコンサートが開かれ，今年も3月25日に第4回ＰＴＮＡヤングフレッシュコンサートとして開催予定です。

支部の顧問には当協会副会長の中山靖子先生，支部長に金沢大学名誉教授川口恒子氏，副支部長に金城短期大学教授中村外治氏，金沢大学教授山下成太郎氏，以下，野村吉和，剣崎知沙子，東海林也令子，浅尾恵子，越川さゆり，押田真澄，中田佳珠，大野由加で事務，企画，広報，財務を担当しています。

文責　中田佳珠

高岡支部

昭和59年1月25日に福田靖子先生をお迎えしてピティナ演奏検定の説明会を開き，4月3日春季演奏検定を開いたのが第一回で，受験者は46名でした。更に同年7月29日に1984年度コンペティション地区予選，演奏検定を行いました。それから今年は第八回を迎えますが受験者も毎年増え昨年は200名近くになり，生徒の音楽性と演奏能力を高めようと努力なさっている先生方，御協力下さる父兄の皆様に深く感謝しております。

今年も更に多くの生徒が受験するように又コンペティションを受ける生徒が増えるようにスタッフ一同，がんばっています。

わたくしたちの音楽　祝　創刊 150 号　OUR MUSIC

大村倭子
〒114 北区十条3－11－13
TEL. 03-909-1518

武田真理
〒181 三鷹市井口4－4－25
TEL. 0422-32-0768

小金井支部
㈱宮地楽器
〒184 小金井市本町5－38－34
TEL. 0423-83-5551

福井支部

福井支部も今年で結成四年目を迎える事になりました。

福井に是非ピティナを…とお声をかけて下さったのが，中井鈴子先生でした。それまでは県単位でしか勉強できなかった私達には願ってもないお話でした。「井の中の蛙ではいけない」「もっと勉強したい」「生徒達に音楽の素晴らしさを知ってもらいたい」という先生方の願いが一つになり，支部は結成されました。

しかし，葛西いね先生を先頭に中島亮子先生，馬渕弘江先生と私の4人からスタートです。ピティナを皆に知って頂きたいと新聞社，テレビ局，楽器店，個人の先生のお宅を何度も尋ね，ピティナの良さを必死に説明!! そのかいあって，熱心な先生方がたくさん集まって下さり，発表会を兼ねた中井先生の公開レッスンが昭和61年10月に行なわれました。そして初めてのコンペティションが福田靖子先生の御協力のもとに昭和62年の夏，福井市内で行なわれました。その後の公開レッスンには中山靖子先生，松崎伶子先生，佐野川延子先生，田代慎之介先生に来て頂き，熱のこもったレッスンをして頂きました。

コンペティションも回を重ねますと，地方予選から全国大会へと夢が広がります。生徒達と先生方，そしてご父兄の皆さんが一丸となり目標に向かってがんばっている姿は，何度体験しても感動的で素晴らしいものです。そしてコンペティションとともに福井支部の夢も大きく広がります。

新潟支部

新潟支部の歩み

1978・11・6　新潟支部発足
11・7　バスティン・はじめましてピアノさん公開講座　講師　福田靖子先生
1979・3・26　ピティナ検定
〃　音楽の基礎教育公開講座　講師　日下部憲夫先生
6・1　バスティン・創作公開講座　講師　池田早梅先生
6・2　ピティナ交換コンサート（金賞　若林顕氏他）
8・5　ピティナコンペティション・検定
8・31　バスティン・ピアノライブラリー公開講座　講師　ジェーン・バスティン先生
——　バロック期の音楽公開講座　講師　橋本英二先生
1980・8・—　地区予選・検定
1981・8・2　地区予選・検定
10・3　ピティナコンサート
1982・8・10　地区予選・検定
1983・7・16　地区予選・検定
1984・7・25　地区予選・検定
1985・4・19　バスティンメッソード認定講座（1か年間）
7・25　地区予選・検定
1986・6・17　ピティナ課題曲公開講座　講師　佐藤峰雄先生
7・25　地区予選・検定
1987・7・24　地区予選・検定
1988・7・27　地区予選・検定
1989・2・26　ピティナコンサート
6・25　ピティナ課題曲公開レッスン　講師　中田喜直先生
7・23　地区予選・検定
1990・予定3・18　ピティナコンサート

新潟支部・1979年8月31日，講座を終えたバスティン先生と

新潟支部・一九八七年十一月六日　新潟支部発足

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

角田恭子
〒184 小金井市貫井南町3-16-9
TEL. 0423-83-3277

海老原ゑみ子
〒192 八王子市明神町1—2—6
TEL. 0426-42-8768

三浦捷子
〒182 調布市若葉町3—19—6
TEL. 03-308-0440

松本支部

松本支部は，'82年発足し8年が過ぎました。私が4年目の'85年からお世話をさせて頂きましたが，参加者も頭初の60名から200名へと着実に増加し参加指導者も40名になり，ピティナの偉大さに改めて敬意を表すものであります。

私はピアノ営業マンの立場でピティナのお世話をさせて頂いておりますが，いつも感じている事は，ピアノ指導者が初めてピティナに生徒を参加させるには，相当勇気がいる，特に年配の先生はなおさらである，にも拘らずこの様に多数の先生から参加し続けて頂けるのは，いかにピティナがすばらしいか，つくづく思い知らされます。

常々私は，「ピアノを習っている生徒は何年生がどの曲を弾けなければ遅れている」と言う考えは，おかしいと思っている。当地では，コンペの曲を弾けるレベルの生徒は⅓以下であり，大部分を占める陽の当らない凡そコンクールなどに縁の無い生徒に，やる気と希望を与えるすばらしい検定制度をもっと多くのピアノ指導者に知らせたいと思う。コンペティション全国大会でのレベルの高さは周知の通りであるが，他に類を見ない検定制度は，ピティナの根本である様に思うからです。

今年度は7月のコンペ検定のあと，10月に検定のみ実施致します。会報150号記念にあたりピティナの増々のご発展を祈念致します。

酒井貞雄

長野東北信支部

創刊150号おめでとうございます。長野支部もおかげさまで，コンペティションの参加数も年々増え，会員の先生方とも定期的な会合を行ない，ピティナならではの交流を深めています。長野支部では，ここ数年前から，長野市長賞，更埴市長賞，上田市長賞のほか，読売新聞長野支局賞と特別賞が4つでき，参加される生徒さんの励みになっております。また，コンペの課題曲研究会においては，一流のピアニストが，ふだん弾かない子供むけの曲の数々が聴けるよい機会ということが，ピティナに参加されない先生方にもお集まりいただき，個人の発表会づくりの参考としてとても役立っています。

今後は，コンペや研究会といった行事だけにとどまらず，本部の方々のご協力も得て，若手のすばらしいピアニストの演奏会や，地区予選で優秀な成績をおさめた子供たちによるコンサートの開催などめざして，より，発展につとめていきたいと思っております。

長野東北信支部・コンサート後の杜宇武さんを囲んで

諏訪支部

諏訪支部のあゆみ

昭和56年3月。福田先生と松崎伶子先生に上諏訪においで頂いた時にＰＴＮＡ諏訪の歩みがはじまった。福田先生の白いコートが印象的な日であった。同年6月に参加者22名にてコンペティションを実施。この時福田先生が参加者に『必ず指導して頂いた先生にお礼の手紙を書くように』との指導が未だ脳裏を離れない。この年Ｂ級で小口典子さんが銅賞を獲得。柚原文子さんがピアノ指導者検定に挑戦した姿が目に浮かぶ。翌昭和57年7月。ＰＴＮＡコンペティションを諏訪音楽学院で60名の参加者にて実施。この時，A_2級で予選を通過した，宮坂なつきさんと吉田樹里さんが全国決勝大会で金賞と銀賞を受賞する華々しいスタートを切った。宮坂なつきさんはエッソ賞に選ばれ，同12月イギリス招待のごほう美がつき関係者を喜ばせた。同時に岡谷市の小口なをみ先生が指導者賞を受け，以後平成元年度迄連続受

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

嵐野英彦
〒183 府中市住吉町2—30—73
ヴェルドミール多摩川217
TEL. 0423-68-4136

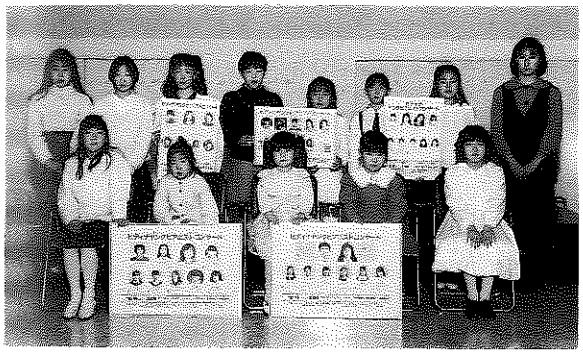
明石咸子
〒187 小平市鈴木町1—337—2
TEL. 0423-43-0333

石田菊香
〒187 小平市小川西町3—5—5
TEL. 0423-42-4093

賞という輝かしい努力とピアノ研究の歴史を創られている。昭和58年は会場を岡谷市民会館に移し，61名にて予選実施。この8月22日に岡谷市のホテルオークニにてＰＴＮＡの招待で訪日されていたイギリスのリチャード・バスキンド君（11）とアシフ・フセイン君（13）のサロンコンサートを開催。若さあふれる外国人の演奏に魅了された。昭和59年は72名の参加者を得た。A_1級で吉田樹里さんが銀賞，A_2級で宮坂敦子さんが優秀賞を得た。又諏訪市の池上園子先生が指導者賞を受賞。昭和60年は70名の参加者。この年度からＹＰコンサートを諏訪ではじめた。2月23日田部京子さん他5名を招待。地元から市岡めぐみさん，橋爪久美子さんが出演。昭和61年は81名の参加者。4名が全国大会に出場。10月4日古田多真美さんを迎え東日本大会出場記念演奏会を開催。2月8日に野原みどりさん他4名を招待。ＹＰコンサートを実施。地元より高山恵理さん北沢郷子さん小松いつきさん宮坂なつきさん山岡利江子さんが出演。昭和62年は南信日日新聞社と地区予選共催。南日賞の新設によりトロフィーが地区予選に登場。大いに励みとなる。この年は参加者88名。A_1級で高山恵理さんが金賞。A_2級で小口久美子さんが優秀賞。又諏訪市の榛葉和子先生が指導者賞を受賞。以後先生は3年連続受賞されている。2月28日には永野英樹さん他4名を招待。ＹＰコンサートを実施。地元より小口久美子さん北沢奈津子さん吉田樹里さんが出演。このコンサートより地元紙に「鍵盤は躍る」のタイトルで出演者が掲載され大きな反響を呼ぶ。昭和63年は70名の参加者。8名に南日賞が贈られた。高山恵理さんがＢ級で銅賞。A_2級で小松なぎささんが優秀賞に輝く。2月11日にＹＰコンサート。植松宏子さん他4名招待。地元より小松なぎささん北沢奈津子さん伊東理恵子さん宮坂敦子さん野村未由希さんが出場。地元紙は「鍵盤の妖精たち」として連続掲載。出場者の大きな励みとなる。平成元年度は参加者81名。新装なった下諏訪総合文化センターで開催。10名に南日賞が贈られた。ＹＰコンサートは2月11日諏訪市で行う予定。又3月21日には南日賞トロフィー受賞者による“ちょっとステキな春のコンサート”がゲスト花房真美さんを迎え下諏訪で開催予定。簡単な行事の列挙に終ったがＰＴＮＡ諏訪の歩みを語る時，10年にわたりレッスンにおいで頂いている松崎伶子先生の功績は特筆されなければならない。心より感謝とお礼を申し上げたい。コンペティションとコンサートのくり返しであるが本年も又，新しくＰＴＮＡに挑戦する人々との出合い。今年も今年もとＰＴＮＡに挑戦し続ける人々との出合い。そんな出合いの人間模様の中に，より多くの良い思い出を織りこみＰＴＮＡ諏訪の歴史が一枚一枚重ね織られていくことを祈りたい。最後に南信日日新聞社に報道，南日賞等応援を頂き心よりお礼を申し上げます。

茅野雅英文責記

諏訪支部・左：諏訪で開かれたピティナヤングピアニストコンサート地元出演者の皆さん
右：諏訪地区予選「南日賞」トロフィー受賞者の皆さん



わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

三橋登紀江
〒189 東村山市美住町1-4-28-2
TEL. 0423-95-0146

江崎光世
〒241 横浜市旭区二俣川1－15
TEL. 045-363-7917

佐野幸枝
〒221 横浜市神奈川区三ッ沢中町11-7
TEL. 045-321-0286

静岡支部

こんにちは，静岡支部のすみやです。手探りで始めたピティナコンクールも，本部の皆様方のおかげで第3回を無事終了することができ，本当に有難うございました。第1回目の時は静岡で始めての試みだった事もあり，準備，進行がうまくできず，審査員の先生方に大変ご迷惑をおかけしました。また参加者は静岡以外の方がほとんどで，募集の難しさを痛感致しました。それでも第2回，3回と徐々に地元からの参加者も増え次回のためにと，見学して下さる先生方，生徒さんも多数見受けられました。今年はそんな方々が参加してくれるはずですので，前回よりも，さらに盛況となる事と私共一同期待しているしだいです。

ピティナ事務局の皆様，今後ともよろしくお願い致します。

奈良連絡所

会報創刊150号おめでとうございます。私共の奈良連絡所を開設いただきまして今年で早くも5年になります。はじめてのピティナ参加は60名以上になり最先のよいスタートを切らせていただき3回目は前年対比を少し下廻りましたが4回目はガゼン上昇110名以上参加者を得させて頂けました。奈良県としましてはピアノの普及率が世界一といわれていますにもかかわりませず技術的な点では未だ充分な実力発揮が出来ていない感がありましたが，ピティナのお陰で除々にではありますが一般にもめざめさせて頂けたと感謝しています。何よりも有難いことには全国的な輪を拡げて頂いています事により立派な先生方が多く集って下さっていて大変勉強させて頂け，それぞれの素晴しい人とのかかわり合いを得させて戴き，共に手をとり合って益々会の発展がいよいよハイレベルに世界的に進展し世界の文化の発達に貢献されて行くことと心より御祝福申し上げています。

京都連絡所

私が学生の頃，大学構内の楽譜売場に，井口基成先生表紙の「私たちの音楽」(14号)が「自由にお持ち下さい」と書かれて置かれてありました。その時何故かその一冊が，気になりました。京都に帰り，それから会員になり，講座があると上京し，よく福田先生とお茶を飲みながら，お話しました事を，今なつかしく思います。調度レッスンの目標になる何か機会がほしいと考えておりました時，コンペティションが始まり，受賞者記念コンサートには，友情出演のオーディションもあり，それにグレード試験や発表会も加えると，子供たちは，3か月サイクルで忙しくなりました。その子供たちも今や社会人や大学生となりましたが，今も名曲の数々を弾いて楽しんでおります。コンペティションを受けなかった生徒はやめてしまうと全く弾けないのに比べると，大きな差があります。当時私は，東京で催される講座が，そっくり関西で催されることを期待していました。いっそのこと私がやろうかしらと考えたこともありますが，とても大変な事の様で，どなたかが，いずれされるだろうと思っておりました。あれから14年程たちましたが，まさか京都の方を私がお引き受けすることになるとは，夢にも思っておりませんでした。ようやく2年がすぎ，コンペティションと課題曲公開レッスンは，毎年行なわれる事になりましたが，入会当時，夢に見ておりましたいろいろの講座が，実現出きるように努力して参りたいと思います。　　辻 美千子

姫路支部

姫路支部の歩み

昭和50年夏にバスティーン先生御夫妻をお迎えして「バスティーンメソード」の研究会を開催しましたのが始まりであります。昭和53年第2回ヤングピアニストコンペティションに岡山へ2名参加致しました。第3回には3名が岡山へ参加しいずれも地区本選へ進み1名は全国大会へ出場しました。第3回（昭和54年）（1979）の年は丁度姫路市制90周年に当りましたので姫路市文化センター大ホールにて第2回全国入賞の金銀受賞者を迎え姫路からの友情出演と共にコンサートを開催しました。そして第4回目のコンペティション

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

清岡芳子
〒211 川崎市中原区上小田中1644
TEL. 044-722-1215

黒田恭子
〒215 川崎市麻生区王禅寺2803-9
TEL. 044-955-2484

遠藤恵眞子
〒251 藤沢市鵠沼藤が谷3-6-25
TEL. 0466-22-3956

姫路支部・一九八九年姫路地区予選入賞者の皆さん
左：A～C級　右：C～F級の皆さん

より姫路支部として地区予選を行うことに致しました。参加者27名位でしたがその後第13回（1989年）迄人数もふえてずっと続けることが出来ましたことを嬉しく思っております。昨年は姫路市制100周年になりましたので記念事業の1つとしてピティナヤングピアニストコンサートを再び開催致しました。10年前の第1回とは大変な違いで当地区から輩出したヤングピアニスト達が全国入賞者と肩を並べて堂々と演奏が出来る姿を見まして感動致しました。ここにいたる約15年間には勿論もっといろいろな（例えばポール・ポレイ先生，若林君，西沢さん（当時中学生）杉谷先生その他……）数々の研究会，コンサートも開催致しましたことが懐しく思い出されます。福田先生の御協力に敬意を表しながら今後のピティナの成長を期待致しております。

井上久栄

宝塚連絡所

宝塚連絡所は，昨年9月に福田靖子専務理事の承認を得て発足しました。設立発起人のメンバーはいずれも，長年にわたり地域の子供達の音楽教育にさまざまな形で携わってきた正会員6人を含む8人の会員で，活発な情報交換をしながら指導法，演奏法の研究に励んでおります。

発足後間もなく，“まなびぴあ”開会式の同時中継の関西放映に際し，文部省とＰＴＮＡ本部のお手伝いをさせて頂く光栄に恵まれました。また，12月17日には当連絡所主催の初めての大きな公演である“1989年度ピティナヤングピアニストによるクリスマスコンサート”を開催，箕面メイプル大ホールが超満員になる大盛況で，内容的にも子供達の演奏しベルの高さと会の雰囲気の楽しさで高い評価を得ることが出来まして，まずは上々のスタートを切っております。

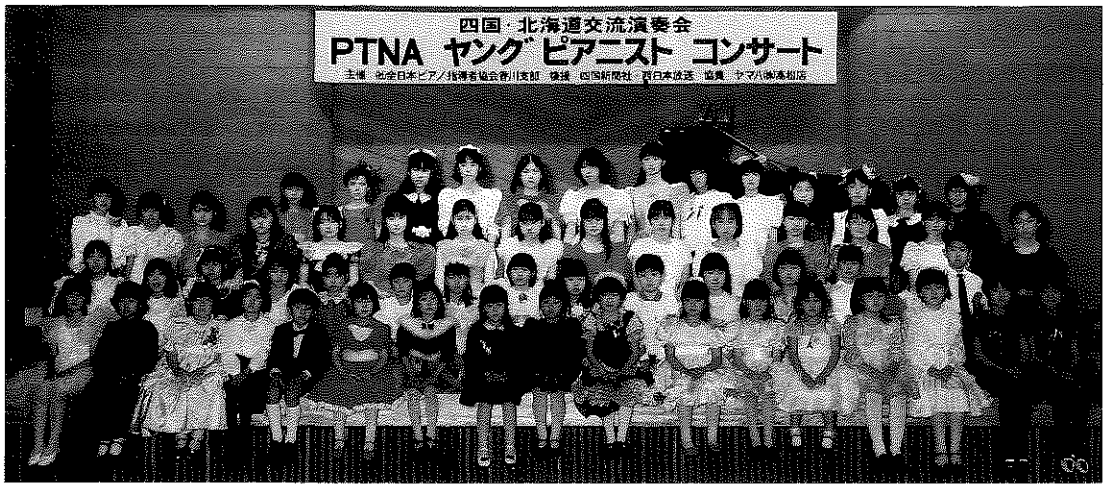
宝塚連絡所・右：1990年1月6日，第1回役員会にて
左：1989年12月17日，クリスマスコンサート

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

赤松恭子
〒251 藤沢市鵠沼松が岡2-14-18
TEL. 0466-26-3805

前川多恵子
〒242 大和市福田1717－4
TEL. 0462-68-0236

田中道子
〒250 小田原市南町3－6－5
TEL. 0465-22-2824



香川支部・一九八九年十二月二十三日
四国・北海道交流演奏会

本年度は，コンペティション予選会の開催を6月24日に宝塚市雲雀丘のヒロクニホール(200人収容，ベーゼンドルファーフルコンサートピアノ使用）にて行う予定です。

ところで，事務局のある宝塚を中心とする阪神間は教育水準が高く音楽系の学校も多く所在する地域であるにも関らず，ＰＴＮＡの知名度は残念ながら高いとは言えないのが現状です。今後この地域にもＰＴＮＡの輪を広げるべく会員募集にも力を注ぎたい所存でおります。皆様方のご指導賜れますようよろしくお願い申し上げます。　　**代表　秋谷和子**

香　川　支　部

香川支部は評議員の武田宏子先生を支部長とし，少人数ながら，早くから発足し，少しずつ着実に発展し続けている支部である。

思い起せば，コンペティションも最初から予選を行ない，始めの頃は大阪まで本選を受けに行っていた。そのうち人数も増え，四国本選が行なわれる様になり，四国のレベルは非常に高いと言われる現在に至っている。その間，武田先生をはじめ，中央より講師を迎えたり，地元の先生方の研究発表的な講座など，支部長先生の前向きな取り組みの姿勢とアイディアのお陰で，会員の先生方も多いに刺激され前進する活力を与えられ，その結果が毎年のコンペティションの結果に現われている。年を重ねるごとに予選のレベルが上がり，予選通過するのがたいへん，という嬉しい悲鳴を上げている。

平成元年の昨年は，その節目にふさわしく，12月23日に四国・北海道交流演奏会が開催できた。(札幌支部宮澤先生の御協力により北海道のヤングピアニスト４名を迎え，香川支部55名のＹ.Ｐ. と共に行なう。)

日本全国，色々な所で，多くの先生や生徒さんが毎日よりすばらしい音楽を目指し，努力を重ねている。同じものを目指す。１人１人は小さい人間が協力し合い，大きな力とな

香川支部・1989年12月23日
四国・北海道交流演奏会より
北海道のヤングピアニスト

わたくしたちの音楽　祝　創刊 150 号　OUR MUSIC

石川洋子
〒255 神奈川県中郡大磯町西小磯868－2
TEL. 0463-61-1127

新潟支部
〒950 新潟市万代1-4-8 ヤマハ新潟店内
TEL. 025-243-4311

佐藤峰雄
〒950-21　新潟市内野町4063－8
TEL. 025-261-1285

徳島支部・
左：コンペティション会場見学
右：役員会にて

り得る。各支部それぞれが活発に活動し，今回の様に，時々相互に交流し，全日本ピアノ指導者協会を通して，日本中にそのすばらしい音楽の和を広げていければと思う。

のでなかなか思うように走れませんが，会員一同足なみそろえて頑張って参りたいと思っています。どうかよろしく御指導のほどお願いいたします。

これからもこの貴重なピティナの活動を更に拡大し，仲間が増え続けるよう，努力して参ります。会報によって，ピティナの活動をいつまでも援助して頂きます事を，お願い致します。

諸田知栄子

徳　島　支　部

全国のピティナ会員の皆様には，つつがなく新年をお迎えになられたこととおよろこび申し上げます。おかげさまで徳島支部も会員一同元気に過しております。会報で，各地の活発な活動情況を拝見しては，私共も頑張らなくてはと痛感しております。昨年のコンペティションでは暑い中をご熱心に審査，御指導してくださった先生方，まことにありがとうございました。参加者が倍に増加したものの反省事項も多く，現在役員を中心に改善策を検討しているところです。また四国の地区本選につきましては，今年は会場確保が出来ず，他県にご迷惑をおかけしますことお許しください。来年は何とか当地で開催出来ますよう努力してみるつもりです。

さて今年は午年。未熟な私共です

佐　賀　支　部

会報150号記念発行を，お礼と共に心よりお慶び申し上げます。

私達，佐賀支部は，平成2年7月に開催致しますコンペティションが第5回目を迎えることになりますが会を重ねる度に，多くの子供達が参加し，それぞれ意欲的な演奏を聴き合って，益々，活気に満ちた会へと成長してきました。かつて，手ぶらだった子供達の手には，お父様が苦心して作られた足台を，しっかり持った姿が見られ，家族の温かい御協力の様子が，音楽を通して感じられるようになり，5年間の歴史が築かれてきたように思います。

また，昨年12月には，武雄市で開催された第2回ピアノ検定でも，子供達の音楽的表現を考えた演奏が，会場に伝わってくるようになってきました。

熊　本　支　部

会報150号の発行につきまして心からお慶びを申し上げます。

熊本支部は5年前に連絡所として発足，昨年支部の仲間入りをさせて頂きました。熊本においてもＰＴＮＡに関心を持って下さる先生が増え，現在支部を支えて下さる先生方の数は53名にのぼっています。そしてコンペティションへの参加数も年々増え続けています。

昨年はコンペティションに備えて松崎先生をお招きして公開レッスンを催しました所，大変好評を得ましたので皆，とても気を良くして今年の2月にも再び公開レッスンを行なう準備を進めています。

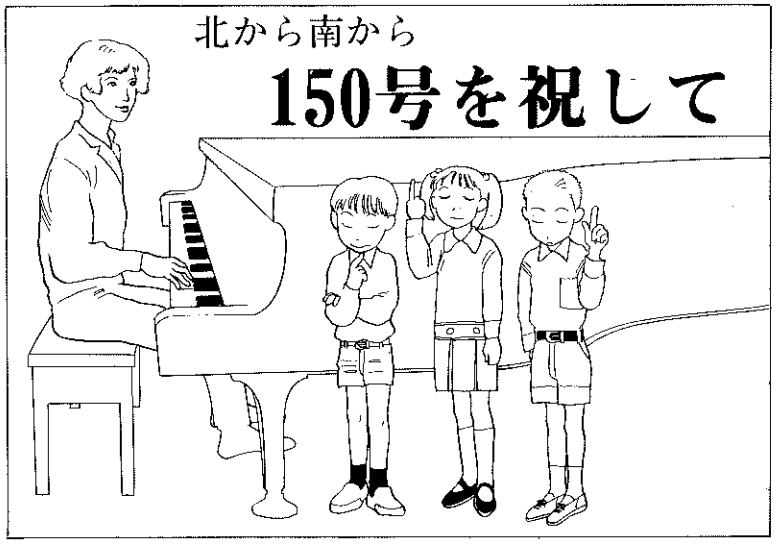
皆，より良い会にしていこうと張り切っています。どうぞ熊本支部をよろしくお願い申し上げます。

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

山家　寿
〒956 新津市秋葉1－2－8
TEL. 02502-2-1705

松本晋江
〒933 高岡市東上関231
TEL. 0766-23-8012

佐伯茂子
〒939-01 富山県西砺波郡福岡町下蓑
TEL. 0766-64-3009



祝　Our Music　１５０号

ありました、ありました。確かに保存しつつあるはず……と思いつつ今日になってしまい古いダンボールの中をのぞくと、Our Musicの90号からずっとそろってあり、なつかしく思いめぐらしております。私とピティナとの出会いは２度。１つは、20年程前です。地方の音大を卒業して、さてピアノを小さい子供さん達に教え始めたころ、友人から東京でピアノ指導者の為の講習会があるから行こうとさそわれて出席したのです。その時の場所も日時も忘れてしまいましたが、講師に安川加寿子先生、中村紘子先生がいらして、安川先生にはエチュードの大切さ、メトード・ローズ等の指導の仕方等の講義をうけたこと、中村紘子さんの黄色のきれいな洋服、手の小さい彼女でも練習の仕方でピアニストになれるという様な事を強烈な印象で覚えております。そしてそれからしばらくして、横浜で生活する様になり、ハタ楽器という店の人からＰＴＮＡという先生の会があるので、とおさそいをうけた時、さっそく会員にさせていただき、今日に到っております。この10年間は、とくに自分の子供の成長と共にＰＴＮＡに携わって来ました。子供は５才の時から検定とコンペティションを受けさせてもらいました。長男は小５の時Ｃ級で全国大会に出られた事が、今でも（15才になります）人生のはげみとなっている様です。下の子も何かいい事があるまで頑張ると言っています。そして何よりも私自身、曲の解釈からコンディションの調整まで、沢山勉強させていただいております。ありがとうございます。ＰＴＮＡの御発展を、心よりお祈り致しております。　　（横浜市・吉田　秋子）

ＰＴＮＡとの出合い

会報150号発刊、誠におめでとうございます。ＰＴＮＡと私の出合いは、1973年夏期研修会の案内状が我が家に舞い込んだ時から始まりました。今から17年前のことです。子育てが一段落して何か勉強したい気分で居た時で、「３日間の全コース出席者には、講師の先生方のサイン入り記念証書を差し上げます。」という宣伝文句も面白く思われ早速申し込みました。「もっと知りたい」気分旺盛なやる気の学生には、どの講座も大変面白く、全コース実に快適な手応えのある内容の研修会でした。それからは、自分の夏休みをゆっくり遊んだあと、ＰＴＮＡの研修会を聴講して、充実感を高めて締括るのが慣例になりました。

会場が渋谷のカワイサロンから第一生命ホールに移ってからは、年に一度必ずＰＴＮＡの会場だけで出合う芸大の後輩もあり、お互い何の約束もしないのに、会場では当然のように手を振りあい再会を喜び午ら休憩時間には一緒にお茶を飲み、講座の合間に昼夜二食を共にして心置きなく話あっては、「じゃ又来年！」と丸一日よい時を持った楽しい気分で別れるといったとてもよい関係が続いていた事もありました。又ある時、リーダーズダイジェスト社から思いがけず懸賞金が小切手で一万円送られて来た事がありました。さて何に使おうかという時、ＰＴＮＡの

わたくしたちの音楽　祝　創刊 150 号　OUR MUSIC

川口恒子
〒920 金沢市石引２－21－１
TEL. 0762-21-6883

堂田展江
〒914 敦賀市元町６－16
TEL. 0770-35-0453

村杉　弘
〒380 長野市上松２－８－２
TEL. 0262-33-3738

講習会に振り込んで、この使い道が一番有意義であると思ったりしたものでした。皆懐かしい思い出です。

最初の印象が大変よかったので以後ずっと御恩を忘れたくない気持ちを持ち続けていられるのだと思います。思い返せば長期に渡って、「指導者として」「学生として」「学生の母親として」実に沢山の勉強をさせて頂いているのがＰＴＮＡです。私の人生の丁度良い時に、「今」自分に必要な内容の講座を自由に選んで学ぶ事が出来る、そんな企画のある事、とその幸せを感謝しながら自分の能力相応に参加させて頂いています。講習会の間に講師の方それぞれのお人柄にも触れる事が出来、無言の内に人間としてのよい生き方も教えて頂く事が沢山あります。

ＰＴＮＡに検定制度がある事も指導者・生徒共々「演奏」や「勉強」の仕方の意識を高める良い機会になり嬉しいことです。私の門下生では現在延べ人数67名が受検しています。本当に有難うございます。何もかもスタッフの方々の日夜の御苦心あって成せる事と厚く御礼申し上げます。きっと私は創立者福田靖子先生のファンなのだと思います。先生のほとばしる時を得たアイディアと実行力・不屈の精神力に拍手を送り続けている思いです。ＰＴＮＡの益々の御発展を心より祈願する者の一人です。

（藤沢市・遠藤恵眞子）

音　楽　研　究

私の教室では高中小学生には音楽研究の課題に取組ませている。ある講習会でドイツ人の講師が、指先ばかり達者でもその作品の音楽イメージについて又作曲家さえも答えられなかった音大生の受講者に立腹した場面を見たり、バレリーナの森下洋子が踊る以前にジゼルの心の動きを深く研究するドキュメンタリーをテレビの画面に見その踊りに感動したり、指揮者Ｉ氏の本、作曲者Ｎ氏の言葉等々が私にこの勉強を思いつかせた。

私がまず試作をしてそれをもとに各自がレッスンの時間に10～20分位制作するという気の長いもので、合計28時間を費した生徒もいた。用紙の形式は、市販のいため紙を両面の表紙として中はラシャ紙を裁断してつなげ経文折にして大きさを統一、持運び展示保存を考えた。作品は学校に自由研究として提出したり、音楽会で発表して活用した。学校の音楽教師からお褒めの手紙もいただいた。

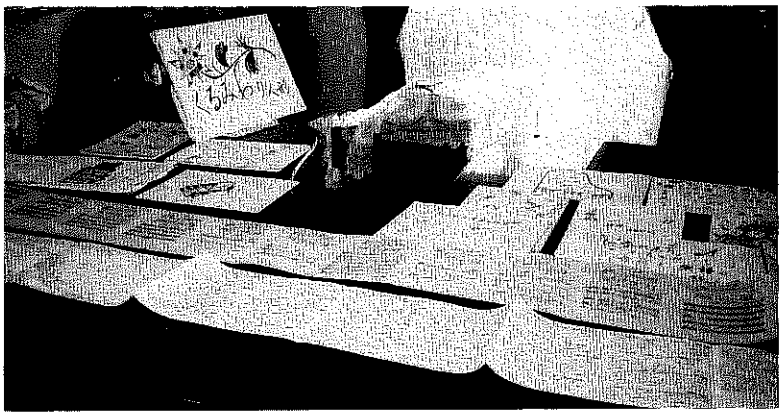
①「31人の音楽家」　バッハの誕生西暦1685年より少し以前からはじめ西暦、日本年号、徳川幕府歴代将軍名を３行に平行して記入し、その下部に各音楽家の生存年を棒グラフで表した。中学の音楽史に登場する人物は勿論、それにバイエル、チェルニー、ブルグミュラー、クーラウ、クレメンティ等ピアノの勉強に出てくる人物を人名辞典でしらべて加えた。次の頁から各人の簡単な説明を書いた。これは実際の音楽会にはお互いに演奏者にかわって作曲者の紹介司会をさせた。

②「作曲者の誕生日31日」　①に取組むには少し無理な低学年生向で月にとらわれず１～31日までの誕生日をしらべ、生年月日、国籍、説明の表を作った。本人も登場させ、表紙にはバースデーケーキを画いて満足していた。

③「春が来たをもとにした楽典の話」

春が来たを第１頁に書き、作詞作曲者の説明から楽典を各項目毎に説明し最後は指揮法に及び伴奏と指揮をさせた。

音楽研究の作品の一部

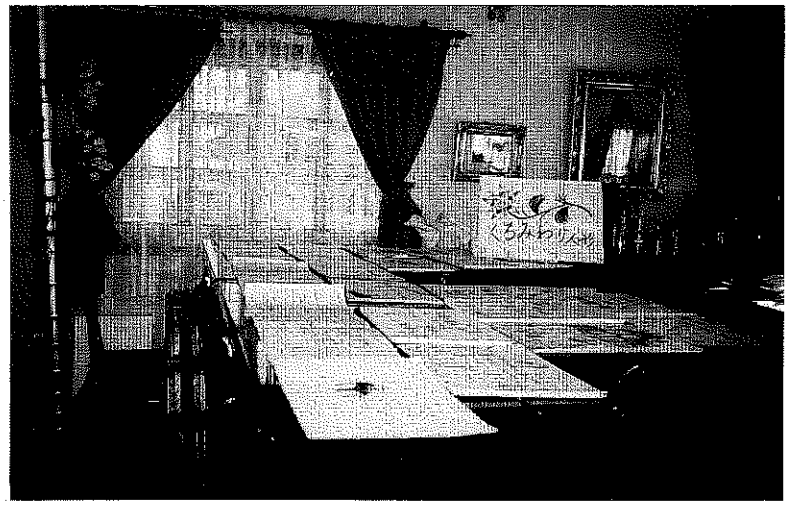


わたくしたちの音楽　祝　創刊 150 号　**OUR MUSIC**

夏目芳徳
〒381 長野市吉田２－26－11
TEL. 0262-43-1715

原　淳子
〒381 長野市桐原788－３
TEL. 0262-41-7200

幌村　隆
〒382 須坂市北旭ヶ丘７－52
TEL. 0262-45-4053



音楽研究の作品の一部

④「長音階と歌曲」　長音階12とその主要三和音と転回を記入し、その調によって作曲された日本歌曲を選び記入した。しかし変ニ長調とロ長調は見つからずピアノ曲にした。

⑤「グランドピアノが出来るまで」

私が浜松のヤマハ工場を見学に行きその資料を基に絵を主体にして簡単な説明を付けた。あらためてピアノをみなおし、管理、保存も学んだ。

⑥「ピアノは何人で演奏しますか」

ピアノの歴史に始まり、独奏、4、6、8手連弾、2台ピアノ、コンチェルトを各頁にピアノ型の紙を貼り、その前に手を書き入れて演奏状態を表した。右頁には、その楽譜のコピーを貼る。コンチェルトにはピアノとオーケストラの配置図とスコアのコピーを貼り、2台ピアノ作品との違いを説明した。音楽会ではそれぞれに受け持って演奏した。

⑦「くるみ割人形の音楽紙芝居」

連弾くるみ割人形の楽譜をもとに各場面2人1組で絵を画き、せりふをつけて演奏、舞台も作った。

⑧「音楽のイメージを絵に書く」

話をする。

⑨「リズム楽器のいろいろ」　楽器の写生をして、リズム譜を書き、演奏方法を学ぶ。音楽会では本人達が説明指導をしてお客様と合奏した。

（リズム研究会で学んだ知識を活用）

⑩「物語の朗読に伴奏をつける」等である。

生徒は楽譜の解説をよく読むようになり、作曲者や時代にも考慮しピアノ音楽に興味を深めた。年表の中には必ず本人を登場させピアノ修業中と書いた。表紙にはグランドピアノの絵、花の絵等美しく画かせ、内容のかたさを和らげた。完成するとその作品を持って記念撮影をし、それを貼った小さな証明書を発行して記念とした。家族も興味を持った。

専門家を育てる事も大切な事ですが、私は音楽を自分のものとして楽しむアマチュアを育てることを念願として私の音楽教室は今年で30周年を迎えたのである。

（川崎市・清岡　芳子）

絶対音感について

私の母が娘の頃、田中規矩士先生にピアノをお習いしたので、私も昭和19年頃から規矩士先生にピアノをみていただくことになりました。その時同先生は、私の耳に感心され、よく音のわかる娘が来たと言われて、奥のお部屋にすみこ先生（いろおんぷの）を呼びに行かれたことがありました。その後いろいろありましたが、私はＮＨＫ福井放送局に勤務ののち、民放の福井放送で毎朝、朝の童謡という番組の伴奏をしていました。その時の審査員の先生が、当時福井大学教授大給正夫先生で、（現在全日本ピアノ指導者協会の評議員）大給先生も、この人の音感は大したもので、ちょっと見当りませんとほめて下さいました。（右頁お国自慢タレント自慢の朝日新聞の記事のように）私は子供がどんな調子はずれに歌い出してもピタリと合わせて伴奏がひけました。今時は多くの方が絶対音感をもっていますが、その頃はまだ私のようなのは珍しかったようです。そこで今迄ずっと疑問に思って来たことを一つ書きます。器楽曲は作曲者の書かれた通りの調子で演奏されていますのに、日本の歌曲

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

武田久美子
〒389-22　飯山市飯山2009
TEL. 0269-62-3691

内田弘子
〒384-01　佐久市野沢223—25
TEL. 0267-62-2148

酒井貞雄
〒390　松本市大手4—11—2
㈱竹田楽器店内
TEL. 0263-32-4970

とか童謡など、歌う方の声の関係で移調されて歌われることがありますが、そういうのをきく度に私は、大きな違和感に襲われます。例えば、bの曲が♯に移調されると、全然違ったものにきこえてしまいます。又、例えば、ドビュッシーの月の光はbの曲ですが、あれを♯の曲に移調して弾いたら、月の光でなく、他の曲になると思います。私には音の幅が1米位あるように思え、戦時中電圧が下ると、レコードの回転も落ちて、音の中心からはずれるのがとても気持ち悪く思われました。作曲をされた方は、その調子で歌ってほしいと思われるのではないでしょうか。それから、これはピアノの勉強上仕方のないことなのかもしれませんが、ピアノの名曲をやさしく幼児向けに移調した楽譜が一ぱい出ています。例えば、ショパンの雨だれの一部分が簡単に移調されていたりすると、私の頭の中では、もう、曲の色が違って聞えてたまらなくなって来ます。絶対音感をもっていると曲の始めの一音をきいただけで、何の曲かがわかります。テーマ自由、どんなことでもと、おハガキを下さいましたので　長い間一人で悩んで来たことを、つい書いてしまいました。

（川崎市・黒田　恭子）

朝日新聞

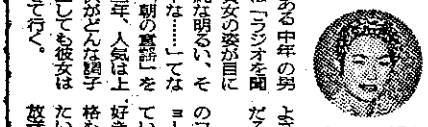
昭和32年8月17日　土曜日

お国自慢 タレント自慢

四つの時から上野出のおっ母さんにミッチリ仕込まれて二十年余、この間に福井で戦災や大地震にあい、大事なピアノをなくしたが、ダンゼン理解あるお父さんがピアノをいつもすぐに調達されたとのこと。いい家庭である。毎日三時間余のおけいこほ、ちょっとした労働だが、すっと続けられるのは、彼女の意思もさることながら、家庭のよさも多分に影響しているのだろう。

「朝の童謡」以外にも「花のコーラス」「若がえりましょう」と人気をいよいよ高めている。しかし本当は彼女が好きなドビュッシーなどの本格ものを方一杯やってもらいたいのだが…。（ラジオ福井・放送部長　山谷親平）

「この人の音感は大したもんで、ちょっと見当りません」と天給福大教授はベタほめである。一方子供にも大変な人気で、公開録音にでも出ると「サインをしてちょうだい」とワッと集り、身動きも出来ない。またある中年の男性ファンからは「ラジオを聞いていると、貴女の姿が目に浮びます。清純な明るい、そしてエレガントな……」ってな具合である。「朝の童謡」を手がけてから三年、人気は上るばかり。子供がどんな調子はずれに歌い出しても彼女はピッタリ合わせて行く。



「朝の童謡」（福井）

井上　恭子

150記念号に昔の思い出

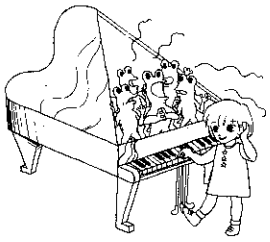
150記念号のご出版おめでとうございます。

振り返ってみますと、私は井口基成先生のバッハのインヴェンションとシンフォニアの講座を聞かせて頂いたのが最初でした。連続なので聞きに行かれない時がありました。その録音を福田靖子先生のご自宅で聞かせて下さると云う事で何回目はいつと云うのを聞いて巣鴨のロケット公園の側のお家に伺いました。7、8人位の集まりで録音を2時間位聞くといつもお菓子をご馳走して下さいました。

赤い模様の入ったゆかたを着た福田先生そっくりのお顔をなさったお幼稚園位の可愛いお嬢様がお姿を見せて下さったり、廊下でおばあ様とお会いしたりしました。今から20年位前の事で、その頃は東京音楽研究会と云っていたと思います。その名の残りが東音ホールではないかと想像しています。その中、会員がふえ、日本全国におよぶと東京と云う名が上についていると地方の方に都合が悪いので全日本ピアノ指導者協会と名前が変ったと伺いました。

いろいろなよい講座があり、1977年からコンペティションが始まり、すばらしく発展し、社団法人になり、立派な成長をとげたのは、福田先生の偉大なお力とご熱意の結果と感服して居ります。これからの益々のご繁栄をお祈り致します。

（世田谷区・内野　良子）



わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

木村峰翠
〒390 松本市中央3－11－5
TEL. 0263-32-1010

海谷　泉
〒383 中野市小館2－18
TEL. 0269-26-4080

青谷美恵子
〒501-61 岐阜県羽島郡笠松町下新町84
TEL. 05838-7-4596

この2年間に感激したこと

1988年10月1日に石橋メモリアルホールに於いてピアノリサイタルを開催致しました。その3年前にフトしたことで右手親指を痛め、完治するまでに1年かかりました。その間先生方皆様方の温かいお励ましを頂き勇気を出して挑戦致しました。当日は思いがけなく会場満員の大盛況で皆様の絶大な拍手をあびながらただ感謝の気持ちで無心に演奏させて頂きました。最後のアンコール曲花火を弾き終って楽屋に戻ろうとした時ステージに裏のところまでかけつけて一番に笑顔を見せて下さった福田先生のお顔に感激致しました。

1989年夏に福田先生から直接お電話を頂きました時に先生はおいくつですか？との事にびっくり致しました。実は生涯学習フェスティヴァルが幕張メッセのイベントホールで催されるのでそれにピアノ演奏してもらえないだろうか？とおっしゃり11月22日のリハーサルと11月23日の本番だけあけておいて…との事でした。でも指揮者との打合せやフォトの雑誌にのるからとの事で何度か夜に出かけていく事になりました。楽譜が立派なのが出来上がってそれを送って下さったのが割合に間近でした。楽譜を見ると大変に複雑でびっくりしました。三善晃先生の音楽相談で4人の作曲の先生方が作曲、編曲に大変に御苦労なさったあとが伺え誠に多彩な和音、メロディが織りなし優美な音楽の中に荘重さと雄大さが繰り出され、拍子がどんどん変ったり何小節はグリッサンドが連なっているという見事な曲でした。私はそのオープニング曲第1ピアノとフィナーレのストラヴィンスキー火の鳥の演奏を担当しました。当日は小澤純先生の名指揮のもとで私はその素晴らしいオープニング曲を一生懸命小節を数えながら演奏致しました。そのあとは文部大臣や千葉市長さんの挨拶がつづき又111台の大合奏で最後フィナーレのストラヴィンスキーの火の鳥を弾かせて頂き雄大な大合奏の美しい音楽を演奏させて頂きましたのは一生忘れる事のない感激でした。そのあとのパーティーで司会の先生の突然の御氏名をうけ戸惑ってしまいましたが、そのあとで40才位の美しい女性が私のところに寄って来て“先生おなつかしいです”45年に大学卒業しましたものですとの事でびっくりしました。もう子供が中高生になり主人と留守番してもらい滋賀県よりとんで参加させてもらいましたとの事でした。改めて20年振りに再会できて感激でした。今

ピアノの秋（一九八九年）

コンクール集ふ世界のピアニスト
緊張あふるる上野のホール

この日々に的をしぼりし各国の
ピアニスト等の競演聴きつぐ

鍵盤にふれる瞬間神の音
人を魅了すソ連の若人
（タラソフ）

会場に一人なるがに没頭の
ベルギー青年優勝成しとぐ
（シュミット）

二週間上野通ひに明け暮れて
世界のレベルしかとつかめり

幕張のメッセ会場埋めつくす
百十一台のピアノ大会

五才よりハ十才のピアニスト
大合奏にわれも加はる

音楽に明けて暮れけりこの日々を
幸と思ふ努力のあとに

（千代田区・園田　泰子）

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

杉浦日出夫
〒448 愛知県刈谷市銀座5―66
TEL. 0566-21-2587

津連絡所
〒514 津市八町1-9-16 ルナハイツ905
山田つづみ方
TEL. 0592-28-3214・05929-3-0799

山田つづみ
〒514 津市八町1-9-16 ルナハイツ905
TEL. 0592-28-3214
05929-3-0799

回このフェスティヴァルに主催なさった文部省の方々にピティナの会長様はじめスタッフの方々御一同様にはどんなにお骨折りの事でしたか全く敬服申し上げて居ります。会報150号近く発行なさいます御事に心よりお祝い申し上げまして今後益々のピティナの御発展を心よりお祈り申し上げます。**（小平市・明石　咸子）**

ゼミナール今昔“雑感”

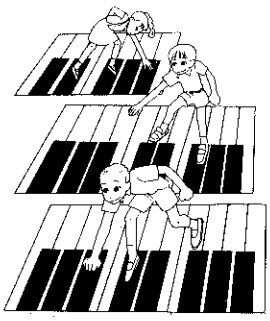
「100号記念号」がもう7年前となり、今回は「150号記念号」ということは、大変感慨深いものでございます。本当に心からお喜び申し上げます。福田先生が、「ピアノ教育がこれではいけない。」と強く思われ興された「東京音楽研究所」の頃より、いち早くピアノ指導者たちへの充実したゼミナールプランが組まれ、次々と開催されました。今日のように何事につけ、あり余る時代ではありませんでしたし、コンピューター、ビデオの普及も未だだしで、全く一つ一つ手作りの講座の感でした。私も折から、ピアノ指導について考えさせられる事が多い時機で、又、渇望して止まぬところの、国の内外で活躍される方々（ピアニスト、音楽教育者）のレクチュア（連続的なものも含め）を願っていましたので、隈なく参加し、しあわせでした。社団法人となった今日では、企画委員会で練られ、系統だって尚一層充実した公開レッスン、ゼミナールが催されて、ピアノ指導者たちの勉強の助長が計られていますことは、何よりも喜ばしい事と思います。

十数年前に、コンペティション、検定が起案され、実施された事も、昨日のように思い起こされます。今日の隆盛を見るにつけ、幼児からのピアノ教育を正しい方向に導き、その指導者方の研鑽を重ねられるためには、ピティナの検定、オーディションが大きくあづかって力あるものと確信します。音楽史一つ取って考えてみても、私たちは常に具体性をもって、生徒一人一人に接することを心がけたい、と思いますから、勉強の手は休められません。つい先日、或る本を求めましたが、かつて、もう50年も前に、トッホの「旋律学」を訳されて以来、一貫して著書の多い方のもので、前述のピティナ草創期のころのゼミナールで、今でも印象深い音楽史を持たれた時のことを、鮮やかに思い出し、たのしく読みはじめました。この感慨深い150号発刊に当り、あらためて若い世代の躍進を心からねがいます。ピアノ教育へのあくなき情熱をもって、新しい世紀へ進む後進を導いて頂きたいと思います。　**（杉並区・高木　紀子）**

150号をお祝いして

福田靖子先生、まずはおめでとうを申し上げます。1冊でも大変なのに150号もやってこられたバイタリティーに脱帽します。

思えば、今からさかのぼること約20年前、芸大を出てぶらぶらしていた私は、邦人作品を研究する会があることを聞き、大学で全然やってなかったのでふと訪ねる気になったのが福田先生との出会いです。原博さ



んや木下保さんの作品演奏会を通じて色々な人と知り合い、夢がふくらんでゆくのが楽しみな会でした。女性でこれ程までスケールの大きな会をしていらっしゃるのは当時の私にとって信じ難いことでした。その後、今は亡き野村光一先生や中村紘子さんの公開講座をなさる等面白い企画をどんどん計画されました。私が今も忘れられないのは、福田靖子先生の講座の感動です。3人のお子様を育てながらひらめいた事がこの会の母体になっている様ですし、又ショパンコンクールをお聴きになった時のご講演はポーランドの歴史を感じさせ、ポーランド国民が如何にショパンを必要としているかがひしひしと伝わってくる名講演でした。それに「和音調子のひとりごと」はいつも真先に読みます。ふと考えさせられ、はっとさせられるのです。読者からのメッセージも時に大変面白いものがのっていますね。これからもよりよいものをお作り下さい。

末筆ながら福田先生の御健康と益々の御活躍、そしてＰＴＮＡの御発展をお祈りしています。

（葛飾区・杉谷　昭子）

わたくしたちの音楽　**祝　創刊150号**　OUR MUSIC

吉村江美子
〒513 鈴鹿市阿古曽町6－7
TEL. 0593-78-5817

安田信子
〒602 京都市上京区大宮通五辻上ル東入ル
TEL. 075-451-1164

市川直子
〒625 舞鶴市字浜984－2
TEL. 0773-62-1368

ーピアノ教師の夢

昨年のクリスマスに私の親しくしているライプツィヒ音楽大学でピアノ科教授のサーリン氏から久しぶりで便りを貰いました。その中で彼の弟子がヨーロッパ青少年ピアノコンクールで1位になった事がチラッと書いてありました。

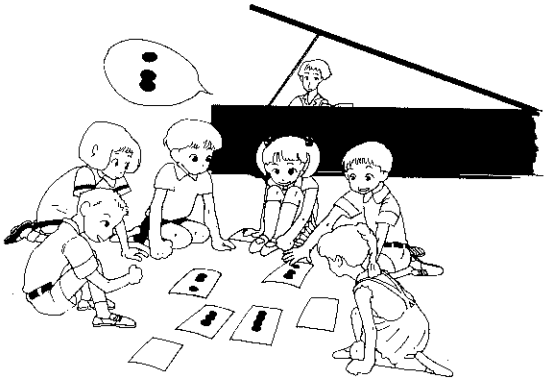
このコンクールはチェコスロヴァキアの保養地「ウスチ・ナト・ラベム」で毎年1回開かれる、主に東ヨーロッパを中心にした小中高生の為のピアノコンクール（Virtuosi per musica di pianoforte)です。3年程前、私が海外研修員として東独に1年近く滞在した折、このコンクールの客員審査員として招かれ一部始終をつぶさに見るという、とても貴重な経験をした事があります。

東西両ドイツ、チェコ、ルーマニア、ブルガリア、ポーランド、ユーゴ、ソビエト　ｅｔｃ．の各国からそれぞれその年選ばれた子供達とその指導教師が一堂に集い、技を競い合うものです。もちろん子供の事ですから、ここで入賞したからと言って将来を約束されるとか、多額の賞金を貰うと言ったものとは違い、むしろそうして日頃教師と共に熱心に学んだ曲をお互い演奏し、聴きあう事を通して子供達や先生方、そして審査の為に訪れた各国のピアノ教授達と親交を深め、刺激しあうと言うものです。6才～8才、9才～11才、12才～13才、14才～15才、と4つの部門に分けられ、それぞれに出された課題曲、自由曲を無心に弾く子供達、それを控えの席で、まるで自分の事のようにハラハラしながら手や体を振ったりして落ちつかない教師や母親、やっとペダルに足がとどくようになった男の子が、ソナタの緩徐楽章を感動的に弾く姿、ディズニーの漫画から抜け出て来たような可愛い金髪の女の子が、見事にスカルラッティを弾き大喝采をあび、そしてスカートの端をチョッとつまんでおじぎする姿等、目をつぶると今でもあの時の情景が走馬灯のごとく想い出されます。そしてその時私は、このステージにもっと多くの国々の子供達が国籍や人種を越えて一緒にピアノを通して集い合い励ましあう機会が有ったらなあと思いました。

先ずアジア太平洋地域の国々の中で日本が中心となり、各国の才能有る子供達や教師達に呼びかけコンクールを開き、その中で選ばれたアジアの子供達と、先のヨーロッパ地区で選ばれた子供達が一緒になって共演する場が設けられたらなんと素晴らしい事でしょう。東洋の子供達と西洋の子供達との音楽表現の違いについて、意外と面白い発見も有るかも知れないな、と思ったものでした。又この機会を通して私達と同じように世界各地で子供の指導に熱心にとりくんでいる先生方と親しく意見交換がはかれれば、又教師としても新鮮な刺激が得られる事でしょう。

昨年の夏、機会が有ってピティナコンペティション審査で東北、中部、九州の沢山の子供達の演奏を聴く事が出来ました。素晴らしい体験でした。加えて日本の子供達の高い音楽的レベルと指導者の優秀さに本当に感心いたしました。そうしてヨーロッパでの経験と思い合せて、いつかこうした日本の子供達に混じって香港、韓国、インド、フィリピン、オーストラリア　ｅｔｃ．の子供も一緒に演奏し、又素晴らしいピティナの先生方と共に、ある時はタイ、中国、アメリカ、ヨーロッパ　ｅｔｃ．の各地で、色々な国々の先生方と審査席で一緒に子供達の演奏を聴く日が実現出来たらなあと夢見ています。

（練馬区・迫田　時雄）



わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

大阪支部
〒541 大阪市中央区備後町3－3－9
静岡県産業ビル ㈱ディアパソン大阪営業所
TEL. 06-271-7846

野尻育子
〒560 豊中市春日町5-1-4-405
TEL. 06-843-3283

中西利果子
〒563 池田市石橋4－3－14
TEL. 0727-62-7275

おさらい会を始めてから

「わたくしたちの音楽」が近々150号を迎えられる由おめでとうございます。私も50～148号を保存しております。子供達とおさらい会をもつ様になって28年位たちます。1962年にはじまって、昨年1989年まで、年に2回発表会を開いた事もあり、36回位になると思います。毎年続ける事は、子供達のはげみにもなり、一生懸命に練習した成果の記念がはじめはテープ、レコード等で、この頃はビデオで残り、それぞれよい記念になっている様です。私も毎回ショパン、リスト、ベートーヴェン等の曲を演奏してきました。はじめに教えた子供達も成人して子供が出来たり、年賀状では近況を知らせて来てくれるので、楽しみです。昨年は、小さい子が5名位入ったので、幼稚園の先生の様な感じですが、毎日いろいろと楽しませてくれます。今は私立中をうける子が休んだり、都立高をうける子が休んだりしています。早く入学が決まって又落着いてピアノを弾きにくるのを待っている所です。　　**（品川区・牧　澄子）**

21世紀に向けて

記念号発刊おめでとうございます。200号、300号とますます発展して行く礎と、お喜び申し上げます。

私は大人の、しかも全く初めての方に「エリーゼのために」が弾けるようになるピアノ教室を開いています。この間、新聞を読んでいましたら「高齢化のピーク」という文字にガン！ときました。これから30年後の2020年頃には4人に1人が65才以上になるとかで行革審は社会保障についての素案を提出したとありました。国は私達のことを心配してくれているのだな、と思うと同時に心配される年令になっている事に気がつきました。トシをとることには、良いこともあって若い頃よりいろいろなことが見えてくる、と思います。約30年間もピアノを教え続けてきた今、自分が脂の乗ったいい先生になってきたなあ、とつくづく嬉しくなってきました。ところが世の中そんなに甘くありませんでした。近頃、小さいお子様をお預かりすると前と異なって上手に乗せられないし、乗ってこない、乗せることに苦しさまで思います。若い頃は何をしないでもうまく行っていたのです。生徒が道で花を摘んできて「ハイ」なんてしてくれてウキウキとレッスンが出来ました。最近は1時間以上かけて来てくれる生徒が増えているのに、それなのに、です。もしかしたらお母様が恐い先生だなんて間違った情報を流したのかしら、お母様のスカートの後にかくれてジーッと見ていて何も言わない、一度口を開いたら、「イヤダ！」。こっちだってイヤダ！です。何からでもレッスンできる様に年がいもなく春には小花の服、秋にはドングリの服その上シールを用意してクリスマス会、お楽しみ会を考えて頑張っているのに。合わないし、疲れる……考えてみたら脂が乗ってきたのは若くないという事です。子供が減り続けて育児の面では私達

が育てられた時とはあまりに事情が違いよく理解できないということもあります。増え続ける大人、減り続ける子供、この事に気づいてから10年、大人のピアノ教室はおいしい分野ではないかと思い始めました。15年程前、スイミングの先生が水泳なんか教えて仕事になる時代が来るとは考えてみなかった、と言っていたことが今や常識です。大人の絵画教室は結構盛んです。大人のためのピアノ教室をグループではじめて1年半、「エリーゼのために」を終って修了証書を手にした方は、7人になっています。大人の教室の生徒達は、ピアノを弾いてみたい、死ぬまでに「エリーゼのために」が弾けたら、と思ってきて、それだけなのです。そのことは老化防止になるし、ピアノの話が出来る仲間がふえて人生に色がついた、と喜ばれています。この教室は、これからの時代にふさわしい世の中の役に立つ、しかも自分に合って楽しくできる将来性のある仕事だと思っています。

（柏市・渡辺　圭子）

わたくしたちの音楽　**祝　創刊150号**　OUR MUSIC

沖本ひとみ
〒589 大阪狭山市大野台1-11-16
TEL. 0723-66-3236

大塚京子
〒563-01 大阪府豊能郡豊能町
新光風台5－13－9
TEL. 0727-38-5450

稲垣千賀子
〒666-01 川西市大和西5-5-13
TEL. 0727-94-2235

はじめまして

しばらくピアノからはなれていましたが、最近はピアノを出来る状態になりました。練習時間を取ることは毎日だと少々難しい気もしています。

違う仕事ですと、2倍くらい大変だったような気がしましたが、小さい子供達に教えるようになると、前よりも2倍くらい楽に感じます。

ピアノというのは、いつになっても、基礎が大切です。ほんの少しのなんでもないことが新しい発見になったりします。又、学び残しというものを発見すると、又新たな感動があります。「このような簡単なことを先生に聞いてはいけないのではないか」というような遠慮をしてしまって、わからないものもあります。それが、実は決定的な欠点となっていくことにならなければよいのですが、案外そのままにしておいてもどうにかなることがあるものです。

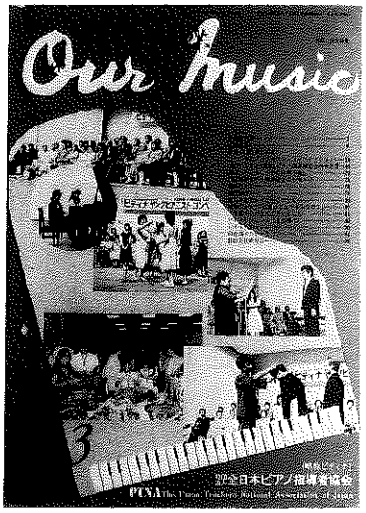
特に譜読みはたいがいの人は苦手のような気がします。読み方のコツや訓練次第で、上手になったりするとは思います。けれども、一たん譜面を嫌ってしまうと、「譜面はとても難しいものだ」と何一つ見なくなります。

私も譜読みはとても苦手で、新しい曲はゆううつでしたが、最近は少し慣れました。楽譜が読めないという大変さをはやく解決してゆきたいです。それが私の課題です。

これからもいろいろな課題を作って研究していって、何らかの小さな本が出せることが、私のゆめです。

音楽の素晴らしさがあらゆる人に浸透しますように願っています。

（千葉市　小川眞理子）



・133号　昭和62年11月

10年目のステップ

支部活動をして10年、それ程の実績が無いまま、早々と時が経ってしまった。私が音大を卒業し、そこで学び得たものを、どの様に社会に生かすか、自分の活動の場がまだはっきりしない時、ある楽器会社からの招きがあった。父親の関係もあり3年の期間を目処に、そこへ籍を置く事にした。昭和42年、その頃日本は東京オリンピックを境に高度成長の絶頂期にあった。消費は美徳、使い捨てなる言葉もこの頃の流行語ではなかったか。情操教育の必要性も国家を挙げて叫ばれたのもやはりこの頃ではなかっただろうか。絵を描き、バレエを踊り、ピアノを弾く、子供の世界がそこに広がっていた。国際交流が盛んになり、その頃すでに日本の文化は世界をリードし始めていた。私も広がる夢を求めて、この楽器会社に第一歩を踏み入れた。しかしその場は私の夢を広げるものとはならなかった。しかし今、そこは世界をリードする楽器の中心の場となっている。私は予定通り3年で退社してしまったが、私の活動の基礎がそこにあった事を、今も誇りに思っている。この昭和40年代、ピアノ等の音楽教育はブームの頂点にあった。なぜかそれをしないと世について行けない様な風潮があった。うまかろうが、へただろうが皆がバイエルを手にした。そして多くの子供達が1、2年で挫折をして行った。つまり全体を考えると、現在と比べてレベルはかなり低いものだった事になる。当然私が足を踏み入れた、子供の世界も同様のものであった。もっと活発に、世界に目を向け、レベルを上げて地域の文化に貢献しよう……その様な思いを膨らませている時、私は和音調子なる女史に巡り会った。昭和55年の事である。これがピティナこと全日本ピアノ指導者協会、ここには素晴らしき研修の場、国際情報網、音楽の中枢がここにあった。仲間がいた。私は隣県の先輩の助力もあって、すぐに柏支部を発足させた。世界のアーチストの演奏を地元で行い、子供のコンペティションと夢は大きく広がり、仲間も増えた。

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

秋谷和子
〒665 宝塚市仁川北3－7－43
TEL. 0798-53-1003

澤田酒造㈱
代表取締役 澤田定至人
〒639-02 奈良県北葛城郡香芝町五位堂167
澤田定子記念音楽院内
TEL. 07457-7-2015

真田晶子
〒713 倉敷市玉島黒崎5089－1
TEL. 08652-8-0152

しかし今世界が激動し様々な改革が進む中、ここ2、3年伸び悩んでいた。我が柏支部も、10年目のステップをしなければと思う。皆で新しい自分と出会ってみたいものである。

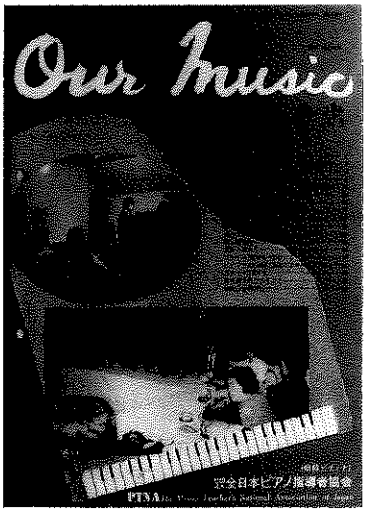
（柏市・柳沢　正純）

益々の御発展を

私はピティナ通信を存じ上げてから数年でございますが、創刊以来早や150号をお迎えになられますとのこと、心からお祝い申し上げます。地方在住の私共にとりましては、協会の一員としての心強さを与えて下さり、号数を重ねる度に、内容の充実をみて参りましただけに、大変嬉しく存じております。

ところで、私事小さい頃から書道、珠算、日舞等々色々なおけいこ事を嗜んで参りましたが、幼な心の中にも、はっきりした目的（級、段位の習得等）のあるおけいこ事の方を好んでおりました。そして、ピアノに関しては、音大という目標を持たない限り、唯練習のみ、何か張合いのようなものがなく、物足りなささえ感じたものでした。それに、小学生の頃と言えば、まだまだ自分の進路を決められる年令ではなく、幅広い経験が必要だと考えております。この様に思い、感じておりましただけに、種々の検定やグレード制度、コンペティション等が実施されます近年では、個々に合った資格習得が出来、大変喜ばしいことです。あらゆるチャンスの与えられる現代の子供達が羨ましい限りです。「人と比較する為に検定やコンクールに参加させるのではなく、子供達の努力目標、到達点確認の為の手段」として、上手に取り入れてゆきたいと、願っております。

それでは、協会の益々の御発展を心からお祈り申し上げますと共に、宜しく御指導の程、お願い申し上げます。　（鈴鹿市・吉村江美子）



・148号　平成元年12月

自分自身の“音楽づくり”

この度は、会報「わたくしたちの音楽」が150号記念号を迎えることができ、心よりお祝申し上げます。

日頃は、会報はじめ、コンサートの開催、公開講座などに触れることができ、私自身よい勉強になっています。会報には福井県支部発足時に「北から南から」のおたよりコーナーに載せていただきました。

私は昭和50年に大阪音大を卒業し、帰郷後、地道にピアノ指導に専念してまいりましたが、昨年は15回記念の発表会を開くことができました。教え子の中には、社会人として、よきお父さん、お母さんとして、また音大に合格し音楽指導者として巣立ったレッスン生も何人かでてまいりました。けっして厳しいレッスンでもなく、無理じいでもなくごく自然に音楽に親しみ、生活の中に常に心豊かな感情が養われるようにと願い、指導してまいりました。

音楽・ピアノを通して、精神的な病を克服した子供もいます。私は、もともと“ピアノ”を知らない両親（音楽知識があまり豊富でない……といった方がよいかもしれませんが）にすすめられてピアノを習いはじめましたが、技術一辺倒だけでなく、人間的な心と感情もかみあった、めぐまれた指導を受けることができ幸いだったと思います。妹も同じ音大を卒業し、共にコンサート活動をしましたが、結婚、出産、育児とそれぞれが忙しく過ごす毎日となり、なかなか自分の為のピアノを弾く時間はとれません。……が、何年か近い将来姉妹で楽しいコンサートを開きたいな…と夢は大きくもっています。

世はまさに音楽氾濫の時代でもあり、たやすく演奏会にも出かけられ、テープやＣＤなどで多彩に音楽鑑賞もでき、楽書も豊富に出版されています。各種のピアノコンクールや検定試験なども、自分の演奏力に自身を持てる機会や、チャンスが多く受けられるようになりました。

わたくしたちの音楽　祝　創刊 150 号　OUR MUSIC

武田宏子
〒760 高松市南新町6-4 池田屋ビル3Ｆ
TEL. 0878-31-9524
62-5491

武田音楽研究室
〒760 高松市南新町6-4 池田屋ビル3Ｆ
TEL. 0878-31-9524・62-5491

細田淑子
〒760 高松市番町１－９－10
TEL. 0878-22-7137

でもその中で、私達の過去に生きた大作曲家、演奏家のように、恵まれない時代になし遂げた偉大なる音楽の歴史や業績をふり返ってみて、私達はもっと純粋に受けとめ、自分自身の“音楽づくり”に努力していかなくてはならないと考えています。そして「ピアノの大好きな子！」に私達指導者は生きがいをもって音楽の芽をすくすく伸ばしてあげられるよう研鑽を積んでいかなくてはならないと考えています。そして会報「わたくしたちの音楽」がまさにその象徴であることを願ってやみません。　**（敦賀市・堂田　展江）**

スタインウェイとともに

今年は、割合に暖かいお正月で結構でした。何時も、色々とお世話様になりまして、誠に有難う存じます。下りまして、私今の所、心にかかる雲もなく、静穏な日々をすごして居ります。

去年の平成元年一月九日、新大阪東口を下りてすぐのダイヤモンドマンション704にスタジオを開きました。スタインウェイＯ型を入れて弾いていると、鈴を持った様な透明感のあるきれいな音がひびき、幸福な気分になれます。新幹線下車後10分以内に到着出来るので、旅行等にも誠に便利です。

今後はナニワ文化も楽しんでみたいと思って居ります。神仏に深い感謝を捧げると共に、ＰＴＮＡ様の益々の御発展をお祈りして止みません。

（京都市・安田　信子）

「うまくなる子とならない子 うまくなる子には秘密があった」

私の所に来ている真由美ちゃんという子のお話をさせて頂きます。

真由美ちゃんは、母子家庭の一人娘。家族はひいおばあちゃま、おじいさま、おばあさま、お母様、叔父様、真由美ちゃんの６人。経済的事情で、バイエルが終るまでの１年間ピアノは買ってもらえませんでした。

ちょうどバイエルが終る頃、あるコンクールを受けると１位になり、続いて学校の学芸会のピアノに何10人もの中からの２人に選ばれ、又々続いてピティナの演奏検定に合格しました。そういう事が続き、ごほうびにと、やっとの思いでピアノを手に入れる事ができた真由美ちゃんは大喜び。ただ単に「うまい」のではなくピアノで表現する事ができるのです。

それでどうして真由美ちゃんがうまくなったかというと、ただ人一倍練習するからとか素質があるからだけではありませんでした。それは聴いてくれる人がいる。ほめてくれる人がいる。周りから注目されている。この３つだったのです。

真由美ちゃんの家族は、全員おおらかでのんびりとした方ばかりなので心の余裕があるのです。１日１回は必ず誰かが真由美ちゃんのピアノを聴きに来て、とにかくみんなでほめまくるのです。そしてなぜか私の門下のお母様方が集まると真由美ちゃんの話題ばかりなのです。

やはり、御家族の方が聴いてほめる。これは簡単な様で一番難しい事ではないでしょうか。これを実行されてるお母様の子は、確実に変わっていきます。

（北九州市・赤間　京子）

特別来日

モーツァルト国際コンクール

最高部会委員 ── モーツァルトのピアノ曲の世界的権威

モーツァルテウム（ザルツブルグ）ピアノ科主任教授

ペーター・ラング ピアノリサイタル

Peter LANG

プログラム……モーツァルト　ソナタ K281・シューベルト　ソナタ D568・ブラームス　3つの間奏曲・シェーンベルク　3つのピアノ曲

4/23(月)宇都宮
宇都宮短期大学　須賀友正記念ホール
ＰＴＮＡ　栃木県支部

4/28(土)東　京
バリオホール　地下鉄丸の内線後楽園駅歩３分
問アビラック　コミュニティセンター
☎03-818-4151

他、4/19広島国際会議場にて、リサイタル。公開講座は、東京、大阪、広島、仙台、名古屋等の各地で開催。個人レッスン受講者特別募集中。

東京▶公開レッスン・4/14(土)4:00pm 予定 ヤマハ新宿ピアノシティ
レクチャー　・4/26(木) 午后 全日空ホテル お茶お菓子付
「モーツァルトに関するお話」

招聘元■　株式会社　東音企画　東京都豊島区巣鴨1-15-1　☎03-944-1581　・FAX 03-944-2130　担当　サイトウ
その他の招聘アーティスト（予定）６月アーサー・グリーン　12月リー・カムシン

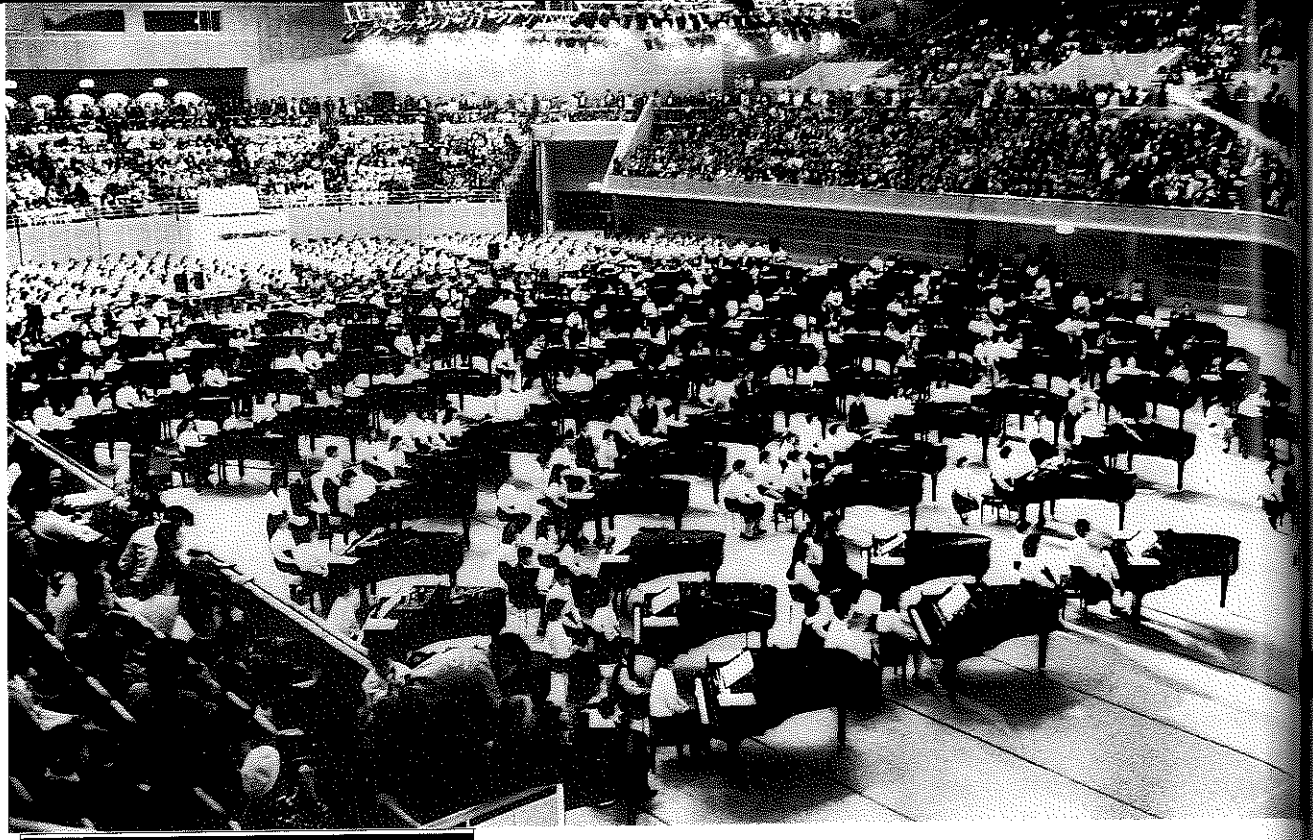
ピティナのコンクールは、今年で14年目。昨年は、12,297人が、全国からチャレンジいたしました。

褒賞総額・900万円（昨年度実績）

●後援＝文部省，東京都，讀売新聞社，日本テレビ放送網株式会社
●協賛＝ヤマハ株式会社，株式会社河合楽器製作所
●褒賞＝エッソ株式会社，学校法人洗足学園，株式会社ミキモト，ヒノキ新薬株式会社，味の素株式会社，ソニー株式会社，全日本空輸株式会社，社団法人日本絹業協会
●参加者数＝ソロ11,929人(のべ)　デュオ184組(のべ)
●部門・級・ソロ部門＝A２級，A１級，B級，C級，D級，E級，F級，G級，特級(ソロ及び協奏曲)・デュオ部門

▶第一次地区予選＝北海道から沖縄県まで全国約80ケ所全国各地で開始。
▶第二次地区本選＝16ケ所　●決勝会＝東京
▶ピティナヤングピアニストコンペティションの特徴＝
1)国際コンクールと提携をもち，招待演奏会に出演。(リーズ国際コンクール，シーナバックアワー国際コンクール，他)
2)審査員のサイン入り採点表の交付。
3)我国を代表する優れた音楽家によって審査され海外特別招聘審査員が地区本選より加わる。
4)課題曲はA_2～特級全９級のグレードがあり，年令制限の下限をなくし，それぞれのグレードが時代別の４つにわけられている。
（バロックスタイル・クラシックスタイル・ロマンスタイル・近現代スタイル）
5)特級課題曲(新曲)を公募。採用曲に10万円が与えられる。
6)４年目のデュオ部門の充実
▶要項御希望の方は，住所，電話，氏名，年令を明記の上，下記まで。

社団法人 全日本ピアノ指導者協会　〒170 東京都豊島区巣鴨1-15-1　☎03-944-1583



第1回生涯学習フェスティバル

公式ガイドブック

まなびたいのは、あたらしい自分。

まなびピア89 in CHIBA

世紀の大パフォーマンス
5歳から78歳までのまなびすとによる

111台グランドピアノ大合奏

文部省・千葉県・千葉県教育委員会・千葉市・千葉教育委員会・社会教育団体振興協議会で組織された第1回生涯学習フェスティバル実行委員会の主催する第1回生涯学習フェスティバルが，去る11月23日から27日までの5日間，千葉市に新しくできた幕張メッセに於いて開催された。

当初入場者10万人を見込んでいたが，初日だけで6万5千人の入場者が，5日間の入場者は24万人にも及び，予想をはるかに越えた大盛況の内に幕を閉じた。

11月23日の開会式の音楽を担当したのが，ピティナこと社団法人全日本ピアノ指導者協会。

上の写真（写真提供はミュージック・トレード社の澤野　優氏）を御覧いただきたい。前代未聞のグランドピアノ111台による5才から78才までのまなびすとたちの大合奏だ。実際に見た方々にしか，その壮観さはわかって頂けないかもしれないが。

この企画を考えたのは，福田靖子専務理事。文部省から依頼されそれを実行したいきさつは，会報148号の49頁にもあるので，ここではフェスティヴァルの公式ガイドに紹介されていることを再録しよう。

開会式プログラム

10:00　開場　10:20よりまなびすと約400名が入場してきた。この入場は前日のリハーサル一度目には，15分近くかかったものが，当日は3分で完了。

10:30 鈴木輝昭・池田哲美・鎌田実・中川俊郎4人によるオリジナル作品　生涯学習賛歌　カノン・エ・コラールが，評議員の小澤　純氏の指揮111名のレベルの高いまなびすとたちにより美しくピアノ合奏。

10:35 NHKチーフアナウンサーの松田輝雄氏の司会あいさつ。

10:36 千葉県知事沼田　武実行委員長あいさつ。

10:41 石橋一弥文部大臣が主催者あいさつ。

10:46 ハーバード大学教授で，元滞日アメリカ大使のエドウィン・ライシャワーからビデオメッセージ。

10:50 松井　旭千葉市長から歓迎あいさつ。

10:55 東京ディズニーランドからやってきたミッキーマウス，ミニーマウスと，アンバサダーのかわいいメッセージ。

11:00 グランドピアノ111台によるまなびすとパフォーマンス。

ビゼー／ジプシーの歌，ホルスト／惑星から火星と木星，ドビュッシー／夢，八橋検校／六段　ストランビンスキー／火の鳥がフィナーレを飾った。

文部省から依頼されその場でこの大合奏の企画案を出した福田専務理事は，この企画が果して有意義なものか確信を得るために，日頃から尊敬している三善晃先生にご相談に伺ったという。三善先生は，からからとお笑いになって賛同されたという。福田専務理事は，どうしてもオリジナル曲による大合奏を試みたくて，三善先生の御紹介により，前述の4人の作曲家に作品を依頼したのだと云う。

上写真：指揮の小澤純氏

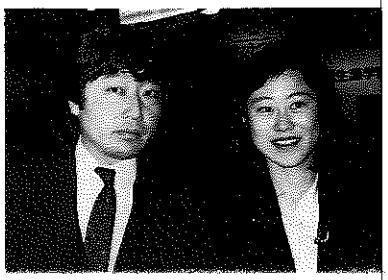
4人で一つの曲を作曲するというのは，世界でも始めてのことではなかろうか。ピアノを提供してくださったのは，ヤマハさんでリハーサル前日の11月21日に111台ものピアノが，幕張メッセに運び込まれ調律がなされたのだった。

さて，パート別の練習が必要だがそんな沢山のピアノが並んでいる所があるはずもなく銀座のヤマハさん柏のカワイさんまで御協力くださった。

お手本のためのデモテープの演奏者は，大澤朋子，竹内智子，原まり子，三宅由利子，山岡真弓，山崎洋子6名の皆さん。

この全体の実務の責任者は，右の写真に，文部省側の事務局長寺脇研氏と共に並んでいる澤崎由貴事務局員だった。指揮の小澤純氏とよく連絡をとり，よくがんばったものである。それに開会式のあとに開催された大正琴大合奏の折の司会は，正木麻里子事務局主任が，見事にやってのけた。大勢の方々の力の結集が，この大事業を成しとげたのであった。

下写真：ヤマハピアノを運び入れてさあパチリ



左が寺脇研事務局長，右が澤崎由貴さん

産経新聞

平成元年(1989年)11月24日　金曜日2

◆ピアノ111台　ダイナミック演奏◆

千葉市中瀬の幕張メッセを会場に二十三日開幕した「第一回生涯学習フェスティバル」で、グランドピアノ百十一台によるダイナミックな演奏が繰り広げられた＝写真。

ピアノの弾き手は一般公募による五歳から七十八歳までの四百二十人、東京交響楽団指揮者の小沢純氏のタクトに合わせ、オリジナル曲「カノン・エ・コラール」やビゼーの歌劇「カルメン」など六曲を一斉に奏で、五千五百人の聴衆を魅了した。

ピアノの調律はピアノを提供したヤマハの調律師十数人が約四時間をかけた、という。

第一回生涯学習フェスティバル開会式後に

福田靖子

開式終えて　感謝伝える　言葉なく
百十一台ピアノに
ただ　ありがとう

ピアノ大合奏

福田　春子

静けさは　ある十一の黒い蝶
半ばは　翅閉じ　グランドピアノ
ありあぐ　遠きタクトに　応ずの
視線をこめて　待ちし音湧く
若き指　幼なき指も　光のもと
ドビュッシーに和し　ホルストを歌う
打ちわたす　ピアノの海の上に立つ
虹かとも　風かとも　音の華ふ
（火の色）　ときく

1989年（平成元年）11月24日（金曜日）　12版　第2社会　26

1部（朝刊）80円（夕刊）30円　東京新聞

会いたいのは、あらしい自分

第1回生涯学習フェスティバルの開会式で、グランドピアノ11台のダイナミックな演奏＝千葉・幕張メッセで

まなびピア'89 幕張メッセで開幕

【千葉】文部省、千葉県などが共催する第一回生涯学習フェスティバル「まなびピア'89」（東京新聞など後援）が二十三日、「会いたいのは、あらしい自分」をテーマに千葉市の幕張メッセで開幕した。自由時間の増大、高齢化社会の進展などで生涯学習時代を迎え、シンポジウムや講演会、展示会などを通し生涯学習に関する情報・素材を提供するのが催しの狙い。

考えよう生涯教育

初日にどっと6万5千人

フェスティバルは二十七日まで行われるが、初日は家族連れなど六万五千人が繰り出し、関心の高さをうかがわせた。

開会式で実行委員長の沼田武千葉県知事が「幼児から高齢者の方まで家族ぐるみで楽しんで参加できるよう企画工夫されています」とフェスティバルを紹介。続いて石橋文部大臣が「このフェスティバルを契機として、学習という観点から自分自身を見つめ直し、クラシックの名曲をダイナミックに演奏、約六千百人の観客から拍手を浴びた。

イベント会場では、五千人参加の「ふるさとを学ぶ房総かるた大会」、ジャンケンや靴とばしなどゲーム、遊びで順位を競う「子どもチャレンジランキング・グランド大会」など人気を集めていた。

二十四日からは生涯学習見本市が開かれ、東京新聞コーナーの生涯学習システム展には十七社、二団体が参加する。

二十人がグランドピアノ百十一台、三十人が大正琴を使い、五歳から七十八歳の男女四百人が参加する。

この後、「民主主義は人々の知識で育てるもの。今こそ教育という概念を変える時」と呼びかけたライシャワー・ハーバード大教授のビデオメッセージが披露され、最後に一生涯学習に関する情報・素材を提供するのが催しの狙い。

初めてピアノを弾いた5才の息子

野崎　文貴
野崎ゆみ子

今回演奏者募集を見てすぐに，ぜひ私も参加したいと思いました。そして「5才から80才まで」の項目を見て，我家の5才になったばかりの息子にもこの体験をさせてやりたいと思い，「お母さんと一緒に出ようか？」と聞くと「ワァ，でる！　でる！」と大喜び，実は息子がピアノを始めたのは，これがきっかけなのです。

ドレミから教え，右手，左手がバラバラに動くようになった頃，楽譜が送られてきました。ホルストの「木星」この曲は以前，私が2台のピアノで弾いた事もある大好きな曲でした。

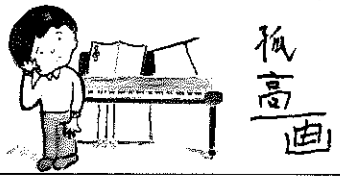
この曲が息子の初めての演奏曲になった事に，特別嬉しく，頑張ってほしいと思いました。

しかし，息子にとっては，むずかしい事ばかり。フラットや符点のリズムを覚えるのも大変。だけど同じテンポの中で止まらずに弾く事が一番の苦労でした。「ボク　でる！」と言った気持は固く，一生懸命練習して，当日にはすっかり自信を持って弾けるまでになりました。

演奏会場では，私と息子は右はしと左はしに別れてしまい，姿も見えなかったのですが，演奏はもちろんですが，あの長い時間，人の話や大きい人達にまじって一人でちゃんと行なえた事によく頑張ってくれたと，心から嬉しく思いました。

そして，翌日の地方新聞に，演奏者最年少の息子の名前も出るおまけもついて，二人してこんなに素晴しい体験ができたことに，とても感謝しています。本当に有難うございました。

（千葉県佐倉市在住　ピアノ指導者）



5才の娘と参加して

相澤　葉子

幕張メッセでの演奏からもうだいぶ過ぎてしまいましたが，今でもあの演奏時の緊張と迫力は忘れられません。これはテープでもビデオでもだめです。参加した人間ではないと味わえないものなのでしょう。私の場合，娘と参加したのでよけいにそう思うのかもしれません。本番まで毎日5才の娘（美幸）に練習させるのは大変でした。怒ったり，おだてたりして…。でも参加すると決めたのは美幸なのですから本人もがんばりました。もっともっとも彼女のは新しい洋服が着たいのと，ホテルに宿泊したいためでしたが。今でもテープを聞くと，「あ，これが私弾いた曲だ。幕張メッセでしたよね」。などとすぐにでてきます。親子の楽しい思い出となり，参加して本当に良かったと思っています。また何が機会があれば，また親子で参加したいと思います。

（群馬県桐生市在住　ピアノ指導者）

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

花崎桂子
〒760 高松市浜の町60-55-118
TEL. 0878-22-4722

池川礼子
〒761-01 高松市高松町3009-19-308
TEL. 0878-43-7221
43-3771

山内るり
〒780 高知市神田1433
TEL. 0888-31-7671

「心の支え」

植松　経彦

僕が夢中でピアノを練習して希望の東京音楽学校（現在の東京芸大）に受験願書を出した時代は軍国主義の色が極めて強くなりだした時期で特別警察・（通称特高と謂われ思想関係を取り締まった）が盛んに活躍した時代で僕が受験の前日になって受験しても官公立の学校へは入学させてくれないことが解り学校の職員室に密かに呼ばれ先生も泣きながら僕にあきらめることをすすめた。

永い期間夢中でやってきたピアノを諦めるか，志望校を変更するしか生きる道が無い。失望の余り「死」を選ぶことさえ考えもした。僕が一番尊敬もし大好きであった美術の教師が中心になって２日間かかって説得され「君演奏家だけでは音楽の世界は成り立たない。深く理解する人がいなくては駄目だ。君が理解者になって音楽の世界を立派にしてやれ」と諭され私立大学に入学することとしたのですが，この大きな心の傷は今でも消えていません。ピアノは好きだ。しかし演奏するたびに苦しい暗い影が僕の心の中で騒ぐので子供の勉強の妨げにもなるので大切なピアノを思い切り良く手放してしまい30年以上も経過してしまいました。

職業としてはハイテクの世界で47年間勤めピアノの実技からは遠退いていたのですが子供達もいなくなったし年もとったしまたピアノでもやろうか，と２年前に（他の人にきかれるのも嫌なので）電子ピアノを購入しこっそりと練習再開していました。永いサラリーマン生活に訣別し家に引きこもっていても何か落ち着かない。気持ちが不安定な時に僕の画友から生涯学習フェスティバルについてのお誘いを受け，それも実に丁重な真心一杯のお誘いなので僕はどうしてもやり抜こう，と決心しました。此の画友のご令嬢が極めて将来を嘱望されているピアニストです。この素晴らしいお嬢さんが私のことを覚えておられお父上を通じてお知らせをいただいたのですから，僕は「やってやるぞ」と引き受けたのですが永年のブランクは『４の指』は完全に『死の指』になっていたのですが遥かな青春が僕の胸に再び戻り夢中で稽古に励み，途中で妻が突然入院し，どうかすれば気持ちが滅入ってしまう危険があったのですが「演奏を完全なものにしたい」と謂う僕の決心は総べての苦しみを忘れさせてくれました。幕張に行った日も妻は病院にいましたが僕は総べてを忘れグランドピアノに熱中しどうにか人並みに出来た，という恥ずかしさもかくしきれない満足感を持ちました。本当に僕の生涯で意義深い演奏でした。演奏になじめたので今度は「懐メロ。メドレー」をやりたい，と思って過ごしています。

（現代水墨画協会評議員 雅号 孤高）

最長老の青木和子先生に感激

海老原ゑみ子

先日は幕張メッセで大変お世話様になり有難うございました。さぞ皆様大変な思いでございましたでしょうとスタッフの皆々様のご苦労を感謝申し上げております。

先頭で演奏なさる青木和子先生のご立派なお姿，司会の正木麻里子さんの見事なことなど，ピティナのために成功裡に終ったことを心からよろこんでおります。本当に有難うございました。

（当協会評議員）

門下生26名と共に

泉田由美子

生涯学習111台ピアノ大合奏演奏会には，教室の生徒，母親２名と，友人のピアノ指導者２名を含めて６才～56才まで26名（うち男性５名）参加させていただきました。始め29名申し込みましたが，貴重な男性３名が学校や仕事の都合で参加できず残念でした。

教室の発表会とはまた違った曲の選定や，大勢の方々と合奏できる楽しさと大変さ，生涯学習の意義など，色々な意味で各地が刺激されて，このチャンスに飛躍して欲しいと願っていました。私のところにある鍵盤楽器３台をフルに使って，一人でも弾けなくて困ることのないように，レッスン回数を増やし仕上げていきました。

前日のリハーサルと当日の本番というのは，とても大変なことでした。集合時間が朝早くて，子供をつれて参加できない親からは，朝６時に駅で待ち合せ，生徒をあずかりメッセの練習か終る頃，親に生徒を手渡す……とか色々こまかい配慮が必要でした。

終った今は，皆んなで楽しく当日の写真とビデオ，新聞，雑誌を見て喜んでおります。

関係者の皆々様，このようなすてきな機会を与えて下さいまして，有難うございました。

生徒の中より代表で，大島優子さんの「作文」と出席者26名の「写真」をお見せしたいと思います。

（ぱぴよんの会音楽教室主宰）

日本経済新聞　1989年（平成元年）11月24日

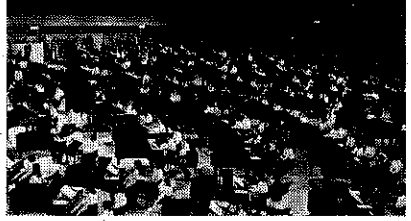
生涯学習 人生に潤い

まなびピア89

千葉の幕張メッセで開幕

文部省などが主催する第一回生涯学習フェスティバル「まなびピア89 nOGIBA」が二十三日、千葉の幕張メッセで始まった。目標は、二十七日までの五日間。「会いたいのは、あたらしい自分」のテーマの下で、講演や展示会などを通して生涯学習の在り方を考える素材や情報を提供しようという初の試みで、期間中の入場者は十万人が見込まれている。

開会式は午前十時半から、イベントホールで文部省関係者ら約六千人が出席したのち、石橋文相が主催者を代表して「このフェスティバルを契機として、学習という観点から自分自身を見つめ直すことにより、人



111台のピアノによる華やかな演奏も開幕を祝った（千葉市の幕張メッセで）

生が一層充実し、潤いのあるものとなるよう」と期待する。このあいさつの後、五歳から七十八歳までの男女約四百人が、グランドピアノ百十一台を使ってダイナミックな演奏を披露、華々しく幕開けした。

フェスティバルは①メーンセクション②イベントセクション③展示セクションの三部で構成。メーンセクションには「全国生涯学習まちづくりサミット」、手塚治虫の映画を特集した「まなびピア映画祭」（いずれも二十四日）、「ニューヨーク敬老国際シンポジウム」（二十六日）など、フォーラムやシンポジウムを中心に多彩な企画が組み込まれている。

イベントセクションではボックスホッケーなど七種のスポーツが楽しめる。展示セクションは三百以上の企業や団体がレジャーから観光、不動産に至るまで幅広く生涯学習時代を展望した商品や企業戦略を紹介する。

また「学校給食百周年記念大会」（会長・鈴木礼治愛知県知事）も二十四日から四日間の日程で開かれ、これまでの給食の歩みを振り返りつつ今後の在り方を考えるさまざまな催しが繰り広げられる予定だ。

ピアノ大合奏に参加して

植田　勇幸

この度，11台のピアノの大合奏という素晴らしい催しに，一般応募により参加させて頂きましたことについて，誠に有難く，関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。お蔭様で，ピアノ合奏をする愉しみを味わわせて頂いた丈でなく，私の人生の将来に対して，大きな窓が開けられたような気がします。

低く倒した譜面台越しに，小沢先生のタクトの先の動きを目で追いながら，張りつめた気持で一生懸命ピアノを弾きました。予期していたよりも美しく，効果的なピアノの音が湧き上がったのは，作曲と編曲に当って下さった先生方の才能と努力によるものであったのでしょう。

録音されたテープの演奏を聴いてみて，思ったよりも出来が悪かったのには，一寸がっかりしました。矢張り，練習が足りなかったと思います。特に，合奏練習について，前日のリハーサルのような型でもう一度やっていたら違っていたのではないでしょうか。

この体験で，私にとってピアノが大切であることが判りました。私は，昭和ひと桁の生れです。父の仕事の関係で，幼時は，上海に居りました。そこにピアノがあったのが，そもそもの私とピアノとの縁の始まりです。屢々，アメリカ人が遊びに来て，上手にピアノを弾きまくる姿に，いつも感動していました。戦前，戦中を通じて，男はピアノなど弾くものではないとされていました。それでも，私は，ピアノに魅せられたように，両手で音を組み合わせ乍ら，何かこっそりと，１人で悪いことをするような気持で，自分なりに良い音を探して愉んでいました。

戦後，父の許しを得て，１年半程ピアノを習いました。生涯で最も充実した愉しい時期でしたが，結局ピアノを諦めました。そして今，まさに，ピアノが私の生涯学習になろうとしています。

（杉並区在住
財団法人 日本航空協会参与 57才）

参加してみれば感動一杯

大畑　錦子

111台のピアノ大合奏？一体どんな状況になるのかしら，参加申込みはしたものの，近頃勉強不足の私にはとても無理ではないかと考え何度かキャンセルしたい等事務局にだだをこねた私でしたが「とにかく楽譜を見て決めて下さい」と云われ楽譜の到着を待ちました。さて入手した楽譜を見て又悩みましたが自分のパート決定の通知をみてホットしました。しかし私のレベルに合せて下さったものだと感心しました。

それからは仕事の合間，終了後に必死の気持ちで練習，家事は手抜きの仕放題，今迄学んだ先生方のお顔を思い浮べ，それぞれの先生方の御注意を思い出し，もっと自分の勉強時間をつくらなければいけないと痛感しました。

始めての地域練習，譜面台を最低にして指揮者を見て演奏する等始めての経験でした。いよいよリハーサル会場には111台のピアノがずらりと並びその見事さに思わず息をのんでしまいました。全ピアノがなり出し指揮者の苦悩の表情に申訳ない気がしましたが，参加出来て本当によかったと思いました。

本番，せまい集合場所で身動き出来ない状況，可愛い小さな私のピアノ仲間は元気一杯待ち時間を気持ちよく静かにさせる事に苦労しましたが会場内は熱気にあふれて居ました。

其後この小さなお友達からお手紙をいただき嬉しく思いお互いにこれからでもずっと勉強しましょうねとお返事を出しました。あの時にいただいたバッチのマナビーちゃんはいつも私の胸について居ます。

先日ビデオを持って実家に参りました。見おとしては大変とばかりにテレビにしがみついて見ていた母は，どこに居るの？いつ出てくるの？と大変なさわぎでしたが私の顔を見て大喜びをして居ました。戦後の苦しい時代に月謝の苦面をして私にピアノを習わせて

ふなばし朝日　1989年（平成元年）12月25日　月曜日

「グランドピアノ111台による演奏会」

78歳の保田さん（東船橋）活躍

「会いたいのは新しい自分」をテーマに，このほど千葉市の幕張メッセで開かれた「第一回生涯学習フェスティバル～まなびピア'89 IN CHIBA」（文部省・千葉県など主催）の開会式で，百十二台のグランドピアノによるダイナミックな演奏が行われ，華やかにオープニングを彩った。

演奏曲は，「ジプシーの歌」（ビゼー）や「夢」（ドビュッシー）等クラシックの名曲，八曲。大正琴三十台も共演し，和洋楽器によるハーモニーが聴衆を魅了した。

一般公募による出演者は三百七十二人。五歳の幼稚園児から学生，主婦，ピアニスト，教師などさまざまだが，参加最高齢は東船橋七丁目に住む七十八歳の保田芳郎さん。かくしゃくとして，生涯学習の実践を披露，「ピアノは指を使うので頭全体を機能させる。年を取ってもボケなくて良い」と楽しそうに話す。

保田さんは，徳島大学名誉教授。長年，ピアノの指導に情熱を注いできた。現在は全日本ピアノ指導者協会理事，日本教育音楽協会監事として，その運営やコンクールの審査などに奔走している。

四国女子大学名誉教授の美智子夫人らと共に，徳島から船橋へ引っ越して二年。居間には二人の愛用するグランドピアノが二台。今は趣味として楽しみながら弾き，CDを聴く毎日だ。

「教え子の活躍が一番うれしい」という保田さんは，昭和十年に東京音楽学校を卒業後，教育ひとすじの人生。五十八年に勲三等旭日中綬章を受章している。「今回メッセで一緒に出演した大勢の若者たちが，これからどんどん成長していく事を思うと，日本の将来が楽しみです」と，笑顔がこぼれた。

「今はカラオケ全盛だが，ピアノも良いですよ」と保田さん

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

白井美樹
〒763 丸亀市六番丁４－47
TEL. 0877-22-3897

森木洋子
〒780 高知市鷹匠町２－２－23
TEL. 0888-72-8467

森本みどり
〒780 高知市朝倉丁1925－26
TEL. 0888-44-2182

くれた母。当時実家にあったピアノを買い取り，更に私に練習のために自由にピアノを使わせて下さった学校の担任の先生のおかげで今の私があるのです。

この幸せを与えて下さった私のまわりの多くの方々に感謝し今の幸せを指導者として将来ある子供に分け与える事が出来たら更に幸せです。

（ピアノ指導者　54才）

「生涯学習フェスティバル」に参加して

大島　優子

普段お世話になっている先生に薦められて「生涯学習って何だろう？」と思いながらも「111台のグランドピアノ」にひかれて参加を決めました。送られてきた楽譜を見ながら，「本当にこんなことが出来るのだろうか。」と思いました。毎週のピアノのお稽古の時には2台で違うパートの人と練習をしましたが，本番はその55倍，全くどんな風になるのか想像もつきません。先生とも毎週のように「どうやってピアノを並べるのか？」「111台のピアノってどんな音がするのか？」などと話しては，頭をかかえるばかりでした。

そんな中，銀座のヤマハでの練習へ行きました。ずらっと並んだピアノ。それでも20台前後しかありません。みんなで合わせた時には感動しました。そうして，11月22日のリハーサルの日が来ました。イベントホールに入ったとたん，私の目にとびこんできたのは今まで見たこともない数のピアノ。ピアノの間をぬってやっと自分のピアノにたどりつき高まる気持ちを静めるかのように，いすに座りました。111台のピアノが同時に鳴った時は，感激のあまり，思わず身震いしてしまいました。

そして，とうとう本番の日がやって来ました。練習のかいあってすばらしい演奏ができました。111台のピアノでの迫力ある演奏に感動したのはもちろんですが，それ以上に，年令も職業も違う様々な人が集まって一つのものを作り上げたということに大きな喜びを感じました。年配の方がなんとも楽しそうに，生き生きとピアノをお弾きになっているのを見て，たいへんうらやましく，私も一生ピアノを続けようと思いました。こういったことが，真の生涯学習なのではないでしょうか。

ピアノを通しくたくさんの人々と出会えたことに感謝します。そして，高齢化社会に向かってお年よりと子供がふれ合う場として，こういったフェスティバルがいろいろな分野で行なわれ，人々がそれをはげみとし，お互いに学び合うことができたらどんなにすばらしいでしょう。

（日本女子大　1年）

感謝状

社団法人
舎本ピアノ指導者協会殿

貴団体は第一回生涯学習フェスティバルの開催に当たりその趣旨に御賛同いただき多大な貢献をされましたよってここに感謝の意を表します

平成元年十二月三十一日

文部大臣　石橋一弥

ピアノ出演者はプロからまったくの初心者まで

参加することに意義あり，をモットーに当協会々員のみならず，広く公募したところ約550名の応募があった。

その後，ようやく楽譜ができてきて送ったのちに，練習時間の都合がつかないなどにより無念にも不参加とした方がいて，次頁の方々により演奏が行われたのであった。

「あんな有名なピアニストも御一緒だったのなら，サインでも頂いておけばよかった」とは，文部省勤務のエリートの言葉。主催者側としてあんなに多忙をきわめた文部省のお役人さん方も大勢参加しておられるのが，名簿からおわかりと思う。

家族で出演してくださった方々を御紹介すると，次のようになる。もっとおられるかもしれないが，事務局でわかっている方々のみお知らせする。

数字は年令，とくにことわっていない関係は親子。

相澤　美幸　5
相澤　葉子　34　作文参照

野崎　文貴　5
野崎ゆみ子　35　作文参照

湯本　典子　10
温本　陽子　39

折笠くみ子　6　妹
折笠　悠太　9　兄

太田みずき　6　妹
太田あすか　10　姉

神田　喜崇　7
神田優有子　33

鐘崎　太一　7
鐘崎　久江　34

中出はるか　7
中出　純子　35

新井　理子　6
新井　史子　7
新井　まり　36

佐藤　理恵　6
佐藤　正幸　8
佐藤　玲子　33

小林奈那子　8
小林美保子　35

矢木あすか　8
矢木あゆみ　9
矢木まり子　34

尾形　良子　9
尾形　京子　37

三浦　弘子　9
三浦　明子　11
三浦喜代子　39
三浦　　博　40

湯本　典子　11
湯本　陽子　39

宮本　光恵　12
宮本　聖子　43

新井　まり　36　妹
伊藤とも子　39　姉

松崎　伶子　47
松崎　俊三　72

下写真：作曲者左から鈴木・池田・鐘田・中川の各氏

◎ビデオであなたも感動を !!

第1回生涯学習フェスティヴァル開会式の模様を**ビデオ**で御覧下さい。あとわずか在庫がありますので，ピティナ購売部へ。03(944)1581

会員￥7,020-　一般￥10,300-

111台グランドピアノ演奏者

相澤　美幸 5 樹徳幼稚園年中
野崎　文實 5 志津幼稚園
飯山可奈子 6 江東区立豊洲幼稚園
太田みずき 6 世田谷区立八幡小学校1年
折笠くみ子 6 印旛郡印西町立内野小1年
佐藤　仁美 6 相模原市立橋本小学校1年
佐藤　理恵 6 東中原幼稚園年長
村木　舞子 6 松戸市立中部小学校1年
深澤みゆき 6 聖徳短大附属幼稚園年長
伴戸　寛憲 6 津市私立高田幼稚園年長
井上　優香 6 第一亀戸小学校1年
新井　理子 6 私立児玉保育園年長
滝沢　由梨 7 佐倉市立志津小学校2年
神田　喜崇 7 台東区立根岸小学校1年
高橋　　花 7 横浜市立港北小学校2年
伴戸　香月 8 津市立一身田小学校2年
檜谷由香里 8 東村立東南小学校2年
林枝　美理 7 松戸市立相模台小学校
新井　史子 7 児玉町立児玉小学校2年
真野　雅規 7 千葉市立緑町小学校1年
中出はるか 7 横浜市立篠原西小学校1年
上原弥栄子 8 大田区立東調布第一小2年
早川亜沙子 8 千葉県千葉市真砂第四小2
大住　理紗 8 仙台市立連坊小路小学校2年
小林奈那子 8 千葉大学教育学部附属小学校3年
岸波　優子 8 船橋市立飯山小学校3年
山川真喜子 8 私立東京文化小学校
若山　直子 8 調布私立滝沢小学校2年
末吉　香織 8 杉並区立和田小学校3年
佐藤　正幸 8 平塚市立松ヶ丘小学校2年
浅沼　　悠 8 青山学院初等部2年
手塚きくか 8 松戸市立旭町小学校3年
夜久　陽祐 9 篤籠町小学校4年
矢木あゆみ 9 指ヶ谷小学校4年
岩下しのぶ 9 柏市立柏葉第五小学校3年
山崎　華子 9 千葉市立あやめ台小学校4
山内　理恵 9 成田市立玉造小学校3年
石原　香代 9 甲府市立湯田小学校4年
三浦　弘子 9 松戸市立和名ヶ谷小学校3年
折笠　悠太 9 印旛郡印西町立内野小3年
深澤　優一 9 松戸市立和名ヶ谷小学校3年
林　　奈穂 9 東京学芸大学附属竹早小学校4年
尾形　良子 9 八千代市西高津小学校3年
鎌崎　太一 7 市川市立市川小学校2年
真野紗基子 9 千葉大教育学部付属小学校3年
藤崎　宏典 9 市川市立平田小学校3年
外山　賢悟 9 市川市立平田小学校3年
中島　彩美 9 国立市立第三小学校3年
山倉　宏望 9 江戸川区立平井第二小学校3年
斎藤　冴子 10 立教女学院小学校5年
古田　有希 10 豊島区立仰高小学校4年
石川　めぐ 10 文京区立駕籠町小学校4年
矢木あすか 8 指ヶ谷小学校2年
太田あすか 10 世田谷区立八幡山小学校4年
岡崎　広子 10 世田谷区立祖師谷小学校4年
高橋　元子 10 杉並区立藤並第十小学校4年
菊地　絵里 10 千葉市立真砂第四小学校4年
板橋　由貴 9 船橋市立飯満山小学校3年
佐藤美千代 10 千葉市立千城東小学校5年
田久　紗弥 9 木更津立祇園小学校3年
戸田　　愛 10 木更津市立請西小学校4年
中島由紀子 10 南桜井小学校5年
坂本　リナ 10 文京区立駕籠町小学校4年
平野　裕子 10 世田谷区立祖師谷小学校4年
須賀　雅久 10 県立越谷市立増林小学校4年
向井麻里子 10 江東区立豊洲小学校4年
山田　　愛 10 江東区立東雲小学校5年
川勝　圭悟 10 市川市立若宮小学校5年
手塚まあさ 10 松戸市立旭町小学校5年
園部　浩之 10 佐倉市立根郷小学校
奥野　正人 10 佐倉市立根郷小学校4年
西山　達也 10 船橋市立市場小学校4年
葛谷　華子 10 長野市立古里小学校5年
坂東豆希子 10 江戸川区立平井西小学校5年
三竹　詩乃 11 平塚市立松ヶ丘小学校5年
藤井　裕子 11 千葉市立小中台小学校6年
波多野陽子 9 船橋市立飯山満小学校4年
湯本　典子 11 千葉市立千城台東小学校5年
藤田　素子 11 千葉市立幕張南小学校6年
関　　香織 11 千葉市立幕張小学校6年
三浦　明子 11 松戸市立和名ヶ谷小学校5年
前田　尚子 11 江東区立臨海小学校6年
森山　　綾 11 松戸市立梨香台小学校6年
松尾有希子 11 成田市立中台小学校5年
黒川　重雄 11 佐倉市立根郷小学校5年
越川　延明 11 佐倉市立根郷小学校6年
豊田　妙子 11 横浜市立菊名小学校6年
久田　幸史 12 三重県員弁郡東員町立笹尾西小6
茎田　　全 12 市原市立有秋東小学校6年
鈴木　理恵 12 千葉市立稲毛小学校6年
丸山　るみ 12 四街道市立旭中学校1年
宮本　光恵 12 品川区立荏原第五中1年
伊藤　薫夜 12 慶應義塾幼稚舎6年
高橋　一磨 12 君津市立八重原小学校6年
並木　智洋 12 佐倉市立根郷小学校6年
磯崎　　創 12 佐倉市立根郷小学校6年
内藤　紘充 10 船橋市立飯山満南小学校5年
茅野　裕美 13 私立明星中学校
小池　博史 13 成田市立吾妻中学校1年
並木　里絵 13 千葉市立越智中学校1年
香取　　力 13 豊島区市西巣鴨中学校2年
佐々木　彩 13 嘉悦女子中学校
小手　洋子 13 市原市立東海中学校1年
富永　　光 13 周西中学校1年
野木　園子 13 浦安市立富岡中学校2年
今野　正仁 13 江東区南砂中学校
下平　浩子 14 文京区立第十中学校2年
村上　順子 14 千葉市立真砂第一中学2年
野尻久美子 14 沼南白百合学園中学校2年
岡田　史世 14 印西町立木刈中学校
大柴　英和 14 木更津市太田中学校2年
野口真樹子 14 東京家政学院中学校
和田美弥子 14 私立三輪田学園中学校
加藤　大介 14 文京区立第九中学校2年
波多野正泰 13 文京区立第九中学校1年
小久江光恵 14 品川区立東海中学校2年
今尾衣都美 14 野田市立川間中学校2年
中村　承平 14 富津市立富津中学校2年
鈴木　宏幸 14 文京区立第十中学校2年
飯田　恭子 14 杉並区立神明中学校2年
米山　悦子 14 浦安市立富岡中学校2年
大島　　純 15 東京都立戸山高校1年
川崎　晶子 15 湘南白百合学園高校
江川貴美子 15 国立筑波大学附属中学校3
赤星　晴美 15 千葉県立富里高校1年
大竹　綾子 15 神奈川県立相模原高校1年
泉　みどり 15 中学校3年
押田由喜子 16 国立音楽大学附属音楽高校
恩田　直樹 16
安藤　由理 16 茨城県立土浦第三高校商業科1年
小池　正徳 16 千葉県立成田北高校2年
黒田　有里 16 名古屋市立北高校
小林香代子 16 長野県立松本蟻ヶ崎高校2年
四十物美絵子 16 神奈川県立相模原高校1年
鵜沢　　覚 16 茂原市立長木高校1年
佐藤久美子 17 千葉県立千城台高校2年
萩原　詩子 17 相模女子大学高等部2年
監物　真樹 17 千葉県立君津高校2年
赤堀　エミ 17 松商学園高校2年
大木　　円 17 千葉県立幕張西高校2年
三好　園子 17 千葉県立幕張西高校2年
原口　広輝 17 千葉県立幕張西高校2年
二宮　　淳 17 千葉県立幕張西高校2年
後藤三千代 17 大阪府立茨木高校2年
菊地　薫子 17 白百合学園高校2年
善家　禎恵 17 県立長後高校
高橋　利砂 18 茨城県立那珂高校3年
江川友紀子 18 都立三田高校3年
カイザーマリ 18 清泉女学院高校3年
久保田美保 18 長野県塩尻高校3年
池田　智美 18 神奈川県立菅高校3年
田中　智子 18 神奈川県立菅高校3年
斉藤　操子 18 桐朋学園大学音楽学部作曲科
桑原　利江 18 東京家政大学短保育科1年
井上　和恵 19 東京芸術大学ピアノ科2年
原　まり子 19 東京芸術大学1年
小森谷有美子 19 東京コンセルヴァトワール尚美
稲見　由紀 16 私立麴町学園女子高校1年
大島　優子 19 日本女子大学家政学部1年
井田　順子 19 和泉短期大学2年
小林　奈々 19 予備校生
大沢　朋子 19 武蔵野音楽大学ピアノ科3
岡田　佳子 21 国立音楽大学ピアノ科3年
柳沢　純子 20 東京音楽大学3年
内田　桜子 20 明治学院大学社会学部1年
吉井佐智子 20 武蔵野音楽大学3年
大野　素生 20 千葉大学取学部数学科2年
安藤　真理 20 自宅浪人
岡本美緒里 21 東京芸術大学4年
大槻千賀子 21 武蔵野音楽大学ピアノ科
井出　泰介 21 早稲田大学商学部1年
鈴木志保子 21 青山学院大学文学部2年
安井　　精 21 豊橋技術科学大学4年生
京極　喜子 21 三菱重工業
杉原　和美 21 武蔵野音楽大学作曲科3年
渡部　優美 21 武蔵野音楽大学3年
細谷理恵子 21 住友商事㈱勤務
大西　寛子 22 武蔵野音楽大学ピアノ4年
三宅由利子 22 東京芸術大学4年
清水　正之 22 早稲田大学政経学部4年
早瀬　志野 22 フリーアルバイター(ピアノ)
棚橋　信代 20 会社員(CADオペレーター)
谷澤真由美 22 文部省
小泉　　潤 22 東京理科大学4年
中山　美佳 23 文部省
俵木　陽子 23 ヤマハスガナミシステム講師
梶原たをり 23 ヤマハ音楽教室講師
岩本　園美 20 日本大学芸術学部音楽科3年
内田　久子 24 会社員
古川　里香 24 竹田楽器店
高橋　　睦 24 (財)社会福祉振興試験センター
柳田　幸枝 24 ピアノ指導者

111台グランドピアノ演奏者

児玉　弘美 24
星野由紀恵 24 文部省
中薗知佐子 24 日本銀行外国局勤務
和田知恵子 24 ピアノ指導者
中山　規子 24 専門学校ピアノ指導者
上神　純子 24 文部省
萩原かづ代 25 ピアノ指導者
山本佐保子 22 東京大学4年
田澤真奈美 25 ピアノ指導者,㈱コンドー楽器
加藤久美子 25 ヤマハプランズ豊田店勤務
高木　則子 25 ピアノ指導者
佐藤　安紀 25 文部省
後藤　国彦 25 学生
成田ますみ 25 ピアノ，リトミック講師
鈴木　規子 25 文部省
高須　久実 26 ヤマハピアノ指導者
木下　珠理 26 会社員
山口恵津子 25 ピアノ指導者
黒木　俊秀 26 洗足学園大学
藤浪　明子 26 ピアノ指導者
船戸　浩樹 26 東海印刷㈱業部務勤務
森　晃憲 26 文部省
橋野　聡子 26 文部省
上村　盛尚 27 ピアノ指導者
森　涼子 27 株式会社ホーメル経理部勤務
岩本寛由美 27 ピアノ教室主宰
原島　典子 27 東京医科大学病院薬剤師
藤田　修子 27 ピアノ指導者
中山　美子 27 石川雅子ミュージックアカデミー
神田　葉子 27 塾講師
神代　浩 27 文部省
中澤　浩二 27 津田沼高校教員
渡邊　由美 28 ピアノ指導者，主婦
鹿倉　直子 28 ピアノ指導者
木村香代子 29 無職
鈴木　元子 28 主婦
太田ひろみ 28 名古屋市「サンフード」勤務
中山　邦夫 28 生浜高校教員
伊藤　泰恵 28 フリーライター
秋山　徹也 28 ピアノ指導者
田代慎之介 29 ピアニスト・指導者
武佐　秀美 31 ピアノ指導者
根津　恵里 29 ピアノ指導者，ピアニスト
山口　順子 29 ピアノ指導者
吉岡　順子 29 家事手伝い
小川　孝司 29 東金市役所公務員,福岡公民館勤務
石川のえみ 30 主婦
伊藤　陽一 30 流山北高校
平下　文康 30 文部省
井上　詞子 30 ピアノ指導者
佐土原知子 30 ピアノ，エレクトーン指導者
山川　節子 30 ピアノ指導者
久原由美子 31 ピアノ指導者
八木ひろみ 30 朝日住宅株式会社
宝伏　千尋 30 主婦
伊藤　陽一 30 流山北高校教員
長島　茂 30 千葉県立布佐高校教員
奥平　純子 31 洗足学園大，昭和音大講師
木村理恵子 31 ピアノ指導者
五十嵐千春 31 文京区保育園保母
竹内栄子　31 ピアノ指導者
加藤由美子 31 作曲家兼ピアノ指導者
川上　啓太 32 ㈱東京銀行本店証券管理部
川俣　典子 32 ピアノ指導者
重田奈緒美 32 ピアノ指導者
飯田しのぶ 32 ピアノ指導者
加藤　智子 32 桐朋学園附属書楽教室講師
笹谷　敬子 32 ピアノ指導者
惣脇　宏 32 文部省
俣野　修子 33 京都市立芸術大学講師
根津　愛之 33 根津内科医院院長
永田　裕子 33 ピアノ指導者
小林　素子 33 主婦
神田優有子 33 主婦兼神田会計事務所勤務
相澤　葉子 34 ピアノ指導者
坂口由美子 34 ピアノ指導者，主婦
沼田ひとみ 34 ヤマハ池袋店銀座センターエレクトーン講師
佐藤　玲子 33 ピアノ指導者
金高　和子 33 主婦
鑓崎　久江 34 主婦
矢木まり子 34 主婦
鈴木　久子 34 主婦
寺村　邦子 34 ピアノ指導者
野崎ゆみ子 35 ピアノ指導者
小畑　錦子 54 ピアノ指導者
奈良場恒美 35 桐朋学園大学講師
由良　佳久 35 ピアノ指導者
三宅真由美 35 ピアノ指導者
大林　淑美 35 ピアノ指導者
中出　純子 35 横浜市神奈川保健所勤務
加藤　利枝 36 ピアノ指導者
小泉　英子 35 ヤマハプランズショップ藤沢
酒井まゆみ 35 印刷業手伝い
大嶋　和野 35 市立千葉高校教員
小林美保子 35 ピアノ指導者
渋谷　淑子 36 ピアニスト，国立音楽大学講師
佐藤　祐子 36 ピアニスト，ピアノ指導者
尾形　京子 37 ピアノ指導者
新井　まり 36 ピアノ指導者
川手　誠 36 幕張西高校教員
佐藤　重之 36 千葉県立野田高校勤務
福島千賀子 37 主婦
村上　教子 37 主婦
岩渕　明久 37 精薄児施設事務職員
居石　三男 38 沼南高柳高校教諭
市田　良子 37 ピアノ指導者
藤代喜美子 37 ピアノ指導者
広田　洋子 38 ピアノ指導者
佐藤　紳二 38 安房南高校教員
田中　啓友 38 君津中央病院医事課外来係長
米元　えり 39 東京芸術大学講師
堀内志津子 39 ピアノ指導者
湯本　陽子 39 ピアノ指導者
三浦喜代子 39 主婦
高橋美恵子 39 文京区立本駒込西保育園勤務
伊藤とも子 39 主婦
杉本　安子 40 洗足学園大学講師
武田　真理 40 東京音楽大学ピアノ科講師
小林　出 40 東京音楽大学講師
田村　朗 40 歯科医師
三浦　博 40 東京都北区役所企画部財政課
宮下　正喜 40 ピアノ指導者
松島ふく子 40 ピアノ指導者
井原　靖子 44 ㈲大国造園土木事務（自社）ピアノ指導者
青野　晴美 44 ピアノ指導者
斎藤　節子 45 東京音楽大学，桐朋大学講師
石毛　誠志 41 四街道高校教員
大仁　直江 42 主婦
富樫二三江 4 大久保学院ピアノ科講師
横澤　裕子 41 音楽教室教師(電子オルガン)
一色久重子 41 ピアノ指導者
飯島　智文 41 船橋古和釜高校教員
守　麗子 42 ピアノ指導者
伊藤　卓 42 松戸高校教員
宮本　聖子 43 ピアノ指導者
関根　有子 43 東京音楽大学講師
柳沢　正純 45 会社々長
近藤　郁子 48 千葉明徳短期大学講師
二宮　裕子 46 ピアニスト・指導者
杉谷　昭子 46 ピアニスト・指導者
松崎　伶子 47 ピアニスト・指導者
佐々木慶子 47 主婦
戸引小夜子 48 国立音楽大学講師
上田けい子 48 主婦
熱田百合子 49 無職
大野　知子 49 ピアノ指導者
小泉　秀子 50 ピアノ指導者
金子　勝子 51 ピアノ指導者
泉田由美子 51 ぱぴよんの会音楽教室主宰
鶴見　祐敏 52 内科開業医
慈幸　正治 52 佐原女子高校教員
花澤実枝子 53 主婦
神田　菊枝 54 主婦
大成　節夫 55 一橋大学教授
松下　京子 55 主婦
井下　昌子 55 ピアノ指導者
川崎　米子 56 主婦
中西　寛子 56 主婦
石原　章夫 56 エッソ石油㈱広報部勤務
植田　勇幸 57 財法団人・日本航空協会，参与
奥平　迪子 58 主婦
小岸　昭子 58 ピアノ指導者
多田　正遠 59 エッソ石油㈱広報部長
山岸　麗子 61 東京女子体育大学教授
明石　咸子 61 上野学園大，桐朋学園短大講師
大澤　和子 61 ピアノ指導者
大瀧　邦子 61 ピアノ指導者
小川　静子 62 ピアノ指導者
武石とも子 62 洗足学園大学教授
松本　禮子 64 自由業(保険代理店)
池田　早梅 67 ピアノ指導者
若原　晴子 67 ピアノ指導者
園田　泰子 69 桐朋学園大学教授
多田　春子 70 主婦
藤澤　克江 72 熊本音楽短大客員教授
植松　經彦 71 現代水墨画協会評議員
松崎　俊三 72 無職
谷　康子 75 東京芸術大学名誉教授
保田　芳郎 78 徳島大学名誉教授当協会理事，日本教育音楽協会監事
青木　和子 78 国立音楽大学名誉教授，熊本女子短期大学名誉教授

○大正琴演奏者
窪田よしこ，杉田鈴江，千徳鈴子，
丸山邦恵，山田淳子，青木智子，
臼井須美子，小日向昭子，坂巻静子，
服部房子，原はるみ，百瀬紀子，
山田美代子，大野のぎ子，倉科恵子，
川上郁子，熊木阿佐子，武居順子，
竹村躬幸，細川治子，上篠千代子，
中田絢子，細川卯太子，山崎節子，
深沢輝子，佐藤優子　他　400名

音楽通論研究３

知っておきたい音楽のしくみ

秋山　徹也

ソナタ形式について　～音楽の形式１～

今回は，音楽の構成原理の一つであるソナタ形式について述べてみたいと思います。ソナタ形式は，西洋音楽の構成原理の中でも特に重要なものです。今回は，ソナタの実際を理解しやすいように，筆者自身の言葉で私論を述べます。したがって，楽典の本には書かれていない独自の方法あるいは言葉を用いていますのであらかじめご承知を。(無断で引用するのはご遠慮ください。)

ソナタ形式は，古今の学者がいろいろな説を唱えながら解明がなされています。特に，弁証法を担ぎだして，「ソナタ形式は一種の弁証法なり」と述べられた説などは，物事の考え方としては非常におもしろいと思います。ただ，筆者自身は，ソナタ形式は弁証法というよりは，「“けんか”の図式」としてとらえるのもあながち誤りではないと考えています。次に述べるソナタ形式は，「“けんか”の図式」による私論です。

ソナタ形式は，ずばり“けんか”の過程です。“けんか”の成り行きにおける，緊張と弛緩の過程と同様なことが，楽典の構成原理になっているのです。

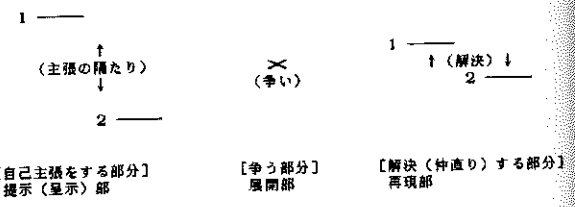
“けんか”は，どのような時に生じるのでしょうか。(解決，すなわち「仲直り」なくしてはいけません。)例えば，高校生と小学生とでは“けんか”にはなりません(例外もあるかとは思いますが)。つまり，両者の力関係が同等でなければ，“けんか”は成りたたないのです。また，例えば，アイスクリームが１つ，おだんごが１つずつあるとき，２人が同時にアイスクリームを欲しがったとしたら“けんか”になるかもしれませんが，１人がアイスクリームを，もう１人がおだんごを欲しがったとしたら“けんか”にはなりません。つまり，論争点が明らかでなければ，“けんか”にはなりません。

次に，“けんか”は，どのように推移し，どのように解決されるのでしょうか。筋違いの（論争点に関係のない）事がらで争うと“感情面でのけんか”となり，先に進まず解決もしません。両者の異なる点を，両者それぞれが自己主張したり戦わせて，歩み寄って行くのが普通だと思います。

このように，“けんか”は，二人（あるいは三人，四人…）の力関係がある程度同じで，ある程度までは同質の考えを持ち，それでいて，ある一点（論争点）に関してはとことん異なる思想（意見）を有し，お互いがそれぞれ主張を譲らない時に，初めて“けんか”になります。そして，それぞれが自己主張をし，異なる点を十分に争い，歩み寄るという過程を経て，“けんか”が解決して行くのです。

ソナタ形式は，まさしく，この“けんか”の図式そのものなのです。それでは，ソナタ形式の曲においては，何と何が“けんか”し，どのように戦い，どのように解決しているのでしょうか。

戦っているのは，「第１主題」と「第２主題」です。そして，「第１主題」と「第２主題」は，それぞれ自己主張をし，戦い，仲直りをしています。次の図式を見てください。



このように主張している部分と，戦う部分，仲直りする部分とに分けられます。そして，自己主張している部分を「提示(呈示)部」，争う部分を「展開部」，解決する部分を「再現部」などと称しています。なお，最後に「おまけ」がつくこともあります。(「Coda」) この「coda」は，非常に長くていわば「第２展開部」的な曲もあります。また，序奏部がある場合もあります（ベートーヴェンの

通称「悲愴」ソナタなど)。協奏曲の場合などでは，提示（呈示）部で第1主題と第2主題が，管弦楽部全体とソロ楽器とでそれぞれ別に2回奏される場合もあります。

それでは，さらに詳しく見てみましょう。けんかする二人には，力関係がある程度同じで，主張面で完全に異なります。したがって，「第1主題」と「第2主題」には（力関係で）共通する部分と相違する部分とがあると思います。「第1主題」と「第2主題」とに共通する点と相違する点とを列記してみます。

○共通点（「第一主題」と「第二主題」）
（ごく稀に例外もあります）

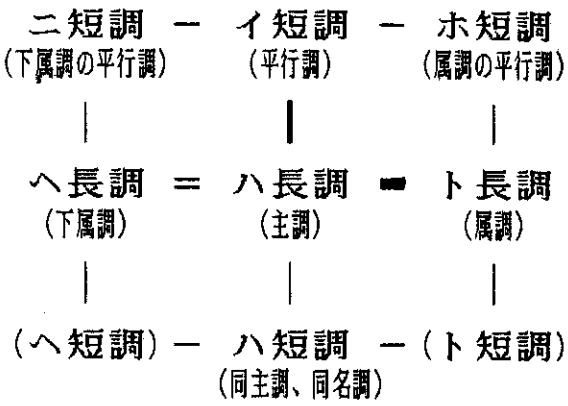
1．拍子
2．主題の長さ（小節数）
3．両調が近親調関係　　etc.

○相違点（「第一主題」と「第二主題」）

1．曲想
2．リズム（の要素）
3．調　　etc.

一番重要な点は，3．の調関係です。両調は異なっています。しかしほとんどの場合，両主題は近親調（関係調）の関係になっています。つまり，同質（力関係が対等）な関係を保ちつつ対立させてあるのです。近親（関係）調は，ハ長調を主調にとると，右上のようになります。

右上の図式のうち，主調と平行調，属調，下属調との関係が特に密接なので，主調が長調の場合は第2主題は属調になり，主調が短調の場合は第2主題は平行調になる場合がほとんどです（例外的に第2主題は，下属調であったり，平行調であったり，全く関係のない調であったりします。）



例えば「第1主題」がハ長調ならば，「第2主題」はト長調（属調）になることが多く，「第1主題」がハ短調ならば，「第2主題」は変ホ長調(平行調)になることがおおいのです。

次に，何がどのように争い，解決するのかを列記してみます。

※どこが争うのか。
どのように解決するのか。

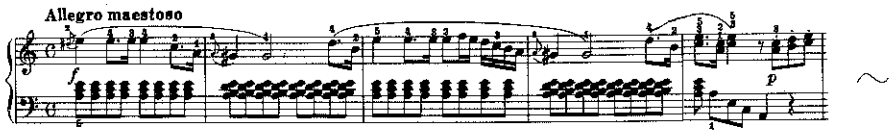
基本的には，展開部で両主題の共通点・相違点の各要素をふんだんに用いて争います。リズムの要素を変形・分解したり，両主題の調以外の調をも含めて転調を重ねたりして展開するのです。

そして再現部において相違点を，解消する方向に展開させるのです。実際には，提示部では相違している点のうち，第1主題と第2主題の調は同じ（第2主題の調が第1主題の調と同じになる）になり，曲想やリズムが同一なものになったりして，対立が解消されます。この対立の仕方と解消の仕方は曲によって様々で，曲の特徴となったり評価にもつながります。

今度は，対立点や，争い方，解決の仕方などを，モーツァルトのピアノソナタ（ケッヘル第1版番号K.V.310）で具体的に見ましょう。

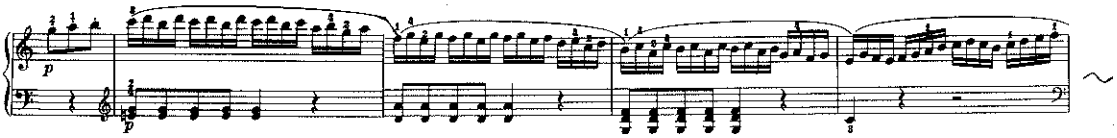
提示部

冒頭　第1主題の開始部分



イ短調

22小節目～　第2主題の開始部分



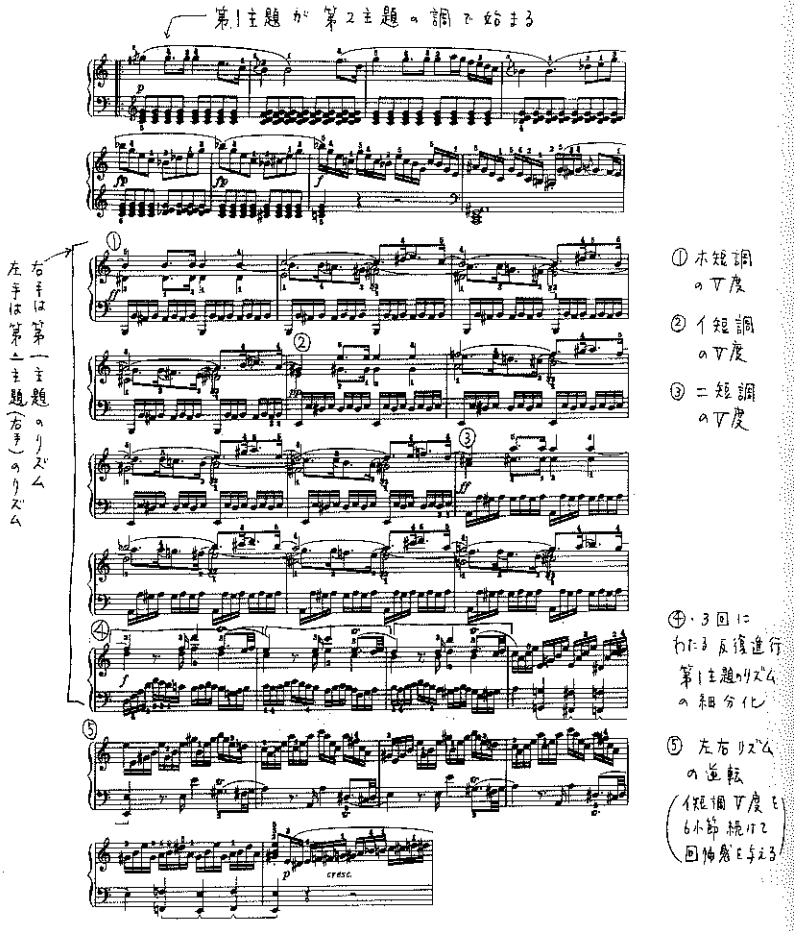
ハ長調

1図

この曲の場合，提示部では，第1主題（イ短調）は短調なので，第2主題は平行調のハ長調となります（関係調同士の関係）。第1主題はイ短調の少し憂いを帯びたとでもいえるような主題であるのに対し，第2主題はハ長調のモーツァルト的軽快さと明るさに満ちた主題で対照的です。右手のリズムは，第1主題では付点のついたリズムであるのに対し，第2主題では16分音符の速いパッセージで軽快な感じを表わすという具合に，対照的になっています。一方左手のリズムは，第1，第2主題に若干の違いがあるものの，ともに8分音符の同音連打で構成されていて，ある程度の共通性も保っています。

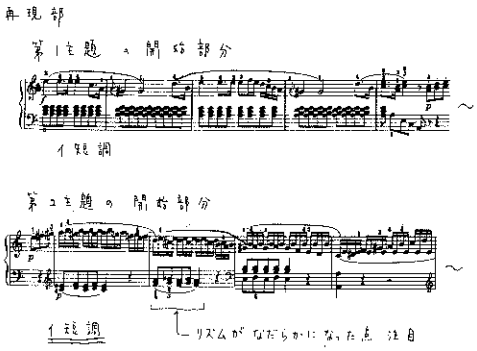
展開部は，その対照的部分をぶつけています。その方法として，第1主題と第2主題とに用いられるリズム・パッセージなどを細かく分けたり組みあわせたりしながら，転調を繰り返し，十分に曲を盛りあげています。

展開部



2図

そして再現部では，提示部が再現されるのですが，第1主題・第2主題ともにイ短調になっています。また，第2主題の左手の動きがレガートな動きとなり，提示部での軽快な動きに比べると落ち着いた感じになって，対立がかなり解消された感じがあらわれています。



“けんか”の図式は一例ですが，ソナタを深く理解していただけたと思います。

ソナタ形式の実際を知ると，次の点で役立つでしょう。

1．演奏

当然のことですが，ソナタ形式を構造的に理解することによって，より良いピアノ演奏を行なうことができます。両主題は，何らかの形で「共通な点」と「対比的な点」とがありますから，両主題の性格を正しく（より正しくいうと，演奏者が体系的に）解釈して，共通点と対比点とをはっきりふまえて，緊張と弛緩を的確に表現すると形式感のある演奏ができます。第1主題を堂々と弾いたら，第2主題は穏やかに弾く，などです。

次に，どの要素を“けんか”させているのか（どの構成要素を「展開」させているのか）を把握しておくと，曲をどのように発展，展開，解決させるのか，つまりどのように緊張させて弛緩させるのか，をより上手に表現できると思います。

ピアノ演奏の基本は，あくまでも正確でがっちりしたテクニックを習得した上での，より音楽的な音色を表現することなどにあるでしょう。理論だけにたよった演奏などはありえません。しかし，理論を正しく習得すると，ピアノを演奏する際の助けになると思います。特に，楽曲の妥当な一貫性のある解釈は，演奏に構成感を生み，他人により強いアピールをすることが可能になるはずです。このように，理論的に把握することは，曲の形式感を十分に表現するための一助となります。

2．鑑賞

よく一般人に「クラシックは長くて退屈するからいやだ」などとおっしゃる方がいます。この時，曲の構造をしっかりわかっていたらどうでしょう。「無論音楽理論的に曲を鑑賞せよ」という考えは毛頭ありません。しかしレコード等を「今，第1主題が演奏されているが，次の第2主題はどのような曲想なのであろうか。あるいはどのように演奏されるのか」とか，「これから展開部だけれども，どのように展開させられるのか」などの興味をもって聴くことも，ある意味では，曲の解釈などの勉強につながるのではないでしょうか。

注・ソナタについて，若干の補足を行なっておきます。ソナタの語源は，ラテン語系（イタリア語の“sonare”（「鳴り響く」の意）であろうかと思われます。したがって，当初は，単に「楽曲」を称する語であったに過ぎない場合が多く，今日用いる意での「ソナタ」とは異なっている場合があります（というより，ほとんど異なっています）。例えば，ルネサンスのジョヴァンニ・ガブリエリ（1557頃～1612）は「ソナタ・エ・ピアノ・エ・フォルテ」などという題の曲を書いていますが，現在のソナタ形式の意はほとんど持っていません。また，皆さんご承知の，スカルラッティの「ソナタ」も，形式としてみると古典派の「ソナタ」とは意味あいが異なっています（無論，古典派の「ソナタ」に共通する部分がないというわけではありません）。今日称する「ソナタ形式」は，主として，（前）古典派以降の概念だと考えてよいでしょう。

また，“ソナチネ（sonatine）”は，ソナタの縮小形です。一般的には，ソナタの小型版だと考えてよいでしょう。ただし，時代や作曲者によって，規模感は異なりますから，ソナタとソナチネの意味は相対的な違いしかありません。「ソナタ」でも，展開部が非常に短い曲があったとしても，けっしておかしいのではありません。

さらに，「ソナタ」は，多楽章楽曲の総称にもなります。この場合，第1主題がソナタ形式であることがかなり多く，終楽章がソナタ形式であることも少なくないのですが，中間の楽章（緩徐楽章がメヌエット楽章）は，ソナタ形式でない方が普通です。

いずれにせよ，種々のソナタについては，稿を改めて述べてみたいと考えています。

Music Magazine Guide

音楽雑誌ご紹介　第7回

寄贈いただいた雑誌（'89.12, '90.1月号）について，今回は，特集記事を中心に内容面にもふれて，紹介してみたいと考えています。

1. Musica Nova

（音楽之友社発行）

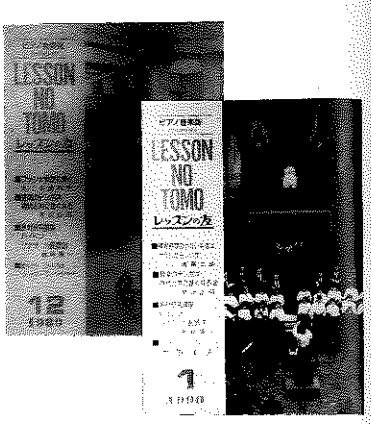
12月号の特集は，「子供が弾きたがる曲・先生が弾かせたい曲」で，弾きたい曲を使って指導すべきか，それとも先生の希望する曲をレッスンさせるべきかなどに着目して，新井千音美，片山裕之(緑)，青木みち子，岡山好直、江崎光世，山崎和子の各氏によって自由に論じてあります全般的には，教師の押し付けではなく，生徒の希望や意志を尊重しつつ，効果的に指導するのがよいとの論調が多くなっています。

1月号の特集は，「今の子供に対応できるレッスンプランを一新学期からのスタートを控えて一」です。独自のメソッドを公開されている木村美江氏，リトミックの重要性を述べた江端豊子氏，新しい教材によるレッスン計画を試みる丸山太郎氏，“お母さんたちへの注文”について述べた武田真理，森田幸子両氏の文章から成っています。

また，第4回日本国際音楽コンクール・ピアノ部門のレビューは，巻頭カラーも含め大きく扱ってあり，充実した記事になっています。なお特別付録として，1990年レッスンダイアリーが付されています。

2．レッスンの友（レッスンの友社発行）
ストリング（レッスンの友社発行）

両誌ともに，1月号から目次のレイアウトが若干変更されました。題字が大きくなり，かつレギュラー記事や特集記事が明らかになり，検索しやすくなりました。



○「レッスンの友」＊＊＊＊＊＊＊

12月号の特集は，永冨和子氏によるフランスの名教授「ファシナ教授に聞く」で，早川正昭氏による「音楽のテンポは時代と友に遅くなる」が新たに連載開始されました。“せんせいこんにちは”は，ノーマ・フッシャー氏です。特に早川氏の文章は，一般には「時代とともに音楽のテンポは速くなる」ように考えられるだけに，注目されるテーマです。今後の文章に期待されます。また，連載の「若手ズーム・アップ（第36

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

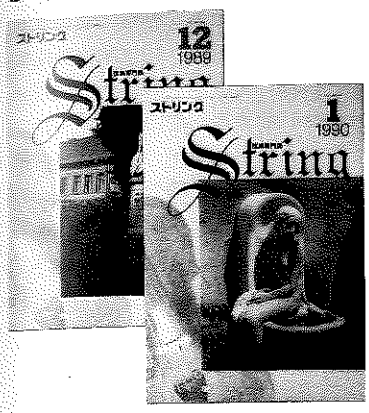
宝木多加志
〒806 北九州市八幡西区別所町1番2号
TEL. 093-631-7789

中島政裕
〒830 久留米市上津町2131—20
TEL. 0942-21-6018

堂山　寛
〒840 佐賀市駅前中央1—18
TEL. 0952-31-2200

回」では，ＰＴＮＡのヤング・コンペティション，デュオ部門の最優秀賞に輝いた，川北祥子，丸山滋の両氏でしたので，ぜひご覧になってください。

１月号の特集は，遠藤三郎氏による「練習時間の少ない生徒はどうしたらよいか」で，“せんせいこんにちは”は，池田洋子氏です。



○「ストリング」＊＊＊＊＊＊＊＊

12月号の特集は，「今年75歳!! 益々盛んな活動を続ける世界的チェリスト　ポール・トルトゥリエ氏に聞く」です。西田博氏の「オーケストラのボーイング」が，連載開始されました。１月号の特集は，ヴァイオリン弾き競べ会」で，古い楽器と新しい楽器を，岩淵龍太郎氏と藤原真理氏の演奏によって弾きくらべたという興味深い試みの報告文です。

３．**音楽現代**（芸術現代社発行）

12月号の特集は，「モーツァルトの“旅”と“手紙”にみる人間像」です。文学者の高橋英郎氏と田辺秀樹氏の対談による構成です。来年はモーツァルト没後200年（1791年没）となるため，この種の企画は今後増大するものと思われます。この他，「ウラディミール・ホロヴィッツの人と芸術」と題されたホロヴィッツ追悼記事と，日本音楽コンクール・「ピアノ部門」についての青澤唯夫氏によるレポートが，特に目につきました。

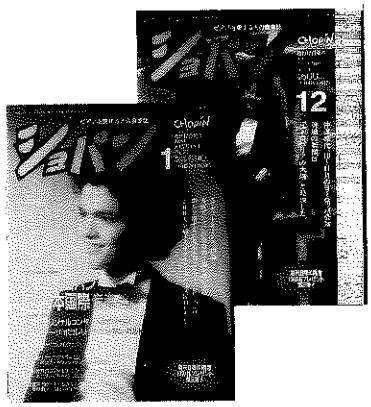
１月号の特集は，「アバド，ベルリン・フィルの常任指揮者に決定か!?」で，何とか注目される同フィル常任指揮者についての情報を，ベルリン，ウィーンの現地緊急取材によって報じています。インタビューは，そのアバドと，ヴァイオリニストのＦ・Ｐ・ツィンマーマンです。ピアノ関係の記事の占める割合は比較的少ないですが，その分，他の記事，特にオーケストラ関係の記事の充実がみられます。

４．**ショパン**（東京音楽社発行）

12月号の特集は，「ピアニストから指揮者への道」で，バレンボイム，アシュケナージ，エッシェンバッハらの歩んだ道などについて，堀内修渡辺暁雄，神谷郁代の各氏による文章で綴ってあります。

１月号の特集は2本立てで，「私のショパン」と「第４回日本国際音楽コンクール」です。前者は“ショパン生誕180年記念として，１年間毎号ショパンに関係する特集を組みたい”企画で，今号は国内の主要ピアニストに“自分にとってショパンはどのような存在か”などというアンケートに答えたものです。ショパンは本誌のタイトルでもあるため，今後ともに精力的に企画が進んで行くと思われます。後者は，入賞者６人へのインタビューと，遠山一行，小林仁両氏の対談による“コンクールをふりかえって”です。

なお，両号に特記することは，話題のブーニン氏による特別寄稿があります。内容は，祖父のゲンリッヒ・ネイガウス氏の思い出とその点描です。



わたくしたちの音楽　祝　創刊 150 号　OUR MUSIC

納富絹枝
〒840 佐賀市神野西２丁目６－30
TEL. 0952-30-7805

津山訓子
〒840 佐賀市本庄町末次 633-6
TEL. 0952-22-8272

辻　光恵
〒844 佐賀県西松浦郡有田町白川
TEL. 0955-42-3635

5．音楽の友（音楽之友社発行）

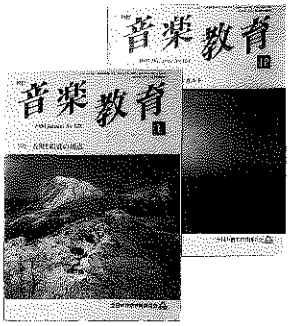
12月号の特集は，「クラシック・ファンのライフ・スタイル」です。音楽愛好家の伴侶と謳う同誌らしい企画です。愛好家である読者“2670人から寄せられたアンケートに基づいて，今日の音楽界の現状とクラシック・ファンの真の姿に迫る10年に1度の大型企画”で，まさしく満を持して望んだ企画です。この他では，昨年暮れに来日して話題を呼んだボストン響の直前取材，来日したレニングラード・フィルの新音楽監督ユーリ・テミルカーノフ氏についての記事が目立ちました。

1月号は特大号で，2つの特集が組まれています。ひとつは「新・世界の指揮者地図」で，世界のオーケストラ界の“最新情報をもとに，話題の指揮者にスポットを当て，指揮者の世界を総括する”記事です。注目すべきは，名オーケストラ常任指揮者のポストをめぐる指揮者の異動をこまかに記している点です。もうひとつは「孤高のピアニスト・ホロヴィッツ逝く」で，同氏の“85年の生涯回顧”などからなっています。ホロヴィッツ関係の記事は，写真や記事など他誌を凌駕するすぐれた内容になっています。今号では，新たに3つの連載が開始されました。「世界を舞台に」，「東京クワルテットの“Tour Alive”」，そして「モーツァルトと私」です。いずれも，読者の要望などを十分考慮し時宜を得た新連載になっていると思います。なお，美しいカレンダーが付いています。

6．音楽教育

（全日本音楽教育研究会発行）

12月号特集は「教材研究ア・ラ・カルト」です。教材研究の意義，展望，視点について述べられた後，小学校（低・中・高学年）・中学校（鑑賞・表現）・高等学校（鑑賞・表現）の7つに分けて詳しく考察されています。著者（報告者）は例によって，現場の学校教師です。具体的レベルでの記述がなされているので，現場の音楽教師にとって非常に参考になるばかりでなく，ピアノ教師も含む個々の音楽教師にとっても参考になる部分は多いと思われます。



1月号の特集は，「表現と鑑賞の接点」です。“表わすことと聴くことの接点を探る”から始まり，小・中・高校別に，実践例を基に綴ってあります。無論，現場の学校教師による文章である点は一貫されています。

その他では，美しいカラーグラビアとその関連記事に非常に注目されます。12月号では，19世紀中葉に製作された「エピネット　ドゥ　ヴォージュ」なる楽器が，1月号では，「ヴィチトラ・ヴィーナ」なる楽器が，大きく紙面を飾っています。両者ともに，フレットのついた弦楽器ですが，皆さんは御存じでしょうか。無論，簡潔な解説が付されています。

7．あんさんぶる

（カワイ音楽教育会究会本部発行）

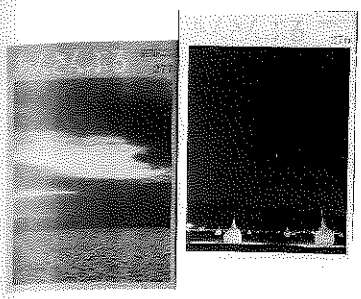
12月号・1月号ともに，特集は，ここのところ続いている楽器シリーズです。12月号ではチェロで，1月ではハーモニカです。前者は，伊東毅氏の「チェロのはなし」，音川健二氏の「オーケストラでのチェロの聴きどころ」，渡部宏氏の「チェロの名曲，あれこれ」，藤原真理氏の「チェロと私」で構成されています。各文章ともに興味深い文章となっていますが，今回は特に，伊東氏の入門的な文章から音川氏の専門的な文章までバラエティに富んでいて，ピアノに携わる人間にも非常に参考になります。1月号の方は，第一人者，

わたくしたちの音楽　祝　創刊150号　OUR MUSIC

平田康一
〒861-22 熊本県上益城郡益城町安永786-9
TEL. 096-286-5639

梅林真美子
〒870 大分市中島中央1－3－29
TEL. 0975-37-2151

森上節子
〒906 平良市西里299
TEL. 09807-2-9916



崎元譲氏と松田幸一氏の簡潔明快な文章とから成り，ハーモニカ音楽入門の格好の指針となるでしょう。

8．音楽広場

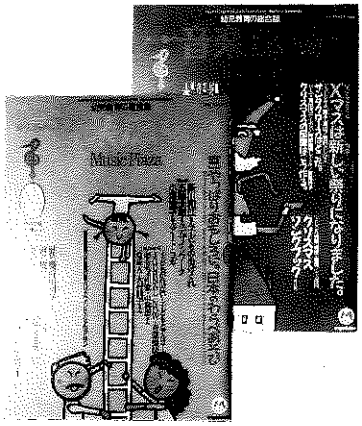
（クレヨンハウス社発行）

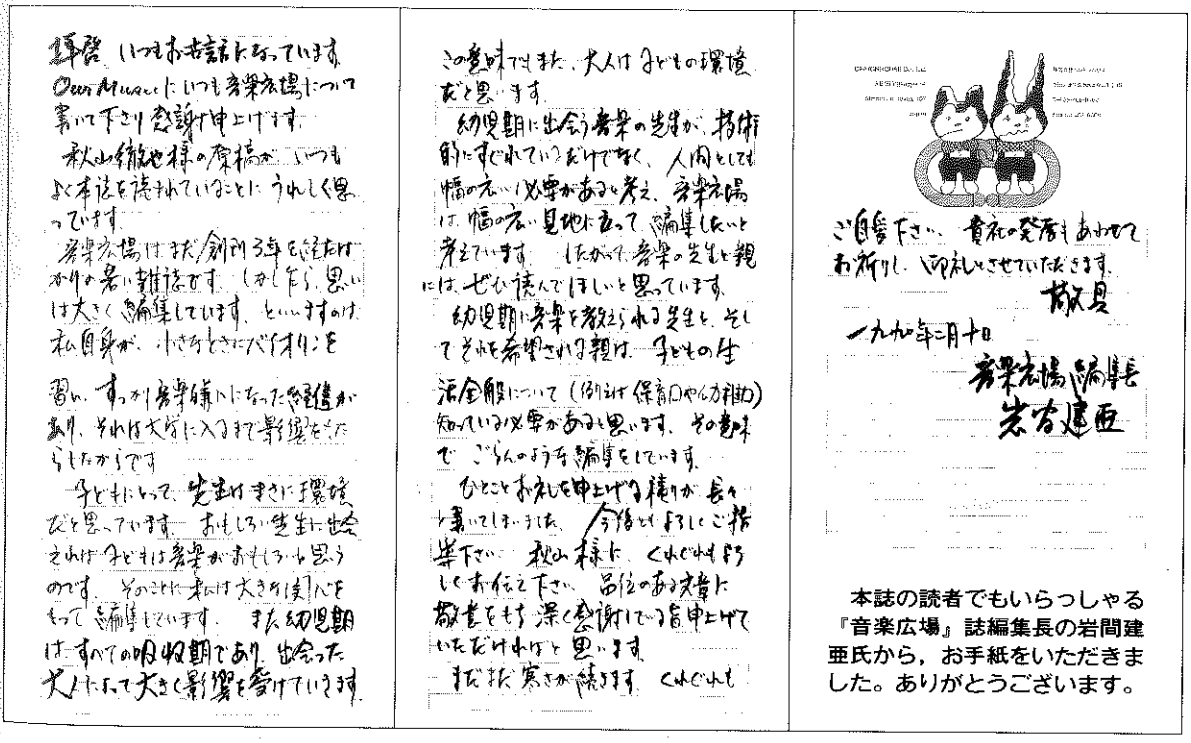
12月号の特集は，～ほとんど丸ごとクリスマス特集～「'Xマスは新しい祭りになりました」で，具体的には「ミュージカル・サンタクロースはどこだ」と「クリスマスの部屋」とから成っています。特に前者は，新沢としひこ氏の脚本・演出，中川ひろたか氏の作曲による新作ミュージカルを，絵本と見違えるほど美しいイラストと共に台本形式で進められたものですが，実際に上演できるように，きちんとした楽譜が掲載された上，衣装や小道具の作り方などについてもふれられており，音楽家にもきわめて注目できる興味深い記事です。この他，新連載の関根秀樹氏による「世界の音とリズム」が参考になります。1月号の特集は「やっぱりおもしろい。日本のわらべあそび」で，「ぼうがいっぽん」などの絵かきうた，折り紙，指あそびなど，一度は経験したかもしれないような遊びを紙上で再現した記事です。誰もが知っていそうでいながら，とかく意外に忘れていたり知らなかったりしそうな遊びをまとめて集めた点が面白く，かなり参考になるはずです。この他に，新連載が５本ありますが，ピアノ教材研究「もっと素敵に・ブルグミュラー」は新しい角度からピアノ学習法の模索を試みています。

いずれの記事も，音楽家にとって専門的であるような文章ではありませんが，わかりやすさと音楽性の追求という点で強い主張を感じます。また，美しいカラー紙面は親しみやすさでは抜群で，本誌の特徴のひとつです。なお，小型の美しいカレンダーが付いています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今回取り上げた'89年12月号と'90年１月号では，時期的な関係もありますが，連載記事や紙面構成，デザインなどを変えた雑誌が目につきました。共通して言えることは，全体的に，見やすさや文章のわかりやすさなどを目的にした改善がなされる傾向にあります。今回特にということではありませんが，デザインや目次，紙面の見やすさなどはまさしく日進月歩で，数年前の音楽雑誌と比較すると雲泥の差があります。時代の要請なのでしょうが，私自身としては，非常に好ましい傾向だと思います。 **今回の文章：秋山　徹也 記**





拝啓　いつもお世話になっています。
Ocean Music にいつも音楽広場について
書いて下さり感謝申し上げます。
秋山徹也様の原稿がいつも
よく本誌を読まれていることにうれしく思
っています。
音楽広場はまだ創刊3年を迎えたば
かりの若い雑誌です。（かも知れ）思い
は大きく編集しています、といいますのは
私自身が、小さなときにバイオリンを
習い、すっかり音楽嫌いになった経験があ
り、それは大学に入るまで影響をうけ
たからです。
子どもにとって、先生はすごく環境
だと思っています。おもしろい先生に出会
えれば子どもは音楽がおもしろいと思う
のです。そのことに私は大きな関心を
もって編集しています。また幼児期
はすべての吸収期であり、出会った
大人たちは大きな影響を受けています。

この意味でまた、大人は子どもの環境
だと思います。
幼児期に出会う音楽の先生が、技術
的にすぐれているだけでなく、人間としても
幅の広い必要があると考え、音楽広場
は幅の広い見地に立って編集したいと
考えています。したがって、音楽の先生と親
には、ぜひ読んでほしいと思っています。
幼児期に音楽を教えられる先生と、そし
てそれを希望される親は、子どもの生
活全般について（例えば保育園やら幼稚園）
知っている必要があると思います。その意味
で、ごらんのような編集をしています。
ひとことお礼を申上げる積りが長く
書いておりました。今後とともよろしくご指
導下さい。秋山様に、くれぐれもよろ
しくお伝え下さい。品位のある文章に
敬意をもち深く感謝している旨申上げて
いただければと思います。
まだまだ寒さが続きます。くれぐれも

ご自愛下さい。貴社の発展もあわせて
お祈りし、御礼いたします。
敬具
一九九〇年二月十日
音楽広場編集長
岩井建亜

本誌の読者でもいらっしゃる『音楽広場』誌編集長の岩間建亜氏から，お手紙をいただきました。ありがとうございます。

イギリスの音楽事情

松岡 淑子
（ロンドン在）

ここロンドンで暮らし始めて早くも1年が経とうとしております。何とか元気に暮らしております。(中略)

さてここで皆様にも興味深い英国の音楽事情（!?）というか様子を，私の知り得た限りの範囲ですので，他の英国在住の方とは違った情報かも知れませんが，お知らせ致します。

先ず，教育制度ですが，それは戦前の日本と同じであります。日本より1年早い5才で入学（小学校に相当）し，10才で卒業。あとはSS（セカンダリスクール―中学校に相当する）に進学，15～16才で卒業後，大学に進学したり専門学校（と言っても日本の“専門学校”とは，明らかに違います）に進学したり，就職したりします。就職する場合はＳＳが就職学校だったりします。教育システムは大変複雑で，一度に説明できる“代物”ではありませんので，ざっと紹介するだけに留めておきます。とにかく戦前の日本の教育制度は英国に倣ったものですので，それと全く同じ…と考えて下さい。あの制度は，高校が色々と分かれていたと思います。英国は“貧富の差”や“階級”により進学する学校が，小学校で卒業，就職学校，専門学校，高校，大学と分かれていますが，多分それと同じだと思います。

日本を離れてどこか欧米諸国で現地の小中学校に子供を入学させると大多数の現地の学校は5課目（外国語，数，国，社，理）しかない様です。体育，美術関係の課目，音楽などの課目は好きな人間，上手な人間だけが，課外にやれば良い学科扱いです。従って音楽に限って言えば，日本人の様に，音符の種類が見分けられて，その上小中学校で習った知識を駆使すれば，簡単なメロディならば見て弾ける―などと言う事は，日本以外では全くあり得ません。ですから，楽譜でドレミが読める，ピアノ上でのドレミの位置がわかる―これだけで，他の人とは違う，素晴らしいことなのです。

ゆび1本でもピアノでメロディが弾ければ，拍手喝采モノなのです。底辺が余りに小さいと，オベリスクの様に一際目立つ高い物は立ちますが，所詮ピラミッドには及ばないのでしょうか？　日本は底辺が広すぎるピラミッドの様な気がします。底面積が広い場合，逆に高いピラミッドは建たないか（大きすぎて不可能）もしくは，大変高いピラミッドが建つのかのどちらかですが，日本はいったいどちらになるのでしょうか？

先日，某コンサート―Ｒ・Ａ・学院（世界的にも有名な音楽大学）の卒業生によるコンサートを聴きま―したが「えっ，これが(!?)」と思う様な演奏で，Ｒ・Ａも“過去の栄光”になってしまったのか，はたまた，たまたまその演奏者達の調子が悪かったのか良くわかりませんが，ちょっと信じられないかんじでした。演奏を文章で表現するのは大変困難なのですが，例えばバッハをベートーヴェンの様な演奏，人によってはバルトークの様に弾いていたり，モーツァルトをショパンの様に弾いた人は未だ許せるとしても（!?）プロコフィエフ風の近代的な感じの演奏だったり，ショパンが各箇所を歌いすぎて(!?)“悪酔い”しそうな，まるでサッカリン入りガムシロップで作ったストロベリーシロップをかけたチョコレートアイスクリームの様だったりで，“手前味噌”ではありませんが，よっぽどＰＴＮＡの入賞者の子供達の演奏の方が素晴らしく思え，事実そうだろうと思います。これらの演奏が“個性的”と称されるのなら，日本の音楽教育に欠けているのは，正にこの“個性”(!?)なのだろうと思いました。

演奏会は大企業がスポンサーになっていることが多く，特に日本の企事の貢献度は大で，著名な演奏家のコンサートが日本の常識では考えられない位，安く聴きに行けるのは大変幸福な環境と言えます。但し，演奏会を聴きに来る英国人達の多くが，英国に進出した日本企業によって，この様な多大な恩恵を被っていることを認識していない様です。英国で仕事をしている―日本企業の妻として「日本人が居る為に我々は…」と言う様な不愉快な差別は，彼ら英国人のプライドが高すぎるゆえんなのでしょうか？

英国の音楽教育の程度を具現させる様な，我家が体験したエピソードがあるのですが，それは又の機会にでも書きたいと存じます。

ポーランド通信

林　道
（ポーランド在）

私がポーランドに指揮者修行に来て早くも6ヶ月たちました。昨年9月，こちらに来た時にはすでに東欧の嵐の真っ只中で（決して私の左うちわのせいではありません!?）経済改革に伴うインフレーションには本当に目を見張りました。

1年間のインフレ率が4000%（つまり40倍）といわれるポーランドでは，どこかの国の3%論争など一笑に付されるでしょう。それでも相も変わらずウォッカで「ナーズドロービエ」(健康の為に）と乾杯をするポーランド人には，自由民主化へのひたむきな忍耐が感じられます。そういえば私がフランクフルトから運んできた後生大事な日本酒を彼らは「これは子供の酒か？」と全く相手にせず，チビチビやる酒の良さを理解しない彼らに憤慨してしまいました。

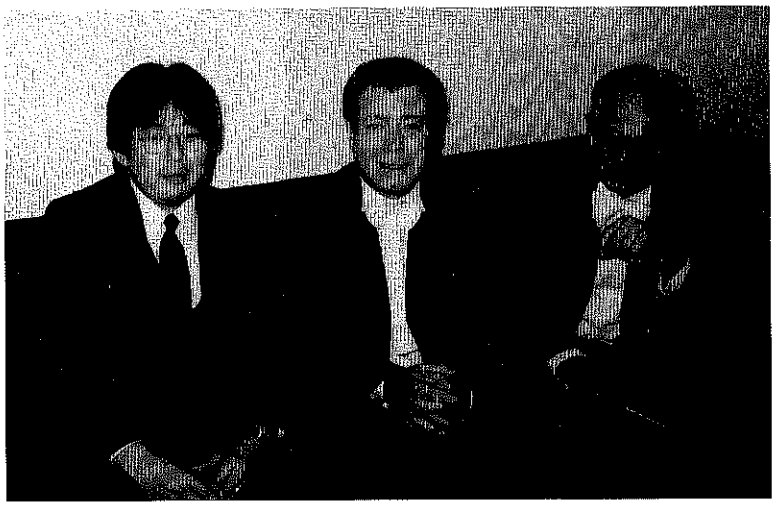
この短い間にもハンガリーやポーランドでは「人民」という文字を削り，国名が変わり，ルーマニアでは動乱が起こりました。そして何よりも昨年11月9日にはあの「ベルリンの壁」発表があり，折しも私はシレジア・フィルと西独，オーストリアへの演奏旅行に同行する為に，わずか6日しかたっていない11月15日に，国際列車でポーランドから東独を横断し西独に抜ける車中にいたのでした。

深夜，大勢の人で異常に盛り上がる駅のプラットホーム。すでに飽和状態である夜行列車に殺気を帯びて乗り込む東独の人々。3時間遅れでフランクフルトに着き，駅で数時間待たされた私の友人は，列車が着くや否やの「東独の方々，ようこそおいで下さいました」との駅のアナウンスに，東西ドイツ民族は1つといたく感激しており，私へのグチもなく大変助かりました。

さて，この1ヶ月間に渡る演奏旅行に同行したピアニストがネルソン・フレイレでした。私は小学生の頃，シューベルトのアンプロンプチュを練習するのに「彗星のごとくデビューしたブラジルのピアニスト」というふれこみで彼のレコードを買いました。アンプロンプチュよりも片面にあったシューマンの「カーニバル」が当時すこぶる新鮮なピアノ曲に思え，盤がすり減るまで聴いた想い出があります。

約20年経た今，いきなりその時の「英雄」に会ってしまった興奮。ミーハーギャルになって飛び上がってしまう様な気持ちでした。(ちなみに私の体重は75kgです）

約1ヶ月間接した彼は本当に誠実，真面目な方で，料は彼がコンサートの3時間も前にステージでメトロノームに合わせて，ブラームスのコンチェルトの難しいパッセージを幾度となくくり返している姿に接しました。コンサート前で係もいないホールでは誰も彼に気付かず，明かりさえない真暗なステージ上で見た彼の姿に，私は音楽家として大変胸が打たれました。もちろんすぐにスポットをつける手配をした事は言うまでもありません。



左から筆者，ネルソン・フレイレ，シレジアpo音楽監督Prop. カロル・ストリア

北・か・ら・南・か・ら

昨年は大学での授業以外の仕事（資格審査委員，人事等）と著作(共著)に追いまくられました。今年は少し落着いて作品にとりかかろうと考えて居ります。研究成果のまとめとして構想も新たな「子どものためのピアノ曲」，落語を素材とするオペラ･ブッファのシリーズ等。

また，昨年夏，ようやくまとめた「子どものピアノ連弾曲集」の出版も実現できそうです。

会員諸氏の今年の一層の御活躍を期待しております。

（滋賀大学教育学部教授・嵐野英彦）

ピティナ通信

福井支部も今年で結成４年目を迎える事になりました。

福井に是非ピティナを…とお声をかけて下さったのが中井鈴子先生でした。それまでは県単位でしか勉強できなかった私達には，願ってもないお話でした。「井の中の蛙ではいけない」「もっと勉強したい」「生徒達に音楽の素晴らしさを知ってもらいたい」という先生方の願いが一つになり，支部は結成されました。

しかし，葛西いね先生を先頭に中島亮子先生，馬渕弘江先生と私の４人からスタートです。ピティナを知って頂きたいと新聞社，テレビ局，楽器店，個人の先生のお宅を何度も尋ね，ピティナの良さを必死に説明!!そのかいあって，熱心な先生方がたくさん集まって下さり，発会式を兼ねた中井先生の公開レッスンが，昭和61年10月に行なわれました。そして初めてのコンペティションが福田靖子先生の御協力のもとに昭和62年の夏，福井市内で行なわれました。その後の公開レッスンは中山靖子先生，松崎伶子先生，佐野川延子先生，田代慎之介先生に来て頂き熱のこもったレッスンをして頂きました。

・109号　昭和59年５月

コンペティションも回を重ねますと地区予選から全国大会へと夢が広がります。生徒達と先生方，そしてご父兄の皆さんが一丸となり目標に向かってがんばっている姿は，何度体験しても感動的で素晴らしいものです。そしてコンペティションとともに福井支部の夢も大きく広がります。

（福井市・山田　世紀）

思えば３年前「ピティナ・コンペティション説明会」にて，先生にはじめてお会いし，ただただすばらしい方のお話が聞けたという思いだけでした。結局，宮崎での１回目コンペティションにむすこを参加させる事になり，本選進出，優秀賞２位入賞（Ａ２），むすこであり私の生徒でしたので２倍の喜び，そして他県の方の演奏を聞き，一つ一つが初めての事で，胸の高なりを感じておりました。

２年目，発表された課題曲を見ながら，生徒の顔を描き，○○ちゃんにはこの曲などと思い，受検決定するには，心はゆれ動いていましたが，「よし，やってみる」という心が強まり，生徒３人が検定をうけ，合格!!

「先生，合格してる」の喜びの声がやきつき，そして３年目，５人の生徒を参加，５人とも検定ではありましたが合格，内１名「良い演奏でしたよ」と舞台に上げてくださいました。

何といっても，生徒の「合格してる」又「先生!!ぼくこんなにむずかしい曲がひけたから，これからどんな曲になってもひけるよ」又，お母様方の「うちの子は，性格がかわって，何事にも積極的になりました」などの声が聞かれ，とてもうれしく思いましたし，私自身しっかりせねばなどと，考えさせて下さったピティナとの出会いに感謝いたしました。

さあ今年は，宮崎ではコンペティションも「石の上にも３年」の３年目をすぎ，４年目，何らかの形で一歩でも二歩でも前に進みたい，大切にしたい，そんな気持ちで一杯です。

会うたびに心の広さを感じさせて下さる福田先生，くれぐれもお体を大切に，又お会いできる日を楽しみにしております。

（宮崎市・山村由美子）

わたくしたちの音楽　祝　創刊 150 号　OUR MUSIC

井上久栄
井上敏典
〒670 姫路市北平野南の町15-1
しらさぎ音楽学院内
TEL. 0792-22-4169

杉山千賀子
〒815 福岡市南区大池１-29-13
TEL. 092-561-1684

日本モーツァルト音楽
コンクール実行委員会
〒170 豊島区巣鴨１－８－15
(社)全日本ピアノ指導者協会内
TEL. 03-944-1584

北・か・ら・南・か・ら

今年は，絵本のように楽しくてしかもシステマティックな小曲集「ピアノコスモスシューレ」全3巻が，全音から出版される予定でございます。

これもまた，皆様がたの御共感がいただけますよう念じております。

皆様がたの御支援のお蔭で，少しでもピアノの世界にお役に立てますことを心から感謝申しあげますとともに，これからも一所懸命励んで参りたいと存じております。

（東久留米市・成田　稔子）

PTNAが京都で開催される様になって以来，受ける生徒が，一気に増えると共にレッスンにも目まぐるしい変化が生じ，突然新しい空気をふき込まれた様です。

福田先生には勉強する機会を与えて下さり，大変感謝しております。

去年の公開レッスンでは土肥先生の音楽を大きくとらえ，しかも本質に鋭く迫った講義，暖かい人柄等にすっかり感激致しました。私も無理かも知れませんが，土肥先生のたとえ1/1000，1/10000でも見習えたらと思って努力しております。

去年C級まで合格した生徒は，たとえ本選に選ばれなくても読譜，暗譜力，根性がつくのか，その後の発表会でもショパンのタランテラ，ワルツNo6，No10，ギロックのワルツエチュード，ラモーのガボット，ベートーヴェンのソナタNo8，No25等，数多くの名曲を弾きこなす事ができました。（コンクールでは音，リズム等が多様化しているため，レッスンだけだったらめんどうくさくなって途中で練習をやめる生徒が出てきそうな現代曲でもしっかり勉強させ，発表会では少し位むつかしくてもなるべく好きな曲を生徒には弾かせてあげる様にしています。）

どうか本年も相変わりませず御指導をたまわりますよう，お願い申し上げます。　（京都市・小野　邦代）

今から十数年前「こどもの国」「日曜日のソナチネ」に出会い，日本にもこんな曲を作る人があらわれはじめたのかと驚き，ヤマハのねむのさとでの先生とのお出会いから，今の教室を始めてからまもなく湯山先生にいらして頂き，ピアノ，合唱，こどものうた，歌曲は「カレンダー」全曲，そして対談と，こんどの会のミニチュアのような会をもたせて頂きました。

あれからもう随分の年月が経って，音楽の世界も大変に様変りしてきたことを思いますけれども，そして新しい作品はどんどん生まれてきても，湯山氏の作品はやはりぬきんでていることを思います。

（神戸市・柴田多嘉子）

ピティナ通信

しなの川

野島稔―を聴く

本間　英子

野島稔演奏を聴いた。

曲目は，モーツァルトのソナタイ短調，ラヴェルの「鏡」シューベルトのソナタ変ロ長調。

角倉　朗氏も言っている様，自分と同じ傾向のピアニストもいいものである。

私にとって野島稔のモーツァルトがそれである。

ハーザーの禁酒なモーツァルト，ラーンキの情熱的なモーツァルトなど各演奏を聴いたが，野島稔の知的なモーツァルトもいい。

あふれるパッションを持たないからロマン的なものを排除してるかのように見える。先感がなく聴発におもねることなく，自分に忠実であろうとしている。情感があるのは彼のようなオペラなら当然であるが，知的な抑制力がそれ以上にあって，両者を混と出とするならば，あたかも単一線を感覚として歩いている感じだのだ。

ラヴェルは圧巻だった。彼の最も得意とする作曲家の一人なので，集中させて聴かせるピアニストはあまりいないだろう。

何年か前，野島稔がクライバーンと時を同じくして新潟に来たことがあった。その時クライバーンはいて華やかな音，緊迫感があってそれでいて柔軟性のあるリズム，コンクールの優勝者であるクライバーンとハラシェヴィッチを聴いたが，この時も，ショパンコンクール一位のハラシェヴィッチが二位のアシケナージの前では色あせて見えた。私はハラシェヴィッチも好きなのだけれど。

クライバーンが新潟で弾いた時だったと記憶してるが，その野島稔の前に色あせて見え，彼も悪い時期に来たものだと思った。というのは，前にも同日もよく弾けるというのは，前にも同日もよく弾けるからである。二年ほど前，上野文化会館で，一月違いでアシケナージが来日の直前に友人宅急故で亡くしている。中村紘子氏が，彼の子能まで名声を得るような酷評をしていたが，ピアニストにあるまじき発言だと憤が立ったものだ。

話が前にもどるが，野島稔のその時の演奏では，プロコフィエフもよかったが，アンコールで弾いたリストのレジェッツァが訴れられない。

野島稔は新潟で三度聴いたが，最も好きなピアニストの一人である。花束を抱きかかえて微笑みを投げかけながらアンコールを去る老ピアニストも美しいものであるが，野島氏のように花束を無造作にぶらさげて，はじめに現れた時と同じ表情で退場するのも，どこかあの音楽と通じるところがあって，私には嬉しいと思われた。

外に出ると，晩秋の冷え冷えとした夜気が迫り，新潟の街がマンブルクのように美しく見えて，青すじを伸ばして歩きたいような，何か自分が別の人間になったような気がしていた。

（市内学校町二―二―二）

しなの川

田辺隆さんのこと

本間　英子

―昭和二十七年一月二日，柏崎市に生まれる。柏崎高校を経て，国立音楽大学教育科一類卒。後に集学芸大学大学院に学ぶ。現在愛媛大学助教授。三十五歳―

以上は田辺隆さんの略歴である。彼は私の教子である。従って，次のようにつけ加えよう。

―長身で貴公子風な容貌，古風で整理箱い性格を持つ―。

彼が初めて私のもとに来たのは高校一年の秋だった。「これまでに弾いた曲は？」「エリーゼのために」です」「他には？」「ありません」不安そうな表情で彼は言った。後で分かったのであるが，近眼という理由で断られることを恐れて，眼鏡をはずして来ていた。「先生，無理だったら断ってください。私としては電気関係に進ませたいんです」―教育者としてすでにプロであったお父さんが言い，「おじさ受けいただいます」と反射的に答えたその時から，彼は私の弟子となった。

二年半にドイツで活躍しているフルートティストの鷲尾洋さんがいた。功成り名遂げる人の持ついく，二回ぐらいで目的のページを開いて私を驚かせた。

つかの共通点はあったが，その他の点では，彼らは対照的であった。

鷲尾さんはカラフルコロンと下駄の音をさせて暖やかに入ってきて，「ぜんせ―　ヨウです」などと大きな声で言った。またお茶が好きで「もう一杯下さい」と言った。

今年の秋に，「全日本吉奏教育研究会（全国大会）」が松山で開き，彼は大学部会の事務局を担当した。母校国立音大の一類の先生方の殆どが出席，小山章三先生が「開会宣言」を行い，二日目の分科会を受け持って頂いて大感激だった。

今年の秋に，鷲尾大学の先生方から立派な方を顧問に持って仕合わせですね」と言われたことなど，何年経っても，心の中に生きている。

（市内学校町二―二―二）

長岡市の本間英子さんから，御自身の原稿が掲載された"日刊ナガオカ"の切り抜きを送って下さいました。

右：昭和63年11月9日，左：昭和63年1月4日

お便り

連載：旅のアルバム5

あこがれのインドでの放浪

平下　文康

デリーからボンベイへ

1987年8月，ついに，あこがれのインドを訪れることができた。しかし，ここは日本で想像する以上の世界であり，空港に到着したとたん，カルチャーショックを受けた。しかし，引き返すことはできない。これから1週間ひとりでなんとか生きていかなくてはならないのである。

インドは人間があふれていると言ったらよいのだろうか。空港の一歩外に出ると，ツーリスト目当ての客引きが多くいる。その他にも，ここをねぐらとしている人たちも多い。深夜に空港に着いたので，はじめは空港で夜を明かそうと思ったのだが，親切そうで日本人の知り合いがいるという人を信用して，車に乗り，あるホテルに泊まった。その次の日は，その人（ガイド）の車に乗せてもらって，デリーからボンベイまでの空港券の購入，インドレイルパス（インド中の鉄道を自由に乗れる旅行者向けの乗車券），帰りの飛行機のリコンフォーム（予約の再確認）と，やるべき仕事を済ませて，そのあと食事や観光をした。これに対して，通常の値段なら気持ちよくお礼をするところだが，要求してきた金額にびっくりしてしまった。車代475ルピー（約4800円），ガイド料50ドル（約7300円），さらにチップ500ルピー（約5000円）であった。合計で約1万7千円！である。とんでもない。インドの物価は日本の約30分の1であるし，だいいち日本でもこんなに高くはない。しかし，すでに遅かった。最初から確かめておくべきだった。せっかくのインドの旅行は最初から気分を害してしまった。

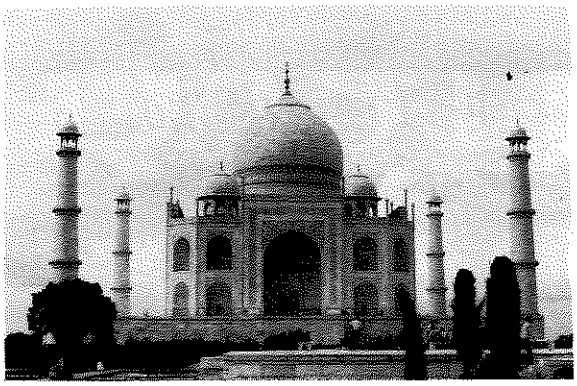
ボンベイもまた，すごいところであった。夜，ボンベイの空港から市内へと入ったが，この街は，汚く，崩れそうで，寄生虫や病原菌の巣窟といったような印象であった。海辺に面してタージマハールホテルという最高級のホテルがあり，その中だけは別世界となっていて，華やかに着飾った上流階級の人々が楽しそうに歩いている。インドでは，こうした人々はほんのひと握りであった，ほとんどの人々は貧しい。

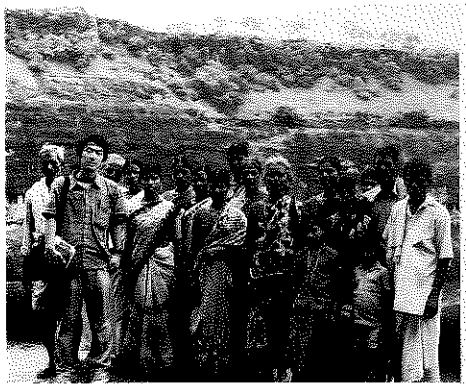
このホテルは1泊1万5千万くらいであったので，泊まってもよかったが，節約して，宿は別の安いところにした。次の朝そこで朝食をとったが，これはインドに来て初めてのごちそうだった。そこのホテルで会った日本人の学生と一緒に食事をした。なんと，その人は1か月間旅行して，はじめてまともな食事をしたらしい。50ルピー（約500円）でバイキングになっていて，新鮮な果物，ジュース，パン，サラダ，ハム，チーズ，コーヒー…。インドでこんな御馳走を食べられることが驚きであった。インドのほとんどの人々はこのような食事を一生することはできないのであろう。日本人に生まれて幸せということだろうか。

ボンベイ市内

ボンベイからアジャンタへ

ボンベイから奥地のジャルガオンへ向かう予定なので，ボンベイの駅で待った。他のインド人がするように，床に直に座って，5時から9時までずっと待った。でも，こころは落ち着いていて，イライラした気持ちはなかった。座って人々の様子を見ていると，インドに来たという気がしてくる。途中，子ども連れの人が私に話し掛けてきたが，ヒンドゥー語だったので，意味がわからず残念なことをしてしまった。私もここにいる多くの庶民の中のひとりであり，ここで行き倒れになっ





右・アジャンタ石窟寺院
左・タージマハール

ても，人々にとっては，別にどうということもないことだろうという気がしていた。なにしろ，インドには何億という人々がいて，毎日のように生まれ，死んでいる。ゴミバコのような中に住んでいる人も多く，たくましくなければ，生きていけないのである。そう考えると，日本人はなんと過保護に育っているのだろう。ちょっと失敗したり，成績が悪かったり，失恋したりといったことで深刻に悩んでいる。世界全体から見れば，もっと心配しなくてはならない問題は多くあり，日本人の一人にかまってはいられないのである。日本人は他の国と比較して，裕福な国なのであるから……などと，いろいろな事を考えたりした。

駅で鉄道が来るのを待っていると，様々な出会いがある。いわゆるこじきを職業としている人が，バクシーシ（喜捨）と言って，金をもらいにくる。大学生が，日本のことを聞きにきて，「Population is a great problem of India for progress.（インドの発展にとって，人口問題は深刻な問題である。）」などと言ったりする。また，仙人といったみなりのおじさんが，「どこまで行くのか。そうか，ジャンスィーまでか。日本のコインをみせてくれないか。なるほど……」と，はなしかけてくる。

ジャンスィーからバスに乗って，アジャンタに来た。ここは壁画で有名な石窟寺院がある。私はここで日本とは違う仏教の姿をみることができた。石仏は躍動感があり，おだやかな表情で，のびのびとしているのである。日本のように深刻なものではなく，日常のなかにそのまま受け入れられているようで，まったく，自由な雰囲気のものであった。なまめかしい壁画もあって，いったい，ここで修行ができたのだろうか，とさえ思えてくるのである。この石窟寺院には，遠足で来ている子どもたちもいるし，一家中で来ている人たちもいて，ひとつの観光地として，大勢の人たちで賑わっている。

インドからインドへ

インド人のだれかが言ってたように，インドは極端なものが好きなようである。食べ物にしても，カレーは辛いと思うと，チャイ（お茶がわりに飲むミルクティーのようなもの。）は甘い。また，寺院などでは神が原色で鮮やかに描かれている。それに対して，日本では，あっさりとしたものが好きなようである。

それは，人間についても言えるのであって，インドの人のパワーには，圧倒され，疲れきってしまう。例えば，寺院に行くと，頼みもしないのに勝手に寺院の説明をして，あとで金を要求したり，勝手に旅行者の荷物を運んで，運び賃を要求することもある。また，値段を最初に言わずにリキシャーに乗ると，法外な料金を請求してくるし，おみやげ用にじゅうたん，宝石，大理石といった高級品を買わないかとしつこく言ってくる人もいるし，ともかく，油断をするとだまされてしまうので，当然ながらその人たちと毎日格闘することとなって，その結果，精神的に相当疲れてしまうのである。

「だまされたとしても，それは高い月謝を払って，ひとつの勉強をしたと思えばよいのではないか，日本ではこうした体験はできないのだから。」と，言っていた人もいたが……

いまになってみれば，こうした人々との格闘は，ひとつのゲームにも似て，なつかしくなってくる。自由な雰囲気のなかで，普段気付かなかった意外な自分自身を知ることができるのである。帰国直後は二度と行くまいと思っていたのだが，いまは，チャンスがあれば，もう一度行きたいと思っている。不思議な魅力をもつ国であることは確かである。

（文部省勤務）

トーン・クラスターを使ってピアノ奏法の基本をグループレッスンで楽しく学んじゃおう！

鈴木 慶子

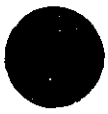
何十人もの生徒達に，奏法の基本をレッスンの度に説明し，癖を直したり，正法を教え込むのは当然の事でありながら，短い時間内に宿題の数曲を弾せながら，又その他諸々の勉強も取り入れてのそれは，なかなか大変な労働です。

しかもこれが毎度の事となると，教師も生徒もいい加減うんざりして来ます。だって，生徒側からしてみれば，口うるさい教師のとても理解し難い奏法伝々等無しに，出来るだけ手早く曲作りをして，自由に楽しんで弾きたいのですから……。

そこで，レベル毎，あるいは学年別に7人程のグループに分けて，月1回奏法の基本だけを，とってもカンタンに教えてしまおうという訳です。しかも，様々な奏法を使って，ちゃんと作品まで作り上げて，演奏までしちゃうのです。ついでに自，他批評もお互いに発表し合います。

このようなレッスンですと，あっという間に楽しく1時間半が過ぎてしまいます。これはトーン・クラスターだからこそ出来るのです。

では，ここでトーン・クラスターの記譜法を御招介しましょう。



クマさん
（手の平でひく）
肩の力を抜き，腕，肘，手首等を柔軟に使う。

巨人さん
（前腕（肘）でひく）
肩の力を抜いて，腕，上半身の重みを掛ける。

げんこつ

手の回転
（軽く握ったげんこつの側面でひく）

波（爪でグリッサンド，黒鍵は指の腹で。）

小鳥
（指先でひく）

その他 ， ，**バッタさん**（スタッカート）等々

さて，レッスンの順序としてはまず初めに，その月のレッスン予定のクラスター奏法を，記譜法と共に教えます。簡単に説明し，先生が実施して見せます。最初に教えるものとしては，やはり一番大事なクマさん，巨人さん，波等動きの大きなものから入ると良いでしょう。

この時，すぐにピアノの上で行うのではなく，皆で円になって座り，床の上，あるいは机の上等で（つまり音が出ると，そちらの方へ神経が行ってしまい，初心者にとっては難しい），形，又肩の脱力，手首，肘が柔軟に動いているかを確認した方が良いでしょう。これは皆，それらしくとっても上手に出来ます。

それから1人ずつピアノの上で行います。つまりピアノを音を出して弾きます。小さな子の場合は，本当にクマさんになったつもりで，ピアノの鍵ばんを上ったり，下ったりします。この時は音がきれいに揃っているか，充分に響いているかよく聴きます。手の形が崩れていたり，脱力が充分に出来ていないと音は不揃いになるし，深く響きません。教師は必らず，1人ずつ誉めながら，手直し，又は助言をしてあげます。

クラスター奏法を丁寧にロッスンしたら，次は既成の作品の演奏に入ります。教材としては，幼児～中学1年位までは，加勢園子著“ピアノはうたう”（音友），中2～成人はクルターグ著“ヤーテーコク（あそび）”を使用します。

まず2曲程課題を与え，5分間楽符を見せ，頭の中で音楽を作らせます。それから好きな方1曲も，1人ずつ自分なりにまとめて弾いて貰います。初級のクラスターの作品は皆短かいので，このようなレッスンには大変よいのです。

弾き終ったらまず自己批評をします。奏法が正しく出来ていたか，音はきれいに響いていたか，汚かった所はどうしてそうなったかを反省させます。その後，他の生徒達にも1人ずつ批評をして貰います。当然，友達の演奏をしっかり聴いていないと，とても批評等出来る訳が有りません。

そして最後に先生が，まず良かった箇所を誉めてから，1，2言，奏法と作品の作り方に助言をします。

最後は創作です。幼児あるいは低学年のクラスには，上記の他に例えば，バスティンの“L＆C”の中より1枚の絵を見せて，お話を作った後創作させます。

創作と言ってもほんの1，2種類のクラスター奏法を知っているだけでも，例えばクマさん奏法1つだけでも充分に創作は出来ます。

★ついに、今年の中頃に全部日本語版ができます！

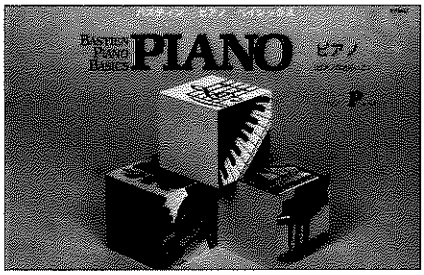
新版

BASTIEN PIANO BASICS

バスティン ピアノ ベーシックス

○ピアノ
○セオリー
○パフォーマンス
○テクニック　各レベル5段階

世界23ケ国で愛されている
ピアノ導入楽譜



オールカラー版イラスト入

●はじめてピアノを習う人の為の総合教育楽譜●

1 音楽教育心理学の原理をピアノ教育に実際に取り入れたメッソードである。

2 音楽総合教育

1. 完全なるピアノ鍵盤の理解　2. 読譜　3. 初見
4. 移調　5. リズム　6. 聴音　7. 鑑賞　8. 和声
9. 創作　10. 即興演奏　11. 理論
12. テクニック　13. アンサンブル
14. バランスのとれたレパートリー

3 全調メッソードである。（移調ができるようになる）

4 だれでも簡単にしかも効果的に指導できる教育システムである。

5 指向性読譜（Directional Reading）

—五線の線間が表す音程と音の上り下りの方向を図形のようにとらえて読む新しい読譜法でシャープ、フラットの多い調も容易に読めるようになり、同時に多くの音を読んだり、1つのフレーズを流れるように読むこともできるようになる。

6 個性に応じた指導法が可能

7 多くの音楽性豊かな生徒が育成

8 すべてバスティン先生のオリジナル作品や創造的な編曲作品

—子供の興味をそそるポップスからフォーク、クラシック、現代音楽まで—

日本総代理店■TO-ON㈱東音企画　東京都豊島区巣鴨1-15-1 〒170 ☎03(944)1581

PTNA

催し物案内

'90.4～6

■ ＰＴＮＡ東京本部主催の催し物
★ ＰＴＮＡ各支部主催の催し物
☆ ＰＴＮＡ各会員の催し物
● ＰＴＮＡ主催の催し物
○ 東音企画の催し物
（無印は他の主催の催し物）

４月

3日（火） ★ １９８９ＰＴＮＡ ヤングピアニストコンペティション 北九州地区予選合格者による演奏会

◆12:30PM ◆小倉市民会館 ◆全自由席900円
◆ＰＴＮＡ北九州支部☎093(561)4007

12日（木） ☆奈良場 恒美 ピアノリサイタル

ハイドン　アンダンテと変奏曲　ヘ短調
ベートーヴェン　ソナタNo.23ヘ短調「熱情」Op.57
シューベルト　ソナタNo.20イ長調 D.959

◆7:00PM ◆金沢市文化ホール
◆全自由席2500円
◆お問合せ☎0762(43)8475(野村)

14日（土） ペーター・ラング モーツァルトセミナー

レクチャー“モーツァルトのピアノ曲における調性と当時の楽器について”
公開レッスン　モーツァルト　ソナタニ長調 K.576
グルックの主題による10の変奏曲

◆4:00PM ◆ヤマハピアノシティ新宿
◆一般3000円、ＰＴＮＡ会員2000円
◆ヤマハピアノシティ新宿☎03(370)8221
講師：ペーター・ラング

23日（月） ★ペーター・ラング ピアノリサイタル

モーツァルト　ピアノソナタNo.3変ロ長調 K.281
シューベルト　ピアノソナタNo.7変ホ長調 D.568
ブラームス　3つの間奏曲 Op.117
シェーンベルク　3つのピアノ曲 Op.11

◆6:00PM
◆宇都宮短大須賀友正記念ホール
◆ＰＴＮＡ栃木県支部☎0286(25)6313

☆奈良場 恒美 ピアノリサイタル

ハイドン　アンダンテと変奏曲　ヘ短調
ベートーヴェン　ソナタNo.23ヘ短調「熱情」Op.57
シューベルト　ソナタNo.20イ長調 D.959

◆7:00PM ◆東京文化会館小ホール
◆全自由席3000円
◆ミュージックプラント☎03(466)2258

26日（木） ペーター・ラング 公開講座

トーク＆コミュニケーション
「Mozart, the Musician and Man」

◆1:30PM ◆東京全日空ホテル青雲の間
◆5000円（ティー・ケーキ付）
◆東京全日空ホテル☎03(505)1111

☆大人のためのピアノ教室

「大人のためのピアノ教室」を開講するための指導講習会
講師：渡辺　圭子

◆10:00AM～12:00PM
◆カワイミュージックショップ青山
◆カワイ楽器青山店☎03(409)2511

27日（金）★ペーター・ラング　ピアノリサイタル
八千代支部発会記念コンサート

◆6:30PM　◆船橋市勤労市民センター
◆一般3000円、会員2700円、学生会員2000円
◆ＰＴＮＡ八千代支部☎0474(84)6410

モーツァルト　ピアノソナタNo.3変ロ長調 K.281
シューベルト　ピアノソナタNo.7変ホ長調 D.568
ブラームス　３つの間奏曲 Op.117
シェーンベルク　３つのピアノ曲 Op.11

28日（土）ペーター・ラング　ピアノリサイタル

◆7:00PM　◆バリオホール
◆一般3500円、学生1000円
◆東京コンセルヴァトアール尚美
☎03(814)8761

モーツァルト　ピアノソナタNo.3変ロ長調 K.281
シューベルト　ピアノソナタNo.7変ホ長調 D.568
ブラームス　３つの間奏曲 Op.117
シェーンベルク　３つのピアノ曲 Op.11

30日（月）☆東京管弦楽団　第6回定期演奏会
協奏曲のたのしみ

◆2:00PM　◆石橋メモリアルホール
◆全自由席3500円　◆I.C.C.☎03(233)3193
音楽監督、ピアノ：H.P.ロジェ
指揮・制作：小澤　純

クープラン　演奏会用小曲集　Vc.小澤　豊
モーツァルト　ピアノ協奏曲No.27変ロ長調 K.595
オネゲル　室内協奏曲　フルートとコールアングレと弦楽の為の　Fl.細川順三　C.A.石橋雅一
ルスール　室内協奏曲　ピアノと弦楽の為の（日本初演）

5月

10日（木）☆大人のためのピアノ教室

◆10:00AM～12:00PM
◆カワイミュージックショップ青山
◆カワイ楽器青山店☎03(409)2511

「大人のためのピアノ教室」を開講するための指導講習会
講師：渡辺　圭子

12日（土）☆石田　菊香　ピアノリサイタル

◆3:00PM　◆倉敷市民会館
◆全自由席2500円
◆お問合せ倉敷市民会館
☎0864(25)1515

ベートーヴェン　ソナタNo.17ニ短調Op31-2テンペスト
ソナタNo.23ヘ短調 Op.57　熱情
ブラームス　間奏曲　変ホ短調 Op.118-6
狂詩曲　変ホ長調 Op.119-4
ドビュッシー　水の反映、花火
リスト　泉のほとりで
ハンガリア狂詩曲No.12　嬰ハ短調

19日（土）☆秋津智承・落合浩美デュオリサイタル

◆7:00PM　◆
◆サンパルホールくまぬま（広島県）
◆当日券3000円、前売券2500円
◆サンパルホール☎0849(87)1866
Pf.落合　浩美、Vc.秋津　智承

ボッケリーニ　チェロソナタNo.6
シューベルト　アルペジョーネソナタ
ショパン　３つの華麗なワルツ Op.34
バラードNo.1　ト短調 Op.23
序奏と華麗なポロネーズハ長調Op.3
他

24日（木）☆大人のためのピアノ教室

◆10:00AM～12:00PM
◆カワイミュージックショップ青山
◆カワイ楽器青山店☎03(409)2511

「大人のためのピアノ教室」を開講するための指導講習会
講師：渡辺　圭子

28日（月）第17回　新進ピアニストのタベ

◆6:30PM　◆こまばエミナース
◆全自由席2500円
◆家永音楽事務所☎03(714)7803
Pf.正木麻里子、柳　康江　他

モーツァルト　ピアノソナタハ短調 K.457（正木）
平尾　貴四男　ピアノソナタ（柳）
他

6月

2日（土） ☆第5回 「樹」ジョイントコンサート

◆2:30PM ◆ノバホール（つくば市）
◆全自由席500円
◆お問合せ☎0298(52)8170（米元）
Pf.米元えり、正木麻里子、阿見玲、山崎洋子、水谷稚佳子、益田幸子
Sop.西沢照子

ラヴェル	クープランの墓	（米元）
カバレフスキー	ピアノソナタNo.2第1楽章	（阿見）
リスト	メフィストワルツNo.1	（山崎）
チレア	歌劇「アドリアナ・ルクヴルール」"Io son l'umile ancella"	（西沢）
モーツァルト	ピアノソナタハ短調 K.457	（正木）
シューマン	幻想曲ハ長調 Op.17	（水谷）
ミヨー	スカラムーシュ	（益田・米元）

3日（日） ☆コンツェルトの調べ

金子勝子ピアノ教室 25周年記念コンサート

◆2:30PM ◆カザルスホール
◆全自由席1500円
◆お問合せ☎048(852)3310（弓削田）
指揮.福井功、N響団友オーケストラ
Pf.弓削田優子、長沢優子、高橋香織 他

ダカン	かっこう
ベートーヴェン	エリーゼの為に
ドビュッシー	月の光
リスト	愛の夢
モーツァルト	ピアノ協奏曲No.23イ長調 K.488
ショパン	ピアノ協奏曲No.1ホ短調 Op.11
プーランク	2台のピアノとオーケストラの為のコンツェルト

9日（土） ☆○小倉 貴久子 ピアノリサイタル

◆6:30PM ◆草月ホール
◆全自由席2500円
◆東音企画☎03(944)1581

モーツァルト	ピアノソナタNo.17 ニ長調 K.576
三善 晃	ピアノソナタ
リスト	メフィストワルツNo.1
ショパン	アンダンテスピアナートと華麗なる大ポロネーズ Op.22
シューマン	謝肉祭 Op.9

10日（日） ●1990PTNA課題曲公開レッスン

◆A2、A1級 10:00AM、B級 1:00PM
◆東音ホール
◆会員1500円、一般2000円、親子2500円
（以上は1級につき、6講座通し券も有）
◆PTNA☎03(944)1583

A2級
A1級
B 級 以上 講師：二宮 裕子

15日（金） ☆石田 菊香 ピアノリサイタル

◆6:30PM ◆音楽の友ホール
◆全自由席3000円
◆コンサートエージェンシームジカ
☎03(780)5400

ベートーヴェン	ソナタNo.17ニ短調Op31-2テンペスト ソナタNo.23ヘ短調 Op.57 熱情
ブラームス	間奏曲 変ホ短調 Op.118-6 狂詩曲 変ホ長調 Op.119-4
ドビュッシー	水の反映、花火
リスト	泉のほとりで ハンガリア狂詩曲No.12 嬰ハ短調

17日（日） ●1990PTNA課題曲公開レッスン

◆C級 10:00AM、D級 1:00PM
E級 3:30PM F級 6:00PM
◆東音ホール
◆会員1500円、一般2000円、親子2500円
（以上は1級につき、6講座通し券も有）
◆PTNA☎03(944)1583

C 級 講師：杉本 安子
D 級 講師：渋谷 淑子
E 級 講師：今井 顕
F 級 講師：今井 顕

※このコーナーでは、各支部の演奏会や講座、及び会員の方の演奏会等の情報を、無料で掲載しております。掲載には、会員の種類、催し物名、日時と会場、入場料、お問合せ先とその電話番号、演奏者または講演者名、曲目または内容を全て必ず明記の上、または以上が載ったチラシを、締切日必着で、必ず『催し物案内』係宛にお送り下さい。又、御招待状もお送り頂ければ幸いです。

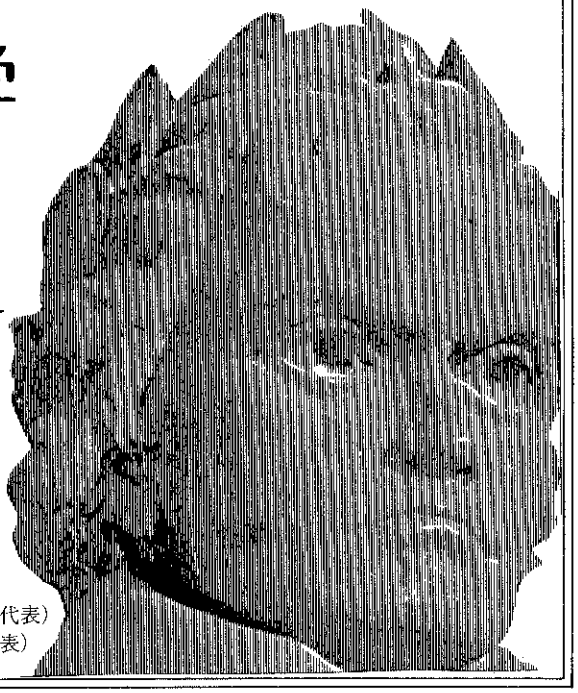
次号の締切日 5月 7日（月）東京本部必着
宛 先 〒170 東京都豊島区巣鴨1-15-1
（社）全日本ピアノ指導者協会本部事務局編集部「催し物案内」係

MUSASHINO ACADEMIA MUSICAE

武蔵野音楽大学

大学院　音楽学部

武蔵野高等学校音楽科



江古田校舎 〒176東京都練馬区羽沢1-13-1 ☎03(992)1121(代表)
入 間 校 舎 〒358埼玉県入間市中神728 ☎0429(32)2111(代表)

祝 「わたくしたちの音楽(Our Music)」150号

大　学　院●
●音楽学部
声 楽 学 科
器 楽 学 科
作 曲 学 科
音楽学学科
音楽教育学科
音楽教育専攻／音 楽 教 育
リトミック
ピアノ教育
幼児教育専攻
別科/調律専修●
附　属
音楽高等学校●
音楽科
普通科
●中　学　校
小　学　校●
●幼　稚　園

国立音楽大学

〒190 東京都立川市柏町5-5-1　TEL 0425(36)0321(代)

人が輝く環境。人が伸びるシステム。

洗足学園大学 音楽学部

音楽学科(作曲・器楽・声楽・音楽教育専攻)

洗足学園短期大学

音楽科(器楽・声楽専攻)
幼児教育科
英文科

洗足学園魚津短期大学

音楽科(ピアノ・声楽専攻)
文科(英文・国文専攻)

●併設校
附属第一高等学校
附属高等学校・附属中学校
附属小学校・附属幼稚園
附属音楽教室
附属オペラ研究所
附属合唱音楽研究所
附属音楽工学研究所
附属指揮研究所

洗足学園音楽教室宮崎台
川崎市宮前区宮崎5-14-36
Tel.044-877-7633

学校法人 洗足学園

〒213 川崎市高津区久本290 Tel.044-877-3211(代表)

ピアノ演奏研究所設立、研究員、研究生募集開始

実践的な音楽教育をめざす洗足学園大学にまたひとつユニークな教育機関が誕生します。現在の音楽大学の教育システムとリンクさせながら、その限界を越え、ピアノ演奏家としての専門教育を施すことによって、若い優秀な演奏家を育成できないか…。若きスタニスラフ・ブーニンを客員教授に迎え、その溢れ出る才能を音楽教育の中に取り組むことに成功した洗足学園大学が、この課題に挑み、今春「ピアノ演奏研究所」を設立することになりました。

この研究所には、「研究生クラス」と「研究員クラス(マスタークラス)」のふたつのクラスが置かれます。研究生については、そのカリキュラムを本大学のカリキュラムとリンクさせているため、本大学に在籍することがその条件となりますが、将来的には高校生も研究生として学べる道を開く予定です。研究員については、音楽大学卒業生程度の水準にある者であれば、誰でも応募することができます。いずれのクラスも、各種のコンクール、オーディション等への参加を前提とした教育体制をとり、実技指導に重点を置くとともに、高度な内容の音楽教育を実施します。これはまさに、音楽大学に立脚した、ピアノ演奏家への道といえましょう。

「附属ピアノ演奏研究所」平成2年4月新設

●研究生クラス　●研究員クラス　第1次募集
●就学期間:2年(研究員クラス)　募集期間／平成2年3月12日(月)～23日(金)まで
●募集人員:若干名　試 験 日／平成2年3月26日(月)
●所　　長:伊達　純　第2次募集
●研究員・研究生募集　平成2年4月中旬予定

アーサーグリーン来日

アメリカ大使館後援

情熱、陶酔。いま、実力派のピアニスト

SCHEDULE

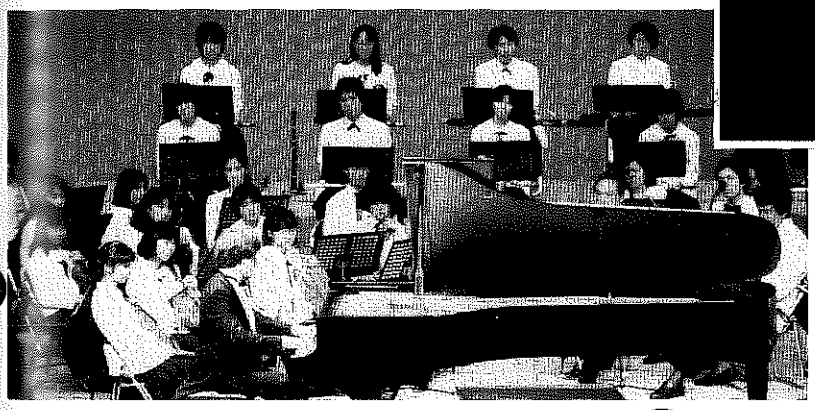
福　岡
6/6(水)6:30p.m.
福岡郵便貯金ホール
㊟日本楽芸社
PTNA福岡支部　☎092(521)3379

名古屋
6/8(金)7:00p.m.
名古屋市民会館中ホール
㊟コンサートプラン　ソァーヴェ
☎052(935)6460

鹿児島
6/12(火)6:30p.m.
鹿児島東急イン
㊟東郷音楽学院　☎0992(23)1050
▶8:30PMよりパーティー有。参加者受付中

大　阪
6/15(金)7:00p.m.
ゆやホール
㊟PTNA大阪千里　☎06(831)6776

東　京
6/18(金)7:00p.m.
東京文化会館小ホール
㊟PTNA東京支部　☎03(944)1581



●メリーランド国際コンクール優勝
●ジーナバックアワー国際コンクール優勝

エール大学で，学士(B，A)を修得後，ジュリアード音楽院で，修士をとり，その後ニューヨーク州立大学にて，博士号を得る。カール・M・ローダー賞，フレンズ・オブ・サウンド音楽賞，ハーバード・クラブ賞，アカデミー賞他，数々の賞を受賞。

ARTHUR GREENE

東京・大阪Program

モーツァルト　ソナタNo.3
変ロ長調K.281
ショパン　バラードNo1　ト短調op.23
スクリャービン　ソナタNo5　op.53
リスト　「巡礼の年1年」より
ワレンシュタット湖畔で
忘れられたワルツNo.1
ブラームス　ソナタNo3　ヘ短調op.5

名古屋・鹿児島Program

シューベルト　ソナタNo21
変ロ長調D.960
ショパン　幻想曲　ヘ短調op.49
リスト　「巡礼の年1年」より
ワレンシュタット湖畔で
忘れられたワルツNo.1
ブラームス　ソナタNo3　ヘ短調op.5

福岡Program

ウェーバー　舞踏への勧誘
変二長調op.65
ブラームス　ピアノ協奏曲No.1
二短調op.15
ラフマニノフ　ピアノ協奏曲No.2
ハ短調op.18

入場料

東　京	¥4000	
大　阪	¥3000	
名古屋	一般¥3000	FC会員¥2500
鹿児島	未定	
福　岡	一般前売¥4500	FC会員¥4000
	一般当日¥5000	PTNA会員¥4000
	学生前売¥3000	学生当日¥3500

●マネージメント● 株式会社 東音企画　東京都豊島区巣鴨1－15－1（3F）〒170　☎03(944)1581(代)

上写真：国際モーツァルト声楽コンクールin東京の表彰式の模様。本選出演の10名と講評される遠山一行審査委員長

◆東京・聖徳学園短期大学

少々時期遅れの感はあるが，頂いた御賀状に，大学の姿勢といったものが理解できるので，会員の皆さんにも会報を通じご紹介したい。

学校法人　東京聖徳学園・理事長学園長・川並弘昭氏の御年賀状から。新年を迎え皆々様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

旧年中は本学園に対し，心温いご指導ご協力を賜わりまして誠に有難く厚く御礼申し上げます。

本学園は創立者が生前絶えず申しておりました。幼稚園から大学までの一貫教育の出来る学園にしたいという願いを実現すべく小学校，中学校，高等学校を開設し，幼稚園から短大までの内容充実に心がけると共に，四年制大学の創設を計画して参りました。

最後に残された大学も関係者の皆様方の並々ならぬご協力のもとに，いよいよ本年4月に「聖徳大学」として開学することになり，人文学部，児童学科，日本文化学科，英米文化学科の一学部三学科をもって発足することになりました。

これを期に創立者の理念を忘れることなく，これまで以上に質的向上をはかり，教職員一体となって取り組んでまいる所存でございます。

どうか本年も格別のご指導ご支援を賜わりますよう，よろしくお願い申し上げます。

◆国立音大講堂大ホールで国際モーツァルト声楽コンクール開催さる

モーツァルト没後200年記念してヨーロッパ各地で開催される。国際モーツァルト声楽コンクールの東京予選とも云えるプレコンクールが，日本モーツァルト音楽コンクール実行委員会と国立音楽大学との共催で予選1月18日，本選1月21日に開催された。

審査員は，ミラノの本部より，ルチアーノ・シルヴェストリー氏を迎え，委員長に遠山一行氏，あと伊藤京子，白石隆生，戸田敏子，畑中良輔，原田茂生，吉田泰輔，フォルカー・レニッケの各氏が当った。

応募者は23名で，本選進出者は10名，最終的に5名が国際コンクール派遣者となった。航空券の提供は，ＪＡＬで21日開催された表彰式に於いて日本航空宣伝販促部々長羽根田勝夫氏より，受賞者にチケットが手渡された。

また，コンクールの模様がＮＨＫテレビでも取り上げられるなど盛大なコンクールとなった。

国際コンクール派遣者は次の通り

松田昌恵　Sp.（東京芸大卒安宅賞受賞）

山本幸夫　Br.（国立音大卒，読売新人演奏会出演）

吉田浩之　T.（国立音大卒・東京芸大大学院修）

高橋薫子　Sp.（国立音大卒，同大学院修）

日紫喜恵美　Sp.（京都市立芸大卒同大学院修・第3回日本モーツァルトコンクール第1位）

なお，松田昌志と吉田浩之の両氏のピアノ伴奏をつとめた丸山　滋氏は，ピティナ　デュオ部門最優秀賞受賞者。以上敬称略順序は演奏順。

◆ペーター・ラング氏国立音大などでも公開講座やリサイタルに出演

モーツァルテウム（ザルツブルグ国立音大）ピアノ科主任のペーター・ラング氏が4/23(月)宇都宮短大，須賀友正記念ホールと，4/28(土)尚美，パリオホールでリサイタルを。国立音大講堂で4/25(水)公開レッスン・講座の講師を務められる。

◆東京芸術大学附属高校合格者発表

入学試験のトップを切る東京芸術大学附属高校の入試が，例年通り1月中旬におこなわれ，ピティナ関係者も6名合格の栄冠を得た。

入試にいどみながら，残念にも合格できなかった方々には，若き青春時代に一時期入学試験に燃えたことは学習体験が生涯に亘りよき財産として身の内に残ることと思う。

見事合格の栄冠を得られた方は，上田(あげた)レンゲ，飯野明音，石綿絵美，新美光映，藤井隆史，山本留美奈（五十音順）

指導者名は，金子勝子，武田宏子，秦はるひ，播本三恵子の各先生方。

◆音高・音大の入試おおかた終了

全国各地にある音楽高校・大学の受験生を御指導された会員の方々はどんなにかお疲れの事と思う。編集部でわかった合格者は次の通り。

○桐朋音高　洲崎智美，秋本恵理子

○桐朋音大　奥村知子，木村麻子，森田香葉，深瀬恵美子

○国立音大　江口直子，多賀仁美，土屋真理子，古矢優子

○武蔵野音大　斎藤寛子

○フェリス大音楽部　加納順子

○学芸大Ｄ類　水野央絵(ひさえ)

指導者は上野久子，江崎光世，金子勝子，佐野幸枝，森木洋子の先生方。なお東京芸大の発表は3/23予定。皆さまからの朗報をお待ちする。

◈松山支部　高橋益代委員より

31回目という伝統を誇る全四国音楽コンクール愛媛県予選が，昨秋の11月５日・12日の両日行われ，代表10名が決った。昨年同様ピティナ会員の先生方の生徒たちの活躍が目だち，真鍋典子，高橋益代，伊藤美佐子，西山洋美の各正会員の門下生が10名中６名を占めた。

特に伊藤美佐子正会員は３名の代表を出すという快挙を成し遂げた。

続く全四国本選会は，12月３日に高知市で行われ，小学生低学年の部第一位は，小林あかねちゃん（真鍋典子門下生），第二位に矢野初美ちゃん（高橋益代門下生），中学生の部の一位には，浜本征香さん（西山洋美門下生）が受賞した。

今回のコンクールを通じて，ピティナの会員の先生方の水準の高さを世間に示し，今後のピティナ松山支部のますますの発展を見る思いがした。

私事ながら，私の弟子の矢野初美ちゃんは，ピアノをはじめて１年８ケ月。１月18日には，千葉県市川市真間に転居したので，近くに良い指導者が探せない場合，ピティナ本部にお願いするかもしれません。

素直で才能豊かな子供でしたから手放したくない生徒で，本当にずっと見守りたい気持です。先生の御招介など，何卒よろしくお願い致します。

ピティナ舞鶴支部 ピアノ発表会　1990.1.14　於：舞鶴市総合文化会館小ホール

◈舞鶴支部　広報係

平成２年１月14日（土）舞鶴市総合文化会館小ホールに於いて，ピティナ舞鶴支部主催“ピアノ発表会”が開かれました。

受験生に一度でも多く弾く機会を与え，又励ます事を目的として毎年１月15日に発表会を，と始まりましたこの会も今年で４回目となりました。受験生はもちろんの事，他の出演者にとりましても，良い勉強の場となっております。

今年も地味ながら出演17名を始め，客席の隅々まで終始張りのある充実した雰囲気のうちに終了致しました。（原文のまま。上写真参照）

編集部より　広報係とだけでなく氏名を書いて下さい。

◎市川直子支部長より

日毎色々，有難うございます。

優秀な生徒さんは，競い合うコンペティションもいいですが，一般の子供達も，ここにこ出場できる何か良い方法が欲しいナーと思います。（原文のまま）

◈滋賀県近江八幡支部

塚本光代委員より

近江八幡支部の支部名を，滋賀支部に改名したいのですが，手続等どのようにすればよろしいでしょうか。

県内におきまして，近江八幡というイメージは，小さな町，まだまだ音楽文化が低い，とあまりよくありません。本部より：３月26日の総会で支部連合規約が承認される予定です。その後に検討させて頂きます。

全四国音楽コンクールで演奏する出場者＝高知大学で

毎日新聞　1989年（平成元年）12月　4日（日曜日）

四国音コン本選

優雅な調べ 軽やかに

ピアノ最優秀　小林（小学校低学年）浜本さん（中学）

四国四県の音楽家の卵たちが集い，ピアノや声楽などの五部門で競う第三十一回全四国音楽コンクール本選会（全四国大学音楽学会，毎日新聞社四国支局主催）が三日，高知市曙町二の高知大学で開かれ，各県代表が日ごろの練習の成果を発揮し，審査の結果，各部門で最優秀・優秀・優良賞が決まった。

同コンクールは，四県の大学教員で組織する同学会が音楽家の育成とコンクール審査を教育実践に生かすため，毎年各県持ち回りで開いており，大会を成果を上げている。

今年は，小学校低・中・高学年▽中学校▽高校▽大学・一般の部で，各県予選をクリアしたピアノ部門四十五人▽声楽部門二十一人▽弦楽器部門二十人▽管楽器部門八人の計百七人が出場。各部門の会場ではリズミカルな調べが流れ，演奏が終了するたびに盛んな拍手が送られた。

審査会で「ピアノは，全体的に小学生の方が，きれいな音を出していた。声楽では，高校の部で素直な歌い方が好感が持てた。弦楽器も全体的にレベルアップ。管楽器では，参加者こそ少なかったが充実していた。木管楽器でも，ほぼ正確なリズムで演奏できていた」との講評があった。

各部門の入賞者は次の皆さん。（カッコ内は県名）

△ピアノ▽

【小学校低学年】最優秀＝小林あかね（愛媛）▽優秀＝矢野初美（同）▽優良＝赤松由梨（香川）【中学年】最優秀＝合田由美（香川）▽優良＝端麻貴（高知）【高学年】最優秀＝藤原裕子（同）▽優良＝前田典子（同）▽優秀＝山下暢子（香川）【中学校】最優秀＝浜本征香（愛媛）▽優秀＝山崎奈津（香川）▽優良＝高橋真理（愛媛）【高校】最優秀＝今内秀紀（香川）▽優秀＝福山的美（高知）▽優良＝川藤亜吉（愛媛）【大学・一般】最優秀＝野村晶子（高知）▽優秀＝前田典子（同）▽優良＝大西由美子（徳島）▽優秀＝福田信子（同）▽優良＝浜本征香（愛媛）▽優秀＝山崎奈津（香川）▽優良＝高橋真理（愛媛）▽優秀＝今内秀紀（香川）▽優秀＝福山的美（高知）▽優良＝川藤亜吉（愛媛）【大学・一般】最優秀＝野村晶子（高知）▽優秀＝前田典子（同）▽優良＝大西由美子（徳島）

◆高知支部　住友カヲリ委員より

去る12月24日，北海道から4名のヤングピアニスト，宮澤功行先生御家族を迎えて同封のプログラムのようなコンサートを開催いたしました。

大変意義のあるコンサートが開けましたこと，高知支部一同大変よろこんでおります。どうぞプログラムをお暇の折，御覧いただけましたら幸いでございます。

上写真：コンサート終了後の歓迎夕食会の模様，高知・北海道交流コンサートの模様については，97頁も合せ御覧いただきたい。

◆香川支部　池川礼子委員より

12月23日に開催致しました「四国・北海道交流演奏会」に対し，御祝詞・祝電を頂き本当に有難うございました。おかげ様で，会もとどこおりなく盛会に終わることができました。北海道のピアニストたちには，疲れているにもかかわらず，すばらしい演奏を聴かせて頂き，とても良い勉強になりました。香川の子供たちも良い演奏を聴き，とても刺激を受けた様子で，また来年の夏には，皆がんばりましょう！と互いに話しておりました。

ピティナの予選のレベルは，年々上っておりますが，そこから決勝に行く，というところが，いま一つパワーがなく，来年こそはと思っております。

今後とも，香川支部，よろしくお願い致します。下写真：香川県高松市の香川県教育会館ミューズホールでのコンサート出演者全員の写真

◆三多摩支部 新島基海広報委員より

去る1月25日に青梅釜の淵研修センター和室にて，平成二年度支部年間計画と，3月11日に催される支部主催のヤングピアニストコンサートの打合わせを兼ねて，新年会を致しました。下写真

ワインとお寿司で，和やかな新年会となりました。風邪が流行していて欠席が多く残念でした。

3月11日(日)1時30分より，青梅市民会館にて，第3回三多摩支部PTNAヤングピアニストコンサートが開催されます。入場料500円。

ゲストには，C級金賞受賞の澤木良子さんをお迎えします。

どうぞ，他支部の皆様のご来場をお願い申し上げます。

先のことになりますが6月14日(木)青梅釜の淵研修センターにおいて，PTNAピアノコンペティション今年度課題曲公開講座を行ないます。

講師　奈良場恒美先生

時間　10時より12時まで

奈良場先生による課題曲の演奏と解説です。

5月24日(木)には，支部会員による課題曲研究会など，今年も三多摩支部会員一同，はりきっています。

なお，今年度青梅地区予選は，7月25日(水)　青梅市民会館ホールと決定致しました。

◆鹿児島支部　市来貴子委員長より

鹿児島支部は，支部発足6年目にはいりました。現在支部会員は，44名です。昨年より，3月に検定を催しております。検定は夏のコンペティションの緊張感はございませんが，それだけにピティナのアットホーム的なお勉強会として，会員の方々に好評です。

今年は，3月4日(日)に開催致します。受験期や転居された先生等，参加者は昨年の79名を下まわるかもしれませんが，これからは検定も大切にしたいと考えています。皆様方の御協力をお願い致します。

◆**広島支部**　藤原博文委員より

いつもコンペティション・検定の開催につきお世話をかけております。

広島支部も早いもので，今年で６回目の開催となります。お陰様で，参加者の方も少しづつではありますが，増加してきています。成績の方もまずまずの状態になってきた様に思います。

広島の地元では，中国ユースピアノコンクールが，中国新聞，ヤマハの協力で開催しており，年に数百人のピアニスト達が参加しています。課題曲が一曲の為，参加し易いことが大きな要因であるようです。

その点，予選，本選，と４曲仕上げないと参加できないピティナの場合には，参加者を増加させるための大きなハンディとなります。

その半面豊かな曲数が，人気の要因にもなっており，この辺が何とも言えないところです。……他に何かよい方法はないかと考えたりしものます。――中略――

地元の一部指導者の中には，自分の生徒についてはレッスン生の中で選抜している関係上，全員地区本選までは参加させてやりたいと考えておられる方もいます。基準点の7.5点以上の人は，ぜひ全員地区本選に参加できるようご配慮願います。

◆**岡山支部**　大森茂樹係員より

岡山での地区本選開催の希望が出ておりますが，支部としての体制など諸般の事情により，即，今年度から開催，という結論は出せない状況にあります。何卒御了承下さい。

今年も地区予選は，２日間開催しますが，２日間をできるだけ均等割に近い進行でお願い致します。

支部としての活動もやや停滞しておりますが，除々に体制を整えて充実させていきたいと考えておりますので，よろしくお願い致します。

◆**姫路支部**　井上久栄委員長より

コンペティションの本選地区割のことですが，地区の区割りと名称の統一を計るべきだと思います。

支部の作り方の規約は，現在も変りませんか？

本部より：支部運営規約にのっとって支部設立ができることになっていますが，現在は連絡所を２・３年やってから支部昇格になるところが多いようです。

◆**京都連絡所**　辻二千子委員長より

地区本選への地区割りは，何を基準にされているのか知りたいと思います。受験者数？　地区予選数？

本部より：受験者数，予選数，支部役員の体質，希望などあらゆる面を考慮して割り振っています。

◆**高槻連絡所**　辛島勝己係員より

ピティナ　コンペティションの特徴に，審査員の先生方の講評がありますが，「とってもよかったよ」だけではとても物足りなく思います。

これだけの講評ですと，私でもできるような気がします。先生方には暑い中大変でしょうが，適切なご講評をお願い致します。

◆**宮崎支部**　川添倭男委員長より

昨年の暮，年の瀬も押しせまった12月26日，本部から福田靖子先生を迎えて，山村由美子，吉留恵子両会員と，今後のピティナ発展の為の検討会を開きました。

また，２月２日，ピティナに熱心な先生方５名に集っていただき，今後，宮崎予選をいかに発展させ，定着させるか，について話合いました。

そこで，この５名が中心になって周囲のレスナーさん方へ，告知ＰＲをして行くこと，また，今年のピティナ参加者は，最低50名を目標にしよう，などと話合いました。

３月23日(金)午前10：30～　福田靖子先生に来て頂いて，ピティナの説明，課題曲の解説などをして頂く予定です。

５月上旬に，公開クリニックを開催したいと思います。また，宮日新聞の後援依頼や，レスナーのカリヨンの会の機関誌などによるマスＰＲを徹底的に活用することなど，とにかく，再スタート第一年にしようと確認しあいました。

２月11日福岡で開催される，南日本支部連絡会は，都合により欠席させて下さい。先日送附された一覧表の支部役員構成については，もうしばらく御猶予下さい。

上写真：左側が川添倭男氏12/26の折

◆**佐賀支部**　津山訓子委員より

佐賀支部での検定，コンペティションへの参加者は，会員メリットを考えて本部会員と支部会員の生徒子弟に限定しようと検討中です。

◆**新潟支部**　本間和子広報委員より

去る１月９日ガルベストンクラブにおいて，平成２年度の新潟支部総会を開きましたので，御報告申し上げます。尚，今年より新潟支部事務局をヤマハ新潟店が，お引き受け下さることになりました。支部の窓口として，いろいろお世話いただくことと思います。

今年度の事業計画，運営委員が決定しましたのでお知らせ致します。

◎新潟支部事務所　ヤマハ新潟店

支部長　佐藤峰雄
事務局長　笹谷裕子
会計・監査　高橋厚子，小野宏子
広報・記録　本間和子，石月恵美子
PTNAコンサート委員　斎藤桂子
鈴木啓子，高木智穂子
課題曲公開講座委員　本間和子，
伊藤美子，小野宏子
コンペティション委員　高橋厚子
石月恵美子，市嶋沙由子

以上の役員が，新潟支部を運営致します。

３月18日(日)第２回目のＰＴＮＡコンサートが，ヤマハホールで開かれます。春の訪れと共に出演者50人が，それぞれどんな音楽の世界をくり広げて下さるか，とても楽しみにしております。

本部の皆様にも，色々と御指導いただくことと思いますが，よろしくお願い致します。

◆南日本地区支部連絡会開かる

建国記念日の2月11日，福岡支部に於いて，南日本地区の支部・連絡所の連絡会が開かれ、一属のピティナの団結，前進を誓い合った。

出席者は，本部から福田靖子専務理事，福岡支部より支部長の杉山千賀子評議員と志賀のぞみ正会員及び浦信雄実行委員長(事務局長)，佐賀支部から，納富絹枝支部長と諸田知栄子会員。大分支部から，田中星治正会員，熊本支部は中島政裕評議員。はるばる宮古支部から森上瑞男委員長，北九州支部も実行委員長の神崎曙氏，徳山支部の中丸博美実行委員長もかけつけ，総勢11名が一堂に会し，議長に熊本代表の中島政裕氏が，佐賀の諸田知栄子氏，福岡の志賀のぞみ氏が，書記に選ばれた。

先づ始めに，福田専務理事より新設されるシニア部門の内容説明や従来のコンペティションで昨年に比して変った点などの説明がなされた。また1991年のモーツァルト没後200年記念事業の計画や，F級のロマン期曲は，自由課題になる可能性があること，A級，B級には，金銀銅賞などが無くなる可能性もあることが話された。

支部からは，支部長に代議士の先生をお願いしているところで，非常にメリットが大きいという発言のあった北九州支部に比して，山口県では，音楽家が足をひっぱる材料にするなどあまりかんばしくない面があったと報告があったり，宮古支部からは，検定合格点をもっと上げて権威をつけて欲しい，と云う意見がでたが，北九州支部からは，指導者は地区本選進出させるために，あらかじめ7.5点を目ざして生徒たちを指導しているのだから急に合格点を上げては，今迄の習慣からしても目標が遠のいてしまうなど，同じ事柄でも支部の立場によって，意見が分れたのは致し方のないことであった。さらに遠島である宮古支部から，地区本選の持ち廻り制の提案があった。

北九州支部からの，支部長を支部会長という名称にという意見は，第10回総会で規約改正がおこなわれ，実施できるようになる模様。

会員の増加をはかるには，支部へのメリットを考えなければ可能性が薄いのではないか，という意見は，全支部の一致した考えであった。

何はともあれ，全国支部連絡会に比して，同じ南日本地区の仲間という感じで，初めて顔を合せた方々がいらしたにもかかわらず，非常に心の通った連絡会となった。

◆大阪北摂支部

去る2月10日，(社団)(法人)ＰＴＮＡ北摂支部長，武佐秀美先生は脳腫瘍のため市立伊丹病院に入院致しました。同先生は，1月末頃より頭痛，嘔気に襲われ，川西市民病院で感冒の治療を受けていましたが，内科医の指示により頭部レンドゲン撮影を行なったところ，松果体に直径3cm程の腫瘍が発見されました。川西市民病院には脳外科の専門がないため市立伊丹病院に移り，去る2月27日腫瘍摘出の手術を行ないましたが，10時間に亘る大手術のためいくつかの合併症が懸念され，3月3日現在もＩＣＵにて治療が行なわれています。

北摂支部では，本年度のコンペティション地区予選会を「池田・宝塚」「西宮・神戸」「尼崎」の3地区を予定しておりますが，支部長急病により一部コンペティション自粛の動きも出ており，参加者の減少が心配されます。

北摂地域在住のＰＴＮＡ会員の先生方には，例年に増して多くのご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

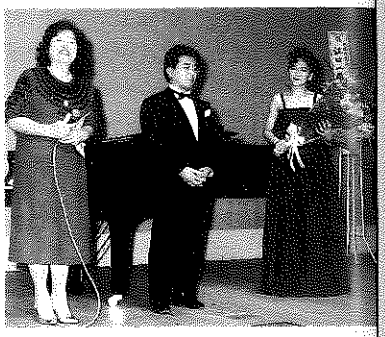
◆横浜支部　　ハタメロディより

去る2月24日，石川洋子先生による第6回かながわ音楽コンクール課題曲公開レッスンは大変好評のうちに終了しました。この公開レッスンの模様をビデオ収録しています。

ビデオ・レンタルサービスをどうぞ。ＶＨＳ2本組1545円です。

◎**4月8日(日)16：30～**
～フレッシュ・ストロベリー・コンサート～。デズニーの世界
○世界音楽めぐり　など。
ピアニスト　臼井久美，嶋直子

◎横浜支部ハタ楽器会員の方には，ハタ楽器オリジナル「レッスン進度・おたより表」(50円)を生徒さんの人数分，**無料**で差し上げています。045(434)1100



◆千葉県八千代連絡所

八千代連絡所（4月より支部昇格予定）の運営に携わっているヨシダ音楽院が，創立15周年を記念して，昨年12月3日八千代市市民会館に於いてピアノ・バイオリン・フルート声楽などのコンサートを盛大に開催し好評を博した。上写真：左から司会の吉田操委員長，ピアノの長野量雄氏，ソプラノ斉田正子氏。

◆北海道道東支部

当支部発足以来，長野正美支部長を始めとする釧路ピアノ音楽院職員の皆さんによって支部運営がなされてきたが，年々増える参加者とそれに伴う業務が膨大になってきた為に下記に事務局を置くことになった。

◎釧路楽器内（㈱多米楽器商会釧路支店）
住所　釧路市北大通13丁目
電話　0154(23)4471
実行委員長（事務局長）白取勝春

◆四国・北海道のピティナ　ヤングピアニスト交歓演奏会盛大に開催

昨1989年札幌雪まつりの季節の2月2・3日，札幌サンプラザに於いて，北海道・四国交流演奏会が盛大に開かれたが，この時の返礼として昨1989年12月23日24日に高松と高知で，四国・北海道交流演奏会が開かれた。

2月北海道に招かれた四国のピティナヤングピアニストは，大堀勢津子（小5）笠井恵子（中1）里見美佐(中1)住友美智子(中3)の方々。

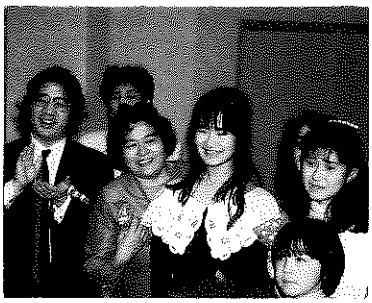
12月四国に招かれた北海道のピティナヤングピアニストは，宮澤むじか（小6）渋谷香帆（中2）加藤寿子（高1）阿部志津（高2）の皆さん。いずれもピティナ全国大会で，上位入賞された日本的な腕前を持つヤングピアニストたち。

12月23日高松市の香川県教育会館でのコンサートは，四国・北海道交流演奏会と名うって，地元55名のヤングピアニストとの協演は，聴く人人に大きな感銘を与えた。

12月24日高知市の高知県民文化ホール（オレンジ）では，ＰＴＮＡ高知・北海道交流コンサートとし，クリスマス・コンサートと名付けられた。高知地元の全国大会進出者16名とのコンサートのあと，山内るり正会員の関係の山内神社内にある山内会館で親睦会が開かれた。

土佐犬，土佐武士の舞などのアトラクションに続いて，ビンゴ遊び，親子あてっこ，など，お腹をかかえて笑いあい真に四国と北海道の交流がなされた。

上写真：土佐犬と一諸にパチリ，
下写真：皆んなで大笑い　左から札幌の宮澤功行評議員，本部の福田靖子専務理事，加藤寿子さん阿部志津さんその前は宮澤　弦君



◆全国決勝大会出場者へのアンケートから

例年全国決勝大会まで進出した参加者たちにアンケートを行っているが，昨年第13回ピティナ　ヤングピアニスト・コンペティションで，全国決勝大会まで進出した250名の方々にもアンケートを実施した。

アンケート用紙を発送した日は，1989年9月7日。ご回答下さったのは91名で，回答率は36.4%。級別に回答率を見るとＡ２級が，50%，Ｅ級43.8%，次はＢ級の42.9%，Ｃ級40%，あとＡ１・特・Ｄ・Duo・Ｆ級と続き，回答率が一番良くなかったのはＧ級であった。

回答者に占める会員の割合34.1%である。以降質問別に全国決勝大会進出者の意識を探ってみたい。

㊐　ピアノを始めたのは何歳？

4才からと答えたのが32名で，最も多く5才・3才・6才・7才・8才と続く。91名回答の内，9才からという方が1名いたが，殆どの人が5才迄にはピアノを始めている。

㊐　ピティナの参加は何回目？

2回目という方が，35名で初めてという方が23名，次3回目15名，7回目という方が1名で毎年という方が7名もおられたのには感激である。

㊐　今回の参加を決めたのは？

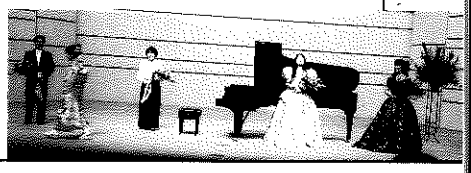
52名（57.1%）が，先生に勧められてと圧倒的に多いが，自分からと答えた40名もなかなかのものである。

㊐　自分の成績については？

予想以上の好成績だったが，40名で44%，予想外の悪い成績16名17.6%，正当に評価された当然の成績32名で35.2%と，例年予想以上の好成績だった，と答える方が多い。その他の質問は割愛する。

◆澤田定子記念音楽院活挽に活動

奈良支部の運営に携わっている上記楽院（理事長澤田定至人氏(左写真)では，新春の1月7日大阪厚生年金会館で松本英子(Sp)・藤野ゆかり・長田育忠(P)　ジョイントリサイタルを盛大に開催(下写真)。翌8日は，同楽院内にある酒蔵ロマン館に於いて，福田靖子氏を迎えて，「楽しく音楽を聴くには」と題する講演会，西日本本選出場者による演奏会を開催した。



指導者賞受賞者名の追加とお詫び
前田恵子先生（札幌市在住）

147号のコンペティション記念号及び要項に，指導者賞を受賞された前田恵子先生の御芳名掲載もれがありました。前田先生には，深くお詫び申し上げます。

前田恵子会員は，札幌で予選が始まった頃から，多くの生徒さんをピティナに出され，昨年は全国大会進出者を出されるなど，札幌市内で教育の実績を挙げていらっしゃる方です。また他にも御芳名もれの方がいらしたら，本部まで御知らせ下さい。

03(944)1583　編集部

◆ペーター・ラング氏 千葉県八千代支部発会記念コンサート 4/27に出演

モーツァルテウム（ザルツブルグ国立音大）ピアノ科主任教授で，同学の夏期大学の学長でもあるペーター・ラング氏が，この4月4回目の来日をされる。

3月末の総会で連絡所から支部に昇格予定の千葉県八千代支部では，支部発会を記念して，ペーター・ラングピアノリサイタルを開催する。

プログラムは，モーツァルト／ピアノソナタ K.281，シューベルト／ソナタ OP.122，ブラームス／3つの間奏曲，シューンベルグ／3つのピアノ曲 Op.11

日時　4月27日(金)　6:30p.m.
会場　船橋市勤労市民センター
問合せ　0474(84)6410
　　03(944)1581 チケット

セゾンでもチケットを取扱い中

なお，国立音大など大学での講座・リサイタルについては，92頁を参照

◆東京・全日空ホテル青雲の間でも 4月26日(金)2:00p.mより ペーター・ラング公開講座を予定

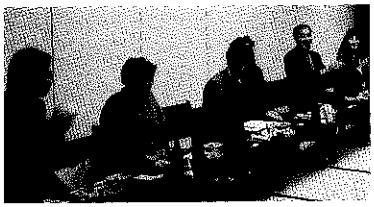
「音楽家として，人間としてのモーツァルトの魅力に迫る」をテーマに東京六本木にある全日空ホテルでも第27回トーク＆コミュニケーションに，ペーター・ラング氏が講師として招かれている。

お茶とケーキを頂きながらおしゃれなお勉強をされては如何が？どなたでも参加できる。03(505)1111

◆柳川覚治副会長を囲む新年賀詞交歓会開かる

昨年は昭和天皇の御逝去により中止されていたが，1月22日恒例の芸術・スポーツ・文化関係代表が一堂に集う賀詞交歓会が，東京プリンスで開かれた。

当協会からは5名が参加，柳川覚治副会長と共にカメラにおさまった。右写真：右から福田靖子専務理事，海老原ゑみ子評議員，南院紀子正会員，柳川覚治副会長，明石咸子正会員，斎藤政子国際部職員。



◆田渕進理事の還暦を祝う会開かる

新春の1月14日，田渕進理事の60才のお誕生に宇都宮市随一の料亭市金鍋で氏の還暦を祝う会が開かれ，陶芸家の坂田甚内氏，東京から福田靖子専務理事もかけつけ盛会裡に終了した。今後も御活躍を期待したい。

◆安永武一郎理事定年で福岡教育大学長から大分県立芸術短大学長へ

2月10日記念会が盛大に開かれた。

◆春季ピアノフェスティヴァルVol.43，3月25・26・27日開催

春・夏に開催しているピアノフェスティヴァルは，今春第43回を迎え，カザルスホール，〈東音〉ホール，セシオン杉並で開かれる。

くわしくは，別にお送りしているプログラムを参照のこと。

◆課題曲演奏会・公開レッスンなどクリニック各地で開催される

4月3日の近江八幡を皮切りに全国各地で，課題曲演奏会，公開レッスンが開催される。くわしくは，はさみ込みのチラシを参照頂きたい。

全国の問合せは 03(944)1583へ

◆150号記念号への御厚志御協賛，お便りを御寄せ下さった方に感謝

当法人の会報「Our music わたくしたちの音楽」も今号で150号を迎えた。大勢の方々から御厚志を，そして国内外の方々から御寄稿を頂き心から感謝申し上げる。

101号から表紙は殆ど変っていないが，内容は少しづつではあるが進化している。これから一層の内容の充実をはかりたい。今後とも，皆様方の御力添えをお願い申し上げる。

（第三種郵便物認可）　1989年（平成元年）12月23日（土曜日）　音楽　堂

世界的ピアニストめざせ！

梅光女学院高3年押川さん 来年春に渡英

ロンドン大演奏科に合格

北九州市戸畑区中本町，梅光女学院高（下関市）三年押川珠里さん（一八）が，九州で初めてイギリス国立ロンドン大学音楽部演奏科の入学試験に合格，来春，渡英する。

押川珠里さん

珠里さんは三歳の時，父親の楽器店経営一二三さん（五〇）の勧めでピアノを始め，小学二年から梅光女学院大の宝木多加志教授に師事。数々の大会で入賞歴があり，今年八月の国際コンクールイン下関の高校生の部で一位になった。一昨年，ウィーン音楽アカデミーの夏季講習を受講したのをきっかけに，留学を思い立った。入学試験は東京であり，英語による面接や実技など三次にわたった。

来年四月，同大学の外国人のための英語クラスに入り，九月の入学に備えるが，「世界に通じるようなピアニストになりたい」と意欲満々。宝木教授は「とてもかんのいい子なので伸びるでしょう」と合格を喜んでいる。

和音調子（かずねしらべ）のひとりごと

150

社団法人　全日本ピアノ指導者協会　会報　わたくしたちの音楽　が，創刊以来150号を重ねた。

和音調子（かずね　しらべ）の名で拙文を書き始めてから，幾としが過ぎていったのだろう。「会報が届くと先づ最初に開くのが，和音調子の頁なんですよ」とか，「和音調子しか読まないのよ」などとおっしゃる言葉をよいことに，150号までよくも書いてきたものである。筆者の耳には届いてはいないけれど，いいかげんにして止めたら，と思っていらっしゃる方だって，無きにしにあらず，であろうに。

ところで，音楽関係の会報では，社団法人　日本ピアノ調律師協会が，昨年創立60周年を迎え近く会報100号を発刊するというし，社団法人　日本演奏連盟では，頁数は4～8頁のものながら，近く300号を重ねようとしておられ，毎月発行しておられるから，こちらもまた25年の歴史を歩まれていることになる。社団法人は，人の集りであるから，文字がそのコミュニケーションをはかる一番良い手だてとして，会報が存在し継続していくのだろう。

最近は，カセットテープやビデオなどによる，情報交換も活発におこなわれているけれど，やっぱり，文字印刷による情報交換は確実であり，すたれることはないと思う。

合金術が発明され，グーテンベルグの活字が生れたのは1450年だとされているから，人類はどれほど印刷技術の恩恵を蒙っていることだろう。筆者は，この会報発行にかかわるまで，印刷の工程というものをまったく知らなかった。生れて初めて，印刷屋さんを訪れた時の驚きは今も忘れられない。

この一文字一文字の活字を手で拾って組み上げ，そして印刷機にかけるのだ。これが，活版印刷で，グーテンベルグの印刷原理とまったく同じことである。今では，この会報は，オフセット印刷であるけれど，写植屋さんが，一文字一文字，字を拾って印画紙に焼きつけていくことには変りない。

書く人が違えば文章だって異り，一文字一文字によって文章が構成されているのだから，一文字一文字を拾うのは当り前のことなのだが，印刷工場に足を入れるまでこの，手間のかかる行程に思いが寄らなかったのだ。

印刷がいかに手間のかかるもので，尊い働きによって印刷物ができ上っていくのだということを筆者は知ってから，文字とりわけ書物に対する感じ方が変ってきた。感謝の心を持って本を読むようになった，とでも言ったらよいであろうか。

だから筆者は，国民教育として小学生時代に印刷工場見学することを，義務づけるべきだとさえ思っている。

きて，満月のことを十五夜お月さま　という。15という数字は，安定を意味するようだ。15ヶの同形の丸を下から5・4・3・2・1と重ねていくと，きれいな三角形になることを見ても，15が安定数だとわかるだろう。会社など創立15周年記念のパーティは開いてもよいが，創立10周年パーティは開かない方がよいと，言うようなことを聞いたことがある。

だが十五夜の満月は，だんだんと欠けていく始まりでもあるのだ。そしてついに，一夜月になる。月ならばそれが，三日月になり，今度はだんだんに満月に向って大きくもなっていく，というくり返しがある。組織はどうなのであろうか。

会報150号を重ねて，筆者はよろこばしい，という感情よりも，十五夜の月であってはならない，という恐れの方が，ずっと強い。筆者の生きている限りにおいて，ピティナの落日を見るようなことにはなりたくないと思う今日この頃なのだ。

150号の次は，151号である。数を重ねることは，確にすばらしいことである。そして人間には，数が多いことを尊しとする風潮がある。

数といえば，国民の代表として国の為に働かれる国会議員の先生方の序列は，年令でも何でもなくて，当選回数なのだそうだ。それは，議員として働いた年月という意味からしても，とてもよい習慣だと筆者は思う。だが一方で，価値ある行為と序列とは一致しない面も存在するのではなかろうか，と思うのだ。

それは人間の年令に似ている。いかに平均寿命が延びた今日でも人間米寿まで長生きすることは，なかなか大変なことであるし，長生きは価値あるものと思う。しかし，何歳まで生きたか，ということ以上に，どう生きたか，が人生の価値を大きく左右するのだと思う。

ピティナ　ヤングピアニスト　コンペティションも来年には，いつしか満月の数第15回を迎えるという。音楽は数字で表わせないはずなのに，コンペティションの採点は，数字で表わしている。参加者の多いコンペティションでは，点数で評価するのが一番安易なので，致し方ないのだろう。

数字で表わせないもの，それは，芸術であり，人間の愛　だと思う。会報150号発刊を機に，筆者は数字にこだわることなく，数を越えた価値あるものを追求していきたいと思う。何はともあれ，会報150号発刊　おめでとう！を申し上げねばなるまい。

会報200号，300号，発刊の頃には，世の中どう変っているであろうか。これからも皆さまが御健康でご活躍されますようお祈り申し上げよう。

温かい心と 温かい言葉

音楽教育専攻
声楽専攻
器楽専攻
作曲・指揮専攻
　オペラコース
　声楽演奏家コース
　器楽演奏家コース
　邦楽演奏コース
　バロック音楽研究コース
　映画・放送音楽コース

付属音楽専修コース
付属高等学校
付属音楽教室

東京音楽大学

〒171 東京都豊島区南池袋3-4-5
TEL. 03(982)3186(代)

村川章之作曲

『草競馬』の主題による変奏曲（連弾）

Our Music 創刊150号記念作品

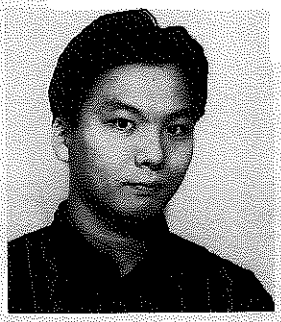
この曲は1989年1月に完成したもので，東大ピアノの会の7月演奏会で演奏し，好評を得たものです。連弾曲を作ったのはこれが初めてなのですが，連弾でしか出せないような効果も狙っています。Theme—1—2,3,4—5,6,7,Finaleというまとまりで演奏します。

Theme　フォスターの有名な「草競馬」

1.　1stがモーツァルトの第1変奏風。
2.　符点＆厚い和音。
3.　2人で協力してメロディーを出す。
4.　4声の輪唱。(手抜きという話も。)
5.　半音階の和音がだんだん厚くなる。
6.　「スカラムーシュ」のパロディ。
7.　こわれたレコードのようだという人もいました。

Finale　主題に戻って適当に終わる。

おちゃらけた曲ですが，まあまあ楽しめるものと思っています。



村川 章之

■1969年生まれ。1979年，ＰＴＮＡヤングピアニスト・コンペティションＣ級金賞，日本テレビ杯受賞。武蔵中，高卒業。現在，東京大学工学部精密機械工学科3年。年に3，4回，「東大ピアノの会」というサークルで演奏をしている。

村川章之君のこと

福田 靖子(専務理事)

村川章之君との出会いはもう11年以上も前のこととなる。1979年のピティナ　ヤングピアニスト・コンペティションに，賢そうな少年がC級に参加してきた。審査員たちの間で，知的な演奏をするこの美少年に話題が集中した。そして期待通り，小学校4年生の彼が見事金賞を受賞したのだった。

同夏，F級で金賞を受賞した小6の石田多紀乃ちゃんと村川君の多紀乃・章之コンビで全国各地へ演奏旅行した思い出は，私の一生の間でも実に楽しい思い出となったのだった。何しろ彼は頭脳明晰，即興演奏であれ難曲といわれる曲でも，難なく演奏してしまうのだ。

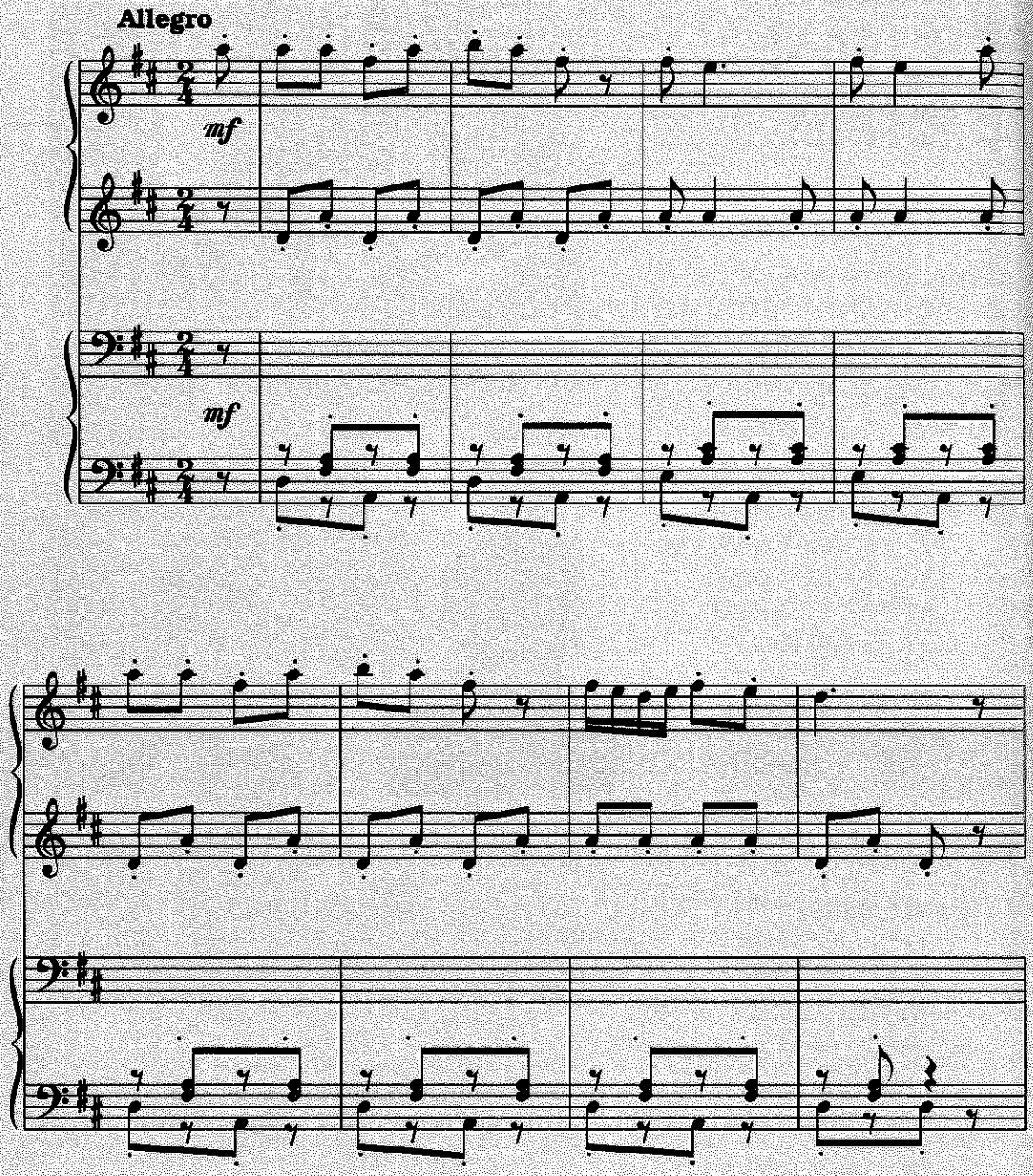
今はピアニストとして立派な成長をとげている若林顕君が島根県益田に演奏会で行くことになっていたのだが，突然のテレビ出演で，どうしても益田まで行けなくなった折，村川君にぜひ演奏に行って欲しいとお願いしたところ快く引き受けてくれ，突然にもかかわらず，立派な演奏をしてくれたのだ。

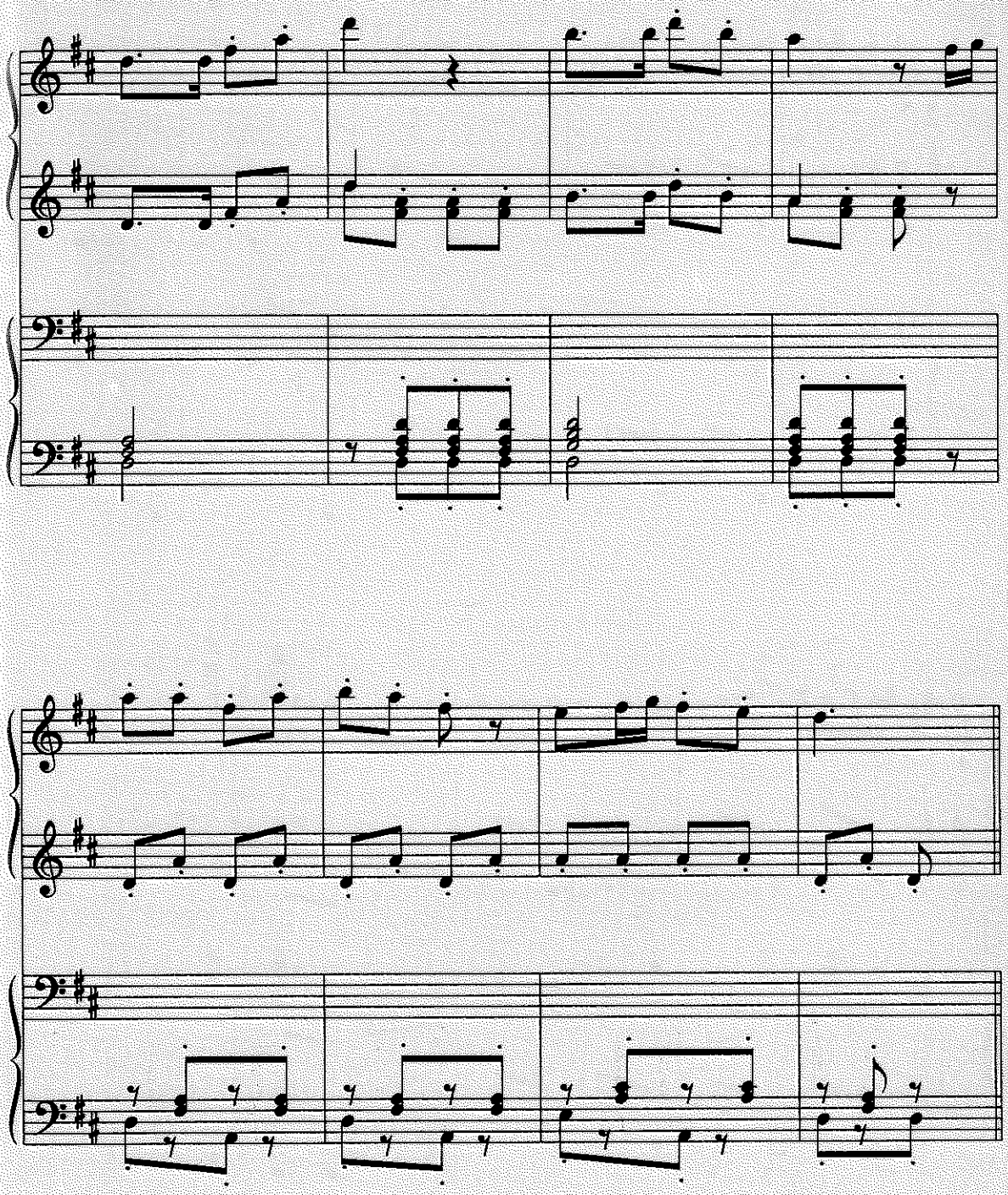
新しい楽器ＤＸ７を求めた時，この奏法の開発をお願いするのは，まず村川君のことを思い出し，ピティナのサロンまで来て頂いた。楽器と共に長い時間を過ごされていた彼の姿を，今でも思い出す。

もう東京大学の学生になられたのに，今も音楽と共に生活しておられ，会報150号を記念して，連弾曲を送ってきて下さったのだ。皆さま方の御愛奏を期待したい。

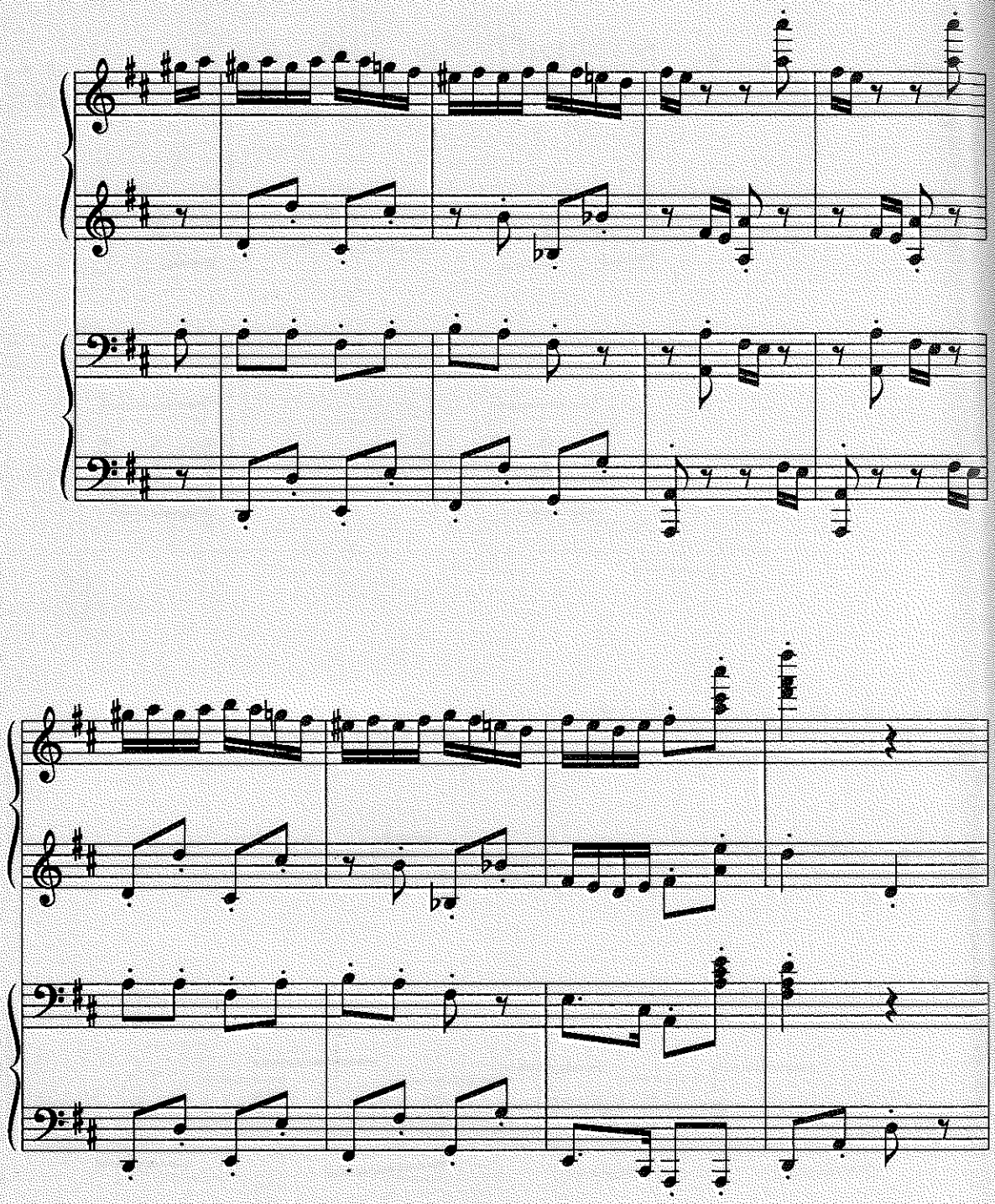
村川章之君　本当に有難う！

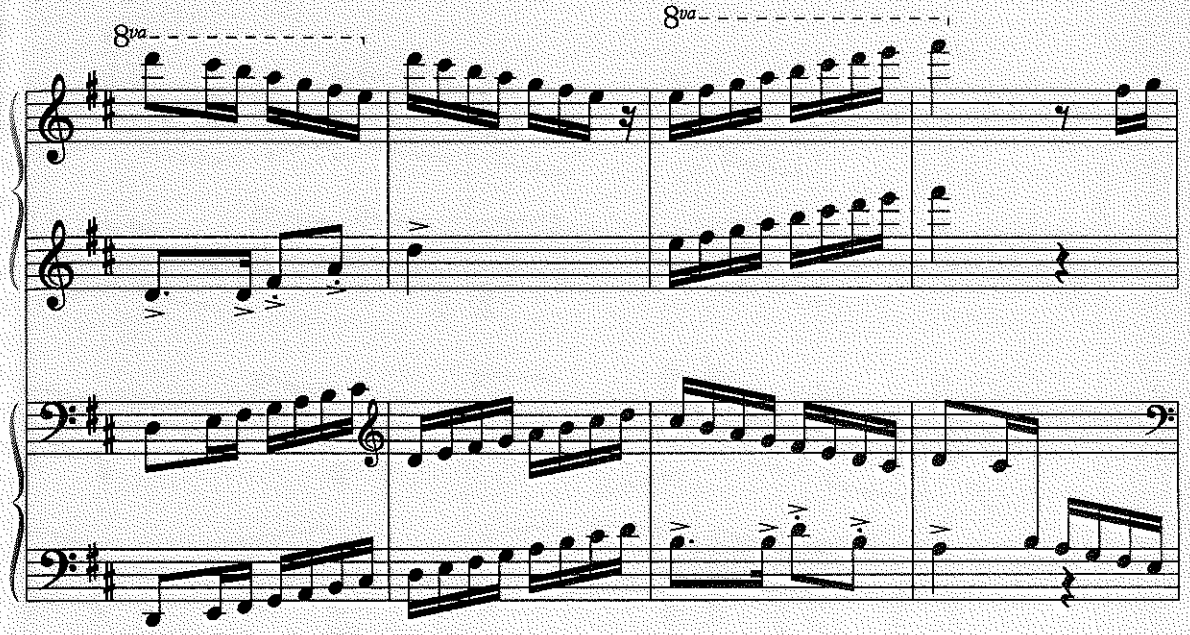
Theme

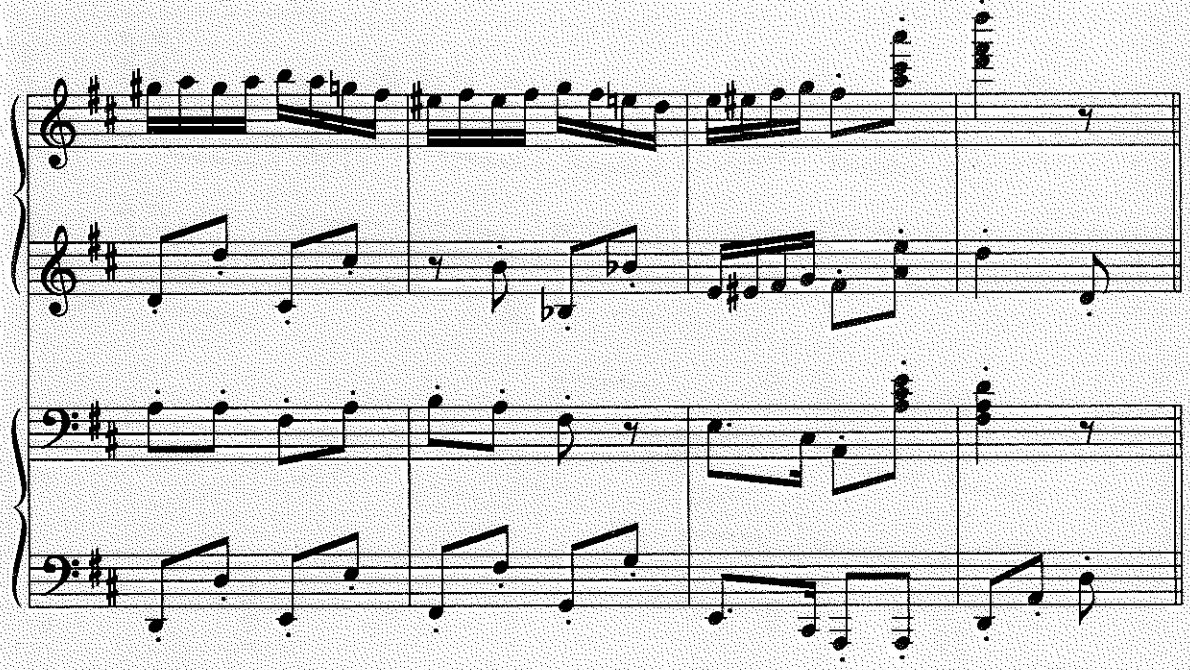




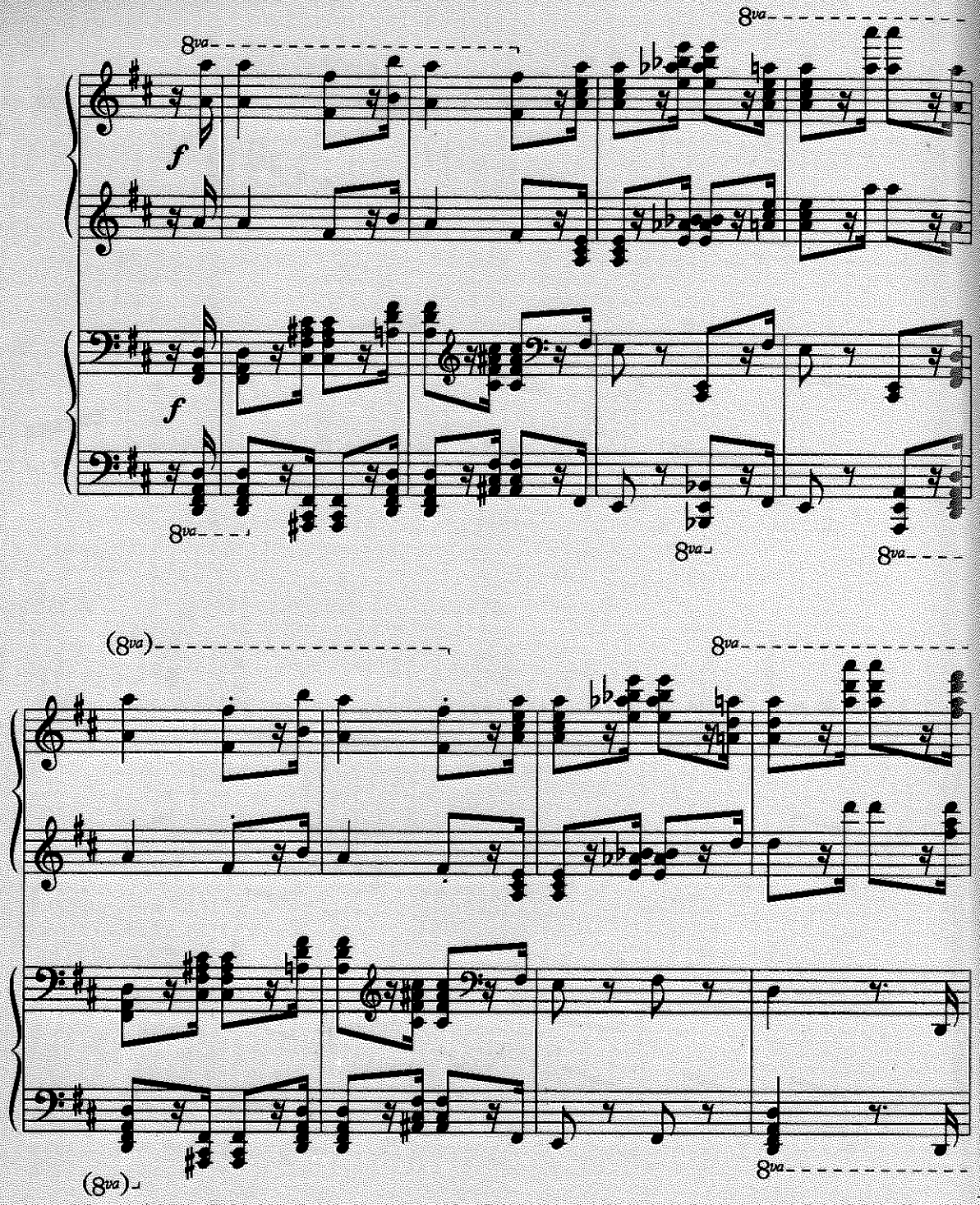
1.

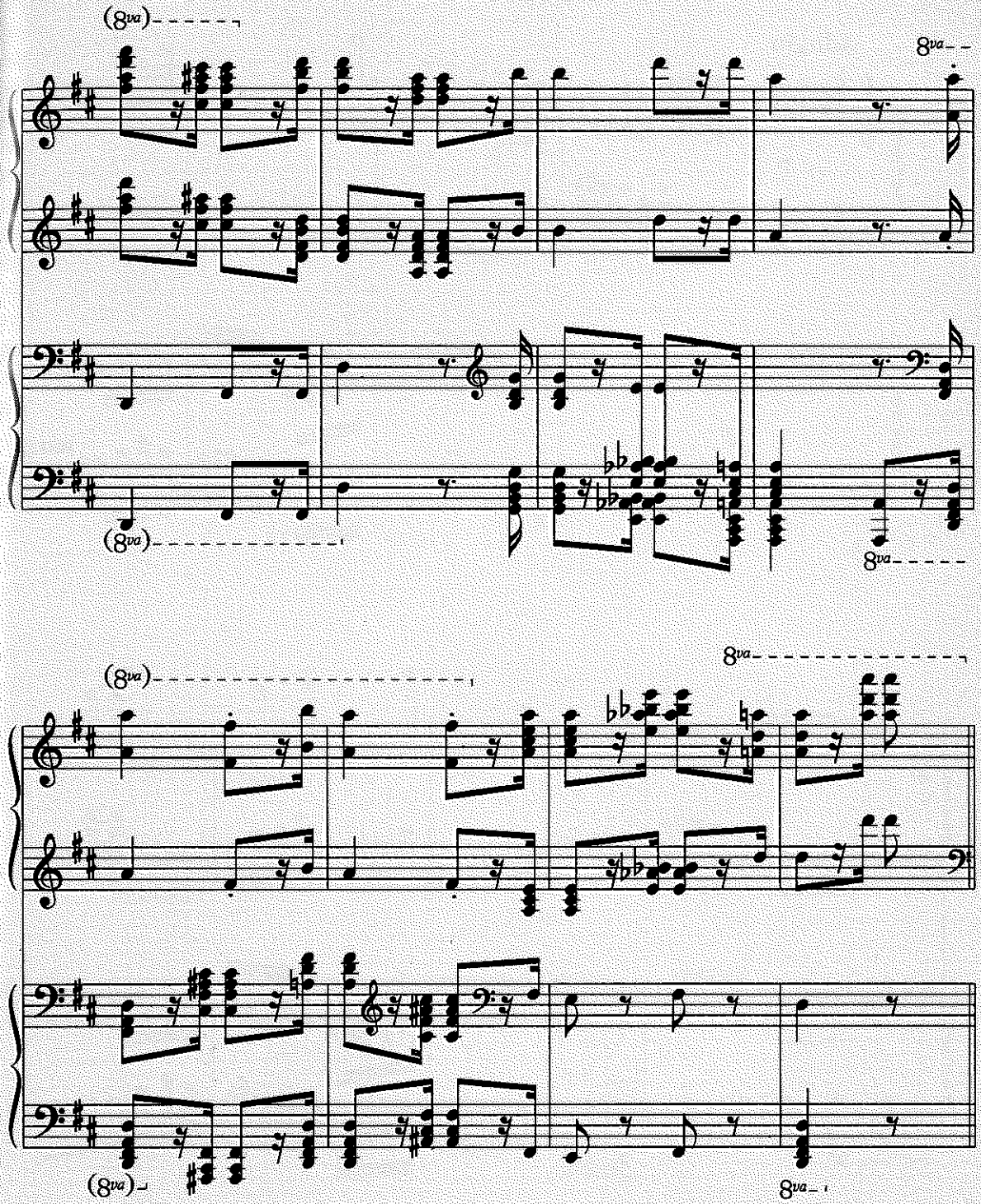



8va
8va

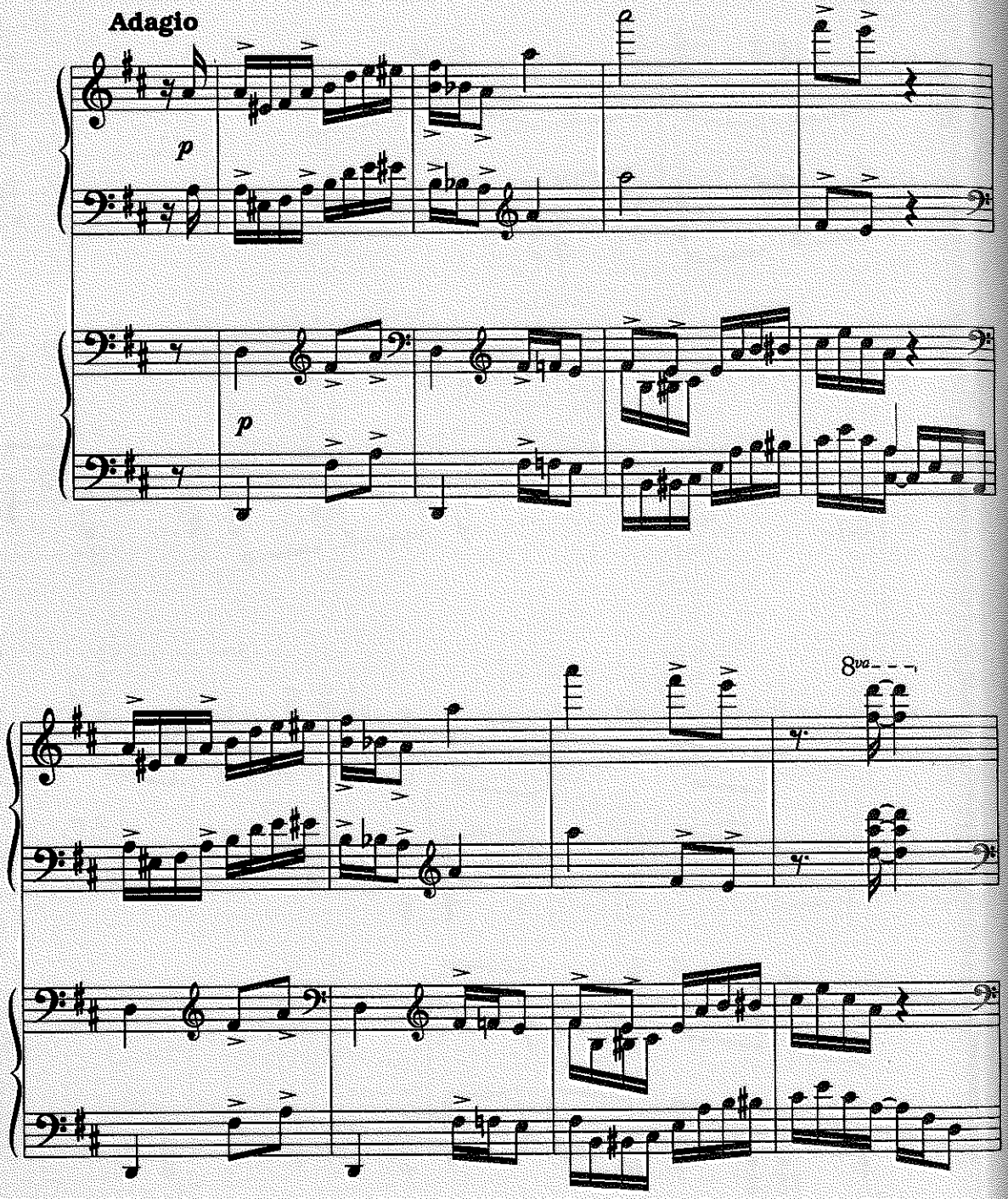


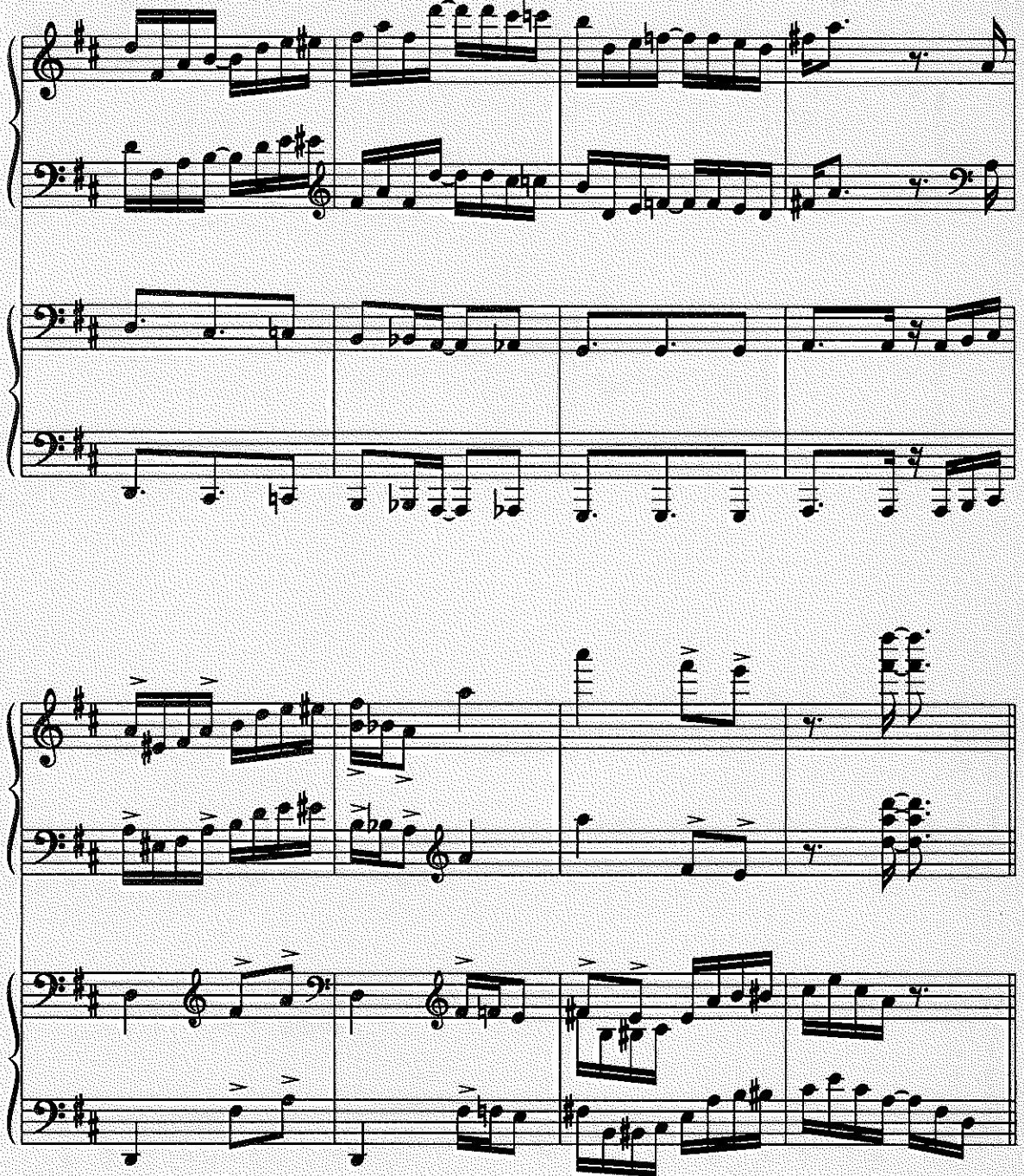
2.



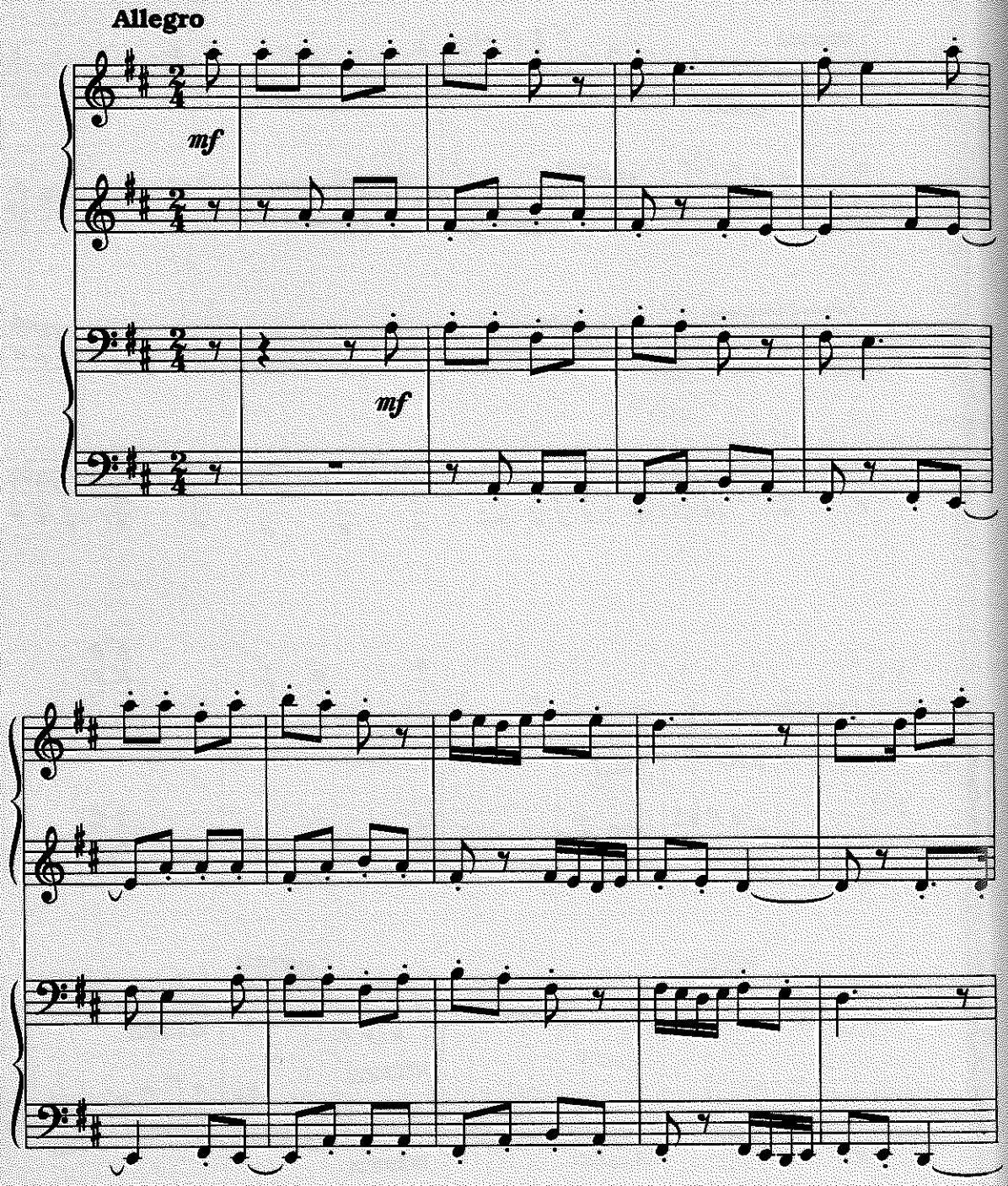

(8va)
8va
(8va)
8va
(8va)
8va
(8va)
8va

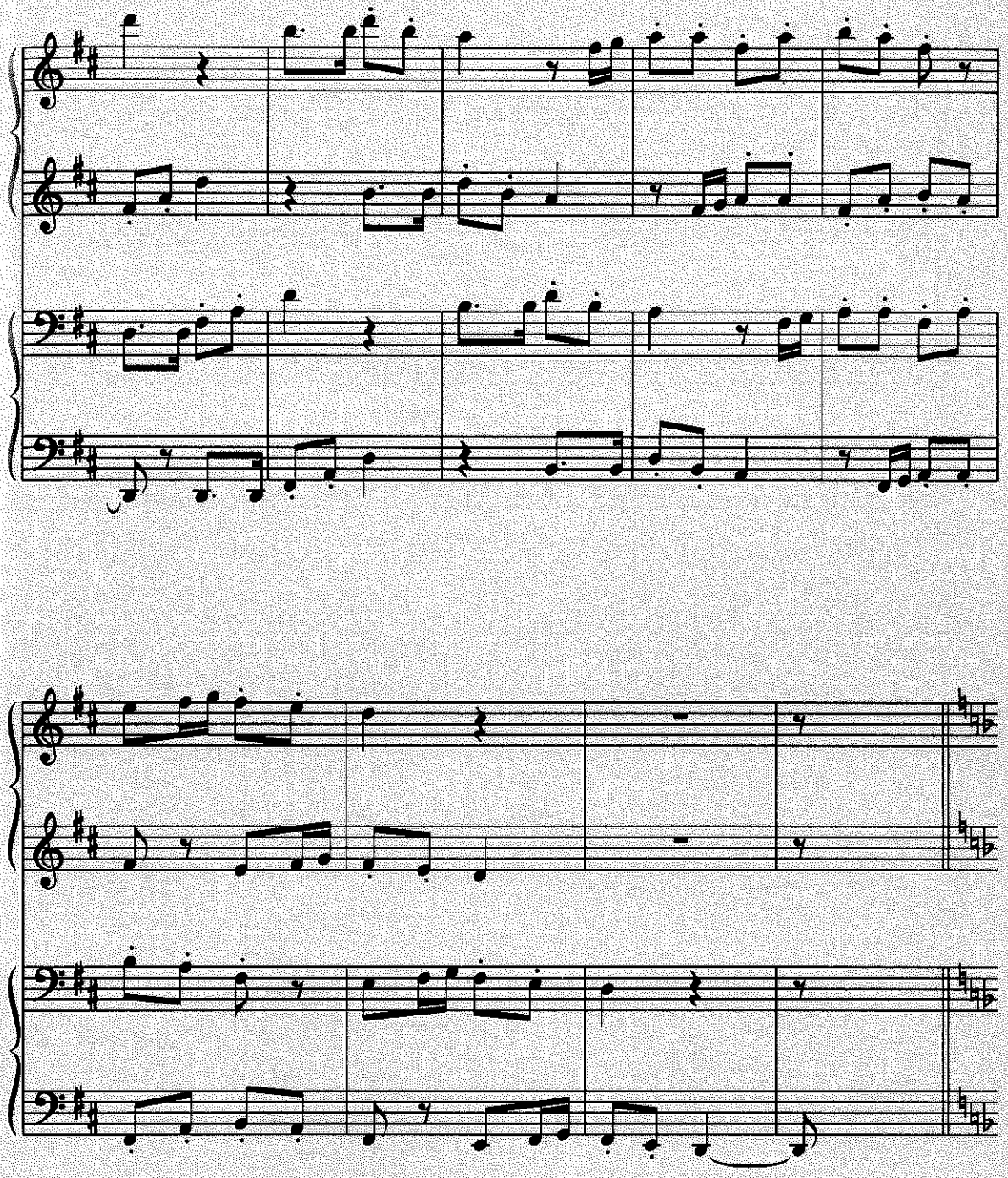
3.



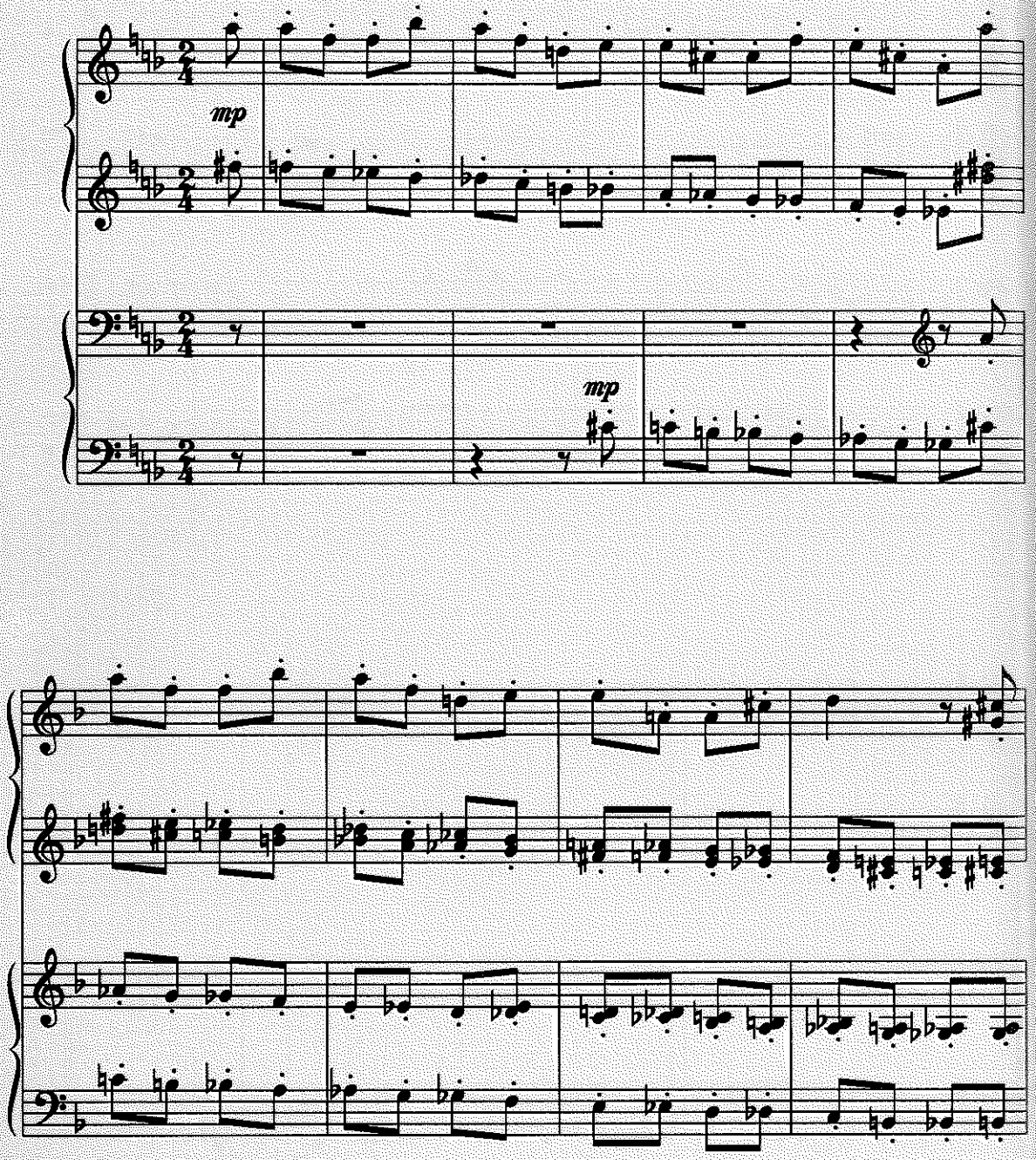


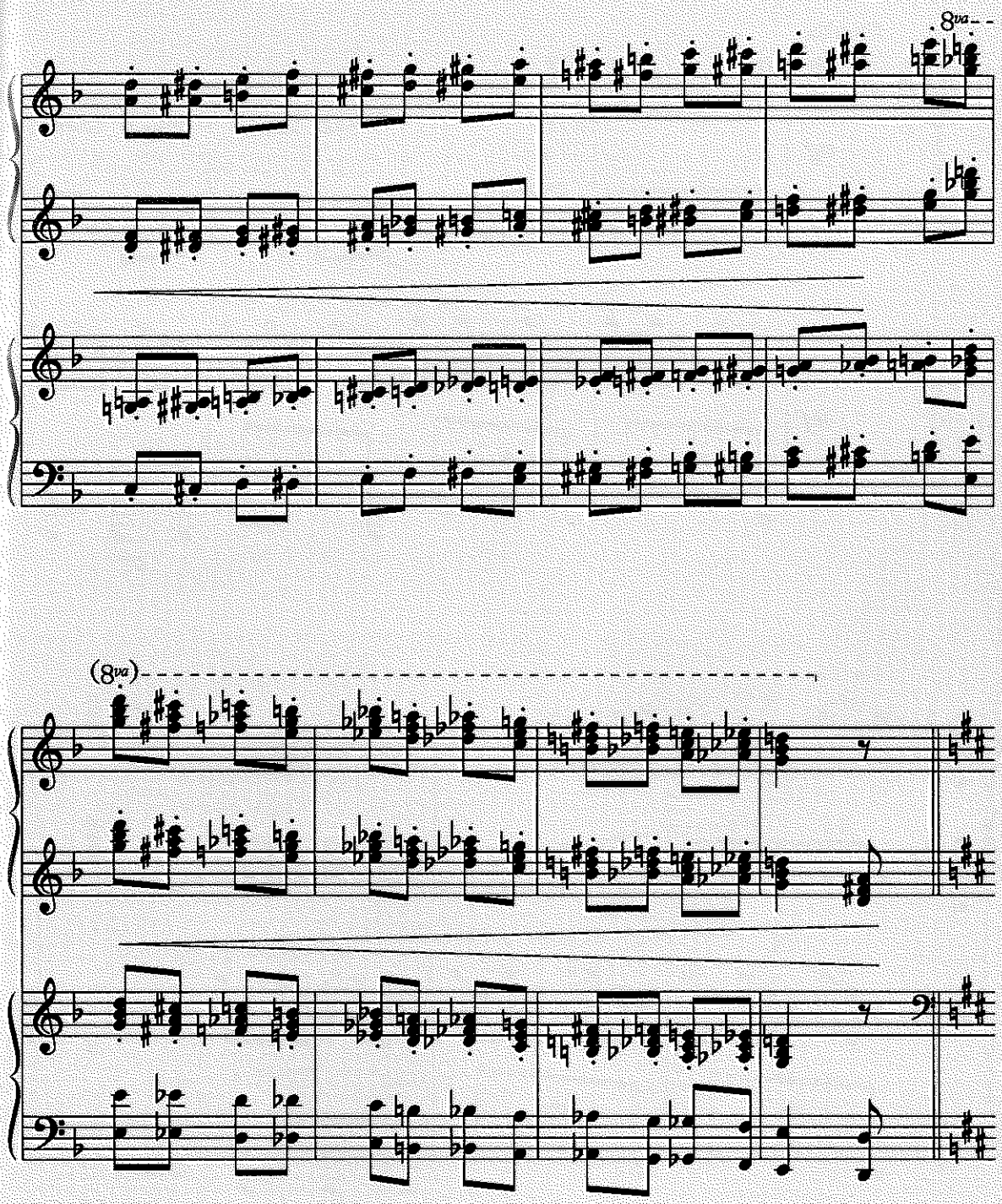
4.





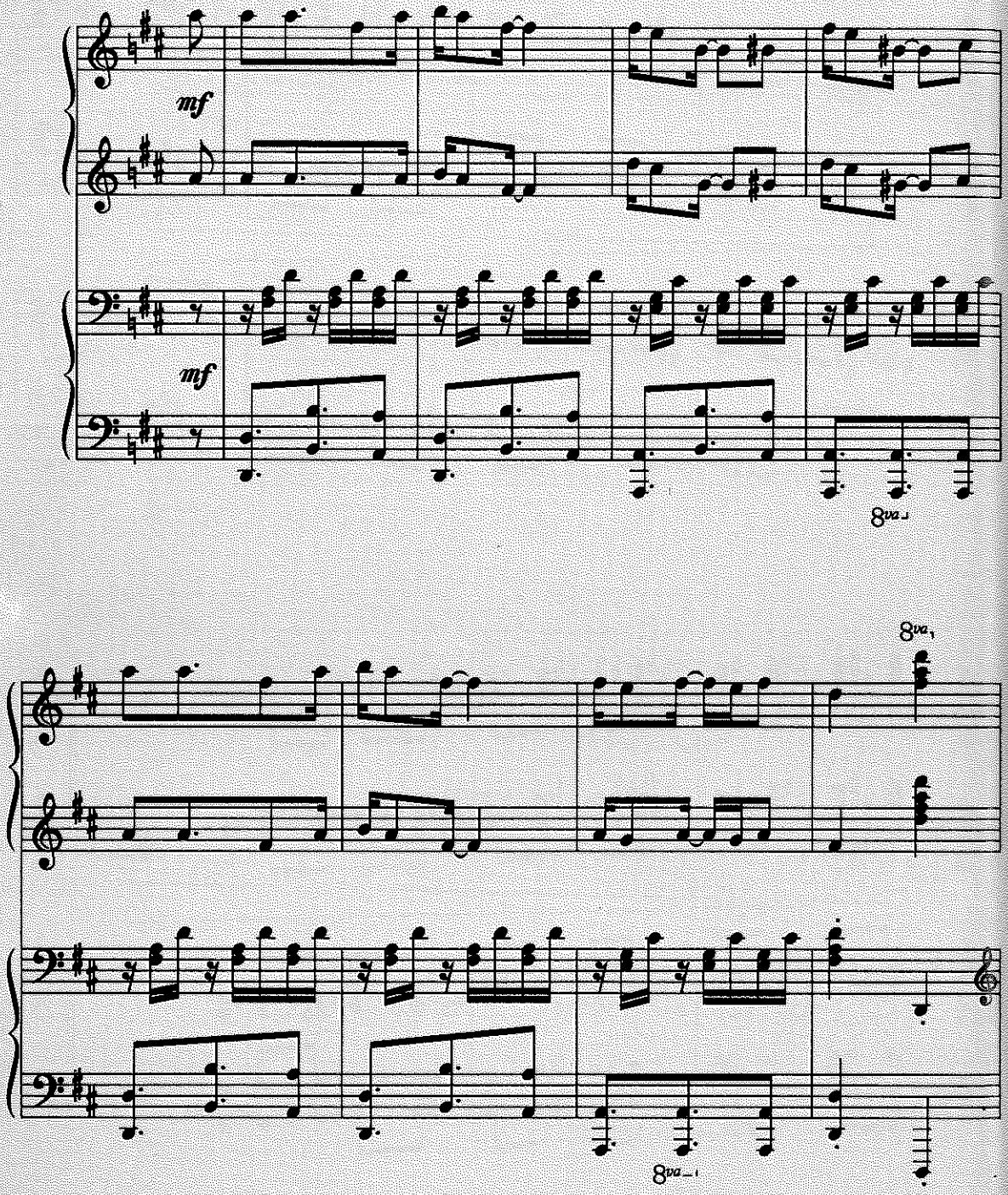
5.

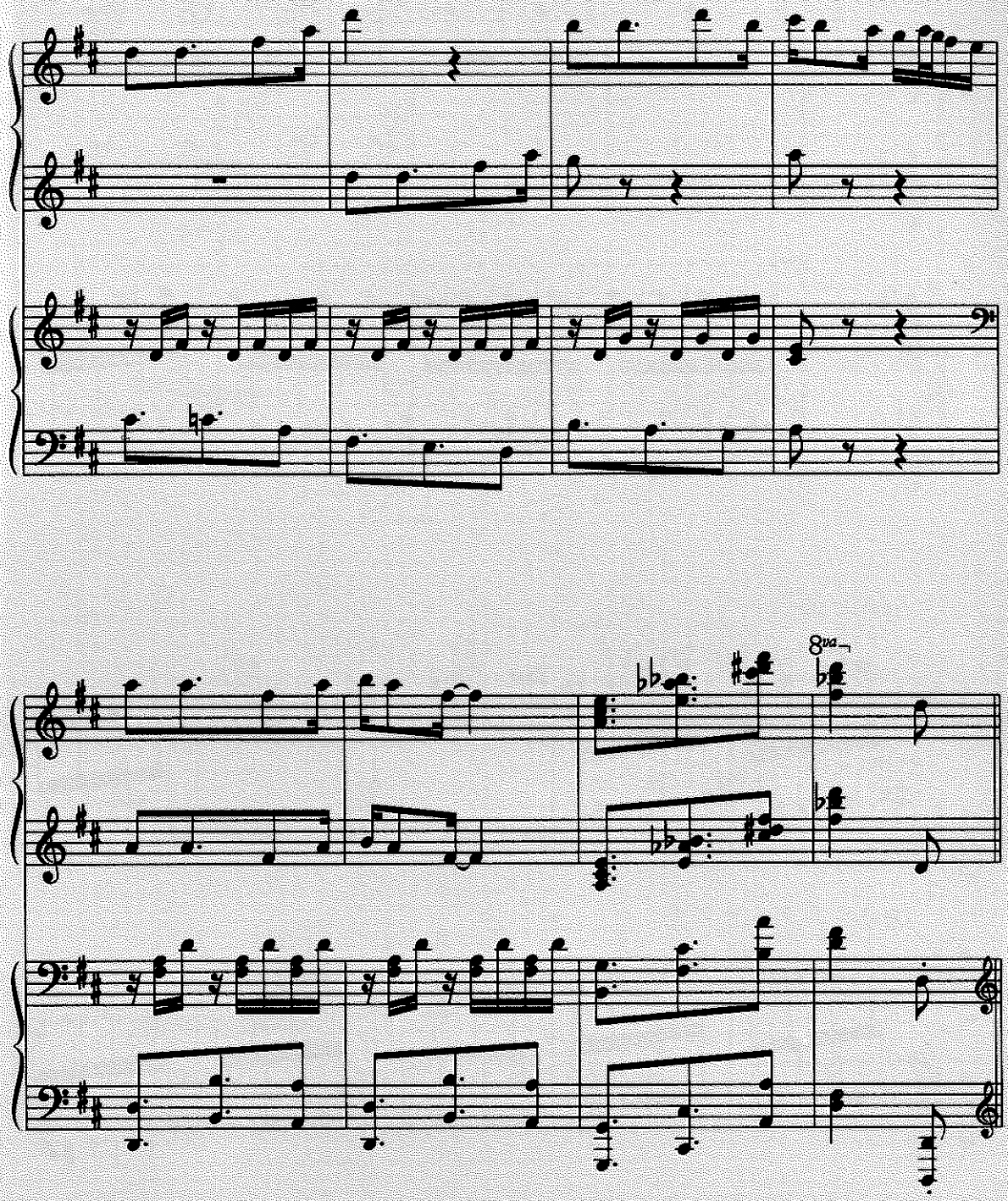



8va
(8va)

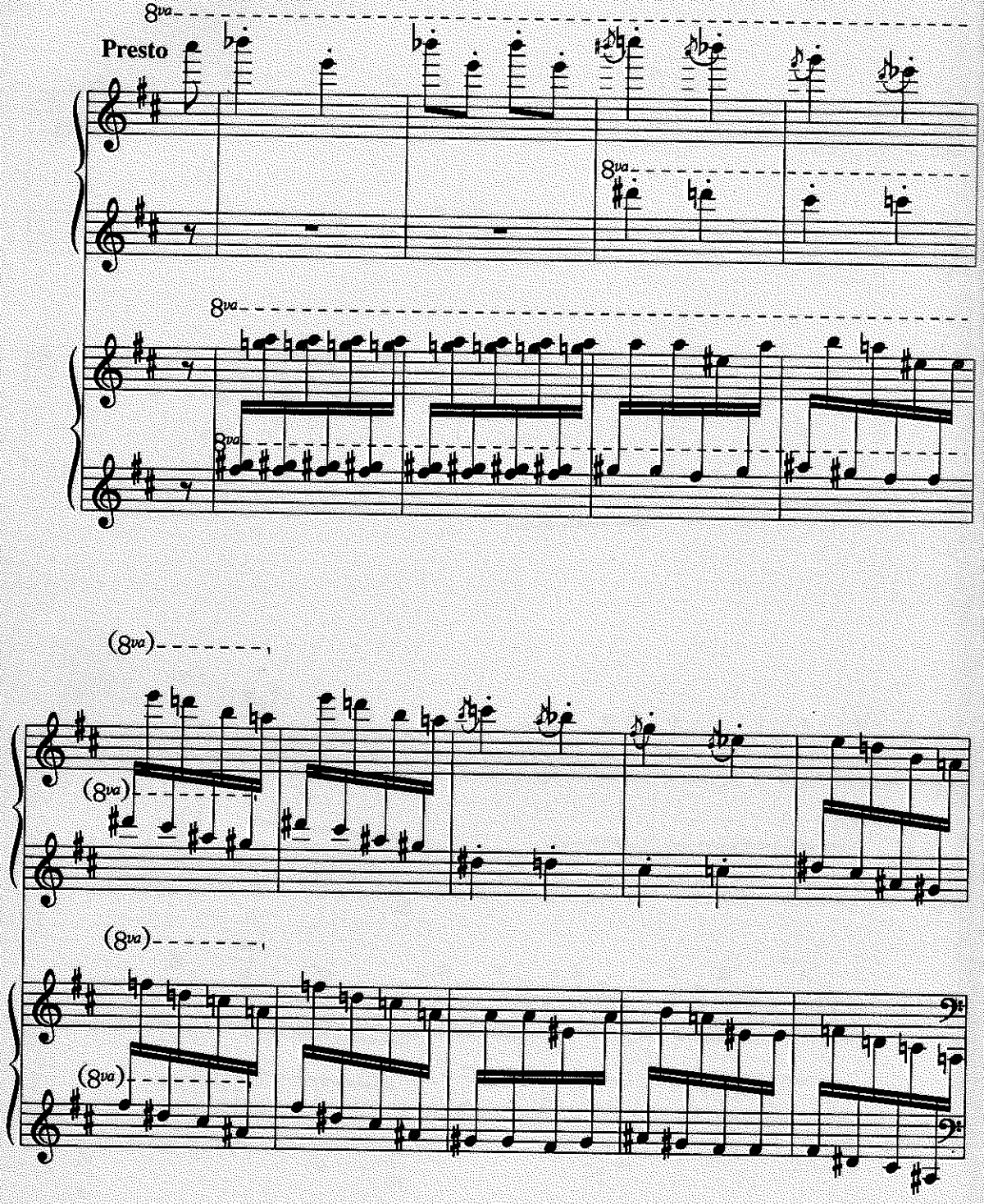
6.

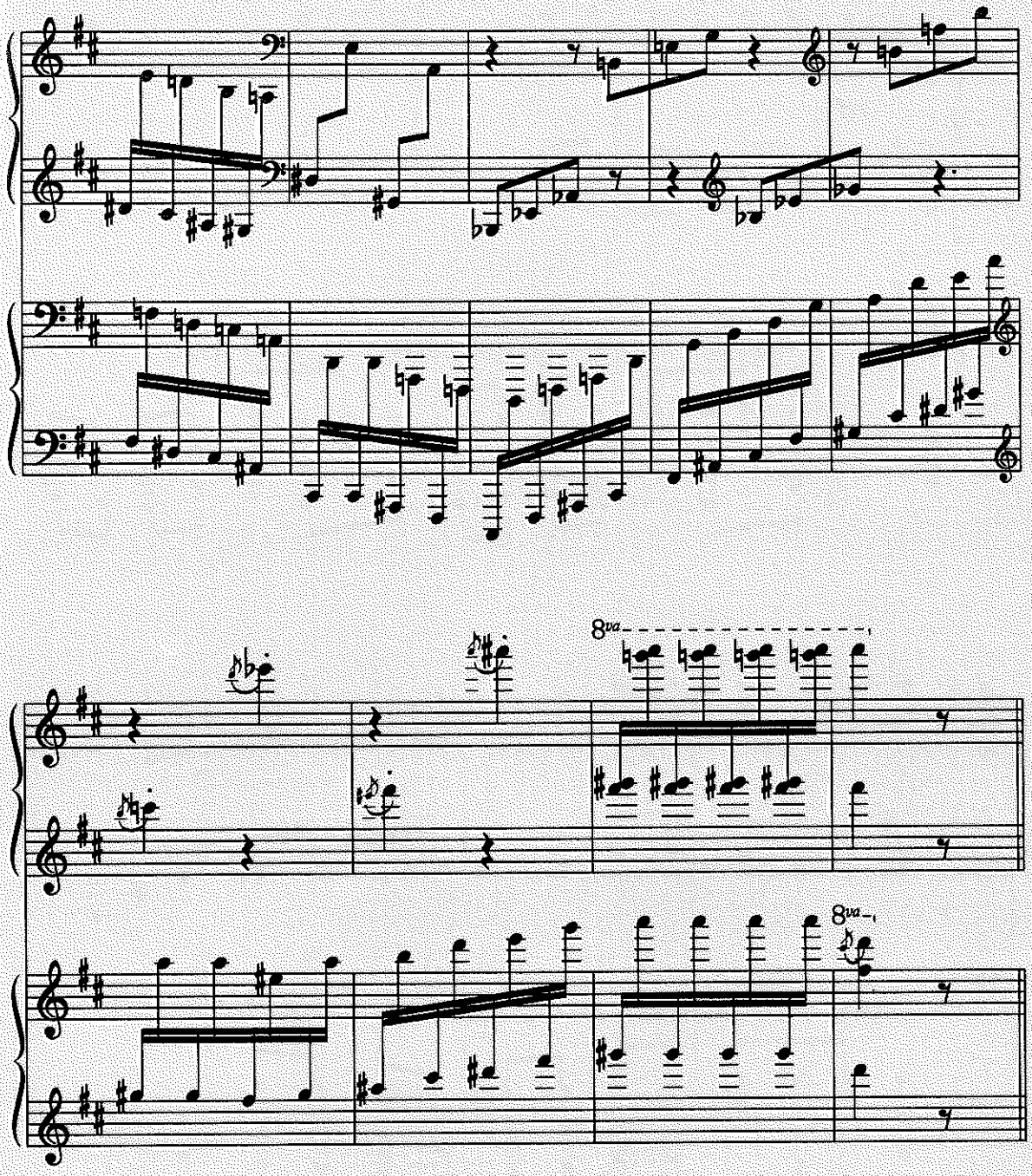
Samba



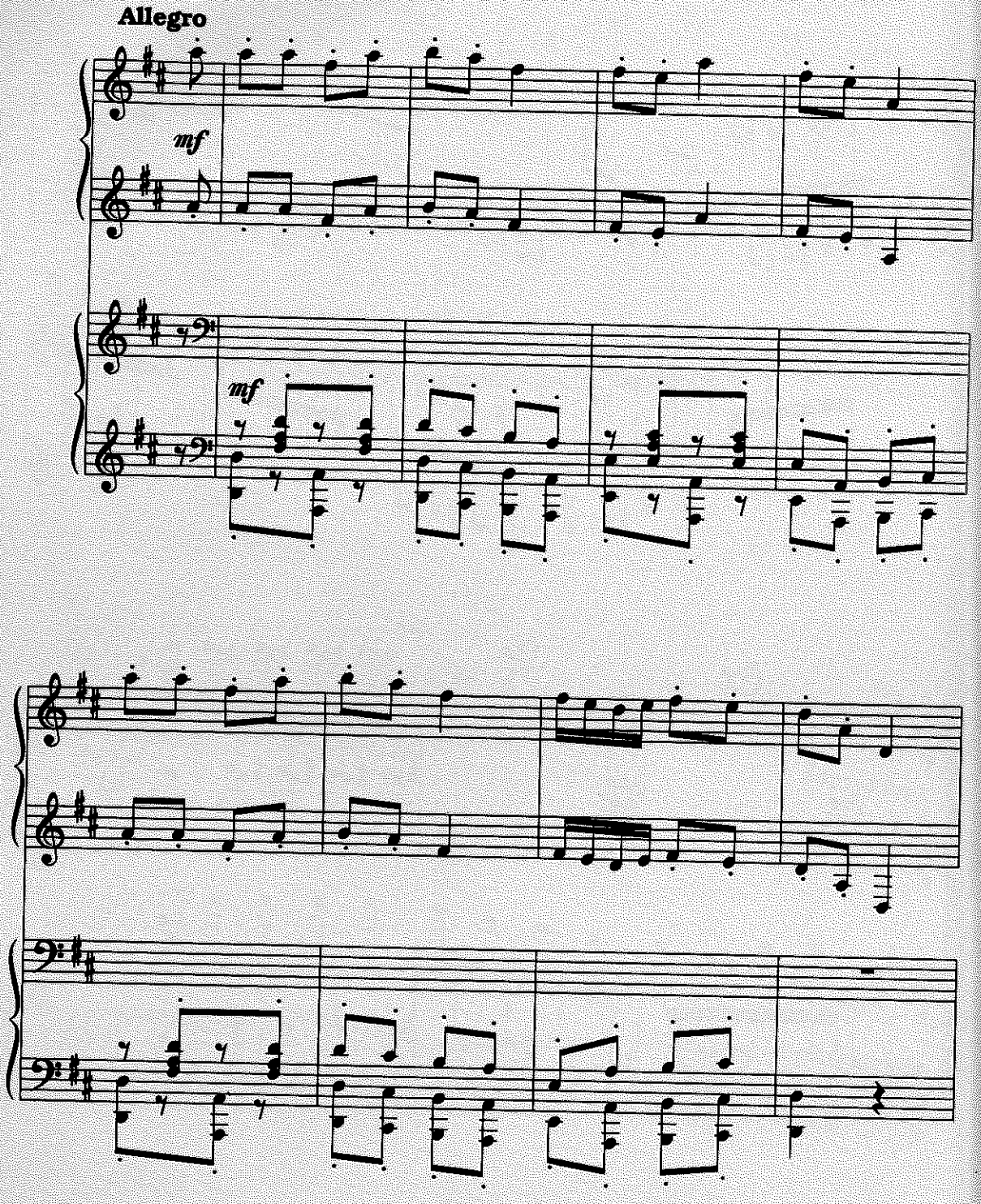

8va

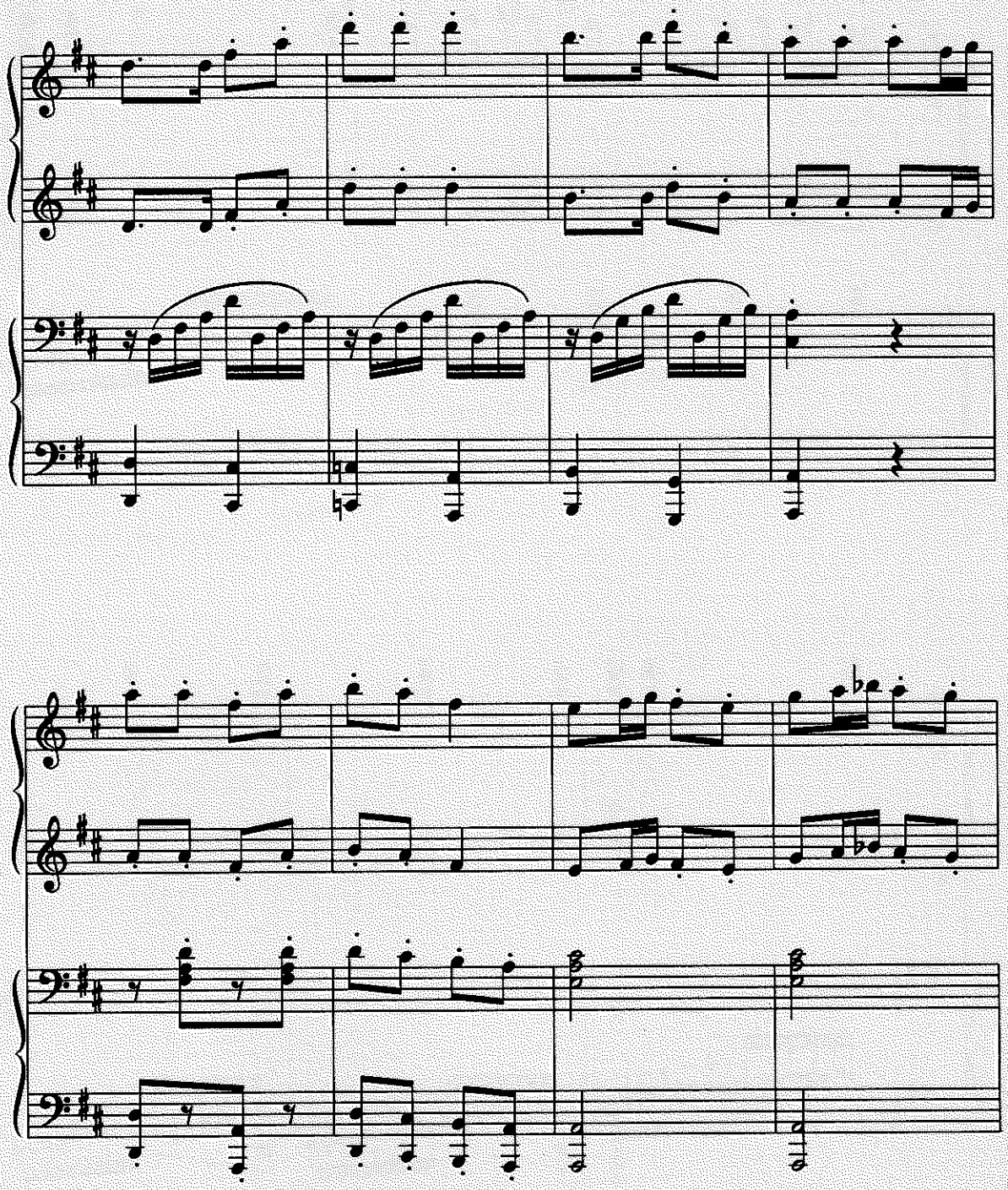
7.

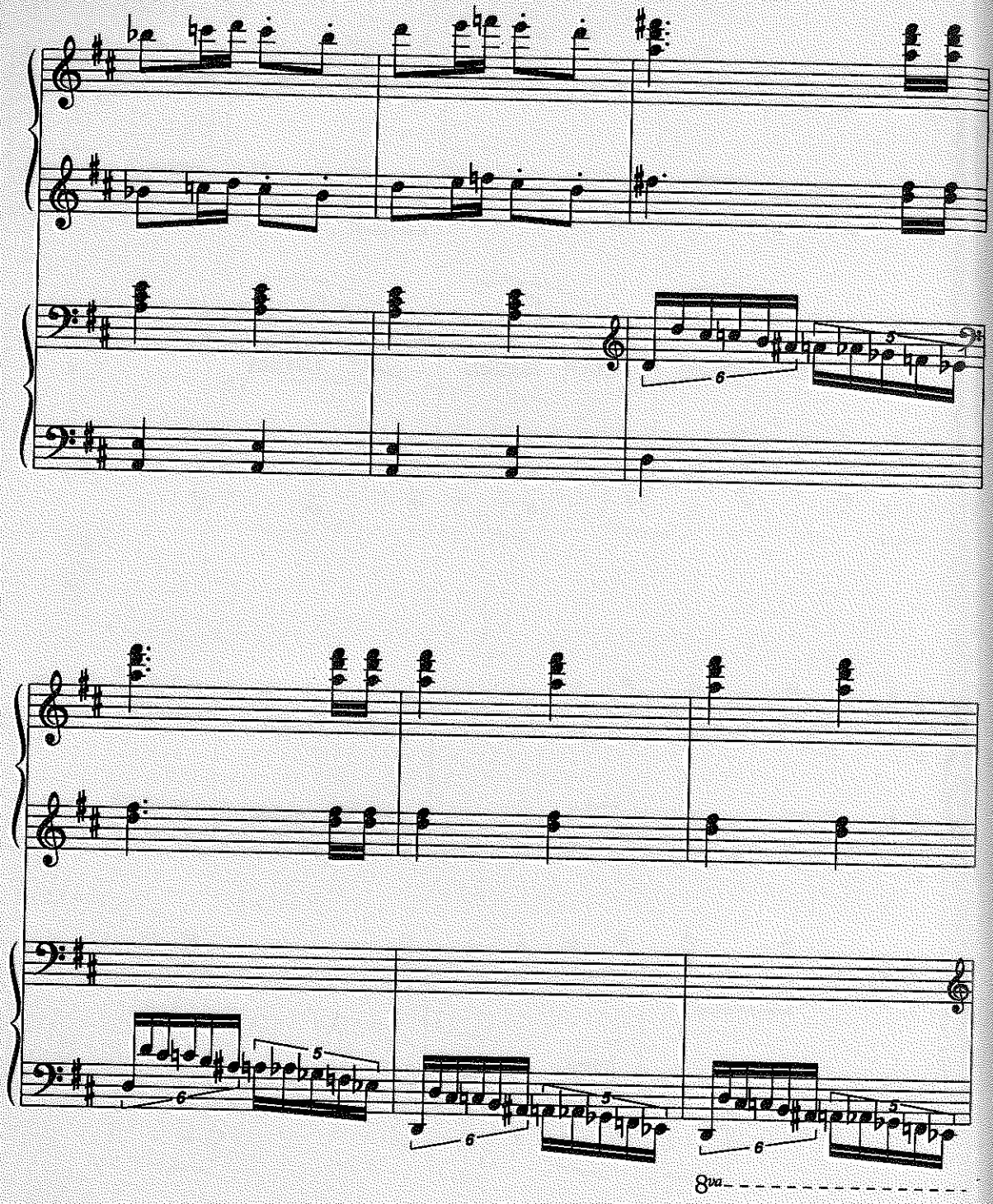


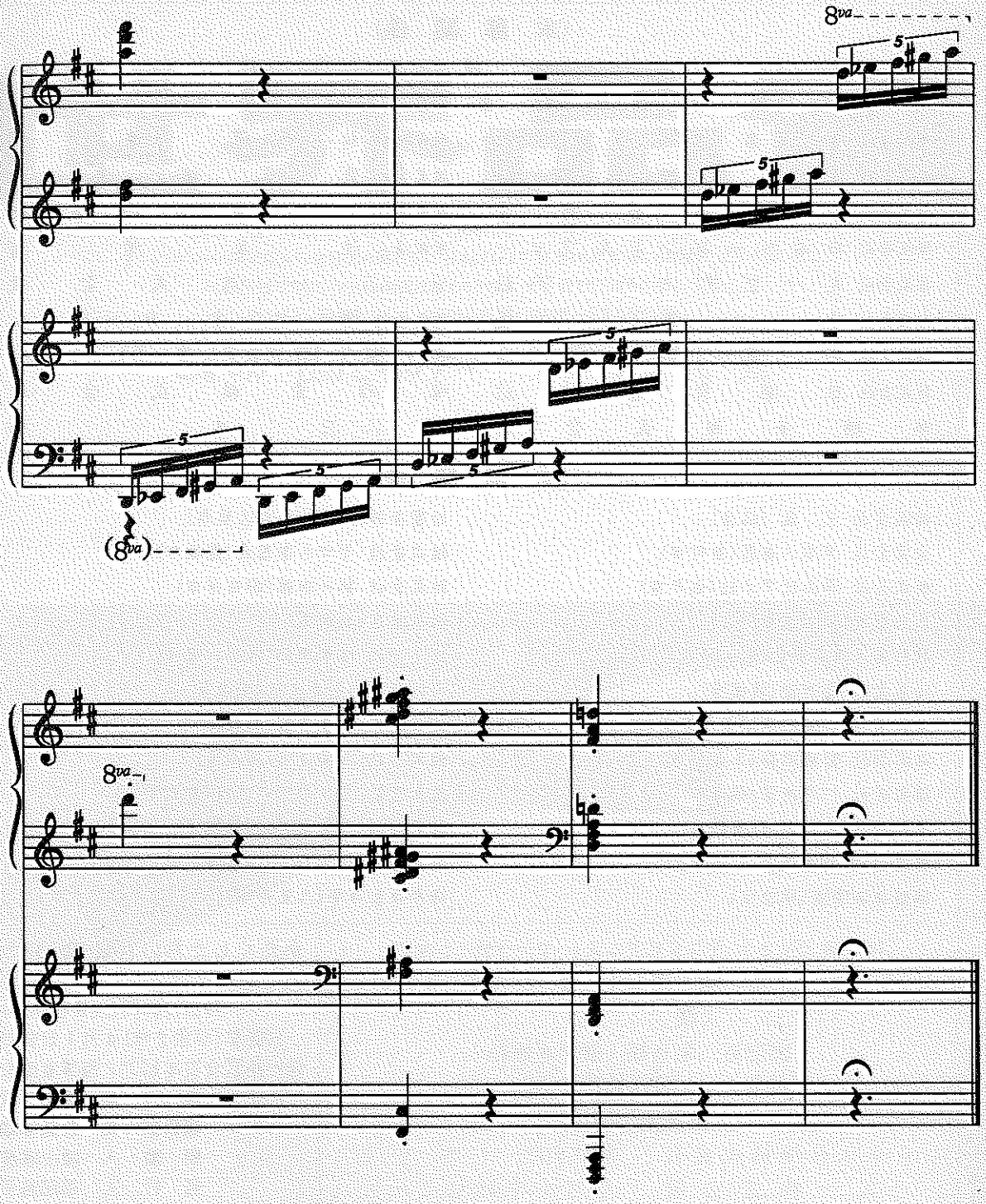

8va
8va

Finale






6
5
6
5
6
5
6
5
8va


8va
5
5
5
5
5
(8va)
8va

社団法人　全日本ピアノ指導者協会
賛助会員御芳名

〈本部関係〉

ヤマハ株式会社

株式会社河合楽器製作所

株式会社音楽之友社
株式会社全音楽譜出版社
株式会社松尾楽器商会
株式会社日本ベーゼンドルファー
株式会社丸一ピアノハーブ社
株式会社十字屋
株式会社西武百貨店
株式会社日本交通公社
旭硝子株式会社
株式会社松澤書店
株式会社東京音楽社
株式会社レッスンの友社
学校法人洗足学園
ソニー株式会社
株式会社カナオカ工芸
学習会(アイス・コーポレーション)
味の素株式会社
個人三木斎

〈支部関係〉

株式会社三立(仙台)
合資会社タカノ楽器(原町市)
株式会社平山ピアノ社(水戸市)
大賀音楽院(栃木市)
藤原音楽スタジオ(亀ヶ崎市)
株式会社音楽堂(前橋市)
株式会社JMC柳沢音楽教室(柏市)
株式会社宮地楽器(小金井市)
株式会社ハタ楽器(横浜市)
株式会社美鈴楽器(長野市)
株式会社竹田楽器(松本市)
諏訪音楽学院(諏訪市)
日響楽器株式会社(名古屋市)
株式会社ヤマト楽器店(豊橋市)
株式会社第一楽器(四日市市)
松本晋江(高岡市)
株式会社塚本楽器(近江八幡市)
澤田定子記念音楽院(奈良県)
株式会社宮井楽器(和歌山市)
株式会社太田洋行(岡山市)
株式会社こうのピアノ店(北九州市)
株式会社日本楽芸社(福岡市)
株式会社ヤマガク(佐賀市)
海老原忍み子(八王子市)

PTNA ピティナ ヤングピアニスト・コンペティション

全国大会

〈後援〉

文部省，東京都，讀賣新聞社
日本テレビ放送網株式会社

〈褒賞協力団体〉

エッソ石油株式会社　株式会社ミキモト
ソニー株式会社　全日本空輸株式会社
味の素株式会社　社団法人　日本絹業協会
学校法人　洗足学園　ヒノキ新薬株式会社

わたくしたちの音楽 第150号

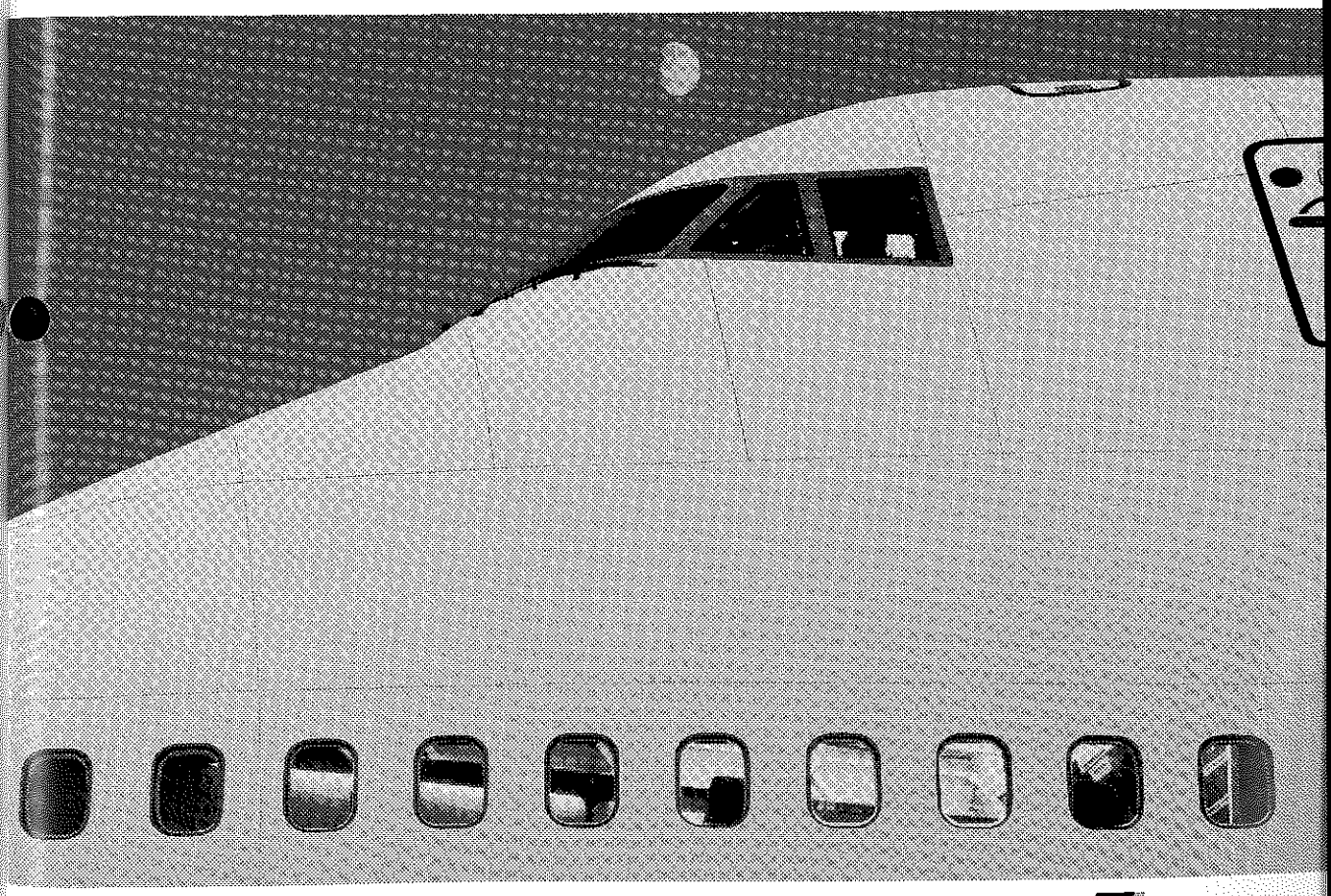
特価1200円(消費税込み)
1990年(平成2年)4月1日発行
発行所 社団法人 全日本ピアノ指導者協会
会長　羽田孜
編集部々長　佐藤峰雄
編集人　諫山隆美
発行人　福田靖子

〒170 東京都豊島区巣鴨1−15−1
TEL. (03)944-1583

世界品質

日本で一流の品質は、世界でも一流であると、私たちは考えます。私たちはこの品質を、
ますますグローバルに広がる全日空の翼とともに、日本はもとより、世界のお客様にもお届けしたいと思います。
そして言うまでもなく、さらなる挑戦は終わりません。全社員12,752人の夢と、情熱と、
チャレンジ精神を力に、いつの日か世界の空をリードする全日空へ。

これが私たちのマーケティングです。

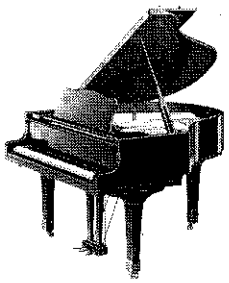


ANA 全日空

私の部屋には、翼があります。

ピアノをイメージする時、だれの耳にも鳴り響いているのは、まぎれもなくグランドピアノです。色彩感あふれる伸びやかな音、しなやかで俊敏なタッチ。今、その表現力をコンパクトに凝縮して、G1Bが誕生しました。世界の頂点に立つフルコンサートグランドCFⅢの血統を継承。Gシリーズ定評の、バランスの良さもひとしおです。音量を控えたい時のGPマフラーや、ソフトに鍵盤蓋がとじるSL機構など、マイルーム・ピアノとしての機能も特長。グランドをもつ喜びを1人でも多くの方に体験して頂くために、ヤマハG1B。あなたの部屋へ、小粋に新登場です。

★Gシリーズ・全モデル一新：G2B¥820,000　G3B¥911,000　G5B¥1,185,000



YAMAHA GRAND PIANO

G1B

88鍵(7オクターブ¼)　高さ＝101cm
間口＝148cm　奥行＝160cm　重量＝285kg
黒艶出し塗装　3本ペダル(ソステヌートペダル付)
GPマフラー　SL(ソフトシャシャシ)機構付・鍵盤蓋
¥775,000(椅子別売)

この広告に掲載の全商品の価格には消費税は含まれておりません。ご購入の際に別途消費税のご負担をお願い申し上げます。

感じあう心たいせつに

feelin' YAMAHA

ヤマハ株式会社